

“どっとねっと”の軌跡Ⅱ

“どっとねっと”は「つながり」と「集合知」を

形成できたのか



平成23年7月

財団法人 北海道開発協会

はじめに

地域SNS「どっとねっと」は、財団法人北海道開発協会の自主研究事業として、平成17年に着手された小さな社会実験です。17年度といえはすでに6年近く前になり、ちょうどmixiが飛ぶ鳥を落とすような勢いでメンバーを増やしていた頃ですが、わたしたちは先ず「独自のモジュールで」と、xoopsというソフトを使用して仮の立ち上げをしました。しかし、欲張った割りには使い勝手が悪く半年もしないうちに諦めました。

ちょうどそのころに、オープンPNEがフリーソフトとしてデビューしていましたので、それに乗り移って本格的にスタートさせたのが18年9月でした。口コミを中心に少しずつメンバーを増やし20年3月末で参加者が約300名を数え、4月からは、参加者協働をうたって再スタートを図ることになりましたが、その機会を利用して、「ねらい」「経過」「交信、書き込み内容」等の分析を行い、地域SNSがこれからの北海道の地域でコミュニケーションと活性化に本当に役に立つのだろうか、という総括をして『“どっとねっと”の軌跡〜手応え豊かなコミュニティ創造のために〜』（平成20年5月）にまとめました。

その総括では、「役立つ」と明言はできませんでしたが、「役立つようだ」「意味はあるようだ」「もっとこの社会実験は継続すべきだ」という見解を得ました。もとより、ソフトも次第と安定して運営コストがかからない状態でしたので、協会としては「ソーシャル・キャピタルの基礎的研究」を目指した研究会の片隅に間借りして継続していくことになりました。ただ、ポツポツと不具合も出始め、ソフトをバージョンアップしサーバーの容量も拡大する必要があったのと、参加者500名に膨らんできたのを機会に一回シャッフルする必要もあって、21年3月、思い切って登録更新手続きに踏み切りました。

その前後から、「どっとねっと」は、地域課題を解決するための道具になりうるのではないか、あるいは、良識をもった「集合知」を形成しているのではないかと、という説を唱える参加者が現れ、それに賛同する方もちらほら現れるようになりました。もちろん、方々には、日常的にある理屈っぽい、くそまじめな話や書き込みを揶揄するムキもありました。しかし、場のながれは、日常的な日記の交流と併せて何でも話題にでき、「集合知」を形作るこの「場」を意味あるもの、と認知しているというような感触を得てきました。それが日常的に書き込みをする参加者（アクティブライター）の総意と考えられ、実は、それが財団の公益事業の当初からのねらいでもありました。

この冊子『“どっとねっと”の軌跡Ⅱ』はまさにその「集合知」に近いやり取りの軌跡だけを取り上げました。日記とコミュニティのほんの一部でしかないのですが、そのボリュームは250pを越えました。收拾がつかなくなる前に、アーカイブとして別媒体で残しておこうというのが本書のねらいです。ご参加の皆様と、原稿選別に協力してくれた英国ブリストル在住の「みかんさん」に感謝して、冒頭のご挨拶に代えます。

平成23年7月

北海道SNS「どっとねっと」事務局

(財)北海道開発協会開発調査総合研究所

目次

はじめに

第1章 軌跡の総括

1. 「軌跡」以後から twitter と Facebook へ	...	5
2. 「どっとねっと」の参加者と周辺事情	...	7

第2章 「どっとなっと」における交流 1 ～コミュから～

1. クジラコミュ「日本のクジラ漁を考える」(旧バージョンから)	…	1 1
・白鯨		
・ハーツアンドマインド		
・「日本に矛先、欧米の環境団体…どうなる？洞爺湖サミット警備」		
・捕鯨問題に見るジャーナリズムの役割		
・捕鯨に関する記事 etc.		
2. コミュ 森林と CO ² 「地球温暖化の取り組みはどうなったのか」		
	(旧バージョンから)	… 3 9
3. コミュ「北海道的ライフスタイル」	(旧バージョンから)	… 5 0
4. グローバル化する世界と北海道		… 6 2

第3章 「どっとねっと」における交流 2 ～日記から～

みかんさんの「思い出の日記シリーズ」

足跡がぽちっと残ってるんだず。	… 8 9
議論でクジラをおいかける……輪、和、ワッ！	… 9 5
女は偽装する？	… 1 2 2
Helvetia さんのあの日の夏	… 1 3 2
食べ損なった	… 1 3 6
高々指（続）	… 1 3 8
トピック どっきりシリーズ	… 1 4 8
退会	… 1 4 9
どうしよう	… 1 5 1
釧路と鯨食文化	… 1 5 3
われわれはどこへいくのか	… 1 7 2
暑くないけど	… 2 0 5
おお！異物混入事件	… 2 1 0

折々のできごと、ニュースなどから

アルプというコモンズ	… 2 1 7
砂川神社訴訟？！	… 2 2 5
連夜の勉強会	… 2 4 9
落ち枝が創るムード	… 2 5 7

第4章 ソーシャルキャピタルに関する道北女性座談会@幌延 『土地とつながる「女性力」の現地から』

	… 2 6 3
【自己紹介『わたしの住んでいるマチのことなど』】	… 2 6 5
【土地とのつながり】	… 2 7 2
【土地を客観的に見てみる】	… 2 7 7
【都市と地方】	… 2 8 1
【幸福の感性】	… 2 8 4
【自然とコミュニケーション】	… 2 8 9
【今こそ、地域には女性の力が必要だ】	… 2 9 6

第1章 軌跡の総括

今回のとりまとめでは、詳しい検証はとりやめ、集合知の形成を匂わせるやりとり（書き込み）を記録することに重点をおきました。あわせて、総括は、反省と展望に関する事務局メモとしました。

1. 「軌跡」以後から twitter と Facebook へ

平成 18 年頃、mixi が一世を風靡し、急にメジャーになった SNS。mixi はその後順調に参加者を増やし、数年前、参加者が 2,000 万人を越えたことを新聞が報道していました。民主党が政権をとったのが 21 年で、あの鳩山元首相が twitter をやっているという記事を見たのがもう 2 年近く前でした。そして間もなく 1 年ほど前（つまり 22 年ころ）から Facebook が登場しました。SNS ソーシャル・ネットワーキング・サービスという機能をもつツールに、実はこのようなめまぐるしい変遷がありました。確かに地域 SNS はブームが一段落したようで、現在の地域 SNS の国内数は、2010 年の 519 から 2011 年に 469 へ初めてダウンしました（ブログ「地域 SNS」から）。この流れから、地域 SNS→twitter→Facebook と移り変わっていくかのように見えますが、実際は mixi は健在で、この「どっとねっと」も参加者ほぼ横ばいで動いています。恐らく、機能が異なっているせいでしょう。例えば twitter なら、自分がフォローしたいキャスターを選んで、そのつぶやきのニュースを追いかけたり、自らつぶやいて追いかけられたり、一定のテーマにある記号を挿入することで集中的にアクセスができます。またフォーラム会場などでパネリストの意見に PC からコメントすることもできます。かつてはステージ上のパネリストだけの議論だったのが、参加者が書き込むことでスクリーンに映し出され、ヒラバのつぶやきも貴重な意見として日の目を見る、そんな装置のようです。

Facebook は、もっとマーケティングに向けたツールで、関係をどんどん拡大したい方などには非常に有効なものとして捉えられているのではないのでしょうか。Facebook は広告の機能もあるので「どっとねっと」のことを書いて試したところ、当時の公開する相手数の数十人なら「意味がない」と自動的に警告され、ならばもっと大きく公開する選択をしたところ、いきなり 230 万人と表示されました。「どっとねっと」は、新聞記事やメディアを仲立ちにして参加した人は現在ひとりも残っていないこと、バージョンアップ時にどこかのリンクで参加した人たちは、トラブルが多くて案内人が閉口したこと、そんな理由で、「どっとねっと」の Facebook への積極的関与はやめることにしました。

どちらかというと、Facebook は積極的なネットワークづくりと「表通りの社交」のようなさらされ方になります。その点、狭義の SNS は、町内会的で、時に井戸端会議風で、一朝ことあれば知恵袋が出てくる、といった感じです。だから、ツールは複数利用こそすれ、どれかが駆逐されてなくなるというものではなさそうです。事実、mixi は twitter ができ、twitter は Facebook に投稿ができます。

ただ、井戸端会議風に、同じ人と似たような日記交換では飽きる、と言う方もいらっしゃるでしょう。「どっとねっと」参加者でも数人は Facebook にも参加していますが、そういう方は、いくつかのツールを自在に使い切っている訳です。逆に、SNSでも面倒だという高齢者もよそにはいて、そういう方は、メーリングリストで十分だとかおっしゃいますし、それすら面倒だといって入会を断られることすらあります。

ひとつ言えることは、「どっとねっと」のような狭義の地域SNSは人の集うコミュニティを形成するという点では優れているかも知れないということ。そして、集合知の形成もSNSなら十分あり得るのではないかと思います。今回の「どっとねっとの軌跡Ⅱ」が集合知を扱うことにしていたのも何かの縁、いや必然だったのかもしれませんが。「どっとねっと」とも関係のある国際大学グローバル・コミュニケーション・センターの庄司昌彦氏は、地域SNS研究会のホームページで、研究会のカバー範囲についてふれ、「狭い意味での（mixi 型の）SNSではなく、SNSという言葉が本来意味する「社会ネットワーク＝人のつながり」に関するサービスを考えていく、ということにしたいと思います。つまり、いわゆる「地域SNS」も「地域twitter」も、あるいはmixiやFacebookなど「その他のソーシャルメディア」も、すべてこの研究会では対象になります。」と述べています。

「どっとねっと」の軌跡のうち、まずツールの変遷に簡単に触れましたので、次に中身をふり返ってみます。「どっとねっとの軌跡Ⅱ」では、数多のやりとりのなかに集合知が実際どのように形成されたのかを見よう、との意気込みだったのですが、それは第3章と第4章の書き込みを見ていただき各自のご判断にお任せすることにして、ここでは書き込まれて議論された内容を概観だけしてみたいと思います。「どっとねっと」で話題にされる内容は大きく分けて「生活のなかの共感」があります。ここでは、日常的な出来事、家族のこと、困ったことや喜び、悲しみ、仕事や文化芸術、天気や食べ物、お祭りなどありとあらゆる物事をテーマに書き込みがなされ、たいいてい場合は、それに対する感想とか意見がいくつか書き込まれます。

これとは別に「社会への発信」があります。教育、福祉、コミュニティ、政治経済など社会で起きている様々なテーマについて、その意味を語ったり、是非を問うものなどがこれにあたります。特に特徴的だったと思うのは、「どっとねっと」が始まった当初から内包していた北海道のアイデンティティに関するものです。つまり、構造改革とグローバリゼーションのなかで、北海道と地方はどのような選択をしていくべきなのか。「どっとねっと」の集合知的な焦点は、そこに在ったのではないかと推測することができます。ちなみに前者は「親密圏」、後者は「公共圏」と呼ばれるものと類似するようです。

もしグローバリゼーションと地方の議論が深まったとすればその理由の一つは、Helvetia さんのような西洋の歴史から現代と日本の位置を読み込んでみせる専門家がいたこと。それが議論を常にグローバルなものを意識しつつ北海道というローカルをみる、という構図へと牽引してくれたのかもしれません。さらに、みかんさんのように実際に欧

州に住み、日本では報道されない別のニュースや価値観を常に発信してくれる方がいた、ということも大変大きく、Helvetiaさんが解いてみせるグローバリゼーションのからくりの、引き出し手、つまりインタビュアーの中心的役割も担っていたようです。このようなグローバルな視点が常にどこかにあった、ということが「どっとねっと」を一種変わった地域SNSにしてきたかもしれません。

しかし何と言っても、全国と道内の各地に住む個性ある「生活人」の、地域からの発信がグローバルな話題と対比をなしつつ実によく調和していたのではないか。書き込みの頻度は多くなくても、地域の今、社会の今を、独自の言葉で発信する書き手の存在と交流が、つながりを支えていたと言えます。人生の真実は日々の生活の現実のなかにこそあり、ローカルな今を懸命に突き抜けるとその先はグローバルな普遍性に通じるのではないか、そんな経験が日々の暮らしでは往々にしてあるものです。そこには「地域に住む」というプライドのようなものが潜んでいることに気がきます。そういう観点で見ると、「どっとねっと」のこの2、3年は、グローバリゼーションとローカリゼーションの混沌の中を漂ってきた感もあります。

もうひとつ注目したいのは、SNSという架空のコミュニティのなかに、自律、助け合い、つながり、信頼などのソーシャル・キャピタルが自然発生していた、ということでした。それはオンラインのコミュニケーションに、しばしばオフラインの会合が、たまにはあっても開かれていたことが遠因としてあげられるでしょう。ビジネスの誕生こそありませんでしたが、地域産物の上手な購買などには明らかに連動していきました。ある一定のマナーのなかで、かくも発信し、応じ、議論し、吸収することができただけでも、社会実験の意味はあったと判断できますし、まさにやりようによっては、地域のコミュニケーション不足を、地域SNSは十分補うことができることを、すでに証明してきたといえるでしょう。また、コミュニティの中で個々の「知」が、さらに意味のある高次元の「知」に醸成されていった形跡も、集合知のようなものとして次章以降で読み取られるのではないかと思います。これは大変画期的なことです。知性が未来を開いていくことを、地でいっていた、ということになります。

さて今後ですが、コミュニティは新陳代謝がなくなると必ずマンネリ化しますから、持続するためには新しい風が入ることは必要でしょう。また、風を入れすぎて風邪を引くようなことはできるだけ避けなければいけないでしょう。さらに、古いコミュニティのあずましさと、いつのまにか陥りやすい排他性にも留意する必要がでてくるでしょう。発展もよし、衰退消滅もよし、いずれにしても希有な実験になるとみて、「軌跡Ⅲ」に向かいたいと思います。

2. 「どっとねっと」の参加者と周辺事情

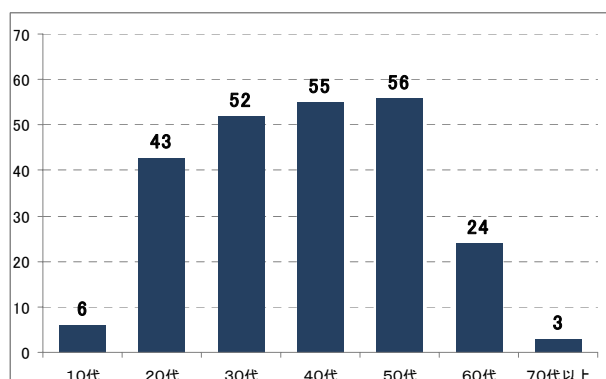
「はじめに」の末尾に書きましたとおり、この冊子は、集合知のようなものが匂う書き込みを、「日記」と「コミュニティ」から拾い、最後に幌延の「とんこり堂」で行った

女性だけの座談会を再録したものです。参加者数は、2年前のバージョンアップ時の500人から現在の270人に減りましたが、日常的に書き込むアクティブライターの人数は30人（約1割）程度とあまり変化がありません。

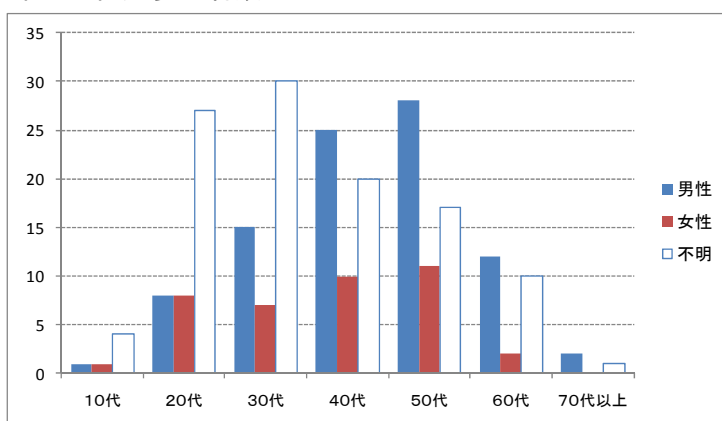
次ページの日別アクセス数は、平成21年2月から22年8月までを見たものです。携帯からのアクセスは、一般のパソコンからのアクセスと違い、ページ訪問の都度カウンターが動きますので正確なアクセス数は不明ですが、21年当初の再登録手続き以降は、安定したアクセスが見られたといえるでしょう。再登録手続きでは、従来の口コミではない方々が自由に参加されてきましたが、なかには出会い系サイトまがいの書き込みをしたり、ビジネスチャンスを狙った人なども現れ、案内人の手を煩わせたようです。その後は、毎月数人の新規参加で推移しますが、書き込みしないうちに離れていった方もかなりいます。創立からのメンバーには、ほとんど顔を出さなくなった方も何人かいますし、「森のくまさん」のように、ほぼ2年ぶりにカムバックされた方もいます。参加者の平均年齢は50歳前半あたりかと見られますが、アクティブライターだけに限れば、恐らく50歳台の中ほどかと想像されます。

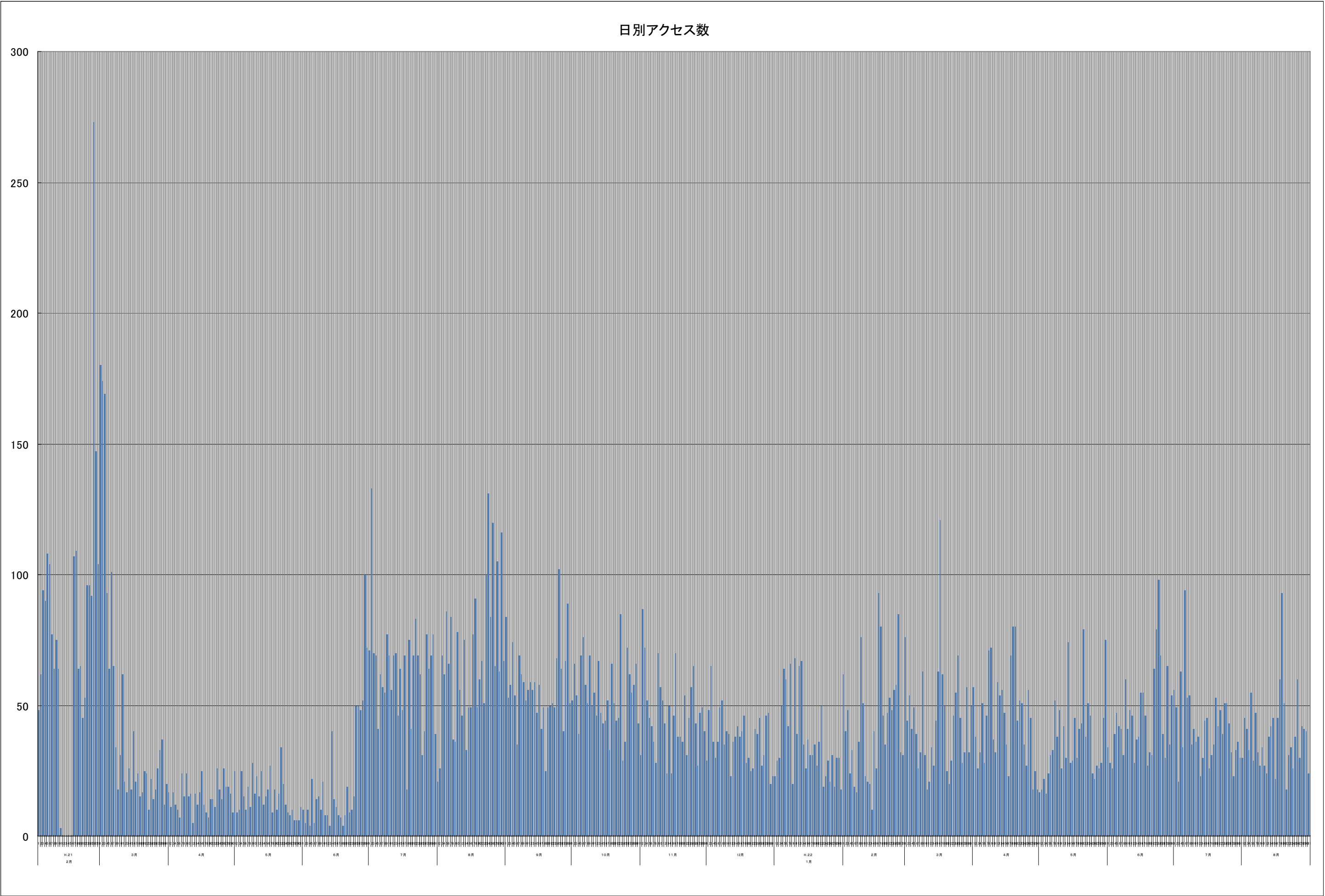
「どっとねっと」ではこのような基本的な属性やアクセス数などの変化は、すでにデータの的な意味をあまり重視する必要がなくなっているのですが、以下、年齢とアクセス数の変化など最低限のグラフを載せて本論の2章に入ります。

年代別参加者数 ＊データはいずれも平成22年1月～10月



年代×性別参加者数





第2章 「どっとねっと」における交流 1 ～コミュ～

1. クジラ コミュ - 日本のクジラ漁を考える

開設日 2008 年 02 月 02 日

管理者 みかん

—コミュニティ説明文—

現在、南極海で調査捕鯨を行っている日本。グリーンピースの燃料は途中で切れたけれども、国際コミュのテンションは高まるばかり。

実はこの日記を書くまで、日本でこれほど捕鯨が賛成されているとは知りませんでした (http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary...。

自分の常識と日本の常識に、これほどずれがあったとは。(@@)

そういえば自分も、何となく周りの雰囲気は反捕鯨なので、クジラを殺すのは良くないのかなあと。このいつの間にか出来上がっているコンセンサス、よく考えると恐ろしい(サブリミナル?)。先日、小学生の息子が、ある女の子が作文の発表で日本の捕鯨を非難していたと言っていました。アチャー。

デビッド・アッテンボロー氏は、「鯨を人道的に殺すのは不可能である」と。イギリスの BBC のネイチャー番組で有名な氏は、イギリスの良心を代表する人なので、彼がノーといえば、イギリスがノーなものもほぼ同じ。

外務書の役人が、ある外国人記者のインタビューで彼にオフレコで、水産庁からくるプレッシャーにほとんど参っていると漏らしていたとか。

なにやら、日本は IWC の脱退の噂も聞こえてきます。

前置きが長くなりましたが、このコミュでは、なぜこれほどまで分かり合えないのか、捕鯨の継続を主張することが日本にとって本当に利益があるのか、海外からの非難は単なる政治的な陰謀なのか、などなど捕鯨に関する問題をいろんな側面からざっくばらんに考えていきたいと思っています。

トピック：白鯨

2008 年 02 月 02 日

みかん :



いたんですねえ、白いクジラ。

このくじら、オーストラリアではMigaloo(ミガルルー)という愛称で呼ばれていて、ざとうくじらの仲間らしいです。1991年に初めてオーストラリアの沖合で目撃されたとか。

で、当然、オーストラリアでは大人気。

少し前日本がざとうくじらの捕獲を諦めるまで、オーストラリア人はこの白いくじらも犠牲になるのではないかと本気で心配していたとか。

心配のあげく、日本の水産省に問い合わせた所、答えは「何とも言えない」ということだったとか。同情的でない応答に、オーストラリアはまたもや感情的に。この白いクジラの写真、少しだけオーストラリア人のクジラに対する愛着が分かるような気も？

書き込み

みかん : 考えたらコミュのメンバー、まだ私だけだったんだ。がははは。

金 魚 : コミュ入ったぞー。

白いクジラと聞くと珍しい気もするけど、

「白鯨」って小説があるし珍しくないのかな？

でも写真のクジラ、ホント見事に白いね。

take : みかんさん

トップのプレゼンが、立ち上げの見本みたいに華々しいじゃないですか〜。(^_ ^)v
アガ、ツライ (-_-;)

ところで、

>少しだけオーストラリア人のクジラに対する愛着が分かるような気も？

そうですねえ。イルカだって、青函連絡船に乗っていた頃、出くわすと数日しあわせでしたね。ザトウクジラは、豪州人が「わたしたちの鯨」とよんでいるようだから。で、経済的な面でもホーエールウォッチングで280億円とい

いますから、そっちも関係は深いでしょうね。
ここは、倫理、経済、情緒、環境、政治、これらが全部絡むジャンルなのですね。プレゼンを拝見してあらためて思いました。

みかん : >見事に白いね

ほんと。実は私もこのコミュのリサーチするまで知らなかった。(-_-;)

ひひひ、takeさん、ありがとうございます。修正がきかないのを知らなかった
ので、もっと校正すればよかったと。(-_-;)

そもそも私がクジラの問題に興味を持ったのは、どちらが正しいかは別にして、不条理が混じった国際世論に、日本が大人の態度で接して、将来の世代のいい見本になってもらいたいという思いがあるからなんです。たかがクジラですが、これだけ露出度が高いと、逆に日本をアピールする絶好の機会だと思うんですが。

一部のオーストラリア人は、反捕鯨団体に対して、日本は武力行使する可能性があると感じて居るようです。

take : > 白鯨

言い得て妙ですね。世界の中の日本を見るのにとってもぴったりのテーマですね。アジアの中の日本ではいま「餃子」ですが(-_-;)

トピック：ハーツ アンド マインズ

2008 年 02 月 07 日

みかん : Hearts and Minds という言葉、戦争時に敵に勝つためには一般人の心をつかむ事が大事であるとして、良くこちらで使われる言葉。

マラヤ非常事態のときにイギリスがこの手法でマレーシア人の信頼とサポートを得ることができたとか。アメリカがベトナム戦争で失敗したのは、これが上手くできなかったからだ(勿論他にもいろいろあると思いますが)。

要は、タンクの中に引きこもっていてもダメだ。現地の人と直接対話しなくては究極の勝利は得られないと。

以来、戦争があるたびに、いかにハーツ アンド マインズを勝ち取るかというのが焦点になっているようだが、イラクやアフガニスタンの現状から見ても、そう容易いものではないの是一目瞭然。

ちょっと飛躍しすぎかもしれないが、水産庁の森下丈二氏の話をネットで読みながら、必ずしも間違ったことは言っていないかもしれないが、ハーツ アンド マインズを勝ち取れるまではまだまだという印象を私は受けたのでした。

書き込み

Helvetia : これは、ちょっといかめしく言ってしまうと、ほとんど宗教社会学的な問題になっていはいしないのか、と言う疑念が消えません。

あるものが、至上の存在で、これに手をかけるのは、『聖なるものを冒瀆する行為』(sacrilege)だと、捕鯨反対の強硬論者は言っているような気がします。クジラの棲息状態を科学的に調査してから、捕鯨の条件、捕鯨の可否を協議しようと言う事にそもそも反対だと言うのは、クジラに疑似神格を付与している事を意味しているのではないのでしょうか。

符号を逆にすれば、このような姿勢は、捕鯨反対論が強硬な国々で、近世に嵐のように吹き荒れた「宗教裁判」と「魔女狩り」を連想させます。あるいは、様々な出来事を、「プロテスタントの」、「カトリック(バチカン)の」、あるいは『フリーメーソンの」、あるいは「ユダヤ人の」企みだと言ってきた「陰謀説」の再来のようにも見えます。

かつて、捕鯨反対国が属する西欧文化圏で発生した『啓蒙主義運動』は、人間の理性と、宗教的・疑似宗教的な思い込みを切り離し、「事実と論理」のみに

基づいて、物事を議論し、判断しようと言う精神であったはずですが。しかし、『ポスト／モダン』の思潮は、啓蒙主義によって形成された西欧近代を捨て去ることにありますので、確立された宗教とか、確固たるものと思われた理性の王国のあとにくる、思考と判断の確実な土台、確かな手がかりをつかめていないので、再び、様々なレッテルのもとで疑似宗教的世界観が台頭し、それがまた、かつての多くの宗教戦争がそうであったように、じつは、きわめて具体的な、しかし秘められた、政治的／経済的利害関係と緊密に結びついていること観察されます。

そうすると、魔女狩りも宗教戦争もまともにやった事のない（日本のような）社会が、全く異なった世界解釈の歴史を背負った、複雑な疑似宗教的な言説で被覆された主張に対して、どのようにして、『ハーツ アンド マイNZ』をつかむ事に成功できるのか、そもそもどのようにして、共通の『議論の地平』に達する事が出来るのか、見通しはつきません。

アメリカとベトナムとの戦争は、ホーチミンのナショナリズムを、共産主義の陰謀であると信じ込んだ『陰謀説』に、アメリカが自分で足をすくわれた結果のように思われますし、イギリスの『成功』は、フランスとの確執を通じて獲得した、世界支配のテクニックがきわめて巧緻な洗練されたものであった事にあり、アメリカは、国力に比して、対外支配の手練手管については、いまだにきわめて粗野 (naive) である（イラク、アフガニスタン etc.）と言えるのではないのでしょうか？

みかん : > クジラに疑似神格を付与している事を意味している

今日オーストラリアから届いたクジラの写真を見るとまさにこれという感じがしました(<http://www.jiji.com/jc/p?id=20080207171453-5916645>)。

> 「宗教裁判」と「魔女狩り」

日本の捕鯨は非常に分かりやすい、まさに格好のエサ。オーストラリアで起きている現象は、半分スポーツだと私は思っています。歴史的背景から、そういう土壌が既にあったということですね。

私も具体的に何が出来るかまで考えつかないんですが、日本が他の国の人たちが訴えている心情的な部分にまるで反応していないようなのは不思議だなあと。最終的に日本の主張を通して『ハーツ アンド マイNZ』をつかまずに捕鯨が出来るようになって、そこには誰も勝ち組はいないような気がします。

> イギリスの『成功』

なるほど、そういうバックグラウンドがあったんですね。『ハーツ アンド マイNZ』もある日突然思いついた訳ではないんですね。

take : お二人のやりとりは、大変興味あるお話です。

> クジラに疑似神格を付与している事を意味しているのではないのでしょうか。

1994年、メキシコで開催された国際捕鯨委員会では、フランスが中心になって提案された南氷洋の聖域化案が可決されたことからみると、そこは聖なる領域であると認識されたのだと思います。会議では実際、「サンクチュアリ」という言葉が使われたようです。

いろいろな意味がある中で、神殿とか免罪の場、というのは不自然だから、普通に鳥獣保護区のようなクジラの保護区だったのでしょうか。

わたしは、サンクチュアリと言う言葉を使う背景に、「なわばり」という意識も感じています。公海とはいえ、ここはわたしたちの大好きなザトウクジラのサンクチュアリなんだ、、、。

ただ、保留地 reserve、禁猟地 preserve という言葉を使わずに、宗教的な意味合いのあるサンクチュアリを使ったというところに、お二人のご意見に通ずるところがあるように思います。

資源管理のためのなわばり…。ここでいう資源とは、そもそも文化的資源であり、かつクジラを神格化したイデオロギーがやはりあるんだと。

昨年、クジラの有識者が、クジラは小魚を食べ過ぎこのままでは漁業資源を枯渇させるんだという説を前面に出していたことを思い起こせば、

これがもし、日本側の主流だとすると、話はやはりまったくかみ合っていない、ということになります。

みかん : 以下、鯨ポータルサイトにある南極海における日本の捕獲調査についての Q&A からの抜粋です。

=====

Q6: 日本はなぜ IWC の南極海サンクチュアリやオーストラリアが領土権を主張し、その国内法でサンクチュアリとしている海域でクジラを殺すのか?

A6: IWC の南極海サンクチュアリは商業捕鯨のみが対象で、ICRW 第 8 条に基づいて行われる捕獲調査は対象外である。第 8 条は「この条約の規定に関わらず・・・」という文言で始まっているが、これは、商業捕鯨モラトリアムや南極海サンクチュアリが捕獲調査に適用されないことを意味する。また、IWC の南極海サンクチュアリは資源保全のために必要であるという科学小委員会の勧告なしに採択されたものである。

さらに、2004 年の科学小委員会で開催された外部科学者は資源保全措置としての IWC のサンクチュアリの厳しさを非難している。彼らの結論とは、IWC サンクチュアリはあやふやな目的やゴールに基づいて、その正確な設計や運用を欠き、生態学的に正当化できるものではなく、資源保全としては実におおざっぱなやり方で、予防原則というよりも禁止的であるというものであった。

オーストラリアが独自に決定したサンクチュアリについては、米国含む多くの国とともに日本もオーストラリアの南極に対する領土権の主張を認めていな

い。オーストラリアも締約国である南極条約は、すべての領土権に関する主張を凍結している。よって、国際的な観点からみれば、オーストラリアの領土権の主張と南極海をサンクチュアリにするという主張は同国の国内法に基づいたものであり、国際法では何の根拠もなく、無効である。

=====

これを読むと確かに「かみ合っていない」いないことが確かに一目瞭然ですね。実は私も、もし仮に鯨が増え過ぎたら、一体どうやってグジラの捕獲禁止を擁護するのだろうと思っていました。

ところでサンクチュアリなんです、アングロサクソンはサンクチュアリが好きで、観光地で酷使されたロバなどを引き取って、そういうところで面倒みます(<http://www.thedonkeysanctuary.org.uk/site/1/home.html>)。その他にもサル、は虫類、オウム、ヘッジホッグなど沢山あります。

take : ははあ、いくらでもかばえる、という後ろ盾も用意されてる場合もあるわけですね。

この資源保護による生息密度の増と悲劇は、ジンバブエのアフリカゾウですね。増えすぎて、日本のシカのように農地に始めた。農地を守る役目を担わざるを得なくなった子供を、この増えすぎた象が踏み殺した…。

でも、わたしはサンクチュアリが注目されるのはとてもわかるような気がします。

スピリチャリティへの接近じゃないでしょうか。WHOが健康の新しい定義に靈性に着目し議論していることと視点が通じます。水鳥のサンクチャリを見ても、どんどん水辺に戻ってくるマガン・ヒシクイを見ていると、地球という環境を彼らとシェアしている、という感覚が沸いてきて、涙するのです。この動機は意外と重たい。運動の糧に十分なりうるほどの。

この感覚の共有。これを一度味わうと、眼差しが変わるのです。開発に熱心だった同僚が、妙に環境にやさしい設計を配慮するようになったのを覚えています。

Helvetia : やはり、近代の咎というか、近代世界を造ってしまったプライドと罪悪感の共存が、クジラに収斂した絶対保護主義を生むのだと想います。しかも問題は、クジラ保護主義思想のあり方が、何か、「行き場を失った殉教者」みたいな感じになってる事です。そのうちに、『クジラのために尊い命を捧げた殉教者』も出てくるかも知れません。

人間と動物との関係は、所詮「二義的」でしかあり得ないのではないのでしょうか。例えば、ドイツなど、森林地帯がほとんど国有林であるところでは、森に棲む動物も、すべて国有の動物ですから、警察権を持ち、銃を携行する森林監督官によって保護されています。

狩猟は、森林監督庁から、日本の猟友会にあたる各地域の団体に、毎年、特定の地区で、例えばシカならば、今年は何歳以上の雄を何頭撃ってよいかが通達され、検査される。しかし、冬になると、狩猟権を持つ人たちは、小川のほとりなど、特定の場所に、シカ用のえさ場を造り、常にドングリなどが十分に補給されているようにする義務がある。と言う事は、森林監督庁が、動物の種類、性別年齢別の頭数を、きちんと調査し把握していると言う事です。狩猟対象動物の性別や年齢を見分けられなければ、狩猟免許は下りない。

増やしすぎず減らしすぎずと言うコントロールシステムが出来ている。クジラにも、そのような国際的なシステムを、考えだして定量維持する事を考えなければならぬでしょう。

みかん : >眼差しが変わる

>近代世界を造ってしまったプライドと罪悪感の共存

では、日本もここに至るまでの過渡期にあるということですね。

>『クジラのために尊い命を捧げた殉教者』も出てくるかも知れません

今の状況では、これが起こっても驚かないような。

アメリカで医者が中絶反対派に殺されたという事件がありましたが、日本もこのようなテロ行為の可能性を否認できなくなるかもですね。

Helvetia : >では、日本もここに至るまでの過渡期にあるということですね。

うーん、日本は別の道を通して『近代的に機能する』文明を形成したのだと思います。欧米の民族が西欧的な近代世界モデルを造ったプロセスは、幸か不幸か日本人の歴史体験にはありませんし、なかなか追体験出来るものでもないでしょう。従って、平行路線の上にいると観た方が良のではないのでしょうか。

そういう『位相』の違いみたいなものは、日本的な近代を体験できない西欧文明圏の人には、わかり難いので、クジラを巡る問題についてのギャップもなかなか埋まらなないと想います。それだけに、交渉の前面に立つ日本の代表が、それをうまく理論化して相手に伝えなければならないはずなのですが。

捕鯨委員会の代表団に、哲学者や歴史家を加えるのも必要だとおもいます。

みかん : じゃ、結論としては同意出来ないというところで同意するしかないということですね。

先日、日本側が、捕獲した親子(?)クジラの写真を公開したことに対してオーストラリアを非難していましたが、写真の公開がどうして非難の対象となりうるのか非常に困惑しました。(ー；)

Helvetia : 既に、指摘されているように、宗教観・世界観・特定文化圏内での罪の意識の相違と、政治的な影響力を巡る対立・抗争が一緒になっている、面倒くさい問題がこのクジラ論議です。

国際捕鯨委員会のメンバーズリストを見ても、国際政治的な駆け引きの様相は

はっきりしています。

従って、同意する・しないという国際的な協議のレベルでは、同意できない事には同意しないと言う姿勢が大事でしょう。そうでないと、将来の国際交渉に禍根を残します。130 億ドルと言う大金を払って、国際的に無視された、あるいは笑い者になった湾岸戦争（パパ・ブッシュ）当時の出来事は良い教訓です。何らかの『政治的』妥協点を見いださなければならぬのかもしれませんが、相手側が疑似宗教的な立場に固執していっさいの妥協を拒む以上、当面は難しいでしょう。

写真の公開については、オーストラリア政府が、クジラ博愛主義に基づいて、日本の『非人道性』（!）を非難しようとする姿勢を日本側が感知したからでしょうね。もしも、日本側が、何百頭ものカンガルーの射殺死体の山を撮影した写真を手に入れて公表したとすれば、オーストラリア政府もこれを非難するでしょうね、そんな事をすれば日本側の政治的宣伝意図は明白ですからね。それと同様です。

ちなみに、日本の捕鯨を批判する国で、先住民族がアザラシの子を捉えて撲殺する写真は出回っていますが、どの捕鯨反対国でもそれに対する批判の声はほとんど聞かれませんが、アザラシは神様にし難いのかも知れません。

「目には目を、歯には歯を」というのは、日本の格言ではありませんし、今までの日本人の心性とは合致し難い面もあると想いますから、日本側がそういう行動に出る事はまずないでしょうけれども。

みかん : なるほどお。うーーん（絶句して言葉にならない ^^;）。

クジラ問題がこれほど複雑だったとは。

例の写真も今世界を席卷しているようですね。イギリスのマスコミは、よその国が見られたくない/知られたくないものを毎日のように報道してるので、私は日本が過剰反応してるものとばかり。

この2,3ヶ月ほどで、かなり捕鯨対する見方が変わりました。本当に感謝です。

take : >従って、同意する・しないという国際的な協議のレベルでは、同意できない事には同意しないと言う姿勢が大事でしょう。

平行線もOK、そして↑、さらに政治的な駆け引きの背景、おかげで大分頭は整理されてきました。m(_ _)m

みかん : 今朝ほど入ってきました。

>日本に好都合なのは調査捕鯨の継続 「捕鯨外交のまやかし」が指摘する不毛な論争の背景

<http://www.news.janjan.jp/living/0802/0802120675/1.php>

私ものちほど見てみたいと。^^

Helvetia : take さん

英語圏諸国を中心とする、捕鯨いっさい反対同盟の、真の意図がどこにあるのか、小生も実像をつかんでいません。誰か、環境保護の仕事をしている人で、酒豪の人を適当な国に派遣して（つまり向こうの委員会にも酒豪のメンバーがいる国）、飲み友達になってもらい、本音の部分を推察できるくらい話を聞いてくれるように出来ると助かりますが？

これ、アルコールインテリジェンスとかいいませんかね)^0^。

Helvetia : みかんさん

BBC が、クジラではないですが、オーストラリア政府が困りそうなアボリジニーに対するほとんどナチみたいな政策をしていた事を報道してました。クジラほどは大切にされてなかったようです。

<http://news.bbc.co.uk/2/hi/asia-pacific/7240272.stm>

みかん : Helvetia さんに頂いたリンク拝見しました。

前首相が、公式の謝罪は被害者の被害者意識をより強く定着させるだけだといって反対していた…絶句。

日本の捕鯨に自分たちの過去を見たんでしょうかね。

>アルコールインテリジェンス

このフレーズ、お借りします。(^^)v

take : このたびは、いろいろ大変勉強になりました。

みかんさんの石井教授に関する記事

>…捕鯨派と反捕鯨派の関係を“逆予定調和”と呼んでいる。「はじめか>ら予測できる対立が逆説的に共生関係を生んでいる」というわけだ。だ>から捕鯨問題はいつまでたっても解決へとは向かわない。

はまさに、Helvetia さんが平行線を受け止める話とすっかり重なり得心しました。また、先日来、ネットをぶらぶら見ておりましたら、捕鯨と宗教の観点で書かれているものや、2チャンネルもどきのラフな口調のものなど、硬軟取り混ぜてあり、その背景が垣間見えました。

Helvetia さん

アルコールインテリジェンス。言い得て妙ですね。(^ _ ^) ;)

昔の外交には良くありそうな戦術じゃないですかあ。

また、ブッディストというような共通項なんかで、「ねえ、ところで」と入っていくのもありそうですね。こうして想像していくと、まさにインテリジェンス（諜報）の世界に近づいていきますね。コワ。

恐らく Helvetia さんのおっしゃることの半分は、お酒＝友人的関係＝ちょっと本音語る、あたりのバカスの恩恵も借りながらの話だとは思いますが。

take : 今日の捕鯨ニュースは、なかなか意味深長に聞こえました。

①捕鯨反対を唱えるシー・シェパードの船はメルボルンを出航する

②シー・シェパードはオーストラリア政府からなにも聞かれなかったし、もちろん誰も逮捕などされていない（船長談）

③日本政府は「一体どうなってるんだ」と豪政府にきいたら、「まだ予備調査段階だ。国際法などと照らす」と返事。

④妨害行為で訴えられた豪州人も今回の船にのり出航

⑤NHKは「調査捕鯨の妨害活動を計画している」と淡々とニュースを閉じた。

みかん : 私からも1つ。

<日本のやくざが日本にあるオーストラリアのサーフ用スポーツギアブランド
ビラボングの店で脅しをしていると>

<http://www.news.com.au/dailytelegraph/story/0,22049,23208...>

のちほど、概略いたします、すみません。(^^;)

この記事は豪のデイリーテレグラフ紙(スポーツ紙レベルの新聞)に載ってました。最近になって反捕鯨の署名が一気に8万から12万に増えたようです。

take : どっひゃー、情報合戦…

みかん : すみません、ちょっと調子に乗ってしまいました。(^^;)

take : いえいえ、国ごとのメディア（新聞）が。（笑い

（余談ですが、英字紙の紙面レイアウト（h p も）はすっきりしてますね。

日本のスポーツしは何でもありのレイアウトで、さながらチンドンヤの色使いと文字使い。町並みづくりの自由度、乱雑さとそっくり。でるんですねえ。）

Helvetia : こういう情報合戦には、日本発の英語メディアの参加が期待されるのですが、これまで、そのような例はほとんどありませんね。

東京などは、滞在費も高くつくので、海外メディアでは駐在員を引き上げたところも多いですし、日本のメディアが日本の問題について海外メディアと国を打って出て論争し合う、データや情報を出し合うという姿勢も必要ではないかと想いますが。

海外で読まれている日本発の英語メディアは NHK の海外向け放送以外に、ほとんど知りません。日刊紙のインターネット英語版もこのてのヤバそうな問題にはそっぽを向いているようです。

みかん : >町並みづくりの自由度、乱雑さ

take さん、実は私もそれをずっと感じていました！！

ネオン街のようなデザインがやたら多いと。逆効果だと思うんですが、恐らくそうとも言い切れないんでしょうかね。ブログは結構素敵なのが多いのでと。

(^_^)☆

>日本のメディアが日本の問題について海外メディアと国を打って出て論争し合う、データや情報を出し合うという姿勢も必要

本当に！ 実は、この捕鯨問題のジャーナリズムの役割も非常に気になってい

ました。日本の消極性(?)も問題かもしれませんが、こちらも“売るため書いている”記事も多いと思うので。

鯨ポータルサイトでは討論の場を提供していながら、メインのページで「くじらをもっと食べよう！」みたいなメッセージがあちこちに。(^^;)

次のトピックは「捕鯨問題に見るジャーナリズムの役割」にしようと思うんですが、ヤバいでしょうか。^^

Helvetia : >次のトピックは「捕鯨問題に見るジャーナリズムの役割」にしようと思うんですが、ヤバいでしょうか。^^

全くヤバくない、と思ってます。

クジラを含めて、そして北海道をも含めて、根本的に今の日本のジャーナリズムを論じるべきだと想います。

地方分権を唱えているジャーナリズムが、各メディアとも、実に見事に中央主権化している、そして、地方のニュースが、センセーショナルなものであるとか、中央の関心になうものであるとかでないと、地方発日本論、地方発世界論みたいにならないように造られているように想います。

クジラの事だって、霞ヶ関や永田町が、すべてを知りよく理解しているとは思えないと思っています。

北海道のあちこちにひっそりと埋まっている様々な問題も、実は日本全体の、あるいは世界全体の問題に直結している事がたくさんあります。「中央」のフィルターがかからない、北海道発の（英語で）世界向けの発言が出来る、辛口で、シャープな、問題分析的なジャーナリズムが欲しいと想います。

take : >ネオン街のようなデザインがやたら多いと。逆効果だと思うんですが、>恐らくそうとも言い切れないんでしょうかね。

（余談ですいません。ハーバードの学生だったかが大勢呼ぶミッションがあって、意見を聞くと、あの、町並みの乱雑な、中華風な自由さがとっても好感もたれるらしいですね。一軒一軒の屋根の色が違うのは面白いとか。ドイツでは社会的強制に息が詰まる、とも。こういう地の声をきくと、ちょっとほっとします）

>北海道のあちこちにひっそりと埋まっている様々な問題も、実は日本全体の、あるいは世界全体の問題に直結している事がたくさんあります。

Helvetia さんのこのご指摘にはちょっと元気が出ます。(^^;)

take : わかりやすい英字新聞 MAINICHI WEEKLY を読んでいたら、調査捕鯨船日新丸に海上保安官が乗船、警備にあたっているんですね。2月9日の新聞です。毎日新聞を読んでいないからかも知れませんが、気づきませんでした。

で、目を引いたのが、何からまものか。

…eco-terrorists

海外ではこんなわかりやすい言葉をずっと前から使っているのですか？

みかん : >eco-terrorist

イギリスでは、頻度としては、eco-warrior ですかね。テロリストだと、いいイメージが湧かないので文脈によって使い分けてるのかもしれませんが。日本から見ると、シーシェパードは完全に前者だと思いますが。(^^;)

トピック：「日本に矛先、欧米の環境団体…どうなる？洞爺湖サミット警備」

2008 年 02 月 18 日

みかん :



↑今朝ほどネットで入ってきた新聞の見出しです。

今回、電話取材に応じたワトソン船長は「国際社会で日本の捕鯨が問題であることが認知された」と興奮した様子で語ったが、日本の水産庁の担当者は「目的のため手段を選ばないテロリストと一緒に」と苦り切った表情で語る。

警察当局も、こうした動きに危機感を募らせている。

(<http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20080218-OYT1T0036...>)

=====

この記事だけ読むと、状況は明らかに相変わらず泥沼。

タイミング的に、洞爺湖サミットで警察と抗議団体の間で衝突が起きなかったらほとんど奇跡なのではないだろうか。

起きても WTO サミットほどの規模には恐らくならないと思われるが。

サミットまであとほんの数ヶ月。衝突は仕方ないと国に警備をまかせるしかないのでしょうか。

それとも、私が先走って心配しすぎているだけ??? (@@)

書き込み

take : 最近の北海道のこと。

1 正月ウィンザーホテルに泊まった知人によると、駐車場やホテルのいたるところに警察がいて見張りだした

2 サミット期間中、空からのテロに備えて、約60kmは空の進入禁止など。あやかりのイベントが札幌を中心に目白押しで、なーんともなく大通りが中心になるような予感。パフオーマンスでは十分だし。

で、大通りに近寄るな！的な感じが。

みかん : なるほど、盛り上がってきてるんですね。
そういえば、今気が付きました、敵(?)は反捕鯨グループだけじゃなかったですもんね。
やっぱり先走ってしまったような。ハズかしー!

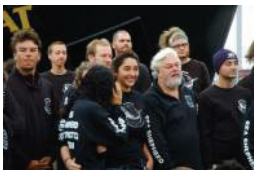
take : あ、ジャーナリズムでしたね。
昨今、テロ対策をいろいろ報道しています。今朝は、水道のテロをどうするか。200万円の予算で、水道に毒物を混入させない手だてを云々と。
そういえば、会場に水道を提供するのは豊浦町で、その対策で大変なんだ、と言う話を聞いたのは実は去年の秋だったと思います。
しかし、手だての広報は、テロやいたずらをむしろ誘発するのではないか、と気を回します。犯罪報道でいつも感じることと一緒に。
手口を報道で教えられておもしろそう、という犯人もしばしばいますからね。

みかん : あ、take さん、申し訳ないです。ジャーナリズムのトピ、これから立てる予定でした。
前文を考えていたら、この記事に気を取られて。平謝りでーす。

take : あ、これが軽妙なイントロだな、と合点していました。(^ ^ ;)
これはこれで軽くていいような(^ ^)v

みかん : あ、take さん、ありがとうございます。^^;

Helvetia : このワトソン船長、豪州人でしょうね。
>「国際社会で日本の捕鯨が問題であることが認知された」と興奮した様子とありますが、この人ひょっとして、最近まで、クジラを巡る、国際的な論争の事知らなかったのかな?

みかん : 
私もよく知らなかったので、さっそくウィキへGOしました。(^ ^)
なんとカナダ人です! 例のあざらし虐待にもちゃんと抗議しているみたいですね。^^;
もともとカナダの沿岸警備隊に出身で、それからグリーンピースに参加したとあります。
イギリスでは、捕鯨を擁護する人が周りの反応が怖くてそれを口にできないというところまでいってませんが、オーストラリアは何かそんな感じですね。

トピック：捕鯨問題に見るジャーナリズムの役割

2008 年 02 月 21 日

みかん：先日別のトピックでメディアの機能に関する話が出ました、このトピックは、私がそこでのやりとりに感化され立てさせて頂いたもので、次は、そのやりとりを Helvetia さんに集約していただいたものです：

=====

「地方分権を唱えているジャーナリズムが、各メディアとも、実に見事に中央主権化している、そして、地方のニュースが、センセーショナルなものであるとか、中央の関心にかなうものであるとかでないと、地方発日本論、地方発世界論みたいにならないように造られているように思います。

クジラの事だって、霞ヶ関や永田町が、すべてを知りよく理解しているとは言えないと思っています。

北海道のあちこちにひっそりと埋まっている様々な問題も、実は日本全体の、あるいは世界全体の問題に直結している事がたくさんあります。「中央」のフィルターがかからない、北海道発の（英語で）世界向けの発言が出来る、辛口で、シャープな、問題分析的なジャーナリズムが欲しいと想います。」

詳しくは、http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_c_topic_... をご覧ください。

=====

このコミュを作ってから、グーグルアラートを使って捕鯨に関する記事のリンクをメールで送ってもらっています。

予想されたように、記事の数としては英文の新聞からのものが圧倒的に多く、日本語の記事は恐らくその 10 分の 1 もないような感じです。

英文の記事は、オーストラリアからのものが多く、オーストラリアの記事に続いて似たような記事が、次々と別の国から送られてくるというのが最近の傾向のような。

一部の豪のタブロイド紙(センセーショナルな事件報道やゴシップ報道などに力を入れる大衆紙)などは、この辺の国民感情をしっかりと掴んで非常に盛り上がっているようです。

公平で客観的な討論が必要なこの捕鯨問題。国民感情につけ込んで金儲けしているメディア、本来の機能を十分果たしていないメディアなど、ジャーナリズムの世界にもいろいろ問題がありそうです。情報をどこに求めるべきか、これからはそういう選択も大事なのかもしれません。

ここでは、それをゆっくりじわじわと斬っていければと思いますです。(^^)v

書き込み

Helvetia：日本のジャーナリズムと、例えばヨーロッパやアメリカのような、報道の自由

の原則が成立している社会のジャーナリズムでは、ずいぶんその報道の姿勢に違いがあるように思われます。

第一に、日本の主要メディアは、公正中立を標榜していますが、ヨーロッパのメディアは、はっきりした立場を看板に掲げています。平常読んでいる新聞の名前を聞けば、その人が、選挙で何党に投票するか、大体予測できます。従って、一つの問題に対しても、メディア各社間で、問題の様々な局面や、含意について、論調に違いがあり、時には激しい論戦に展開することもあります。

日本のメディア各社間で争いと言うと、業界内での足の引っ張り合いや、いわば各社それぞれの『人格』を誹謗し合うような争いになり、報道内容での論争にはなかなかありませんし、立場を明確にする事をさける傾向が顕著です。

社説の執筆者も覆面が通例ですし、議論の分かれる問題については、外部の執筆者に寄稿してもらう事で、発言に対する「社」の責任を回避する傾向が明らかです。

第二に、そのようなメディアの姿勢は、例えば捕鯨問題に対する政府の態度が、声高に日本を非難する国の政府に対して、正面からの反論や、一歩前に出た議論を仕掛けるような事をひたすらさせている事と符節が一致しています。

アメリカやヨーロッパの新聞を調べてみると、日本の新聞がニュースソースとして

言及される例はきわめてまれですし、日本政府が、日本の国益に関わる問題について、はっきりした、踏み込んだ発言をしている報道もほとんど見当たりません。

第三に、「和」の精神という事が日本ではしばしば言われますが、これはそれぞれの時代と状況がはらんでいる諸問題を直視させない結果になり、自分自身の思考や発言を不必要に縛る結果にもなっています。「和」の精神も、時と場合によって発揮されるべきであって、いつでも、誰に対しても、あらゆる状況で、一国の利害が、「和」の精神と言うお念仏で守り通されるものでもないと思います。

結局、日本のジャーナリズムの、国際的な論争に対する、不甲斐ない、その存在理由が疑われるような状態は、結局、我々自身とその政府の、思考と言動のパターンを見事に反映しているからだと言わなければならないでしょう。

出来るだけ論争をさけ、出来るだけ『固い話』をさけ、聞きたくない意見を頭からさける、つまり、言葉の論理を使って、出来るだけ物事の本質を明らかにするという行動をさける、今の日本社会の雰囲気そのものが、問題なのではないでしょうか。

(1960年から1980年までの間に、何らかの精神的挫折が、日本社会を襲ったのではないかと、思っておりますが、当人が不在でしたので、追体験できない

ままです。)

国際的に観れば、もはや「ジャパンバッシング」(~bashing)にはさしたる反応がないので、世界中が飽き飽きして、いまや、「ジャパンパッシング」(~passing)の局面に入っていると言われるゆえんです。様々な国際的な問題が、あたかも日本という国が存在しないかのように議論されているのが実態です。

個人でも、国家でも、反論しない、発言しない、議論に参加しない(参加できない)でいる以上、確かな存在理由があるとは認識されないからです。

みかん : Helvetia さん、日頃のうつぶんが晴れました。ありがとうございます。m--m
今から 10 年位前のことですが、一度ロンドンに駐在されていた日本の新聞記者の方とお話できる機会がありました。その方に、日本のメディアの報道の仕方についてお聞きしたところ、返ってきた答えが「報復が怖いから」と。
この回答、もしかするとナンセンスなのかもしれませんが、「社」として社員の安全を守る義務があるという考えが背景にあるのかなあと。

Helvetia : みかんさん

>答えが「報復が怖いから」と。

これは、誰からの報復なのかはつきりしませんが、「社内」の、ということもあるでしょう。ある大新聞のドイツ特派員に聞いた話ですが、総選挙のときに、キリスト教民主党(保守系)の勝利になりそうだと書いた原稿はすべて、社会民主党が優勢だと書き直されていたそうです。また、もう一つの大新聞のベテラン海外特派員は、欧州、北米、欧州と、計十数年海外にいて、日本に帰って見たら、上司の外報部長が、自分の後輩になっていたそうで、そういうことも、『報復』に入るのかも知れません。

しかし、いざ、というときに、『社』が社員の(社会的?)安全を守ってくれるかどうか、大いに疑問です(トカゲの尻尾切り)。

日本の新聞社という会社機構と、ジャーナリスト個人のフリクションが大きいのでしょう。知る限りでは、ヨーロッパの(多分アメリカも)ジャーナリストは、新聞社とは、契約で仕事をする事が本質になっているようです。つまり、フリーランスが本来である(筆一本で渡世する)ようです。

みかん : 申し訳ないです、言葉足らずの文を書いてしまいました(赤面。

報復については、すっかり対外的なものしかないと頭から決め込んでいました。なので、朝日新聞襲撃事件などの、そういった報復のことだと。^^;

>ヨーロッパのメディアは、はっきりした立場を看板に掲げています。

これは私がこちらにきて一番驚いた違いの一つでした。一度立場を明らかにしたら、極端な場合、そのあとはレトリック合戦で、正しいとか間違っているとかは2の次になる。あとは忠誠心だけがものをいうま部族同士の争いみたいに見えるときがあります(タブロイド版のことですが)。

take : すみません。今日のニュース、横入りです。(´_`)

ついにここまできました。

ニセコに来る豪州人の一部は、豪州人が一杯居るニセコでは
外国にきた気分になれないからと、富良野やカムイリンクスに
流れてくるのが知られていました。

カムイのゴンドラに捕鯨反対の落書き、だそうです。

=====

【旭川】旭川市神居町西丘の民間スキー場「カムイスキーリンクス」のゴンドラリフト内で、捕鯨反対のメッセージと受け取れる落書きが多数見つかった。クジラの絵とローマ字で「TABENAIDE（食べないで）」と書かれ、“被害”は百三台あるゴンドラ（四人乗り）のうち、六十二台に上る。海外では調査捕鯨反対論が強まっており、海外から訪れたスキーヤーらがゴンドラ利用中に書いたとみられ、同スキー場は対応に苦慮している。

ゴンドラは全長約二千四百メートル。落書きはオーストラリア政府や米国の反捕鯨団体による調査捕鯨への反対の動きが道内でも報道された一月から増加。黒や緑色のマジックで書かれたらしく、漫画風に描かれたクジラが「食べないで」と訴えている。こうした行為は器物損壊罪などに当たるが、今のところ、誰が書いたかは特定できていない。同スキー場は三月下旬の営業終了後にすべて消す方針。

道内では近年、オーストラリアなどからの外国人スキー客が急増。同スキー場も誘致に力を入れる中、国際交流に水を差しかねない落書きに「これ以上の迷惑行為はやめてほしい」と困惑顔だ。

=====

みかん : 恐らく旭川市の方達にとってはショックだったでしょうね。まだこのレベルで済んでいると見ることもできるんじゃないかな。

今朝のネットのニュースで、シーシェパードの船長が日本の捕鯨船に乗り込んで、中にある装置や機械を破壊し、乗組員を民間逮捕すると言っていました。

もし乗り込むことになったら、日本側は暴力を使ったり、自分達を銃撃するかもしれないが、その危険性は十分認識していると。この船長、自分の言い分を正当化するために言いたい放題という感じがします。

オーストラリア側の無知も気になりますが、この落書きを含め、自分達側で墓穴を掘り始めているのかもしれない。

Helvetia : こういう無知な船長さんはどうしたもんでしょう。

この船長さんが、自分の発言通りに行動すれば、日本船の（日本船籍があれば）船長が、公海上での日本国領土（船）の主権代表者として、本来的には自衛権・

警察権を行使する権利かつ義務が生じますが、日本側がそういう事をしないと「なめている」らしい。

公海上では、自己責任・自己防衛が今日でも原則ですから、それを第三者が援助してくれるなどという事は、本来期待すべきではない。従って、日本政府が強い態度に出るか、日本船の船長が強い態度に出るか、どちらかしかないでしょう。

スキー場のゴンドラに大量の落書き事件は、いわゆる外人さんの誘致と取り扱い方の教訓ですね。

別に外人でなくても、たとえば、石垣島では、移住者歓迎の機運と、観光マスコミの効果抜群で、都会から、大量に退職者が移住してきて、同じ日本国内で、日本人同士の間にも、相当異なった生活文化が衝突し、景観・居住環境の問題が発生し、『団塊様、お断り』の声が聞こえるほどであるそうです。

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/topics/20070510/12...>

人口減少を移住者で補う、不足な労働力を外人労働者でまかなうなど、『開かれた社会』という結構な理想も、それを実施するにはきわめて慎重な事前調査と戦略が必要である事は、観光客についても同様です。

外国人に土地を売り渡してしまう事も考えものです。外国人の土地所有を制限している国はいくつもあります。

将来は、所有権と利用権を切り離して考えるべきだと思います。知り合いのドイツ人が、転勤先のロンドンで家を探したら、期間は99年で良いかと聞かれてびっくりしたそうです。これなども、売る（所有権）より貸す（利用権）考え方なのかも知れません。

みかん : >移住者歓迎

日本でもこの手の摩擦があったんですね。アメリカのはよく聞いてましたが。ミズーリ州に住む友人が同じような問題でこぼしていました。^^

>『開かれた社会』という結構な理想

私はこれに100%同感です。ここに住んでいて、どうしても社会文化的な共存(pluralism)に対する答えはあるようには思えないでいます。

実は前回コメントを書いてから、バランスがとれた議論に対してナイーブな発言をしてしまったと気が付きました。

やはり自分の立場を看板に上げなければ、オピニオンリーダーとしての役割が果たせないわけですね。従って、これもジャーナリズムの役割なのだと。

まだまだ、これから勉強です。^^;

トピック：捕鯨に関する記事 etc.

2008 年 03 月 02 日

みかん：このトピックでは、捕鯨に関する記事のリンクや抜粋を貼付けていきます。
面白そうな記事を見かけましたら、どんどん貼付けていってください。
よろしくお願いいたします。mーm

書き込み

みかん：【コラム】クジラは本当に絶滅の危機にあるのか（上）（朝鮮日報）

<http://www.chosunonline.com/article/20080302000021>

「それでも日本が、莫大（ばくだい）な費用をかけてまで捕鯨にこだわる理由は何なのだろうか…。英字新聞のジャパントイムズ紙は昨年 12 月、「日本が捕鯨をあきらめない理由は、この問題が民族主義を刺激しているためだ。西洋諸国が捕鯨に反対しているため、日本はますます捕鯨をやめられなくなっている」と報じた。」

「イギリスの週刊紙エコノミストは 2003 年、捕鯨国と反捕鯨国の争いを「偽善とこだわりの対決」と報じた。捕鯨国の主張は「無用なこだわり」である一方、反捕鯨国の主張は「非合理的で偽善的」だというのだ。しかも過去 5 年間、こうした状況は何ら変わっていない。また、国立クジラ研究所のキム・チャングン所長は「現在、IWC では話し合いが平行線をたどっている。“保存”と“利用”のはざまで、何一つできない機能不全の状態に陥っている」と主張している。」

take：案の定、予告通り、妨害行為が再発して、海上保安官も軽いけが。またもや、NHKはワトソン船長に電話取材して、ワトソンは英雄みたいに語っています。豪政府も、国民世論を背景にシーシェパードを泳がせています。

調査捕鯨を「密漁」と繰り返しているこの人、ひょっとしたら韓国の密漁やり放題と勘違いしているのか、すっとぼけているのか。

表だったニュースにはできませんが、ブログでは韓国の密漁と、ソウル市内のクジラ料理のうまさが紹介されています。たたかれっぱなしの日本では、クジラは高級料理となつて、庶民には縁のない、あってもなくてもいい動物タンパク質になりました。

それはともかく、今回海上保安官が登場し妨害を確認したことでいよいよ捜査という手段にでることに。外交ルートでも激しい動きが出ています。

=====（産経ニュース）=====

海保は、海上での事件の捜査権を持つ海上保安官が妨害を現認しているうえに、保安官自身が負傷していることから捜査に乗り出すことにした。

甲板に投げ込まれた瓶や犯行の様子を撮影したビデオなどから犯人を特定する作業を進める。容疑者が特定できた場合は、外交ルートを通じて該当する国に捜査共助を申し入れる方針。

南極海での日本の調査捕鯨船団に対するシー・シェパードの妨害活動は今年度 3 度目。

過去 2 回
に乗り出せ
みかん :



は、保安官が乗船していない船に対する妨害だったため、捜査
なかった。海保が捜査に乗り出すには告発が必要という。

地元の子供達、捕鯨の終止符を呼びかける

小学校 6 年生のタリアが書いた反捕鯨の作文に心打たれた生徒たち。自分達に
も何か出来ないかと思いたち、早速折り紙でポスターを作成して福田首相に送
ることに。

(ザ ノーザン リバーズ エコー(NZ))

<http://www.echonews.com/index.php?page=View%20Article&...>

take : シーシェパード、やはり、子供達とのキャンペーン。

http://www.seashepherd.org/news/media_070705_1.html

ワトソン船長はグリーンピースから別れて設立したのだとか。

シーシェパードの基本的なプロフィールをここでみました。

なるほど、です。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%BC%E3%83%BB%...>

Helvetia : ロンドンで、国際捕鯨委員会の会議が開かれ、対立する両陣営間の
調停が試みられるとの事です。

<http://news.bbc.co.uk/2/hi/science/nature/7279583.stm>

いわゆる捕鯨反対派の中の最強硬派と穏健派のどちらが優勢であるかが、会議
の帰すうを決する。もしも、日本の立場が全く認められない場合、見本は IWC
から離脱して、別の組織を作ると言っており、これが、反対派がが一番避けた
いことだと言う事です。

BBC(Richard Black 記者) は、1946 年の国際捕鯨協定の文言は、日本の主張し
ている事そのまま、つまり、「クジラ資源の適切な保護により、捕鯨産業の秩
序ある発展を可能にする事」である。たほう、「捕鯨反対陣営の主な国々、イ
ギリス、オーストラリア、ブラジル、アルゼンチンなどは、『捕鯨そのものの
全面的廃止』を意図している」と書いています。

..

シーシェパードの『ほとんど海賊』的な行動が、裏目に出たかも知れません。

日本が IWC 脱退を示唆した事については :

http://www.bbc.co.uk/worldservice/news/2008/03/080306_wha...

みかん : 「撃たれた」反捕鯨団体の主張に日本側が反論

<http://www.afpbb.com/article/environment-science-it/envir...>

防弾チョッキなど、銃撃など、ほとんどガザ化してますね。^^;

Helvetia : youtube に映像があります。最初の映像は明らかに、シーシェパード側から撮影されたシーンですが、これは、『人質にされた』のではなく不法に『侵入した』事を示していますが、これが英雄的な行為であるという事らしい。

http://www.youtube.com/watch?v=pMpoJMg4hxc&feature=player_embedded#!

みかん : このワトソン氏、なにやら虚言癖があるような。少なくとも、オーストラリアで今まであまりにも露骨にサポートされるてきたので自分の発言のチェック機能が働かなくなってきたんでしょうかね。

鯨問題を面白くしているということでは貢献してますね(苦笑)。

Helvetia : BBC News (3月8日、21:29 GMT)によれば、ロンドンで開かれた IWC (国際捕鯨委員会) の会議で、歩み寄りの方向が見えたようです。

IWC は、初めて名指しで、シーシェパードの、航海の安全と人命を損ないかねない妨害行為を非難しました。

<http://news.bbc.co.uk/2/hi/science/nature/7285544.stm>

同時に、IWC の議事を単純に投票で決めてしまわず、いくつかの小委員会に問題を分割し、クーリングオフ期間を設けて、冷静な議論を行えるようにするなど、九つの改善点を含む案が提示され、捕鯨賛成派と反対派の双方から受け入れられたとの事。

日本代表およびニュージーランド代表(捕鯨反対派)は、それぞれ、会議の雰囲気改善された事を歓迎する発言を BBC にしたそうです。

次期年次総会(今年、チリで)で決定されるはずの、具体的なテーマについては、日本側が、以前、日本が IWC に要請して総会で否決された、沿岸四カ所での捕鯨を認められれば、南極海での調査捕鯨について考えても良いという歩み寄りを示したが、この提案は、捕鯨絶対反対派を二分する効果があったらしい。もっとも、水産庁は、南極海での調査捕鯨と沿岸捕鯨(商業捕鯨)は別物だと否定したそうですが(asahi.com)、そこで報道されている、オーストラリアは、クジラを殺さないで科学的な調査をするならば、南極海で日本と共同調査をしても言いと言っているという話は、今のところ、どの英語ニュースソースも報道していません。

オーストラリアの新聞は、殆どが、シーシェパードの代弁のようです。ロンドンのタイムズまでが今日はその調子ですが、これはまあ、オーナーの国籍とも関係がありそうです。

今回は、日本が『強硬な姿勢』(IWC からの離脱)をとった事、さらに、シーシ

エパードの疑似海賊的な行動が、会議の雰囲気を変えたと言えるかも知れません。

みかん : >これはまあ、オーナーの国籍とも関係がありそうです

Helvetia さん、これをすっかり忘れていました！ルパートマードック (<http://ja.wikipedia.org/wiki/ルパート・マードック>)はこれだけ所有してるんですね。改めて驚きました。本人は、新聞の方針には影響力は持っていないと言っていました(英タイムズ)。息子のジェームズは日本語を話すらしいです。
^^;

<イギリス>

The Sun

News of the World

The Times

Sunday Times

News Corporation Ltd.

<オーストラリア>

The Daily Telegraph (Sydney)

The Sunday Telegraph (Sydney)

The Australian (national)

The Advertiser and Sunday Mail (Adelaide)

The Sunday Times (Perth)

Herald Sun (Melbourne)

Sunday Herald Sun (Melbourne)

mX (Melbourne, Sydney and Brisbane)

The Courier-Mail (Brisbane)]])

Geelong Advertiser

Gold Coast Bulletin

The Mercury and Sunday Tasmanian (Hobart)

Northern Territory News (Darwin)

The Sunday Territorian (Darwin)

<ニュージーランド>

Sunday Star-Times

Papua New Guinea

Papua New Guinea Post-Courier

<フィジー>

The Fiji Times

<アメリカ合衆国>

New York Post

The Wall Street Journal

Helvetia : みかんさん

今度の一連のアクション、つまり、シーシェパードから主として英語圏のマスメディアを含めて、まるでカーニバルでもやってるみたいに、一斉に足並みを揃えて行われたのは、この新聞王が、胴元だった可能性大でしたね。BBC の他は、International Herald Tribune など、ある程度抑制の利いた報道をしていたいたのは、コンツェルンのそとだからかもしれません。

>息子のジェームズは日本語を話すらしいです。^^;

これは日本情報の収集役かな、友人、知り合い、情報屋のネットワークもあるでしょうから。パタゴニアというアウトドアグッズの会社がスポンサーだと思われていましたが、もうだいぶ前から資金援助はしていないと言ってます、船を何隻も買い、人を雇い、日本の捕鯨船の針路情報に、\$ 25,000-の賞金を用意し、他にも様々な情報提供者に高額な賞金を約束しているのは、背後に大ボスがついているからかも知れません。

そうすると、IWC も、日本も、センセーショナルで、ナショナリズムや高邁な理念のために命を投げ出している若者たち、そして何よりもあのワトソン船長は、マードック系のメディアの売り上げを激増させる、一大メディアカーニバルの中で、それぞれの役を演じさせられていたということになりますね。

孤立した日本はの役人は、もっぱらくそまじめに対応してきて、西部劇もどきのヒーローまでつくりだした大メディアスペクタクルに取り込まれてしまったという事でしょうか。

今風の面白い小説のプロットとして最高です！みかんさん、書いてみませんか。まず英語版ですね、映画にもなるかも？

みかん : いやー、なんかワクワクしてきました。これはもうまさにクジラゲートですね！私が今から小説を書き始めたら何年かかるか分からないので、この大スクープ(?)をどこに売るか考えるべきだと思います(笑)。

田中宇も真っ青のこの読みの深さ、にやりですね(笑)。

でも、まじめに背後に何かあってもおかしくない感じがします。

Helvetia : 先日、ロンドンで開催された、IWC の中間会議について、サンケイ新聞が、IWC 事務局長とのインタビューを掲載しています。

シーシェパードの抗議行動に対する非難は全会一致であった事、オーストラリアが提出した案件は取り上げられなかった事、今後は、投票だけで議事を進める方法をとらず、話し合いを多くしていく事が、確認されたようです。

<http://sankei.jp.msn.com/world/europe/080316/erp080316122...>

一方、AFP-BB は、三月 15 日、訪日した、オーストラリアのファーガソン産業・

環境資源相が、豪州政府は、シーシェパードの活動家の起訴も視野に入れて、日本の調査捕鯨妨害行動を調査する事を明らかにしたと報じています。

<http://www.afpbb.com/article/environment-science-it/envir...>

オーストラリアの立場は悪くなったようです。

みかん : >オーストラリアの立場は悪くなったようです

最近矛先がカンガルーに向き始めてますね。^^;

<カンガルー400頭駆除、豪政府「過剰繁殖で」と弁解>

<http://www.yomiuri.co.jp/world/news/20080313-OYT1T00721.h...>

捕鯨とカンガルーの駆除を同レベルで考えていいのかですね。

Helvetia : 私は、カンガルーは可愛くて大好きですし、庭さえ広ければ、飼ってもいいな（実際は大変でしょうけど!）とおもうくらいです（リスも飼いたいけど、これも大変らしい）。

しかし、一応面積と頭数の関係は調査しているわけ（昔、クイーンズランドの某大学にちょっといたときにきいた話）ですし、牧草地の食害もわかっているの、感情を抜きにして考えれば、納得できます（つまり、よそから口を挟むべきではない）。

クジラも、人間ではないほ乳類の仲間としては、人間が管理すべきなので、まず出来るだけ確実な「調査」が必要です。その点では、カンガルーだけを殺して良い訳でもなし、クジラだけをサンクチュアリーに奉るのもどうかと思います。

オーストラリア人の先祖に当たるヨーロッパでは、昔から武装した森林監督官が、王様の（後には国有の）森林を調査し、鹿を始めとする狩猟動物の成育状況を把握し、密猟者を捕縛・射殺し、毎年、雄の成獣（メスと幼獣は原則狩猟禁止）を何頭まで撃っても良いと告知し、一定範囲内での生育数がレベル以下になると、狩猟禁止。また、冬期には、狩猟権所有者に、エサ場の設定とエサの常時補給を義務づけるというような事を行っています。何百年来、管理しているわけです。

出来るだけ確実な調査もせずに、クジラはいつさい捕るなという事であれば、日本のように、クジラを食べたい国は、昔、アーサー・クラークが（SF）「海底牧場」で書いたように、クジラを完全養殖する（近畿大学が成功したマグロの三世代完全養殖のクジラ・バージョン）方法を考えなければなりません。

そうすると、牛肉を輸出したり、牛や豚の飼料を輸出する事で所得を得ている国々は、そもそもクジラを食うな、と大反対するでしょうね。「クジラ信仰と貿易構造」なんて博士論文がいくつも書けそうです。

「別格官弊大社おクジラ様」などを仕立て上げてしまうと、んじゃ、伏見稲荷のお狐様とどっちが上じゃ、てな、ややこしいことになりそうで、そうでなく

でも魑魅魍魎

がいっぱいの世界ですから、物事はなるべく簡潔明瞭に片を付けてもらいたいと思う次第です。

みかん :



思わずカンガルーを散歩に連れて行くことを想像してしまいました。^^;

この議論、私が思うには、そう遠くない将来、日本でも捕鯨を主張する人がいなくなるのではないかなと思うんですが。政治家に議論させても決着が付かないし、幸い日本の若い世代もクジラにあまり感心もなさそうだから、問題が自然消滅するのを待とうと。

このくじらポータルサイトのデザイン、一見、反捕鯨なのか擁捕鯨なのか分からないなあと思いました。^^;

Helvetia : 本当の問題は、クジラを捕る捕らない、食べる食べないの問題ではないと思います。

問題は、procedure です。国際関係の力勝負の場になっているわけで、国際的な影響力の限界を試し合っている、一種の陣取りゲームな訳でして、こちらの主張が合理的であればそれを押し通すのが、むしろ欧米流ですから、これまでの日本（パパブッシュの湾岸戦争など好例）がしてきたように、立場をはっきりさせずに、遅すぎた妥協を、しかも相手が期待する以上の妥協をしてしまう事はやめるべきだと想います。その場限りだと思った妥協や合意が、後々までたたることになるのは、いやになるほど見てきています。

これまでは、十分に意見の交換もしないままに、すぐに投票で案件を決定してきたのをあつためると、IWCの事務局長も行ってますが、こういうやり方も、有利だと思えば多数を頼んでやってきたのですから。民主主義？へー？て感じだったですね、これまでは。

みかん : >これまでの日本（パパブッシュの湾岸戦争など好例）がしてきたように、立場をはっきりさせずに、遅すぎた妥協を、しかも相手が期待する以上の妥協をしてしまう事はやめるべきだと想います。その場限りだと思った妥協や合意が、後々までたたることになるのは、いやになるほど見てきています

そうでした、以前この点を一度既に説明していただきました(冷汗)。^^;

知らないうちに身に付いていたのかもしれませんが。^^;

take : ご無沙汰していますが、たいへん勉強になっております。

先般、豪州のTVキャスターがSSの行動を、「良くやってくれた」と満面の笑みで絶賛し、一方では、豪州へ出かけた日本人観光客が風船のような銃で追いかけられ「もし殺されたらどんな気分？」とインタビューされていたのを見ていらい、はなれておりました。

今日の朝日新聞で↓。主筆の船橋洋一氏が豪首相単独インタビュー。

わたしの目には、新鮮味なし、でした。

<http://www.asahi.com/international/update/0325/TKY2008032...>

みかん : >新鮮味なし

同感です。^^;

>豪州へ出かけた日本人観光客が

風船のような銃で追いかけられ「もし殺されたらどんな気分？」とインタビューされていた

自分たちが道徳的に優位にあるというコンセンサスができている証拠ですかね。

この部分は、捕鯨だけでなく、いろいろなところで見られますね。伝統であろうが、権利であろうが、道徳的に間違っていれば変えさせる必要があるというコンセンサス。

捕鯨反対を公約にした首相がいるオーストラリア。しばらくはこのままの状態が続きそうですね。

take : 変なエピソードを書きますが、同じ研究者でも、動物と植物では大分違うという印象を個人的にもちます。

クジラに代表されるように、動物関係はパフォーマンスが優位になりえるために、元気のある、わたしとは違うタイプの発言がでます。

ところが、植物は結構おとなしい話にしかない、とわたしは思っています。だから適切に支える必要がある思うのですが…。

みかん : takeさんのこのコメントを拝見するまで、私も植物についてあまり考えた事がなかったです。密林伐採などという言葉はよく耳にしますが、種としては、あまりマスコミで取り上げられたことがないような。

先日テレビを見ていたら、両生類の絶滅が異常な速さで進んでいると言っていました。かえるも、もしかしたらtakeさんのおっしゃる植物に近いものがありますか？（実は今年は「かえるの年」だそうです。^^;)。

Helvetia : >takeさん

数年前にドイツで、テレビを見ていた時の事。

あるグループディスカッションの番組で、植物学の研究者が、植物の発する微弱な電波を増幅する話をしました。人間の脳波のような物と私は理解したので

すが、のこぎりを当てると、変化が現れるという事でした。

すると、参加者の女性の一人が、植物を食べるのはかわいそうだったんですね。すると、他の人が、それなら牛や豚を食べるのもかわいそうだといい出し、最初の女性の発言の線をたどると、我々には何も食べる物が無くなり、飢え死にすることになると言う話になりました。

やはり、仏教的な動物・植物観の向こう側には「空」があるのに対し、聖書の絶対者としての神（自然と人間生活の根本的規定者）への信仰が薄れると自然界へのアプローチも混乱してくるのかも知れません。

宗教哲学的に考えれば、『空と絶対神』の間に媒介項が見つかってもおかしくないのですが、それは、仏教側の創造的作業に期待すべきであるのかも知れません。

>みかんさん

今住んでいる場所でも、所々に残っている田んぼで、昨年あたりから、ぱったり、カエルの鳴き声がしなくなりました。

なるほど、『両生類の絶滅の異常な早さ』が、ここにも現実になっているのか、と思います。

みかん : よく考えると天然記念物という言葉も不思議な言葉ですね。みずから進んで記念物になりたい動物も植物もいないように思いますが。^^;

もっと危機感がある名前を選ぶべきなような。

すみません、話がそれました。^^;

take : みかんさん

両生類の問題は全か無かの極端さに関係するのではないかとわたしは思っています。かれらの好きな環境を、たとえば早春、カエルの大合唱が聞こえる広大な湿原にいくと、そこは、陸地から水辺へゆっくり移行するエコトーンです。このあまり意味もなさそうなグラデーションこそ、生物の種も量も最も豊富なゾーンで、この実にいい加減な空間は現代があまり価値をおかないものでした。ドイツはビオトープで復活させましたが。

Helvetia さん

このどうでもいいようなもの、多様な生き物との共生は、やはり仏教のようなおおもとの教えの知恵を借りねばストンと落ちないということでしょうか。ヨガ関連（というか、ジャイナ教ですね）には、アヒムサ（非殺生）、アネカンタ（非独善）、アパリグラハ（無所有）という哲理があります。これがかなり深い、テーゼをしていると思います。独善に陥らず、持たず、殺さず。別のところから出てきた「五観のげ」という禅宗の誓いもその3つに「できるだけ」という特別の形容というか、抜け道をつけてくれるつましさを日々目覚めさせるマントラのようなものだと思うのですね。

わたしが雑木林の間伐を、延々としてきたのも、実は、このエコトーンを林の中に創る効果がありました。あるとき、ライトトラップで昆虫を、間伐したところとしないところでやってみると、間伐をしたエリアの昆虫層がずっと豊かなのです。明るいところから、暗いところ、しめったところから乾いたところ、温度の高いところから低いところのグラデーションですね。そこに多様性の源がある。

というような心地で、マガン・ヒシクイの大群の渡りを口をあけて眺めていると、ウルウルと涙がこぼれるわけです。（笑い

その時、かれらと環境をシェアしているという実感は宗教的ものに近いですね。この気持ちは、クジラの一連の行動とはどうも異質なものだと思います。

みかん : take さんのメッセージを考えていたら、オンブラ マイ フが頭の中でどこからか聞こえてきました。実はオンブラ マイ フの歌詞の意味を知らなかったんです。さっそく調べてみると、な、なんと、樹にちなんだ歌詞だったんですね。^^

take さんのメッセージ、私が消化できるようになるまで、もうちょっと時間がかかりそうですが、クジラだ、カンガルーだと言っていると、必然的にその目が今地球に存在する人間の数にぶちあたってしまうのではないかと、はたと気が付いた次第です。^^;

take : こんにちは。

話が一見あらぬ方へ来たように見えますが、意外と課題整理の出口に近いのかもしれないなあ、とも思います。

>実はオンブラ マイ フの歌詞の意味を知らなかったんです。さっそく調べてみると、な、なんと、樹にちなんだ歌詞だったんですね。^^

わたしは Largo という題の曲をクラシックギターで弾いていた時期がありました。これが別名これなんですねえ。

昨日偶然、宮沢賢治の「春と修羅」の一部、妹トシにアメユジュ（雨雪）をとってきたその松の枝を、トシがいまわの際にはおずりする、という当たりを読みました。その時、このオンブラ マイ フのことを思い出しました。

あ、ぜんぜん、タイトルと違う話になってしまいました。（^-^;）

2. 森林とCO2

開設日 2008 年 02 月 03 日

管理者 take

—コミュニティ説明文—

先日、薪で走るバスの日記をかきながら、森林とCO2、そして温暖化対策に感じていたもやもやの源泉を見た気がしました。

http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary...

第1点は、温暖化対策の本丸が排出量取引という一種の「金融商品」になりそうなこと、社会というより金融が乗り気であること、そして欧州経済発の主導権がみえかくれすること。わたしは直感的に、かつて日本を席卷したISO（とらなければグローバル競争に乗り遅れる！）が欧州発の一種の縛りだったことを思い起こしました。

2点目は温暖化対策が、「植樹」というイベント性の高い行為に焦点を当てていますが、実際、高率でCO2削減が期待されているのは、人為的活動、いわゆる森林の手入れであること。日本は3.7%をこれで賄うと歌っていますが、そんなことできるのかい？というのが、多少現状を知る、わたしの疑問でした。数字を獲得できたのはいいですが、本当にそんなこと、できるのでしょうか？

3点目。そうしてやっと、この人為的活動を誘引する「保育への補助・助成」が国から出てきました。これまでの制度では、メニューばかりしっかり歌われている反面、実際は使えないと酷評されていたものです。つまり行政は項目だけでポーズをとっていたのです。これが、どれほど、動いて行くのか。

数年放置されてきた道路わきの風倒木処理を、G8のサミットでみられるのは恥ずかしいから、とやっと動き出す不作為になれた官にはあまり期待は出来ないと思われます。

ただ、いえることは、温暖化を防ぐために手を打たなければならないという合意が出来つつあることです。それを、市場が解決するのか、国家間の権力なのか、テクノロジーなのか、この捕らえ方がはっきりしません。どれもすべて、というのが本当でしょうか。

前書きが長くなりました。ともかく、温暖化防止の動き、それに北海道にいっぱいある森林を結びつけて、皆さんが普段お考えの、高邁&身近なお話をうかがいましょう(^_^)v

トピック：まず、森や林、エネとの日常的な関係を自己紹介

2008 年 02 月 03 日

take :

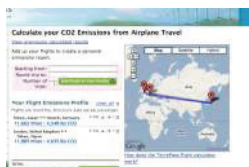


まず、わたくしめ take から。(^_^);

- ・結構、CO₂にはルーズな人間でしたが、少なくとも車に乗る時間が減りました、減らしました。(トゼン
- ・理屈・理念として、エネルギーはこんなことでいいのかあ、と声を発するのですが、便利なものは使ってしまう、グータラです。
- ・林の手入れをせっせとしてきた「週末きこり」。11月から春までの1シーズンに一人でほぼ1ヘクタールの間伐をしてきました。
- ・資源や環境と同じくらい大事なものは、林は「こころ」の相手だ、ということだと感じています。
- ・弁当を食べるときに容器が恐らくリサイクルされていないので、外食のみにしようかと悩んでいます。気持ちわるいのです。

書き込み

みかん :



私もなるたけサランラップなどを使わないようにしていますが、あとは必要最低限しかしていないような。

ところで、ネットを見ていたら、飛行機の飛ぶ距離から自分の二酸化炭素排出量を計算できるページを見つけました(ウ、ミタナイ)。

で、早速ロンドン東京間片道を見てみると…

マイレージ 11,886 マイル (19128km)

ガソリン 237 ガロン(1077 リットル) (一人当たり)

CO₂ 288kg(一人当たり)

ありゃー。往復券を買うとこの倍になるということですね。

金魚から帰ってくるなど言われそ。(ー ;)

これから、飛行機に乗られる方、よろしければどうぞ(スマセン、エコデス)。

<http://www.terrapass.com/flight/flightcalc.php>

take : おお、このカーボンオフセットは英国のエアラインが言い出しっぺでしたね。
あとでゆっくり勉強してみます。ちなみに北海道人の一年間のCO₂排出量は
80KGだそうですから、往復にすると、7.2年分。
これが何を意味するのか、想像が付きませんが、なとなああく、法外な排出
量なんだ、ということは感じてきます。

みかん : すみません、上の数字、往復でした。数字に弱い私。(--;)
>カーボンオフセット
先日のニュースで、カーボンオフセットが禁煙に置き換われるだろうと。こち
らのエアラインは新型飛行機の性能をアピールしていますが、中古の飛行機を
使ってる国もたくさんあるので、車と同じですね。

take : >数字に弱い私。(--;)
わたしも同類 (お
↑80kgは呼吸だけです。生活レベルでは3.56t-cとされているよう
です。
禁煙に置き換わるというのは、禁煙すればオフセットになる、という話ですか？
なんか、桁が違いそうな (笑い

みかん : >禁煙すればオフセット
道徳(?)的に、これまでは喫煙者に対してプレッシャーがかかっていたが、これ
からはCO₂排出者にプレッシャーがかかるだろうと。
日本の愛煙家は、こちらほどひどい目にあってないですもんね、ひひ。

take : おはようございます。
ねっとがダウンしていたりでしばらくぶりとなりました。
↑了解しました。たばこもちろん、ごみステーションにたくさん、ごみを以
って行くときとか、一人で車に乗っているときとか、排気量の大きな車を使う
とか、プレッシャーですね。実は少しずつ感じてきました。
そのかわり、何かいいこと、出来ることをひとつづつやってみる、そのオフセ
ットがナンなのか。これもまた、ライフスタイルそのものに及んできますねえ。
(--;)

みかん : ヨーロッパは<魔女狩り>が得意ですから。ほほ。 ^^
>ライフスタイル
何をやらないかも、非常に難しいところですね。

take : はい、今までやってきたもの、今まで我慢してやらないできたもの、それら
をずっとやらないでいく。これも難題です、やはり。
人によってはマイカーに乗らない、なんて方います。一貫してます。

トピック：地球温暖化の取り組みはどうなったのか

2008 年 03 月 26 日

take : なんとなくピンと来ない地球温暖化対策の動き。国際政治と外交、産業界の取引の場にうつりました。しかし、森林の豊富な北海道にとって、CO₂ 吸収など、関心を持っておきたいところ。

去る 3 月 23 日、北大の市民大学講座で、もと通産省の課長補佐で直接担当して方管委の公共政策大学院の宮本教授が臨場感ある講演。

<http://www.sustain.hokudai.ac.jp/0323/>

なにやら、日本にも動きが出てきた理由がよくわかりませんでした。議定書から離脱していた米国が、ポストブッシュで、オバマであれヒラリーであれ、万が一マケインであれ、温暖化対策に前向きで排出量取引を組み立てることが確実にになったせいかも。

俄然、経済界・経団連が動き始め、排出量取引市場もようやく開くようです。しかし、この日の講座のタイトルがうたうような「わたしたちになにができるか」などというものとは別のところで動きが活発だと言うことは確実。

市民生活の貢献の余地などはごく限られますが、こちらはカーボン・オフセットと環境税か。

環境省は↓。

<http://www.env.go.jp/earth/ondanka/10year/index.html>

経産省は↓

<http://www.nikkeibp.co.jp/news/eco08q1/565663/>

と言う現状に対して日経エコノミーのコラムでは↓

<http://eco.nikkei.co.jp/column/article.aspx?id=20080308cb...>

EU の罫にはまったような面は否めませんが、生々しい現実と背景を探っておくと、動きがぐんと近くなるのはみかんさんの「クジラ」のコミュが証明しています。関連記事をどうぞ。よろしくお願いします。

書き込み

take : といってもないのですよねえ(ー;))

例えば、温暖化防止だったかを google で引くと、昨年 2 月の記事が最新だったか。愕然。

上のタイトルは正式には「地球温暖化防止の…」でした。m(_ _)m

take : と、ぶらぶらしたら、経産省も国民運動支援へ。

産業と民生のビジョンをもっと明確に見取り図にしないといけないと思うのですが…。国民の運動では所詮達成は無理なはず。本丸をもっとわかりやすく。

<http://www.meti.go.jp/press/20080310006/20080310006.html>

take : 釧路公立大の小磯先生から、ドイツの環境共生のまちづくりのレポートを聞きました。フライブルクやミュンスターでは、地球温暖化と地域がビジネスモデ

ルを間に挟んで向き合い、交通システムに自転車がはまりこみ、これなら京都メカニズムにも寄与するのではないかと錯覚するほどの念の入れ方。恐れ入ります(_ _ ;)

しかし所詮民生部分の寄与はわずかなはず。EU全体のマイナス8%とは関係ないでしょう。

興味を引いたのはパッシブ住宅。

<http://www.german-consulate.or.jp/jp/umwelt/klimaschutz/w...>

スウェーデン・エテボリの例

<http://www.shellze-message.com/experience/report/04.html>

ソーラーなどをアクティブとした場合の受動的取り組みとはいえ、断熱し外気は熱交換し太陽光を取り入れることで、冬でも大人3人が住み、ろうそく一本があれば暖房不要。

不動産価値が上昇し、視察を目的とした入り込み客が急増。

市民に何ができるか、と問うのなら、そのモデルとして自治体と共にここまでいきたいもの。どう考えても、排出量取引の金融のステージではないはず。

みかん :



パッシブハウスはドイツ語だったんですね(PassivHaus)。(@@)

実は、最近うちの裏に豪邸が建てられ、先日売りに出されました。

その広告をちらっとみると、エコビルド基準で建築されたと書いてありました。

でも、外見は完璧にジョージ王朝スタイルで外壁にコッツウォルドストーンが使用されてるそうです(ワカスゴクミホラシクミマスー;)。

このトピックに直接関係ないですが、たまたま見つけたエコビルド展示会のちらしを:

<http://publishing.yudu.com/A6spc/EBNews/resources/index.htm>

take : ぎょええ、すごいお家ですねえ。ジョージ王朝? コッツウォルズでみた

マナーハウスみたいです。かつ、エコですかあ…。(絶句

引き立て役のお隣様、ご苦労さまでした。(^_^)v

take : 茨城についに燃料電池タウンができたようです。

2年後に120万円で販売。

石油依存から離れ、コジェネレーションで熱と電気を併給しますからエネルギー効率は格段に向上。電線が不要になり…。

これはパッシブハウスを越える希望のステップかも。

<http://www.sekisuihouse.co.jp/company/newsobj992.html>

<http://www.ibaraki-np.co.jp/series/ondanka/page05.htm>

take : 計画行政学会で、環境省総合環境政策室長が、温暖化防止に関する記念講演をしています。（2007 年 9 月、学会誌掲載 2008/3）

I P C C の報告書のうち悲惨なモデルを強調してきた政府やメディアにうさんくささを感じている者にとって、室長の講演内容はそれを裏うちするもの。危機感をあおって民生部門の C O 2 削減の運動へもっていきたい、それが環境省の役割と位置づけている。

従って「（世論が温暖化防止に）なかなか盛り上がりなければ超長期ビジョンみたいなものをつくって世の中を震撼させるのもいいんじゃないか」と述べています。

なんじゃこりゃあ。さらに「（2007 年にむけて）非常に温暖化に対する危機感が進んできた」。進めばいいのか？シメシメか？

地球温暖化は環境問題なんかじゃない、C O 2 削減は温暖化防止にほとんど効果がない、というデータの見方をせずに、危機感を煽り、教育にも手をつけ、日本が環境の仁義なき戦いをするかのような思いこみに走っている…。本当にいいのだろうか。反対意見がほとんど見えてこない現状はこれでいいのか。

節目だった 1997 年の京都議定書も日本、そして洞爺湖サミットでも頑張ろうとしている日本。割りを食うのは日本だけにならないか。外交的な読みがまったく頼りない日本が、こんなにいい気になってはまりこんでいいのか。I P C C の報告書の理解は今のままでいいのか。

先日の宮本教授のシナリオと言い、今回の官僚の話といい、これでは、いわゆる「国民の理解は得られない」（笑い

しかし国民サイドはすでにカーボンオフセットなど結構イベントのように、フォローしている…。どうするのだろう。

take : 昨日は福田首相が洞爺湖へ。

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/summit/85634.html>

いよいよ、夏のイベントをそつなくこなし日本の環境分野のリーダーシップを高めよう、という錯覚みたいなものが露骨に見え始めた。

首相は、「7 月になれば緑がいっぱいで（各国首脳に）環境が大事だと感じていただける」と語ったらしい。タバコをふかしながら環境を語った故竹下首相にも驚きましたが、この発言にもほとんど勘違いではないか、と思ってしまう。

いつのまにか、環境の大事さを一番感じている側についてしまいました。

こうして伝える側、伝えなければならない側に、公務員はつきたがり、民はいつも無知蒙昧で啓蒙される側に。

take : 今日の大発見。

総理大臣が有識者を集めた「地球温暖化問題に関する懇談会」が3月5日開かれ、その議事録を発見。

寺島実郎、豊田前社長、月尾嘉男の三氏も加わったもので、とくに月尾嘉男氏の発言に注目。

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tikyuu/kaisai/dai01/01gi...>

1990年比6%減+増加分6.4%は軽くクリアできるというもの。

その論拠は

①経産省の排出権取引ですでに8%確保

②残4.4%のうち、月尾さんが座長を務める情報通信の委員会で、その分野が5.5%削減可能。

と、残りは1.1%。京都メカニズムで3.8%ゲットして喜んだはずがそんなもの使わなくともOKというシナリオになります。

ホントでしょうか。というより、EUに対して「目には目を」的に軽くいなしてしまおうような展開（そう行けばの話ですが）。

で、8%は誰が払うのか。

寺島氏の正論にわたしは注目しますが、温暖化問題で整理すべきは、日本のエネルギー政策だ、と。柏崎の運転停止でかなり増のはずだ、と。

みなさん、首相の懇談会だから、しっかりヨイショしています。だが、もっと本音を言って欲しい。エネルギーの無策が国民運動化で消えてしまう…。

take : よく見ると↑数字が合わない。増加は7.4%という説もあり。

take : レビューがamazonの都合で使えなくなったのでこちらに書き込みです。

武田邦彦「環境問題はなぜウソがまかり通るのか2」。シリーズ2作目です。地球温暖化防止の取り組みにうさんくささを感じている市民は、きっと注目する内容だったはず。国の動きに批判的なため、ほされている、という現状のようですが、その分、文藝春秋で、論戦をはっているのを見かけました。しかし、その反論というのはまだみていません。無視されているのでしょうか。

地球温暖化の問題では、地球が本当に温暖化しているのか、それが人為的な要因だけなのか、森林は本当に寄与できるのか、京都メカニズムはどれくらい意味があるのか、EUのしかけるわなでないのか、などなど、日頃いぶかしく思っていることがらに、結構正面から武田氏は書いています。確かにメディアは悲観的なデータを掲げて危機感をあおっているというのは事実だと思います。もうここまで来ると真偽のほどなど、問うてみても仕方がないという状況のようにも見えます。

地球温暖化対策費として2006年に1兆円、2007年に1兆2000億ほどがすでに支出されたとの説が本当なら、もう手戻りなどできるはずはないですね。（以上、レビュー）

今日の新聞では、経産省が国内向けCDMを導入すると発表しています。

そもそも先進国が途上国に開発援助した場合のゲインだったはずが、国内でOKというワケです。月尾氏が経産省はすでに8%クリアと発言したのはこのことだったかも。

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/environment/87466.html?...>

地球温暖化防止は、もうかるならいいじゃないか、の方向へ進んでいるイベントのようになっていないか。

ブックレビューと新聞ネタがごちゃごちゃになりました。

みかん : >もうここまで来ると真偽のほどなど、問うてみても仕方がないという状況のようにも見えます

私もそう受け止めてる人が多いのではと思ってました。

最近オープンしたヒースローのターミナル5とか、米欧間のオープンスカイ協定の発効など何となく時代に逆行する動きがある中、地上ではこつこつとCO2を減らそうとみんなが頑張っているという不思議。

take : ↑ ははあ。なるほど、納得です。

この支離滅裂のおかげで、市民、国民の本音は、地球温暖化など本気で相手にしてない…。踊っているのは、このデファクト・スタンダードみたいなことを、声高に押し出ししながら、ビジネスにしている方々ではないでしょうか。

でもね、この前、あるコンサルの方、カーボン・オフセットがらみで超高額の仕事をやってるのですが、「あんなのインチキだよ」とわたしが揶揄したら、大喜びされました。（笑い

本音はみんなそう思って仕事してる、ってことですね。ああ、恐。（_-;）

余談、与太話でした。（^_^;）

take : >ビジネスにしている方々

もちろん、○境省、○経省のお役人も含めてです。

みかん : 先日、イギリスでもガイアナイトに似たような催しがあったようなんですが(e-day: energy saving day)、熱量の消費量はほとんど普段と変わらなかったそうです。気付いていない人が多かったというのがありますが、単に無視した人も多かったんだと思います。

ガソリンや光熱量、税金の値上がりで、それだけでもう貢献は充分だと思っている人が多いのかもと。

>カーボン・オフセットがらみで超高額の仕事をやってるのですが

私的には、このままエコビジネスが進んで、古くなった我が家を税金優遇で改築できればなあと思いめぐらしています。

余談、与太話 No.2 でした。（^_^;）

take : 国際情勢解説者・田中宇の4月22日版に、温暖化説反対の根拠が縷々紹介さ

れて興味深い…。

<http://tanakanews.com/>

タイトル＝地球温暖化問題の裏側

見出しを列挙するとこんな風。

- ・ 太陽活動説の方が説得力ある
- ・ 海水温は下がっていた
- ・ 世界は昨年より寒冷化している？
- ・ IPCC 支持派だけでなく反対派も市民運動化

take : >単に無視した人も多かったんだと思います

もうこういう状態かもしれませんね。日本も。

でも、日本はムードと流れがあるから、どうでしょう。

俗にいう革新派、環境派の割合とある程度リンクするんでしょうね、きっと。

bun : 同じ田中宇の解説記事で以前にも随分地球温暖化問題が、ニセモノか？と言っているようですね。いずれにしても仮説状態らしい。

しかし、情勢は動いている。これは、CO2 削減もあるが、やはり省エネ、エネルギー転換を促しているエネルギー源問題なんでしょうね？

地球温暖化の国際政治学 2007年2月27日

<http://tanakanews.com/070227warming.htm>

地球温暖化のエセ科学 2007年2月20日

<http://tanakanews.com/070220warming.htm>

地球温暖化問題の歪曲 2005年8月27日

<http://tanakanews.com/f0827warming.htm>

take : 田中宇が、NO17で過去の関連記事を引用していたので、上のリンク、手間が省けました。多謝。

>地球が異常に温暖化し、極地の氷が溶けて海水面が上昇するなどの大惨事になりそうだ、という「地球温暖化問題」をめぐる、その説を支持する勢力と、否定する勢力との対立が、最近また欧米で激しくなっている。

これはほぼ3年前の記事ですが、いまや、表立って反論をする人は少なくとも国内では、ほぼごく少数、変人。それほど事態は進んでいます。

ゴアやIPCCにノーベル賞を与えたことなども、大きな宣伝効果でした。

そのくらい平気でやる。当然といえば当然ですが。

みかん : >やはり省エネ、エネルギー転換を促しているエネルギー源問題なんでしょうね
私もこれに同感です。石油問題が解決しないかぎり、世の中良くならないと。

石油に絡む問題はCO2だけではない。複雑ですね。

危機感がどちらに傾いているか、興味あります

take : 事態は着々と動いて、cop15の合意を目指して、締約国会議が。

2013 年以降の枠組みです。

<http://www.jiji.com/jc/zc?k=200803/2008033100023&rel=...>

蚊帳のなかは、めまぐるしいです。金融も動いています。

最近、本当の水面下のしのぎのけずりあいは見せちゃいけないから、こうな
ってんだと思うようになりました。エネルギーが根源的課題ももちろんだとお
もいますが、その前に南北間の覇権、いや、ややフラットになった国同士の綱
引き。これを一見論理的なロジックで丸める…。

インテリジェンスのアンテナがないわたしには読み込めません、ア (_ _ ;)

take : 若い友人から、地球温暖化への反論記事が送られてきました。

東京工業大学 丸山茂徳教授。

地球温暖化とCO₂はわかるべきで、温暖化は、宇宙線量と雲の量に支配され
る、宇宙線を遮断する地球の磁場が弱っているから、低温化する…。出典は↓
三万人のための総合情報誌『選択』2008 年 2 月号 「CO₂温暖化主犯説」に物
申す

<http://www.sentaku.co.jp/contents/interview/index.php?dat...>

<http://www.yoho.jp/shibu/tokyo/39maruyama-2.pdf>

おてい : えー？

一市民には何がホントなのかわかんない・・・。

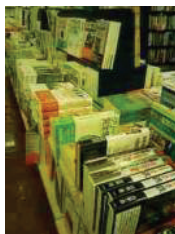
take さんはどのようにこの記事をお読みになられたのですか？

take : おていさん

基本的には丸山さん側に立とうと思っていますが、丸呑みではありません。北
大の先生でも、まちまちです。言い切る人、実は科学的によくわかっていない、
とおっしゃる先生もちゃんと。

今メディアで行われているのは、政府筋のキャンペーン&プロバガンダだ、と
いう観点をに入れてみるだけでごろっと変わりそうです。私もよくわからず、追
っかけてるところです(_ _ ;)

take :



洞爺湖サミットを終えると、地球温暖化の日本の取り組みはなんだったかとい
う批判の声が盛り上がりそうです。

紀伊国屋書店の環境のコーナーはジワジワと、いままで沈黙していた批判組の
本が出てきました。科学者も、声を出し始めました。

それは、

- 1 出始めた温暖化はウソである、という論拠がより明確になり出した
- 2 マスコミが世論操作しているのではないか、と思えるくらいに政府寄りであることに疑問を持ち始めた
- 3 このような背景では、声を上げないのは不見識になったことなどによるのではないか。

なかには、「あれ、この方、温暖化問題を喧伝していたはずなのに、批判に回り出した」と思える方も。

針は、サミット後に反対側に振れ、年金と食料不安に追究の手が上がる…。地球環境と自然保全をいっていけば水戸黄門の印籠のように効いたのは、これからは過去のことになる…。

2006年から2兆円以上つぎ込み、今年は1兆4千億だという対策費。

なんなんだ？という声があがるのは当然です。

大学とマスコミはどう言い訳するのでしょうか。北大はサステナブルウィークなどと称して長期のイベントを張っています。不安がよぎります。

take : 「暴走する地球温暖化論」のなかで、伊藤公紀氏（横浜国大教授）はこう書いている。環境計測の専門家。

温暖化の証拠が曖昧すぎるとしたうえでよく知られたシーンについて

①キリマンジャロの雪の激減

…気温上昇による融解でなく、太陽熱による昇華。樹木が失われて湿度が低下したのが原因。

②氷河が海に落ちる光景

…氷河の現象でなく、供給される雪氷に押し出されている。温暖化でなく寒冷化による上部の雪の供給

③気温の高め測定

…日本で理想に近い観測所は3つ。その一つは寿都らしい。

風が吹き抜けるから。ほかは著しく停滞したりする。

あ、時間がなくなった。結局、地球の医学は発展途上という。

take : 今回は7月号の文春記事を題材にしますが、今回は若い友人のメールから。

「007年3月に放送されたイギリスの公共放送チャンネル4制作のドキュメンタリー番組「The Global Warming Swindle 地球温暖化詐欺」という番組が、CO2による地球温暖化説を真っ向から否定

<http://jp.youtube.com/watch?v=hUKLOvtAUDk&feature=user>

しているようです。赤祖父という人が最期に出てきていますが、つい最近、温暖化の本も出したようです。読んでみたいと思います。」

赤祖父先生はオーロラ研究の第一人者で、北大にもアラスカからみえて講演さ

れました。北大の地球物理関係の先生方と親交があるようですが、何せ、地球規模の熱の移動などを語れる方はごく限られていますね。

地球温暖化について、宗司替えをこっそりおやりになってる方もおいでですし、社会学の先生も、この大政翼賛的なマスコミの扱い方に疑問を呈してブックレットを書かれた方がおいでです。

ポストサミットで特にまだ何もなく、ポスト五輪。さあ、どういうバランスになるのか。

3. 北海道的ライフスタイル

開設日 2007 年 11 月 29 日

管理者 take

—コミュニティ説明文—

「やわらかく語る…」の姉妹コミュとして枝分かれしてきました。

http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_c_home&a...

北海道の将来にがっぷりよつに組むコミュを「やわらかく語る…」とすると、ここは、北海道の風土でちょっと奔放に、北海道らしくアッケラカンと「生きてみる」スタイルなどの受け皿にしたいと思います。

「くらし」ではなく、あえて「開発」ジャンルにしました。進取の芽もかぎ取りたいからですが、さてどうなるのでしょうか。(^_>)

トピック：灯油価格は一体どうなるのでしょうか

2007 年 11 月 29 日

take : だれも大きな声で不安や不満を言っていないんですが、本当にどうなるのでしょうか？ペレットストーブのカタログも集めてみましたが、まだ故障や価格や使い勝手で心配がありますねえ。

地下鉄がありバスの便もいい札幌と違い、地方に住んでいると車は必需品で、そのガソリン代も150円近く。

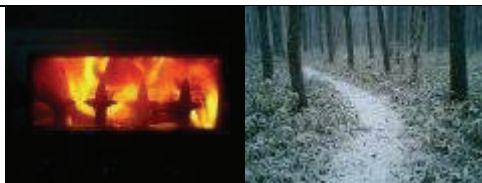
まず車は遠出は控え、遠くへ行くときは乗合にするようになりました。

さて、みなさんの、節約と対抗策は？

(今回のトピはライフスタイルと言うより、もろ、暮らしですね、ゴメンゴメン

書き込み

take :



	画像を入れ忘れました。居間に薪ストーブおきたいですねえ。 寒々とした外と大違い。
Kon	: 私は、厚着と重ね着でしのいでいます。 職場では半ズボン下でも熱いのですが・・・ 自宅ではズボン下&フリースです。 室温も低いのでビールが飲みたくなく、ノーアルコール DAY も 平気です。
グリとグラ	: 確かに、札幌なら車なくても暮らしていけます。 家族は私だけが車に頼っています。 みんな足腰丈夫そうです。 居間に薪ストーブのある風景 憧れです。
take	: kon さん ＞厚着と重ね着 えらい！先日ユニクロの新製品下着も買いましたが、これはいえではちょっと暑い ググさん 田舎者が東京に行くと腰が痛くなる（わたし）。地方ほどエネ多消費ですね、 仕組みとして。
atu	: ここまで灯油が上がるとは驚きです。 やがてリッター100円も越えそうですね・・・。 どこだったか、牛の糞から良質のペレットを開発したとの話を聞きました。 今後は灯油離れが加速しそうですね・・・。
Kon	: 皆様は省エネの年末年始でしたか？ 今年のテレビは中国と環境問題を多く取り上げていたと思いますが・・・ 先日の読売新聞に省エネ関係が掲載されていた。 (サミット特集だったか?) ①北海道は真冬でも部屋では薄着で過ごす。 ⇒昔、石炭ストーブの時は温度調整が出来ないので半袖の時もあったが・・・。 だが、今でも本州と比べるとかなり室温は高いので反省します。 ②冬なのに部屋を暖かくしてアイスクリームを食べている。 ⇒冬にアイスを食べるのは私のライフスタイル 皆様のご家庭では、誰も食べていませんか?? もっと、室温をさげるべきか??
take	: これはいろいろ考えさせられますねえ。 0 度以下の寒さに勝たないとこっちが死んでしまうという時代の記憶から今でも、 どうだ参ったか、という過剰温度にしますが、

北欧の成熟社会？は室温が冬、20℃にしてあります。このしずかな成熟にやがて近づくのではないのでしょうか。

夏は夏、冬は冬の生活。

コリンのママ: ①について、自宅は年老いた両親と同居のため、どうしても室温を上げざるを得ない・・・すると私は薄着にしないと・・・

二世帯住宅ですが暖房が一系統なんです（苦笑）

②冬でも夏でもアイスクリームは食べます。

室温関係ねえー（あらあ、お下品）

コリンのママ: 快適だと感じる温度は、国によってちがいますね。

ちなみに国際線の航空機に乗ると、なんとなく違いがわかります。

日系エアラインは大体23℃前後の設定です。ところが欧米系だと18－21℃くらいです。しかも機内は猛烈に乾燥しているので寒く感じます。

ちなみに国内線でも、冬場ガラガラの場合はコートを着ていたほうが寒くないのです。

あ、灯油の話でしたね。

職場のわたしのデスクのところは、冬場は20度くらいに設定しています。

atu : 人間一人の温度効果は60ワットの白熱電球1個分に相当すると聞いたことがあります。機内がガラガラの場合はオーバーを着るのが得策ですね。

めったに乗ることはありませんが、覚えておきたいと思います。

take : ↑快適温度の差。興味ありますねえ。で、結論は自分で管理にたどりつくのでしょうか。脱ぐか、着るか。せめて、室温管理者は配慮して、、、と。

よその国にいくと、Tシャツの人と羽毛服の人が歩いてる。

厳冬期の千歳空港もそうです。豪州人はTシャツで歩いてますね。

まさか、そとは違うんでしょうけど(^_^;)

おてい : 灯油の話しから脱線。

冬も夏もアイスクリームは食べます。

冬は外で遊びながら作ったりします。

ロシアの寒い外、アイスクリームを買うのに並んでいるのを見たことがあります。あ・TVで。

冬の部屋の中は乾燥するので、アイスクリーム消費量は夏より多いかもしれないおていです。

Otsucar : コーラなどの飲み物は 真夏と真冬は同じ消費量ですよ。（^^）

take : 冬の部屋の中は乾燥するので、ビール消費量は夏とほとんど変わらないかもしれないtakeです。（笑い

おてい : 夕べから、冷え込みが厳しくなっている。

夜中はマイナス23度だったらしい・・・。

家には年寄りもいるので、室温は高め。
ばあちゃんがデイサービスで留守の日中は重ね着でしのぐ。(笑)
でも昨夜からはストーブを高温にして焚きっぱなし・・・。
それでも底からガンガン冷えてくる。
今朝は灯油助成金のお知らせが折込チラシで入っていた。
今夜は湯たんぽ2個入れよう。
ううう・・・寒いです。

take : ↑マイナス23度!!!

さすがです。

本堂など、さぞや。ぶるる。住職は法衣のしたにフリース着て? (^_^;)

Otsucar : 今日は江別でさえ

最高気温 -6.3℃

最低気温 -23.5℃

おていさんの所と変わらないほど寒いですね (^_^;) ヶブー

take : え、江別ってそんなに寒いんですか?

そこはやはり、海沿いのマチは、風が強いことはあっても冷えすぎることはないですね。

ただ、大雪でかつ気温が低い、というのはあまり想像できません。_(._.)_

トピック：役場の職員募集に若者、応じず

2007年12月02日

take : ええっー?と驚きました。

下川町や美深、当別町の学卒者の就職希望が居なくて再募集なんですと。

地方の、そこそこに元気のある自治体の採用試験に応募なしというのは解せません。どこを向いているのでしょうか。都会?

書き込み

おてい : え~~~~っ?

ほんとう?

留萌管内町村はここ数年募集をしていない、(できない)と聞いています。

下川や美深、当別、、、どれも魅力的な町だと思うのですけどね。

・・・なんでだろ。

やっぱ、田舎は嫌なのかしら・・・。

take : ははあ、もともと募集してない...

たまに募集しても来ない...

うむむ。もいっかい、やりなおすならいくけどなあ (ヤジノツバサ)

おてい : >もいっかい、やりなおすならいくけどなあ

わはははは～

そう考えると、私はしたいことがたくさんありますよ。

コリンのママ：そういう意味では、若い人にも思い込みってありますね。

調べてみます。

take : 生きてみせることですね、地域で、いきいきと。

おていさん、また言っちゃった(^_^;)

エールですから。これは何回言っても許されるよね(^_-)

コリンさん

>思いこみ

それあるかもねえ。ご報告も期待します。(^ ^)

みかん : も、もったいない。

日本に帰ることを考えるとき、まず職をどうするかが問題になるので。

ツイ、お初め(; --)

take : ところが、今日、下川の知人からのメールによると、彼の所にバイトに来た道内私大の女子学生は道南の郷里の町の就職試験に落ちて、一年、浪人することです。

十人十色(_ _ ;)

take : >まず職をどうするかが問題になるので。ツイ、お初め(; --)

ほんとに。先日、昔の同僚と忘年会したら、いいだけ疲れているのか、なにか仕事をおこそうよ、という輩がちらほら。

あああ、もう少し若かったらな、といいながら、常に起業が頭を離れないわたしです(ハブソ、おキ (笑い

みかん : いや、takeさん、まだまだこれからです。

私もアンテナ張り続けますです。^^

take : >まだまだこれから

励まされますねえ。カラ元気だそうかなあ、ア、デナッ

みかん : やらないなんて、もったいないです! (ト、リキリッ)。 ^^

トピック：冬だけまちばに棲みたい！

2007年12月03日

take : ■ 冬の除雪が辛い。冬は除雪の必要のないところで暮らしたい。
■ 冬の病院通いや買い物が大変。行き帰りの事故も心配。
■ ひとり暮らしが不安。困ったときにすぐに助けてもらえる環境があれば...。
こんな高齢者のために実験が伊達市で行われています。
冬の間だけは、住み慣れた郊外の家を離れて都心に移るというもので、
冬期集住、などと呼ばれる季節移動ですね。

これからの棲み方の選択肢の一つでしょう。いよいよです。

詳細はこちら。

<http://www.kitano-slowlife.jp/news/?S=406>

書き込み

おてい : 冬場だけ町で！というのもいいかもしれませんね。

ド田舎に住んでいるおていは冬どうしているのか。

以下、アイディアや感想も交えて書いてみました。

>■ 冬の除雪がつらい。冬は除雪の必要のないところで

除雪・うちの場合

農家の方がトラクターに除雪する機具を付けて自分ちの除雪終わった足でうちまできてくれます。

汗かいて、ヒーヒーいいながら除雪してたのは何だったんだ？と思うくらい、あっという間に道ができます。

(普段のおつきあいが大事だとしみじみ思います。)

>■ 冬の病院通いや買い物が大変。行き帰りの事故も心配。

これはいいアイディアが未だにないです。

せいぜい通院者用バスが走ってるといった状況です。

利用しやすいとはいえないようです。

買い物がねえ〜。ネットでできる人間はいいけど、そうじゃない人たちは大変です。

>■ ひとり暮らしが不安。困ったときにすぐに助けてもらえる環境

町の保健師は一人ひとりの顔や生活背景がよくみえます。

人口が少ないので、老人に限らず全町民をしっかり把握できます。

把握はできるが毎日全戸巡回できるほど保健師はいません。

おていは思います。行政だけでなく、毎日(定期的にでも)その家に立ち寄る職種、たとえば、新聞屋、宅配屋、坊さん、、、そういう方をうまく繋げ、スタッフにするのはどうかと。

ああ・・・ここまで書いて、『冬だけまちば』っていいのかもしれないと思ってしまいました。

伊達市の実験から目が離せないな。

take : うわあ、実感がひしひし伝わってきます！

おてい : 書き忘れ↓

実際に冬場だけ都会に住む息子さんや娘さんのところに行くという方が数名いらっしゃいます。ただね、留守宅の屋根の雪下ろしを誰がしようか。。。とあるところでの会議で話し合いがあったりもします。

お金のある人は留守中の除雪を何回か頼んでいってるようです。

take	: >毎日（定期的にでも）その家に立ち寄る職種 それが実は郵便配達だったのですよね。そのシステムを郵政民営化は捨ててしまった… >冬場だけ都会に住む息子さんや娘さんのところになるほどね。そういう手だてができると、つながっていく可能性はありますね。 でも、喜ばれているんだろうか、そうは思えないから地域に張り付かざるを得ないんだ、という声も聞いたことがあります。 だって、みんなが3世代同居可能の家というわけでもないですもんね。
Kon	: 雪が少ない北海道の湘南⇒伊達なのだと思いますが。 近い将来は各地でビジネスになっているのかも
take	: その、伊達で今回使うマンション=安心ハウスって言いますが、見せてもらったことがあります。駅のそばで、繁華街にも近く、コンパクトなつくりでした。介護者用の風呂あり、朝夕の食事をダイニングでいただける。朝、500円、夜700円ほどでなかったでしょうか。それをNPOが運営していました。 kon さんがお書きの、なんか、ビジネスのスタイルがみえませんか？
おてい	: >でも、喜ばれているんだろうか、そうは思えないから地域に張り付かざるを得ないんだ 当たり
take	: >当たり このへん、しみり、してしまいます。

トピック：年寄りが元気すぎて老人ホーム閉鎖！

2007年12月06日

take	: 葉っぱビジネスで有名な、徳島の上勝町の話です。 平取町の「田舎のチカラ」さんが視察日記に書いていました。↓ 80歳のお婆さんの今月の売り上げが80万とか、年収1000万円とかで有名なあそこです。 忙しくて病院どころでない…。高齢者がそう語る町がこのごろほかからも聞こえます。やはりある種のモデルですね、これは。 http://kita-club.jp/inaka/index.php?option=com_jd-wp&...
------	--

書き込み

グリとグラ	: 病気になっている暇なんか無い。 こういうのがいいですね。 普通は貧乏暇なしなんだけど、結構、稼ぐよお婆あちゃん。 問題や課題ばかりをほじくりだすより、なんでもいいから、ポジティブに生きていけば、案外とそれでいいのかも・・・。
-------	--

take : ↑ まさに、ほじくり文化、イチャモン文化、クソ食らえ〜！だね。
 そこにたどりつくまで、1億以上のインフラが必要だったということも実は重たいんだね。このアイデア発掘した人は、自費で近畿の料理屋周りをしていたらしいし。
 きっとその売り上げの一部を、恩人に還元などしてないんだらうねえ、年寄りたちは…。そこ、聞き漏らしました。
 功なり収益ができればバックする仕組みがあれば、ベンチャーはもっと伸びるね…。(^_^;) ヨシマ、ナ

おてい : あ、有名なあの町のはなしですね。
 >そこにたどりつくまで、1億以上のインフラが必要だったということも
 >自費で近畿の料理屋周りをしていたらしいし。
 そうでしたか。
 知りたかったことを知ることができました。

take : 百聞は一見にしかずう。ナ (^_^;)

トピック：理想の町、ラドバーンの実験

2008年01月06日

take : 

どんなマチが理想なんだろう、そしてそれはどう創ればいいのか。その根っこは、人はどんな町ならすみたいか、ということでしょうか。
 古来、いろいろな試みがされてきたようです。
 現代なら、鉄道や地下鉄など公共交通を基軸にした都市開発は、本州はたくさん、札幌なら「あいの里」が身近でしょうか。
 で、今はあまり語られないラドバーン。歩行者と車道を分離して、しばしば行き止まりにロータリーを作る。その形から、クルドザック方式などとも。
 北海道では江別市大麻の団地、そしてもうひとつは苫小牧の糸井。大麻はラドバーンが除雪に不向きであったことが判明して、失敗作のように言われました。
 そして糸井。100haほどの団地の中央には、ホームセンター、スーパー、各種医療機関、本屋、居酒屋、スーパー銭湯、公共の温水プールなどが集まるパワーセンターがあって賑わいがあります。
 初冬まで毎朝、この中をチャリでくぐって通勤しており、今でもわたしはラドバーンの町が好きですが、どうも、住んでる人の評判は今ひとつ。できれば、住民アンケートでもして、また、あたらしい住まい方モデルの実験に役立てた

いと思うのですが、もうニュータウンよりリフォームが急務で理想の町を考
どころではない、という事情もかたやにはあるようです。

でもね、わたしはニュージーランドで、これかあ、という目からウロコのラド
バーンを見たのです。クライストチャーチの、その名もロイド・ストリート。英
連邦のストリートコンペの賞をもらったというプラークが飾ってありました。
広い敷地の、樹木もタツプリある家並みのエンドには噴水のロータリーがあり、
ここまではいいんです、なんと、クラスターの背後部分が緑地の帯で、そこに
フットパスがあるわけでした。

現実論としてこんな町を創ることは今ここでは不可能ですが、すみたい町の夢、
持ち続けたいと思うものです。ふんだんな緑があり、車の騒音から離れた住ま
い、しかもそこそこに便利…。

あ、まとまりのないトピになりました。(_ _ ;)

写真は秋の糸井団地。リフォーム前は、歩道の両側に幅 1 m の菜園が続き、野
菜によるガーデニングが見事でした。市役所でしょーね、路面をインターロッ
キングに変えたとき、このクラインガルテンを撤去してしまいました。実に実
に、嘆かわしい行政です。思い出すと、涙がちょちょびれるのです。(; _ ;)

書き込み

みかん : take さんがおっしゃるロイドストリートはこれですか？

Lloyd St, Bryndwr, Canterbury 8052, New Zealand

Link: <<http://maps.google.co.uk/maps?f=q&hl=en&geocode=&...>

take : みかんさん

おそらく。ただ、クライストチャーチ高校のすぐそばだったので、それを探そ
うとすると重すぎるようです。

みかんさんの追跡力にはいつもながら脱帽です。m(_ _)m

みかん : すみません、take さんの目からウロコに興味湧いて(^ ^ ;)

トピック : たとえば札幌の活断層を… (震災の日)

2008 年 01 月 17 日

take : 毎年、やってくる震災の日と思うこと。阪神淡路は活断層の真上の被害が最も
ひどく、毛綱きこう（釧路生まれ）によるとその線上に実は神社がひしめいて
建てられている…、つまり陰陽師らは気をつかんでいた…。

そこで、たとえば、ほとんど存在の位置がわかるようになってきた活断層の上
部は住宅をやめて、時間をかけてすべて緑地にしてしまう。

そうすることで、つながりのある、ホンモノの防災緑地兼都市公園・都市緑
地にする…。

これも北海道イニシアチブに当たるかも。(_ _ ;)

書き込み

おてい : ぎゃあ!!!
お・お・お・お寺はどうなんでしょう～～～
活断層の真上?
モズナさん、、、教えてください。
一刻も早く『ホンモノの防災緑地兼国立公園』に、いえいえ『防災緑地ラムサール湿地』でもいいです。
本物のワイズユースです。

take : そうでした。お寺さん。限りなく神仏が近かった時代なら少なくとも阪神の場合は重なったかも。
資料探してみます。
そうですね。池や湿地もいいですね。ビオトープの。
ミチゲーションとしていく…。
おお、こんなことを考えていると、都市のリフォームへと空想が湧いてきます。

Kon : 私の住み地域にも活断層があります。
我家も一瞬のうちに倒壊すると思うが～。
その時、行政よりご近所の方々の協力ですね!!
「地域力と防災・防犯」

take : kon さん
わたしのところは、活断層より樽前山の噴火の心配です。
太平洋は地震の巣だし、地域力と防災は身近なテーマですねえ
(マイッタマイッタ

トピック：たとえば豪州人がジンギスカン食べ放題に行くと

2008 年 01 月 26 日

take : 昨夜は、大学時代の同級生と 3 人で新年会。何年ぶりで飲んだでしょう。二人とも大学の先生で、ちょっとばかし洒落た居酒屋で何気ない身近な話と、ちょっとだけ仕事や森林の意見交換。
いつしか、オーストリアやニュージーランドの暮らしぶり、生活レベルの話になりました。そのとき、M君が来日したオーストリア人をサッポロビール園の食べ放題に案内したときのエピソードを語りました。
彼らは周辺のお客が肉を残して帰ったのを見届けると、余った肉の皿を集めにいって自分のところへ持ってきて食べるのだそうです。
「食べ放題だから、あたらしいの頼めばいいんだよ」 そういったのに、意に介さず…。これは彼らがマトンやラムの生産地であることよりも、もっとヒトと食べ物との根幹に関わる 違いが横たわっているようにわたしは聞きました。そし

て思い出すのはよく耳にする ドイツ人や英国人の驚くほど質素な食事。
豪州も乳国も、車や家電など作らず専ら輸入だと思われます。高いものを 輸入
してせつせと農業製品や石炭などを輸出。それで、どうしてあんな豊かな生活
「感覚」をもっているのか。感覚だけでなく、実際のレベル、たとえばほとん
ど広い敷地の平屋建て、社会保障を維持できるのか。
ここまで話して別の話題に代わりましたが、このことを考えつつ今思い出しま
した。車やTVは10年に一度くらいの頻度で買う高額商品、しかし農産品は
毎日毎月毎年必要な物資。ここで、つじつまは十分あっているのではないか…。
実は高付加価値と食料は十分、つりあう…。だとするとわたしの産業観、労働
観は遅ればせながらちょっと変わってくるような気がします。
単純なことなただけ。

書き込み

- Kon : 又聞きですが・・・。
私の父親が豪州に二ヵ月半ファームステイに行った空知の農家の人から聞いた話ですが、
農業国の豪州なのに農家の地位が一番低い???
不思議な話です。
こちらの農閑期が豪州の農繁期なのだが、干ばつの被害は凄かったらしい。
それを聞いた私は北海道・豪州の両方で農業従事することは可能なのかなあ
と思いました。新しい北海道ライフスタイル??
- take : konさん
↑それって、ニューコロンビア（シルバニアだったっけ）計画？
2地域居住のグローバルタイプ。
- Otsucar : konさん、
夏は日本で働き 冬はオーストラリアで働く。
すごい発想（＾＾）
- take : でも、それでは、一年中、休むときがない！
- Kon : 一年間、農業を続けることになるが昔教科書でならった二毛作とか二期作は、
何ヶ月間働いていたのかな??
知り合いのスキーの先生は日本と南半球を行ったりきたりしていた
- take : はは、いいですよ。誰も来てませんから…。
今日も飽食をいましめつつ、しずかに晩酌を。（笑い
- Kon :



脱線ついでに私自慢のジンギスカン鍋とダッチオーブン
名店ダルマでも使われている溝と山にある亀裂の穴
最高のジンギスカン鍋(40 年以上のレア物 子供の時から使っています) もや
しが最高に旨いです。
豪州人の方にも食べてもらいたい
(私は自宅でガス台の上に乗せて食べていますが やはり七輪でいただきたい)
ダッチオーブンも年何回ですが、楽しく料理しています。

4. グローバル化する世界と北海道

開設日 2009 年 03 月 28 日

管理者 Helvetia

—コミュニティ説明文—

コミュニティ説明文

世界経済のグローバル化（の負の側面）を我々は今経験しています。

経済のグローバル化は、『交換』する行為が、経済活動の本質でありますから、実は人類の歴史が始まって以来、進行してきた現象です。

一定の国境の内部だけで、直接かつ効果的に機能できる『国家』の枠組みを超えて、経済活動のネットワークが、世界規模にまで拡大してきたことが、今、「グローバリゼーション」として注目を集め、議論されているわけです。

日本では、地方分権化が現実のものとなりつつあり、北海道の自立／自律がこの故郷の将来を決めることになる趨勢です。世界のグローバル化が急速に進むなかで、北海道はどうしたら良いのか、そのアイデアと戦略を、北海道に関わりを持つ人々が、自ら発想して、将来への進路を求めていかなければならない事態になっています。

グローバル化する世界を見据え、北海道の未来を考える議論に関心を持っている方々の参加を歓迎するコミュです。よろしくお願いいたします。

トピック：北海道とグローバリゼーション（1）

2008 年 09 月 13 日

Helvetia：グローバリゼーションという言葉が、妖怪のように世界中を歩き回っている。グローバリゼーションは、ある場合には何かの行為や決定の理由に使われ、他の場合には言い訳に使われている。

マスコミも、経済界も、この言葉に、何か運命的な天変地異に相對しているような、どうしようもないあきらめを伴った気持ちを含ませて、使っているように見える。

本当にグローバリゼーションは、何か法則的に必然な、変えることも避けることも出来ないような運命的な力なのだろうか？

グローバリゼーションの中心にあるのは経済活動の領域だ。

しかし、良く考えてみると、経済活動はそもそもが価値のあるものを「交換」することから始まるわけだから、人類の文化の始めから、規模の大小の違いはあっても、我々は交換〔物と物、物とサービスなど〕という活動をしてきているし、それはおのずと、広がっていく、つまり、グローバル化していく傾向を持ち続けているわけだ。

経済活動の方向性は、本来的にグローバルなのだ。

では、なぜ今、あらためて「グローバリゼーション」が唱えられるのか？

「グローバリゼーション」というスローガンが、出現したのは東西冷戦あるいは米ソ対立が、ソビエト連邦の自壊によって消滅した直後であるということを知ると、そこに何らかの世界規模での、つまり、グローバルな意図（戦略）があったのではないかと疑いたくなるのは当然だ。

事実、スイスで開催されている「ダヴォス会議」〔正式には「世界経済フォーラム」〕という、それ自体は有名で、多くの政財界の代表者が集まる、しかし、実態は全くプライベートな団体の出版物に、「グローバリゼーション」と言う表現が現れ始めたのは、1990 年代の初めである〔スザン・ジョージ〕と言う情報がある。

「ダヴォス会議」は、スイスのあるビジネスマンが、1971 年に始めた「ヨーロッパ経営者フォーラム」がその始まりである。したがって、今日まで、国連とも、各国政府とも直接の公的な関係はない。しかし、いつの間にか、権力と資本のハイソサイエティが集まる場所となり、福田康夫首相も出席して講演を行った〔2008 年 1 月 26 日〕。

しかし、この会議は、「私的」な性格のものであり、しかも「会員制クラブ」であることから、高度に秘密な、世界経済戦略の意思決定が行われている場所だと言う批判もある。一国の首相もはせ参じ、1000 社に上る主要企業、銀行、メディアなどが会員であることから、そのような疑いが持たれるのは無理もない。

グローバリゼーションの本質

グローバリゼーションという言葉はきわめて一般的な表現であり、「グローバル」という形容詞も、様々なレベルでの、様々な現象や時代の潮流を意味するためにつかわれている。グローバリゼーションの実際は複雑だ。

様々な商品、原材料、サービス、人、そして資本が、国境を越えて行き来することが自由であるのは、良いことであり、互いに益するところが多い。そのような意味でのグローバリゼーションであれば、これはむしろ人類史のこれまでの発展の延長線上にあり、原則として、反対する理由はない。それは、経済の正当な「交換」および「競争」の関係だからだ。

しかし、「グローバリゼーション」を経済的な視点からだけ見ていると、様々なレベルで起こっているこの複雑な現象の裏に隠れている、もう一つの重要な側面を見失いやすい。

現実の問題として、「グローバリゼーション」の名のもとに行われている経済的行為が、長い歴史のある文化、民族の結合、安定した社会生活を破壊しているという批判がなされている。

トピック：北海道とグローバルゼーション（２）

2008 年 09 月 20 日

Helvetia：ダヴォス会議で 90 年代の初めから唱えられ始めた「グローバルゼーション」のローガンには、独特の含意があると考えられる。さもないと、こと改めてこのような、一見、結構でまっとうな、分かり切ったことを言い立てる意味もないはずだからだ。

世界史を見直す

「グローバルゼーション」の正躰を見極めるには、いっそ、大きく距離をとって、あるいは回り道をして、この現象を見直してみるのかもしれない。いわゆる、「夜目、遠目、傘の内」である。我々が常識として持っている（持たされてきた）世界史の観念を見直してみる必要があるからだ。

オックスフォード大学の、フェリペ・フェルナンデス＝アルメストという歴史学者が、「ミレニウム」〔上・下、訳：別宮貞徳、日本放送出版協会、1996）と題して、地球全体を視野に入れた、過去一千年の世界史を、同時代史の積み重ねのように書いている。

その冒頭、一千年前の歴史の始まり〔西暦 10 世紀〕は、「繊細な感受性の帝国」、つまり平安時代日本の、源氏物語に代表されるような、日本語による「古典」が創出された世界について述べられており、「イスラムの庭園」と言うタイトルでは、高度に洗練されたイスラム文明の世界が描写され、次いで、中国大陸、宋代の、政治的、経済的、技術的に高度な発達を遂げた文明が叙述されている。さて、そのころ約千年前のヨーロッパはどうだったのか。フェルナンド＝アルメストによれば、それは「野蛮人の文明化 The Civilization of the Barbarians」の時代であったという。

これは、西ローマ帝国滅亡のあと、西ヨーロッパが経験した歴史と深く関係している。ローマの支配下にあったヨーロッパでは、各民族の言葉が、十分な使用に堪える文字が発達する前に、支配者、ローマ帝国の言葉であるラテン語が共通語になっていたが、それも、教育制度も十分ではなかった時代でもあり、読み書きの言葉として一般化するにはいたっていなかった。しかし、ヨーロッパでは、5 世紀に西ローマ帝国が滅亡したあとでも、ラテン語が使われ続けた。政治的には、明確な統治権力も存在しないまま、9 世紀まで、各地の領主達は、拡大するイスラム勢力をはじめ、様々な外敵の侵入の防戦に明け暮れていた。西暦 800 年に「西ローマ帝国皇帝」の帝冠をローマ教皇から受けたシャルルマーニュによるヨーロッパ統一も、西ローマ滅亡のあと、ヨーロッパ人が頼りにしていた東ローマ帝国〔コンスタンチノーブル〕との連絡路を、イスラム勢力に遮断され、さらに地中海沿岸を占拠されて、貿易の道を断たれ、追いつめられた結果のことであったと、アンリ・ピレンヌは「モハメットとシャルルマー

ニュ」で述べている。ヨーロッパ世界は、はじめて「自立」しなければ成らなかったのだ。

シャルルマーニュの帝国は、固有の首都を持たず、特定の場所に宮廷生活が展開されることもなく、したがって、文化の洗練が可能になるような中心地もなかった。

皇帝自身、ラテン語の読み書きが自由でなく、周囲にも、帝国統治の実務をこなす上で必要な読み書きの出来る人材も少なかったのも、当時、もっともキリスト教が盛んだったアイルランドから、多数の修道士を呼び寄せなければならなかった。

ローマ人は、ラテン語を良く理解しない他民族を、野蛮人(barbaroi) とよんだが、フェルナンデス＝アルメストの言うように、10 世紀頃のヨーロッパには、日本、イスラム世界、宋代の中国大陆に見られるような、文化の洗練は見られず、その意味でも “barbarian” の世界だった。

10 世紀末から、13 世紀半ばにかけて、ヨーロッパ諸国は、聖地エルサレムをイスラム教徒から奪回するために、少なくとも 8 回にわたって十字軍を差し向けた。宗教的な情熱が動機の一つではあったとしても、貴族や騎士だけではなく、武装した一般庶民も巻き込んだ、凶暴な大集団の遠征は、宗教的にも政治的にも、結局は失敗であったし、イスラム世界との間に、永続的な対立と怨恨の溝を作る結果に終わった。

しかし、この十字軍が、ヨーロッパにもたらした大きな成果の一つあった。

それは、十字軍の経験を通じて、ヨーロッパ人が、自分たちの世界の外に、自分たちよりもすぐれた文明を持つ、豊かな世界があることを、「始めて認識した」ということである。

近世（きんせい）とは、歴史の時代区分の一つ。中世よりも後、近代よりも前の時期を指す。

近世を加えた 4 期の時代区分（古代・中世・近世・近代）は、ルネサンスを起源とする伝統的な 3 期の時代区分の限界の上に案出されたもので、西洋史でも東洋史でも適用されている。その始点と終点には諸説ある。西洋史上では、ルネサンス・宗教改革・大航海時代あたり（15 世紀～16 世紀前半）から、市民革命・産業革命の時代の前あたり（18 世紀後半～19 世紀初頭）までを指す。

フランス（語圏）では、16 世紀ごろからフランス革命までを「moderne」とし、それ以後から現在の歴史までを「contemporaine」とする。またドイツ（語圏）では、アメリカ独立革命やフランス革命のあたりまで、自国史では 神聖ローマ帝国の崩壊（1806 年）あたりまでを「初期近代 Frühe Neuzeit」と呼ぶことで、近代（Neuzeit）と分けている。同じく英語圏も、近世を「early modern」として、近代（modern）と分けている。字義的には「初期の近代」であるが、現代

の歴史学では、「modern」と「early modern」は峻別される。また、「Premodern」（前近代）という時代概念が用いられる場合、普通「early modern」は中世や古代と共に「premodern」側に統括され、ここからも単なる「modern」の初期段階という認識ではないことが伺えよう。

トピック：北海道とグローバルゼーション（3）

2008 年 月 日

Helvetia：日本では、「グローバルゼーション」を、西欧的経済合理性の発達によって出現した、避けられない、運命的と言っても良いような新しい段階の経済的状況だと思っている節がある。とくに、複雑な数学を使ったコンピュータプログラムを多重連結した、その意味で高度に「合理的」な「金融工学」などという言葉を知ると、そういう感じがするのではないだろうか。

さらに、ヘーゲル、マルクス、マックス・ウェーバーなど、日本の近代思想に大きな影響を及ぼした思想家が、「合理性 rationality」とは、西欧に固有の、実に古代ギリシャから今日まで、綿々と続いてきた西欧精神の発展の中核である、などと主張しているのが、我々の歴史の見方も、いつの間にか「西欧中心史観」に取り込まれ、それがまた、グローバルゼーションは、仕方のない運命だと思込ませるように作用している可能性がある。

しかし、アンリ・ピレンヌの言うように、ヨーロッパが初めて政治的統治の形をとったのは〔西暦 800 年〕、じつは、イスラム圏の勢力の急速な進展の結果起こったと見るのが、もっとも理にかなう説明であると思われる（この、ピレンヌ・テーゼはこれを認めたくない一派が、いまだに拒否している）。つまり、ヨーロッパの実体的な歴史は、それほど古いものではないし、自律的・内在的発展の結果でもないのだ。

同じことは、「合理性」についても言えるのであって、ヨーロッパが、アラビアのイスラム文明から、中世のヨーロッパでは失われていた古代ギリシャ文明、特にアリストテレス、ユークリッド、プトレマイオスなどの思想体系を学ばなかったならば、いつまでも、昔ながらの神話的・魔術的な世界観の中にとらわれていたであろうと考えられるからだ。

1300 年代のイタリアでルネサンスの時代が始まる前に、何人もの「ヨーロッパの思想家が、アラビア語を学び」、アヴィケンナ、アヴェロエスを始めとするイスラムの哲学者達のアリストテレス研究について、当時、イスラム勢力の支配下にあったイベリア半島やシシリー島で、アラビアの学者から学んでいたのだ。特に、アリストテレスの哲学は、その論理的方法と経験主義的な考え方で、ヨーロッパ人に衝撃を与えた。

それまで支配的であったプラトンやアウグスティヌスの思弁的な哲学に対し

て、「知識はすべて感覚器官を通じてもたらされる」と言うアリストテレスの考え方と、「論理学」に見られる体系化された論証の方法は、11世紀以降、各地に設立され始めた大学でスコラ哲学（Scholasticism）を盛んにし、やがて、トマス・アクイナスによって、キリスト教の教義との統合がなされた。

スコラ哲学は、17世紀以降の近代思想家、デカルト、ホッブス、ロックなどによって攻撃されたが、スコラ哲学が、アラビア／イスラム文明から受容したアリストテレスの、「経験」の重視と「合理性」の原理を抜きにして、ヨーロッパの「近代文明」は、想像してみることすら不可能である。

「グローバル化」のもう一つの特徴である、まさに「地球規模」での、特定の経済的原理と経営手法の拡大も、15世紀以降、「外から降りかかってきた」難題からの突破口を求めて、ポルトガルとスペインが始めた「大航海」が始まりであった。

問題は、彼らの大航海が、決して単なる探求心や冒険心から発したものではなく、きわめて切実な「経済的欲求」に突き動かされてのことであった点だ。此处でも、イスラム文明圏の勢力がキーワードになっている。

トピック：北海道とグローバル化（4）

2008年 月 日

Helvetia：2007年夏以来、危惧されてきたサブプライム問題が、9月15日のリーマンブラザーズの破綻をきっかけにして顕在化し、ウォール街型のマネービジネスを崩壊させ、金融機関相互間の信用不安の発生によって、株式市況の暴落だけでなく、世界各地で貸し渋りを増大させ、経済活動一般を冷え込ませている。ドミノ倒しのような金融破綻の波が、あまりにも急速かつ広汎で、事態の全貌を把握するのにとも対策を打つのも、後手後手になっている。

アメリカの金融市場は「氷結」の状態で、資金の流れが止まってしまったと海外のメディアは伝えている。例えば、カリフォルニア州のシュヴァルツェネッガー知事は、ポウルソン財務長官に宛てた10月2日付けの書簡で、近日中に70億ドルの短期融資をもとめた。10月末までには、同州政府の現金は底を尽き、必要な公共サービスを維持できなくなると言う。

今回の金融不安は広くヨーロッパ各地にも波及し、昨年夏以来、銀行員の三分の一が職場を失ったと言うことだ（Handelsblatt, 10月2日、ウェブ版）。多くの銀行が破綻、買収、国有化の道をたどっている。世界金融ビジネスの中心地の一つであり、絶大な信用を誇ってきたスイスの二大銀行、UBSやクレディスイスも、大幅な人員削減や事業の一部売却を迫られているし、EU諸国も、アイルランドがいち早く銀行預金完全保護を発表して、イギリスの銀行から預金をアイルランドに振り替える顧客が急増し、政治問題になっているなど、加

盟各国の足並みがそろわず、苦慮している。

日本では、「失われた 10 年」のあとで、やっと不良債券の処理が終わったところで、金融機関は、多額の現金を抱えているが、市場が冷え込んでいて借り手がない状況。特に設備投資が手控えられていることから、大口の資金の借り手がなくなり、野村ホールディングズや三菱 UFJ など、日本の金融機関が、豊富な資金でリーマンブラザースの営業ネットワークを買い取ったり、ウォール街の金融機関に出資したりして、米国のメディアに言わせれば、「ウォール街でショッピング」しているとような状況だ。

しかし、アメリカ、ヨーロッパ、だけでなく、中国やロシア、それにラテンアメリカ諸国でも、信用不安から株式が暴落し、景気が冷えてくると、日本の国内経済も不況に向かわざるを得ない。米国も、中国も、ヨーロッパも日本から製品を輸入する元気が失せてきている。

「完全な自由市場経済」と言う「信仰」と、ウォール街に対する「憎しみ」

米国議会の下院は、9 月 29 日〔月〕、ブッシュ大統領、ポウルソン財務長官、バーナンキ連邦準備理事会〔中央銀行に相当〕議長と、二大政党の上下両院銀代表の協議で合意された \$ 7000 億の金融機関救済案（政府による不良債権買い取りによって金融市場から切り離し、市場の信用を回復させる）を、ブッシュ政権の与党である共和党議員の一部の裏切りによって、否決した。

そのご、この法案は、預金保護の限度を引き上げたり、中小企業の減税を盛り込む、あるいは経営トップが、これまでのように、数千万ドルもの天文学的な額の退職金を受け取ることを禁止する、などの手直しをされて、今月 1 日〔水〕、下院に対するプレッシャーの意味も込めて、まず上院で可決された。そうして、選挙を間近に控えている議員も多い下院で、共和党の議員達が大統領に説得され、地元の支援者達と電話で協議し、3 日〔金〕、ようやく下院でも可決されて（賛成 263 票、反対 171 票）、成立した。それでも、ホワイトハウスを支えるはずの共和党の反対票は 108 票であり、賛成の 91 票を上回っている。民主党では、賛成 172 票、反対 63 票で、これは与野党関係の「逆立ち」だと言った新聞もあった。

下院での反対票の裏には色々な意味が隠れている。その端的な例は、金融救助法案が「ウォール街」を対象にしていることが庶民の怒りを買っていると言う事実がある。冷静な報道を旨としているロイターズが、ニューヨーク発の署名記事で、「リーマン CEO ファルド氏の傲慢な経営が、会社の崩壊を速めた」と言う論評を載せたのは、その一つの現れであるようだ（9 月 14 日、ウェブ版）。

30 年間、リーマンに勤続したファルド CEO の下で、リーマンブラザースは、今年の 6 月まで、一度も欠損を出した四半期はなかったという。じっさい、ファ

ルド氏は、今年の3月、昨年の業績に対するボーナスとして2千200万ドル(!)を受け取っているのだ。自信満々で他人の意見を聞かず、サブプライムローンがどんな結果になるかを考えず、大量に抱え込んでしまった。

自分の会社は、株式市場が評価しているよりもずっと価値があるのだと確信していたので、例えば事業の一部を売却して身軽になる話にも、一切乗らなかった。手遅れに気がついた時、158年の歴史が有る会社は殆ど一夜にして崩壊してしまった。より庶民的な目で見ても、若いのに一流のスーツを身に着け、ポルシェやマセラッティなど高級外車を乗り回し、高級レストランで食事をし、大邸宅に住んで豪華な暮らしをしている「ウォール街」の連中を救う為に、自分たちの税金が使われてはたまらないという強い意識を庶民が持っている。「ウォール街」のトレーダー達が、どんな生活をし、どんなメンタリティを持ち、どれほど稼いでいたのか、1994年～1998年のバブルを体験したインサイダーリポートに詳しく書いてある（フランク・パートノイ、大破局（F.I.A.S.C.O.），徳間書店，1998年）。

勿論、反対に回った議員達の背後には、別な動機で「ウォール街」救済に反対する選挙民の声もある。それは、「市場が自由であればあるほど、それは善であり、少しでも政府が市場に干渉することは、悪だ」という殆ど宗教的な信念が存在する。

アメリカ発の世界経済危機は、まずアメリカで解決策がとられるべきだと、世界中で誰もがそう思うのだろうが、「ウォール街」は自分で問題を解決すべきだ、つまり、政府は彼らをほうっとけ、と言う人がアメリカ人の半分くらいはいるようだ。このような態度が、世界にファシズムを盛んにし、世界大戦に導いてしまったことは、前回の恐慌からも明らかなはずだ。

1929年のアメリカの株の暴落に始まる世界恐慌は、当時のフーバー政権が、市場の自動的な回復を信じ、何も具体的な手を打たなかったことで始まった。この恐慌が無かったら、あるいはあれ程ひどく成らなかったら、ヒトラーは選挙に勝って、ナチ政権を作ることは出来なかったろうと言われている。

しかし、「完全自由主義経済」を信条としている人々は、世界の多くの地域とそこに住む人々の生活を破壊しても、彼らの信念が実現されればそれでいいと言う、宗教的エゴイズムに気付こうとはしないようだ。彼らは、当然、「ウォール街」での取引のあり方に法的な制約を科したり、経営トップの年収、ボーナス、退職金、あるいは年に、数百万ドルを手にすると言われるトレーダーの収入に抑制をかけることにも反対なのだ。

「世界を丸ごと」手に入れようとする「グローバルゼーション」の理念のモデルの一つだと考えられるのが、「ウォール街」の一握りの特権階級（デリバティブトレーダー）が実践してきた、「無限の欲望の完全に自由な実現」なのだ。

書き込み

bun : >事態の全貌を把握するのにも対策を打つのも、後手後手になっている。
いろいろ広い情報源からのエピソードありがとうございます。米国だけでなく、EU、英国にも多大な影響を与えているようですね。日本でも補正予算案の審議で米国発の金融危機（1929年以来と言っているのも、恐慌なのか？）に対応するため、さらなる追加措置まで、発言されている。しかし、前兆は、昨年からあったようですね。皆に明確に判るようになったのは、ついこの間というのもおかしな話だと感じます。サブプライム問題は、よくよく考えると所詮評価できないような債権を重ね合わせ、足し合わせてお化粧したようなモノらしい。

何故、プロが、それに気がつかないのか？気がつかないふりをしてその時に、儲かれば、それで良しとしたんでしょうか。どうもこうなることを確信していたような雰囲気がありますね。モラルハザード？なんてモノではないか（その時儲かればいい＝モラルハザード）ここから全世界にそれこそグローバルに迷惑をかけていますね。このシステムは根底から否定したいけれども、これに変わる別のシステムを提案しなければならないということなのではないでしょうか。それにしても、日本はさらに後手になるのか、米国の覇権をそのまま受け入れるのか？難しい局面で選挙を迎えるんですね。恐慌前の選挙、まるで絵に描いたような、劇場にいるような情勢だと感じます。（日本のマスコミはあまり騒ぎ立てていないようにも思えますが、）

みかん : >「完全な自由市場経済」と言う「信仰」と、ウォール街に対する「憎しみ」
ウォール街に対する「憎しみ」のほうが理解しやすいですね。「完全な自由市場経済」と言う「信仰」は余り理解できない。社会環境を考慮せずに、完全な自由市場を求め、政府が全く市場に介入しないで、個人的に責任を取らせる。そのようなところが、グローバルな博打ができる素地なのではないでしょうか？

Helvetia : bun さん

みかんさん

お二人の書き込みを拝見して、同じ問題を考えていらっしゃると思われる部分があります。それは、マックス・ウェーバーが、「プロテスタンティズムの倫理と、資本主義の精神」で指摘している、カルヴィニズムの問題です。

全知全能である神には、判らないと言うことは無いはずだから、個々の人が、死後永遠に天国に行けるのか、それとも永遠に地獄に落ちて苦しまねば成らぬのか、人が生まれる前にすでに決まっているはずだ（運命予定説）とカルヴァンは教えました。

しかし、誰もその運命の如何を生きているうちに知ることは出来ないし、知ろうとすることも神の意向を忖度する罪であるとしたのですが、特に、カルヴァ

ンの死後、カルヴァン派の人々の、死後の運命についての不安が高まり、不穏な状況になったので、カルヴァンの後を継いだ指導者達は、” ひたすら「祈りかつ働く」という良きキリスト者の生活を全うした人は、日々の楽しさや遊びに気を取られ、金と時間を費やす人々よりも富を積むことになる。そのような人には、「神の恩寵が与えられている」と解釈できる” という説明をしたそうです。

こうして、キリスト教の歴史の上でも多分始めて、沢山金を儲けること、富を蓄えることが、ストレートに、神による祝福の印だとされる教説が生まれたのだと、ウェーバーは説明し、イギリスのカルヴィニスト〔所謂ピューリタンが、近代資本主義の先駆者になった、と言っています。このピューリタンが、メイフラワー号でマサチューセッツにやってきたアメリカ植民者であったし、後の産業革命を推進した人々でもあったと言うわけです。

こういうカルヴィニズムの考え方が、何の抵抗も無く、巨大な勢力になってしまえたのが、アメリカと言う土地柄でしょうね。イギリスには長い伝統のある、強力な労働党が存在しますが、同じアングロサクソンだと言われているアメリカには、そんな政党はついに生まれませんでした。

今回の、金融危機に対するマスメディアの論調でも、ヨーロッパ大陸及びイギリスからは、「ウォール街」スタイルの金融オペレーションにたいして。道徳的な見地からの批判がありますが、米国ではそのような論調は見かけないような気がします。特にこういう点については、「欧米」といういいかたも、「アングロ・アメリカ」と言うようなくくり方も、成り立たないようで、今回の事件の底には、際立ってアメリカ的な心性、世界観と言うようなものが大きな意味を持っていて、単なる経済学理論のあれこれや、金融論の理屈などでは掴みきれない、ものすごく人間臭い問題なのでは無いか、際立ってアメリカ的な人生〔宗教〕観がはっきりみえた事件だったのでは無いかと思います。

Tenman : すごい。今回の金融危機が行き着くところ「宗教」の問題に帰結するとは…、いやあ、目から鱗です。どの新聞にもこんなことは書いていませんよね。

>キリスト教の歴史の上でも多分始めて、沢山金を儲けること、富を蓄えることが、ストレートに、神による祝福の印だとされる教説が生まれた。

日本の宗教には、こうした考えがついぞ生まれなかったと考えてよいのでしょうか？「お金」を話題にすることすら悪いことと考える空気が日本の社会にはありますよね。これと関係しているように思うのですが…。さて？

みかん : >道徳的な見地からの批判がありますが、米国ではそのような論調は見かけないような気がします。

そうなんですね。イギリスはまさにそうです。ブラウン首相も、ついに昨日、処罰という言葉を使っていました。これまでも、多額の報酬を得ていた企業のトップは富の創造者として、報酬の金額が正当化されてきましたが、今後これ

がどう変わっていくか注目に値するのかなと思いました。

>ものすごく人間臭い問題なのでは無いか、際立ってアメリカ的な人生〔宗教〕観がはっきりみえた事件だったのでは無いかと思います。

余談なんです、息子が昨日家に持ち帰ってきた宿題もインテリジェント デザインに関する討論でした。日本人から見ると、それを真面目に討論してもしようがないと思ってしまうんですが、ここにも日本人のマサカが欧米(仰る通り特に米ですね)での現実、という感じです。

遅れましたが、Helvetia さん、いつも同じことしか言えませんが、貴重な考える機会を提供していただいて感謝しています。m--m

Helvetia : tenman さん

日本では、徳川幕府の「賢明な」政策で、既存の宗教〔仏教・神道〕は、政治や国政の世界から締め出され、制度的に保障された生活基盤〔檀家制度など〕を与えられて、おとなしくなりました。その証拠に、江戸時代には強烈なインパクトを持った宗教指導者は出現なくなりました。

その一方で、儒学を一般に広め、寺子屋でも儒学の古典を勉強したのですが、日本では中国や朝鮮半島でのような「宗教」としてではなく、哲学・倫理学としての「儒学」が、ものの見方や社会道徳を教える基盤として普及しました。〔明治政府はこれを抹殺しましたが〕。

日本で「経済道徳」思想の大きな中心となったのは、しかし、民間から生まれた石田梅岩の「心学」であったようで、儒学、仏教、神道などを組み合わせて、商人道の体系を築き、全国的な展開を見せました〔150 ともそれ以上とも言われる講習所のネットワークがあった〕。しかし、ここでは、社会〔世間〕の枠の中での利益追求を教えたので、富の蓄積が「神の祝福」の証だと言うような、金もうけへのフリーパスのようなことは教えなかったと思います。

アメリカの南部にはとくに、「バイブルベルト」と呼ばれるホットな〔熱狂的〕なキリスト教プロテスタント地帯がありまして、現在でも政治に大きな影響力を持っています〔ブッシュ政権のバックグラウンド〕。

ヨーロッパにも、キリスト教民主同盟〔ドイツの政権政党〕や、キリスト教民主党（つい少し前までイタリアやオランダなど）などがありますが、この背景にあるのは、カトリックやルター派であって、カルビニズムではありません。

日本ほどでは無いにしても、ヨーロッパでは、あまりに突出した金もうけは、不道德的だと言う感覚が社会の中にあるようです。戦後のドイツの例が一番はっきりしていますが、「社会的市場経済」というのが、ヨーロッパの基本的な考え方でしょう。アメリカから見れば、これは「危険な社会主義」に近いものとしか見えないようです。

優勝劣敗が原則だと彼らは思っていますから、経済的敗者・弱者のために、公的なセフティーネットを用意するなどともないということです。それは慈善行為の対象ではあれ、国家の義務では無いと言う見方ようです。

日本の考え方は、特定の宗教的基盤は無いにしても、ヨーロッパのそれに近く、アメリカとは随分違っている〔幸いにも〕と思います。これ以上のアメリカ化は願い下げにしたいですね。

Helvetia : みかんさん

インテリジェントデザインが、宿題ですか。これでは、日本の教育はかないませんね。自分の頭で「考える」ことをこういう形で訓練するのですね。

この問題はアメリカ発ですが、大陸の国々でも、問題には成っているようです。学校で取り上げているかもしれません。

今の物理学は、宇宙論から素粒子論まで、ビッグバン理論を踏まえて研究していますが、「創世記」がなかったら、「ビッグバン」と言う理論も出来なかっただろうと言われると、唸ってしまいます。

イスラムでは、キリスト教とユダヤ教、イスラムを「旧約聖書を共にする兄弟」と言う言い方があるそうですが、それにしても兄弟げんかが凄いですね。

Helvetia は、みかんさんの、要点を衝いた鋭いコメントに、何時も敬服しております。これからも、よろしく！

みかん : >「創世記」がなかったら、「ビッグバン」と言う理論も出来なかっただろうと言われると、唸ってしまいます。

えええええ！ 言葉を失いました。

今日、眠れないかもしれません(笑)。

コメント禁止になるかも知れないと時々心配になるみかんでした。^^;

ありがとうございます、Helvetia さん。

Helvetia : >えええええ！ 言葉を失いました。

先日、ノーベル物理学賞を受けた、日本出身の三人の方々〔ビッグバンからどうして物質が生まれたかの研究！！〕の先生筋に当たる、湯川秀樹、朝永振一郎、それに坂田昌一などの業績について、イタリア人で、かつてノーベル物理学賞を受賞した、エミリオ・セグレと言う人が、現代物理学の歴史をかいていますが、そのなかで、この日本の学者達の理論的着想は、西洋の精神的伝統からは出てくるはずの無いもので、これには必ず、東洋思想がその母体になっているのだらうと、言ってます。

多分、セグレも、<えええええ！>と<言葉を失った>のではないのでしょうか？ 禅の思想などを念頭に置いているらしいのです。

「創世記」も「正法眼蔵」も、先端的物理学理論の発想母体になっているということでしょう。

「色即是空空即是色」なんてのを方程式に書いてみるとどうなるのだろう.....？これ考えてると、良く寝られそうです(^o^)

bun : >今回の、金融危機に対するマスメディアの論調でも、ヨーロッパ大陸及びイギリスからは、「ウォール街」スタイルの金融オペレーションにたいして。道徳的な見地からの批判がありますが、米国ではそのような論調は見かけないような気がします。

マスメディア論調はないかもしれませんが、俺たちの税金を「ウォール街」で「金融操作をやって法外な金を稼ぐやつらに注入するな」というデモをしているのを見ました。これは、道徳としては、定着していないか？マスコミも事実報道するだけで、善悪感情には、訴えていないのか？

以前にも、予定説とマックス・ウェーバーの「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」について伺いましたね。予定説がそこまで影響しているんですね。単純ですが、もともとヨーロッパが嫌いなイギリス人（ヨーロッパの人々か）が、新天地を求めて米国へ渡ったとも聞きます。それは中国にも適用して中国が嫌いな人間が日本に移住したなんて説もあるようです。

マックス・ウェーバーの「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を聞いて 山本七平が「勤勉の哲学」「日本資本主義の精神」などで、鈴木正三や石田梅岩を研究して日本人が、何故勤勉に働くのか、その結果の利潤を否定しないことから、日本の資本主義の基盤をなしているのではないか？という内容だったと思います。もちろん利潤追求は、許されないが、結果としての利潤は、肯定されたことを探っていたのを思い出しました。 勤労（農工商の事業を行う）は仏行としてとらえ、仏になるための修行として捉えていたように思います。

Helvetia : みかんさん

素粒子だの、反粒子だのと言う議論の世界は、よく判りませんが、なんか、色即是空の世界に近いような気がしたもので、つい書いてしまいました.....
もう、普通の言葉では言い表せない現象の世界のことのようですね。

Helvetia : bun さん

>俺たちの税金を「ウォール街」で「金融操作をやって法外な金を稼ぐやつらに注入するな」というデモをしているのを見ました。

..... これが、共和党下院議員の反対票の裏にある事情の一端ですね。

石田梅岩の思想には、江戸時代後期にさしかかって、経済成長があり、商人達の経済力が大きくなったのに、社会的には武士身分〔経済的には成長できない借金階級〕の下におかれている商人の自覚と誇りを確立するという動機があったと思います。

武士道に並立する商人道の原理から、商売での利益追求を正当な、誇るべき行

為だとしています。「刀」対「算盤」です。

江戸時代この方、日本では、階級闘争的な革命が起こっていませんが、これは、抑圧の結果と言うよりも、江戸時代の日本では、日本以外の先進国の歴史にその例を見ないような、「政治と軍事」は武士、「経済と文化」は町民／農民という、一種の主権分割が事実上なり立っていたことから説明されるのでは無いかと考えます。つまり、敢えて「革命を起こす必要がなかった」のででしょうし、石田梅岩の思想も、その線上にあって、武士のそれに並立する「固有の道德」を説いたものと考えられます。勿論、仏教や日本古来の道德、儒学思想などを巧みに総合して、彼の思想体系を作っていたように思います。

アメリカの場合、単にピューリタニズムの教え〔富の蓄積の正当化〕に加えて、第二次大戦後の世界で共産圏と対立して自由を唱えていたアメリカで、ハイエクやフリートマンの「自由主義経済」の理論が、誇張され、誤解されてビジネスの世界に広まり、ウェーバーならば、「海賊資本主義」として否定したような、倫理性を欠落させた金もうけを可能にしてしまったのでは無いでしょうか。

ヨーロッパでは、資本主義経済は、フランス革命や産業革命以前の旧体制〔アンシャンレژیーム〕以来の敵対勢力、つまり、教会・貴族階級など、あるいは、革命後の敵対勢力である社会主義や労働組合にたいして、社会的な正当性を保持し続ける必要があります。公序良俗に反する金もうけや消費のし方は、たちまち社会的な批判を浴びましたが、アメリカの資本主義は、このような敵対勢力なしに、つまり、社会内のチェック機構が存在しない、温室的な環境にありましたので、こういう結果になったのであろうと考えます。単純化された「自由市場経済」の暴走です。

レバレッジとか、デリバティブ、あるいは CDS(クレジット・デフォルト・スワップ) などという、「高等数学で化粧したニセ金」みたいな金融商品で博打をやることは、「自由市場経済」の信用を失墜させる結果に終わったわけです。失ってしまった「市場の信用」を回復するのは、もはや、経済学や金融論には出来ないのではないのでしょうか。むしろ、哲学的な問題だと思われます。

みかん : Helvetia さん

実は今まで仏教に対して理不尽な苦手意識があったんですが、どっとねっとで Helvetia さんのお話を伺っているうちに、仏教を知りたいと思うようになりました(個人的な宗教としてではないですが ^^;)。

仏教だけではなく他のも全部含め、切り口ひとつで、こんなにも違って感じられる。魔法のようです。m--m

tenman : > 仏教だけではなく他のも全部含め、切り口ひとつで、こんなにも違って感じられる。魔法のようです。

全く同感であります。頭の中の構造改革が進みつつあるような感覚です。本当

にありがとうございます。

そこで、さらにご教示いただきたいことがあります。自らの無知をさらけ出すようで恥ずかしいのですが…。

本日 13 日の読売新聞一面に「金融危機どう立ち向かう 2」として、佐々木毅氏の話が載っていました。

この中に「冷戦終結後の 20 年間は、市場の力が異常なほど強く、何かを決める力は政治ではなく市場にあった。」とありました。

今のグローバリゼーションというのは、言わば市場の地球規模での拡大ということだと思いますが、これはやはり冷戦の終結が直接的な大きなきっかけとなって始まったと見るべきなのでしょうか？

また、それは具体的にはどんな形で私たちの前に見えていたのでしょうか？

変な質問なのですが、つまり「私が頼みもしないのに、いつの間にそうなったの？」ということなのです。

もしかしたら、Helvetia さんの連載に既に答えはあるのかも…と思いつつ、ご教示いただければ幸いです。

tenman : いやいや、お恥ずかしい。すぐにこれまでの連載を読み返すと…。

既に答えはありました。(1) なんですよ。

つまり、この連載そのもの全てが、私の疑問に対する答えと言うことなのだ…。ということになりますよね。きっと。

Helvetia : みかんさん

仏教の専門では無いので生半可なのですが、仏教のもっとも思想的に純化された形は、古代インドの様々な神々や民俗的な伝承から解き放たれた、「禪宗」の考え方に見られるのではないかと考えています。

ハイデッガーも西田幾多郎の著作〔ドイツ語に訳されている〕などに、自分の実存哲学と仏教的な世界観との共通性を見いだしたようですし、ショーペンハウアーの思想も、キリスト教から仏教への強い傾向を示しているようです。

仏教思想を既成の「枠」の中からはとり出して見直してみると〔切口を変えてみると〕、いろんな論理構造が見えてくるように思います。

Helvetia : tenman さん

まったく、

>「私が頼みもしないのに、いつの間にそうなったの？」ということなんですよ。

それが、この日記の書き始めにあった疑問なんです。その為には、〔近代ヨーロッパ製〕の経済・社会思想の由来と、時代とともに変貌していく姿、それがどのように例えば日本に輸入され、我々の考え方に入り込んだのか、ということを考え直す為に、過去を改めて見直したいと思っているわけです。

何とかして、北海道はどのような方向へ進むのが良いか、と言う議論に持っていくための試みであると、理解していただけると幸いです。

御質問をいただくと、考え直し、見直すきっかけを掴めますので、今後も宜しくお願いします。

bun : >「色即是空空即是色」なんてのを方程式に書いてみるとどうなるのだろうという話に興味をもって、仏教の中論と現代サイエンスや経済社会学の関係などを読んでいる間に、アリストテレスからの論理学から現代の記号論理学の歴史、科学における量子力学の誕生、粒子と波動性の謎まで反復するようなことになりました。

空の思想は竜樹から伝わる大乘仏教の中心的な思考のようですね。

空と色を理解するのは容易ではないようです。

そんな余計な事を考えているうちに、世界の金融と経済の状況は、より一層危機を迎えているような気がしていました。国際政治的に EU、英国、米国がロシア中国が動き出しているようですね

特に英国、仏国の首脳が次の金融・経済体制をめぐる主導権を争っている。ブレトンウッズを再び、開こうとしているなんてことも考えられているとか

1945 年まで時間が戻ったような気配が感じられます。また、覇権をめぐる争いが始まるのでしょうか？

Helvetia : 近日中に、ワシントンで 20 カ国の首脳が集まって、世界の金融体制についての話し合いをするそうですが、今回は、ブレトンウッズでのような米国の主導権は無いでしょうね。

むしろ、米国では、サブプライム問題のあとには、サブプライム関連の不良債権と同等規模の、「クレジットカード」債務問題が控えているそうです。何しろ、長年、借金で消費するクセがついてしまったアメリカ人は、クレジットカードローンで株や債券を買っていたそうですから、これが表に出てくるとえらいことになります。

さらに、この年末には、多くのヘッジファンドの払い戻し規制が期限切れになるそうなので、こんどは、ファンドの資金枯渇、倒産が危惧されているようです。

ロシアも世界的な不景気に加えてグルジア戦争があり、西側の資本が逃げ出してしまっていて、いつの間にか増えてしまった沢山の銀行が、緊急融資をモスクワに申請しているそうです。

1945 年当時の状態には、政治的には成らないと思いますが、地球経済が破滅しかねない事態になる可能性があるので、少しでも経済的に力のある諸国が額を集めて世界規模での協調体制をつくらないと、「信用」の回復は難しいでしょう。覇権を握ろうとする「競争」はあるでしょうが、それを、「争い」にしている暇

は無いのでは無いかと思いますが。

アイスランドの国家破産状態は、重い教訓であるはずです。

「人間」と言う経済主体を排除して、「物〔財〕と金（貨）だけ」を数学的に処理することで理論システムを構成してきた近代経済学への批判的な考察〔つまり、哲学的な問題〕が必要だと思います。

シュンペーターやケインズのような、人間の社会生活全体を見据えて、その一側面としての経済を論じるような、包括的な思想に立ち戻る必要があるようです。

そのような関連では、仏教思想の「普遍理論」化〔英語等で〕の作業が世界の為になると思いますが、従来、あまりやられていませんね。

tenman : いつもありがとうございます。以下、よろしければ、教えて下さい。

今日の読売新聞朝刊「地球を読む～伊藤元重東大教授～」を読んで、思ったのですが、なぜ、「金余り」がこうした問題（金融恐慌）に発展するのか、何とも理解しがたいのです。

①利益が上がり、富が蓄積する→②信頼できる投資先が見つからない→③不動産・株への投資（サブプライムローンによるバーチャル需要の創造）→④金が金を生む→⑤実体経済との乖離（バブル）→⑥信用収縮→崩壊

今の問題は、こんな感じなのでしょうか？

もしそうだとしたら、どの段階かで食い止めることはできないのでしょうか？

お金が余っているのに、結局崩壊する…どうにも納得のいかない話です。

Helvetia : 素人の生かじりですが、〔4〕の、「金が金を生む」

ところが問題だと思います。リーマンブラザースなどの証券会社〔投資銀行〕が行っていた「空売り」(short-selling)のような投機的な債券の売り買いが問題なようです。

比較的少額の証拠金を証券会社に預けて、他人の株式を借り受け、高値で「売り」をかけ、後日、値が下がったところで「買い」戻す。その差額が収益となるという方法です。証券会社に信用されれば、証拠金なしにこのような売買が出来ます「裸空売り」(naked short-selling)。

突き詰めて言えば、借金をして〔他人の株式を借りて〕それを投機的に投資して、利益を得る、借金の額を増やせば増やすほど、「うまくいけば」利益は大きくなるわけですが、同時に、リスク〔借金〕も増えていく。

所謂バブル経済の時期には、儲けに隠れて、増大しているリスクが見えにくくなる。しかし、バブル経済のどこかがつまずくと〔今回の米国では不動産価格の低下で、低所得層では住宅ローンの借り換えが上手くいけなくなり、不動産会社が住宅を差し押さえてみても、貸したローンの埋め合わせにならないので、破綻する）借金を返す羽目になってもその資金が調達できないケースが連鎖反

応を起こす。空売りの場合、何時かは始めに空売りした株を買い戻さなければ成りませんが、その値が本当に下がっているか、そして総額はどうか、「博打」を打ってみないと本当のところは判らないのだと思います。予想外のこと〔グルジア戦争のような〕が起こる度に株価は変動しますから。

今年の三月に倒産したベアスターンズと言う証券会社がそのはしりで、他の金融機関が同社に貸していた資金が回収できなくなる、するとドミノ倒しのようになり、貸した金の焦げ付きが発生し、銀行同士の間でも、貸し借りの信用が成り立たなくなり、貸し渋りがひろがる。そこで被害の範囲（資金の貸し借りについての不安の拡大、「信用収縮」）は水ノ輪のように広がっていくというわけです。

銀行や会社の倒産の連鎖が起これば、何十億と言う単位の膨大な資本も、一夜にしてゼロになりますから、金あまりの結果、金がなくなることになると言えるのでは無いでしょうか？

「金」の価値というのは、所詮人間の思い入れ〔信用〕次第であり、噂は不安をうみ、信用を抹殺してしまうのに十分な力を持っているということでしょう。儲けを大きくすることに一生懸命に成りすぎて、その為に増えていっている負債〔リスク〕との関係を見定められなかったという、きわめて人間臭いミスが、こういう結果を生んだと言うことなのだと理解しています。

Helvetia : tenman さん

もう一つ、現今の金融危機のもっと重大な理由について書きわすれました。

それは、金融市場のシステムと、金融オペレーションの手法が、あまりにも数学的に高度に構築され、複雑になりすぎていることだと思います。金融の専門家は、様々な金融商品の利益率やリスク率を計算するコンピュータプログラムを構築し、それを相場の動きに連動させて、思い掛けない損失の発生を予防しているのだそうです。

ただ、システムがあまりに複雑なので、安全確保用の回路などを組み込むと、不具合が発生して、悪く成りかけている事態をもっと悪くする可能性があるそうです。

例えば、ヘッジファンドのと所有株が一定の株価水準を下回ると自動的に売り注文を出してヘッジする、つまり、損失を防ぐ自動プログラムがあるそうですが、多くの金融機関がこのプログラムを使っているのです、ある銘柄が下がり始めると、彼方此方のファンドが売り注文を自動的にだすので、思いもつかない相場下落が引き起こされ、それが他の銘柄に波及するという具合だそうです。そうすると、マシンを止めることは自殺行為になりますから、自動的に売りの競争になる。なんとも妙な話です。

世界規模で証券市場での取引のテンポを同一歩調で遅らせる、特定の種類の、

複雑すぎる金融商品を廃止する、など、強烈な手段を講じないと、世界中の市場が繋がっていますから、金融危機はコンピュータプログラムを作った数学者達が考えもしなかった〔考えることが出来る筈の無い〕予想外の出来事で、また起こる可能性があることになります。

トピック：北海道とグローバルゼーション（５）

2008 年 月 日

Helvetia：金融ビジネスのグローバルな管理

11 月 16 日、20 カ国の首相・蔵相会議〔G20〕が終わり、アメリカ発の世界金融危機に対処する為の「歴史的合意」〔仏サルコジ大統領〕がなされた。

1929 年の大恐慌に対処するための政策を提示したのは、J.M. ケインズであり、政府が国民の税金を使って、経済に介入する経済政策を始めて理論的に主張した。

アダム・スミスの「見えざる手が市場の均衡を回復する」と言う、古典的な自由市場経済の理論に本質的な修正を加えたのだ。

ケインズの提言に基づき、Th. ルーズベルト大統領のもと、テネシー河流域総合開発計画（TVA）など、計画経済的な手法で政府が経済活性化に直接介入する政策を実行して、アメリカは、大恐慌の危機から脱し、さらに第二次世界大戦期、軍需産業への膨大な投資を集中することによって爆発的な経済発展を遂げ、今日まで、世界の超大国でありつづけることに成功した。

今回の世界 20 カ国による合意は、ケインズの考えていた、どの特定の国家からも中立な、新しい「世界通貨」を創設し、それに見合った、世界大蔵省のような中央機関を設けて、世界の貨幣経済を管理すると言う段階には達しないとしても、その方向へ向かう、新しい一歩であったと考えて良いのでは無いか。

金本位制でも無く、ドルだけを基軸通貨とする〔ドル本位制?〕のでもなく、複数の基軸通貨を考えているようだが、そのような多極的な通貨システムは、結局、ケインズの「世界通貨」への道の途上にあると考えられるだろう。

デリバティブだの、CDS（証券化されて売られる債券の保険）だの、高率のレバレッジをかけて大もうけを狙う、博打と変わらない投機的な金融ビジネス、あるいは、複雑すぎて、誰にもリスクが読めなくなってしまった金融商品に格付けを与えてリスク／信用の程度を示そうと言う格付け会社などを、各国政府が協力して、検査しコントロールするのだそうだ。

端的に言えば、世界の金融経済は、公的なチェックの「グローバルゼーション」を経験することになる。これまで、アメリカでは、証券会社〔投資銀行〕は殆どノーコントロール、やりたい放題の野放しの状態だった。年収何千万円のヒラのトレーダーがうようよしていたウォール街にはそんな「投資銀行」が集ま

っていた。

これが、1970年代から、反ケインズ主義を掲げて、「新自由主義」の経済思想が支配的であったアメリカの「自由」な経済の「オドロキ」の一面である。今回の G20 会議でも、ブッシュ大統領が、金融ビジネスに対する管理強化について釘を刺すようなスピーチをしたのは、まさに、「何でもあり自由市場経済」を信奉してきた共和党エスタブリッシュメントの断末魔の悲鳴のように聞こえた。

実態経済のグローバル化

マネーゲームを「グローバル」にチェックし、コントロールすることで、金融経済の行き過ぎが引き起こす「グローバルな金融危機」による実態経済の行き詰まりを回避することは可能になる。

しかし、それは、世界規模で製品の価格競争が激しくなり、あるいは、企業を「商品」のように買収したり、合併することで寡占化が進行し、所謂「合理化」がしやすくなり、リストラが広がって失業が増大し、あるいは競争が無くなっていくことで消費者の選択肢が狭められ、さらに、あらゆる分野に「商品化」〔コモディティ化〕が広まり、あらゆる産物も、景観も、町並みも、サービスも貨幣価値に置き換えられ、「流動化」（清算可能化）つまり、例えば外資によって持ち去られ、抹消されてしまうという可能性は残る。

金融ビジネスを監視し管理しても、実態経済のグローバリゼーションがもたらすプラスの面とともに、本来は、非経済的な事物をも金銭化する〔流動化する〕ことによって消し去ってしまうと言う、マイナス面は残るのだ。

すでに、ウォール街発の世界金融危機以前から言われていた、「グローバリゼーション」の問題性について、ペーター・スローダイク（日本でも何冊か翻訳が出ている）は、「グローバリゼーションは最近始まったことでは無く、15世紀のポルトガルとスペインによる”大航海時代”に始まっていた」という。

それが、一層の完成をみたのは、イギリスとオランダがポルトガルとスペインの地位を奪い、それにイギリスで始まった、「工業化」が加わることによってであった。たしかに、日本が、江戸時代の幕藩体制から明治維新によって新しい国際関係に参入した時、ヨーロッパと北米をのぞく、地上の80%は、欧米によるグローバルな支配によって植民地化されていた。

結果として征服と支配をもたらしてしまう「グローバリゼーション」の性格は、中世末期から近世始め、15世紀頃にヨーロッパが、特に地中海沿岸諸国がおかれていた状況から説明できるだろう。

bun : 資本主義経済を教科書的に見てみよう

閉塞経済—金融資本主義のゆくえ 金子勝 ちくま新書 08年7月の中の言葉を拾って見ました。

「商業資本主義」の時代

資本主義の歴史 地理上の発見と大航海時代

↓ 遠隔地貿易で互いにないモノを交換して、莫大な富を「資本」とした

「産業資本主義」の時代

市民革命と産業革命を経て「産業資本主義」の時代に突入し、近代に個人の自由と引き換えに土地と労働に所有権が持ち込まれる。物サービスを生産して売買する社会へ変化。

↓ 市場経済の領域：家族や共同体を解体しながら次々と拡大し、石炭から石油へのエネルギー転換をしながら第 2 次大戦後重化学工業中心の黄金時代にはいる

「金融資本主義」の時代

石油ショック以降、

固定相場制→変動相場制（先進国）：各国の通貨価値が毎日変動する制度

↓ 金融は産業の仲介者から、金がモノ、サービス取引の決済とは別に取引されるようになった。

グローバリゼーションとともに世界中をお金が一瞬に動き回る資本主義が出現（金が金を生む）

資本主義の本性的に持つ欲望の解放への衝動は未来への「期待」となり、取引を動かし、期待を集めるところにお金を集めるようになる

↓

バブルを頻繁に起こすようになる。（10 年毎）

80 年代の金融自由化：金余り現象

84 年為替取引の自由化（実需以上の取引自由化）

1987 年ブラックマンデー

1998 年 LTCM の経営破綻

2000 年 IT バブル

2007 サブプライムローン危機

そして 2008 年の世界金融危機状況に落ちてしまったのですね。

金融危機から実体経済への影響も急速に出てきているという状態です。

あらためて経済の歴史を学ぶような羽目に陥ってしまいました。

しかし、ケインズ主義の歴史的人物と思っていたケインズがよみがえって金融の制度的監督がグローバルに行なわれる考えが出ている。

あの経済学のケインズが提唱してブレトンウッズの時代がまたよみがえったような雰囲気ですね。歴史的な大事件の現場にいるんでしょうね。

そうすると、英国、仏国がまた、主導権をとるのでしょうか？

Helvetia : bun さん

どうも、現代経済最大の転機は、経済生産の基礎である労働と土地に加えて、経済価値の物差しであるはずの「通貨」まで、商品にしてしまったことにあるようです。カール・ポラニイが、第二次大戦中に書いた「大転換」の受け売りですが。

カールポランニーが「経済と文明」で

「非市場経済社会」 互酬 再配分 市場交換のバランスにより社会統合を発見、論じた学者でしたか？ポランニーを発見した当時は、通貨自体が人間の共同幻想に基づくものと読んだ覚えがあります。通貨を商品にしたことが、バーチャル化の始まりですか？

どうも、それ以来の経済は、「物差し」を失って、しだいにバーチャル化の度合いを強めてきたようです。デリバティブだの CDS だの、誰にもリスクの規模と所在が判らなくなるような「金融商品」を造り出して、結局は、人間の営みである経済の実態が見えなくなってしまったこと、そこに今回の危機の原因があるように思います。

経済活動そのものに、内在的な法則性があると言うような「形而上学的」〔ネガティブな意味で！〕な考え方は持っていないので、あくまでも、人間が行う、人間臭い営みであると思っています。

社会科学が出来たとき、ニュートン古典力学のような法則性を求めて経済に自然科学のような法則性を求めたのではないのでしょうか？

それがどこでだめになり、どうなったかよくわかりません。社会の森羅万象を解析できる理論を求めていたような気がしています。

最も、科学の方でもニュートン力学がアインシュタインの相対性理論や素粒子などを扱う量子力学によって、超えられたということも聞こえます。しかし、素粒子論はいまだに統一されてはおらず、物質・光などの粒子性、波動性論争を解消するにはいたっていないと理解しています。

社会現象についても、因果関係が一方的すなわち単純（線型）ではなく、同時因果、相互因果の関係にあり、循環論に陥ってしまうことが、昔から否定される根拠となっていたようですね。まるで仏教でいう縁起（すべての現象は相互に影響しあっている）のような状態で例の般若心経のいう色即是空・空即是色のようなようです。

人間の遺伝子の実数は、3 万 2 千個、しかし、ミバエのような小動物でも、その数およそ 2 万個。遺伝子研究者は、ヒトゲノムの解析競争が盛んであった数年前には、ヒトの遺伝子は少なくとも 10 万個と踏んでいたようですが、解析の結果には、がく然としたようです。

これが helvetia さんのおっしゃる人間の本能はほとんどないという言葉の根拠でしょうか？

人間の行動は、遺伝子によってあらかじめ定められている〔本能的な〕部分が、他の動物に比べて驚くほど僅少で、その行動の大部分は、人為的な（文化的、社会的な）条件に基づいていると言うわけです。

結局、人間においては本能が有効である分野は他の動物に比べてきわめて限られており、かつ本能の能力も微弱で大ざっぱであることから、ヒトは、常に学習し続けなければ人間らしく生きられないこと、さらに、本能のままに行動すれば、他の動物においては考えられないような自己・集団破壊的な結果をもたらすことが、結論されます。

他の動物においては、「欲望」は、個体の生命と種の保存を維持するように、あらかじめ完結したプログラムに基づいて行動にうつされます。

しかし、人間の「欲望」には、そのような「安全装置」が附いていません。アーノルト・ゲーレンが言ったように、「ヒトは欠陥動物」だと言うことでし、アドルフ・ポルトマンも、ヒトが、ほ乳動物としては、「規則的に 10 ヶ月の早産」で生まれてくる。つまり、生後の 10 ヶ月は、「第二の子宮である人間社会」で過ごすことで、始めて「人間」に成長するのだと言うのと、符節を一致しています。

経済的欲望の自由な展開と言う意味での、「自由市場絶体主義」的な経済は、バブルとその崩壊に何度も保着しなければ成らないのでは無いでしょうか。

その意味では、ケインズ主義的な、市場に対する政治の介入による「社会」生活の維持と言う発想は、正しいと思います。

ブレトン・ウッズ協定でドルが結びつけられていた金との兌換制を一方的に切ってしまったのが、ニクソンショックでしたが、アメリカ経済を拡大させ膨張させようとした政策が、結局は世界規模の金融・経済危機に逢着したと思います。

新しい出発の基礎は、やはり、個々の国家の利害とは中立な「世界通貨」とその運営を管理する国際機関の創出という、真にグローバルな、ケインズの「夢」にあるように思います。

>そうすると、英国、仏国がまた、主導権をとるのでしょうか？

英・仏始め、どのヨーロッパの国家も、経済的な主導権をとれる位置にはもはやいないと思います。しかし、27 カ国を束ねる EU として（EU 内部の結束が固まれば）、グローバルな影響力を行使することは確実です。

第 1 次大戦前までは、大陸を結束させずにいた時もあった、ジェームズボンドが活躍する余地もあったようですから、英国がなかなか EU に入らずいたのもその傾向でしょうか？

今は、結束する仲間に入っているのか？

日本は、いまだに、アメリカに次ぐ、世界第二の経済大国なのですが、それに見合った発言も提言も殆どありませんし、国際的に見れば、殆ど問題にされなくなっています。

いわゆる GPS は、「グローバル位置確認システム」という意味でしょうが、政治的・経済的にも、GPS 的な感覚と叡知が欠けていることが、今日の日本の問題だと思います。

bun : >「通貨」まで、商品にしてしまったカール・ポラニー

カールポラニーが「経済と文明」で「非市場経済社会」互酬 再配分 市場交換のバランスにより社会統合を発見、論じた学者でしたか？

ポラニーを発見した当時は、通貨自体が人間の共同幻想に基づくものと読んだ覚えがあります。通貨を商品にしたことが、バーチャル化の始まりですか？

>経済活動そのものに、内在的な法則性

社会科学が出来たとき、ニュートン古典力学のような法則性を求めて経済に自然科学のような法則性を求めたのではないのでしょうか？

それがどこでだめになり、どうなったかよくわかりません。社会の森羅万象を解析できる理論を求めていたような気がしています。

最も、自然科学の方でもニュートン力学がアインシュタインの相対性理論や素粒子などを扱う量子力学によって、超えられたということも聞こえます。

しかし、素粒子論はいまだに統一されてはおらず、物質・光などの粒子性、波動性論争を解消するにはいたっていないと理解しています。

社会現象についても、因果関係が一方的すなわち単純（線型）ではなく、同時因果、相互因果の関係にあり、循環論に陥ってしまうことが、昔から否定される根拠となっていたようですね。

まるで仏教でいう縁起（すべての現象は相互に影響しあっている）のような状態で例の般若心経のいう色即是空・空即是色のようなのです。

>人間の遺伝子の実数は、3万2千個、ヒトゲノムの解析競争が盛んであった数年前には、10万個と踏んでいた。

これが Helvetia さんのおっしゃる人間の本能はほとんどないという言葉の根拠でしょうか？

ほとんど本能のない人間は母の胎内から出てきて社会的本能を発達させるのでしょうか？

生命は自己免疫系で、自他の区別をつけているようですが、これが狂うと自分で自分を攻めることが生じるようです。

毎日すべてのものが生々流転している生命は自己創出しているといいます。これも仏教思想に近いのか？

>英・仏始め、どのヨーロッパの国家も、経済的な主導権をとれる位置にはもはやいないと思います。しかし、27 カ国を束ねる EU として (EU 内部の結束が固まれば)、グローバルな影響力を行使することは確実です。

第 1 次大戦前までは、大陸を結束させずにいた時もある、ジェームズボンドが活躍する余地もあったようですから、英国がなかなか EU に入らずいたのもそのためでしょうか？

今は、結束する仲間に入っているのか？

Helvetia : bun さん

>カールポランニーが「経済と文明」で

同一人物です。何しろハンガリー人なので、正しい撥音は判りません。それに、元々カタカナは日本語を書く為のもので、外国語の表記は難しいですね。

>通貨自体が人間の共同幻想に基づくもの

その通りです。「他のヒトもこの紙切れを通貨として認め、受け取るであろうとみんなが思っているのでお互いに支払い手段として使う」と言うこと以外に、製造原価とはケタ違いの額面表示に従って、通貨を使用する、通貨が流通する根拠は無いのですから。そういう、共有された幻想〔つまりバーチャル〕なものを、商品にしてしまうと、「商品の価値」を測定し表示する物差しの基準そのものが、市場に参加する経済主体の思惑だの投機だのと言う、「バーチャル」な要素によって動いてしまうからだと言うことでしょう。

>社会科学が出来たとき、ニュートン古典力学のような法則性を求めて経済に自然科学のような法則性を求めたのではないのでしょうか？

ニュートン、デカルト、ガリレオ、ホブズ、等々が活躍したヨーロッパの 17 世紀は、生活環境としては最悪の時代でしたが、まさにそれを克服しようとして、知的には希望と未来への確信に満ちた時代であったようです。

この頃の啓蒙主義の思想家に共通なのは、分野を問わず、高度に数学的な知性を共有していたことですが、これも、当時の平面幾何学に象徴されるような「数学」的な論理だけが、宗教的・精神的対立でずたずたになったヨーロッパで、立場の違いを超えて客観性を持つことの出来る唯一のコミュニケーションの手段であったからだと言うふうに考えられるでしょう。その意味では、希望的な「共同幻想」であったわけです。

しかし、数学的な方法は、物理学や化学など、考察の対象の「分析の単位 unit of analysis」(原子や元素)が、それぞれにおいて「質的差異・変化」がなく、量的な違いだけがあるようなものである限りにおいて、実効性があつたのですが、「個人」のような、内面的省察によって、時間と環境の変化との関係において、「自分は何者であるか」と言う、セルフアイデンティティを再構築し続ける、言い方を変えれば「人間的に成長し、質的にも変化し続ける」対象が「分析の単位」である場合には機能しなくなります。

経済学でも、ケインズ学派のあとに登場した、まさに「経済数学」に立脚した

ネオリベリズムの経済学教科書の始めには、「本書では、人間の問題は扱わない。さもないと、理論の整合性が損なわれやすいからだ」と、大変素直に書いてあるものが見受けられました。

しかし、人間の行動の一側面である経済現象を、人間（経済主体）から切り離して、数学的に処理すると言うことが、そもそも、バーチャルであって、それを実態経済に当てはめて、具体的なオペレーションの手段として使えば、ウォール街を中心にした「金融工学」の破綻に始まる、経済危機が引き起こされるのも無理ないところです。

アメリカは、ベトナム戦争で、ベトナムと言う「小国」に無慚な敗北を喫しましたが、あの時、国防長官であったロバート・マクナマラ（後に、世界銀行総裁）は、大変数学の出来た人だったそうですが、戦線に注入した火力、兵員、武器等をベトナム軍の装備や兵員数と関連させて、Overkill Ratio を産出し、「計算上は、アメリカの勝利は確実だ」と確信して、米軍の増強や新兵器の投入を継続したそうです。

今回のアメリカ発経済危機も、なにやら、同じアホの繰り返しですね。

数学の本質は、むしろ抽象芸術のようなもので、自然現象と同質では無い。純粋に人工的な、バーチャルな世界を構築する作業であることを認識していない。

>人間の本能はほとんどないという言葉の根拠でしょうか？

いや、あとから出てきたデータですね。

大本にあるのは、旧約聖書の創世記の記述の理解の仕方です。

「人間は、神による天地創造の最後を飾るものとして、「神の似姿」(Imago Dei)としてつくられた」、とある言葉を、数千年前の砂漠の民に、宗教的なメッセージを理解させる為に用いられた表現であることを忘れて、これが、現実の世界の過去と未来についての「科学的知見を越えた」所謂真実の表明だと信じていた（アメリカの共和党员は、今でも三分の一がそう信じているそうです）、過去のヨーロッパ文明の惰性が、人間を最も完成された動物であるという思い込みを造ってしまったことにあるのでは無いでしょうか。

その点では、ダーウィンの進化論の単純な理解も、同じ帰結に導きます。「適者生存」とか「優勝劣敗」とか言う理屈で、押せばそうなりますが、もう半世紀も前に出たポルトマンやゲーレンの研究では、「人間を動物として見きって」考えてみれば、この地球の自然環境に生まれながらのままだに生きていけるようには造られていないことから、「欠陥動物」であるという、旧約聖書を盲信した過去の人間観とは反対の結論が出ます。この立場を、遺伝子研究の最近の成果は、支持する結果になっていると言うことです。

ただし、ポルトマンやゲーレンの人間と自然の関係についての理論と、DNA 研究の結論を関連付けて論じている例は少ないようです。

このような観点からすれば、特に日本的・農本的な社会で培われた仏教的な自然観の方が、人間と動物を優劣の関係で峻別しない、生きとし生けるものとし

て一視同仁する点で、現実的であるように思います。

＞ほとんど本能のない人間は母の胎内から出てきて社会的本能を発達させるのでしょうか？

「ほとんど本能がない」というよりも、他の動物がそうであるように、本質的に後天的な学習を必要としないほど、本能が完成した状態で生まれてくるのでは無いということです。言語によるコミュニケーション、直立二足歩行、など、人間の基本的な能力も、生得のものがそのまま発言するのでは無く、実は学習の結果であって、生まれた状態では、「学習すれば、二足歩行も出来るし、言葉を使うことが出来る」可能性の状態でしかありません。この可能性としての素質も、「早期の学習」の機会を与えられなければ、消失してしまいます。

幼児教育だの、子供のしつけなどと言うのは、将来の学歴社会で優位に立つ為では無く、「人間として成長する」ために不可欠なのだと思います。

したがって、GNP の計算では把握されていない、専業主婦・母親の経済的貢献度を考えれば、単なる「扶養家族手当」や「扶養家族減税」だけでは済まされないはずです。

「社会的本能」と言う表現の意味がよく判りませんが、本来、他の動物では完結している「本能のプログラム」の開口部、隙間、未完成部分を、形成していくのが、生誕後の人生での社会的学習であると思います。その為の訓練は、昔は大変厳格でありましたし、他所の国では、レベルの高い、色々な形での、単なる知識習得だけではない、厳格な学習が、社会的に高い地位に就人には要求されています。

単なるペーパーテストや、専門バカや、親の遺産だけではどうにも成らないことを、見せつけられているのが、この日本での昨今です。

＞イギリスの EU 加盟が遅れた

のには、イギリス特有の「大陸」に対する警戒心もあったとは思いますが、第二次大戦中に、ロンドンに亡命して、「自由フランス」（亡命政府）を樹立していたドゴール将軍が、イギリス側の対応を屈辱的だと考えていて、生涯ぬぐいきれない不信感を持っていたので、イギリスを EU に加盟させるのに長いこと反対していたことが原因の一つです。

もっとも、イギリス側にも、どうしてもフランスが中心になる「ヨーロッパ」には、ハマりきりたくないと言う傾向もあり、Economist 誌は、いまでも、Europe and Britain というふうに、イギリスをヨーロッパと区別して見ているように思われます。

第3章 「どっとねっと」における交流 2 ～思い出の日記から～

みかんさんの「思い出の日記シリーズ」

開設日 2009 年 04 月 24 日

管理者 みかん

—コミュニティ説明文—

どっとねっとをしばらくやってますと、ほとんどのコミュニケーションが日記ベースになっているのが分かります。

今日はどんな日記があがっているか、チェックするのが楽しみになってしまっている方も多いかと思いますが、私自身としては、あまりの回転の速さにもったいないと思うこともしきり。

そこで、そういう埋もれさせてしまうには惜しいと思う日記を、このスペースを使って、アーカイブできたらと思いました。

アーカイブしてどうするんだと聞かれても、うまく答えられないんですが、もしかしたら嬉しい驚きがあるかもと思っております。

トピック：2009 年 2 月 25 日 足跡がぼちっと残ってるんだず。

ーきょうこワンさん

2009 年 4 月 27 日

みかん : ある日の take さんの日記 (http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary&tar...) がきっかけで、どっとねっとで山形弁が再発見されました。再発見のきっかけは、もちろんマルチタレントを誇るきょうこワンさんでした。(^^)v
http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary&tar...

書き込み

きょうこワン: 誇ってないゾー。

マルチタレント＝百姓ですね(^_^)v

ココで、ハマりました。山形弁と山形ってどんなとこー？と思う方は以下にアクセスされたし。(けど、普通わからないと思いますが)

<http://blogs.yahoo.co.jp/haradakuse>

みかん : おかげさまで、以前はラフランスしか知らなかった私に、山形県がもっと身近に感じるようになりました。(^^)v

ATU : こや、この日記は見逃していました・・・

こうやって振り返ると、拝見していない記事も多々ありそうです・・・ ^ ^ ;

みかん : ATU さん

おー、そうでしたか。

そうって頂けると、やっぱり、このコミュ、意味があるかなって、少しだけ自信ができました。サキュー

ATU : おっと、上の自分の書き込みですが、

最近、誤字脱字が気になります・・・。^^ ;

知らない日記を見て新鮮に感じるのも、いいものだと思います。^^

日 記

はいー、ちゃんと元気になっていますよー。

犬ぞりとは別のこともやっておりました。

体を養生しすぎて、風邪菌を培養してしまったかと思う様なだらだらした回復状況の毎日なんだず。

take さんの日記で出会った山形弁いっぱいブログに毎晩ハマっておりましたー。 今日常なんか、とうとうワンコ達との練習で、山形弁ぽい話しかけになってしまった！！ なんかいいんだずー。 しかし、ズーズー弁と博多弁がなぜか混ざって来て、「ばってん」とか「んだず」とか大混乱。

山形で暮らしたのは高校2年と3年の2年間。酒田が大火事になってゼネコン勤めだった父が山形へ出張所開設を命じられいやいや転校したんだず。

せっかく、剣道でインターハイに出れるかもしんねーと言うとこまで練習がんばったんに、言葉も通じねえ田舎に、しかも友達もいねえ！もう、ホントにくらい青春の毎日だったんだず。

のはずなのに、何であんなに山形弁が頭に残っていたんだろー？？

懐かしい思い出は、サ克蘭ボの季節になるとサ克蘭ボ農家の同級生が袋一杯の極上ハネ品を持ってくるんですね。

休み時間中、ズーズー弁炸裂させながらそれを食べまくるんです。

以来、お店ではとても買えないけど、食べたい！ あのサ克蘭ボ。

暮らしていた借家は門付きの立派な作りだったけど古くて、なんと幽霊が出たんですね！ しかも座敷童も出たんだず！！

これは妹と数年後にお互い確認したので本当の話ですよ！

幽霊は、爺さんで、寝ている私の足をつかんでベットから引きずり下ろそうとしたんだず。顔も押さえつけられたし。

座敷童は、畳の部屋で走り回る足音と子供の笑い声がするんですね！！ ほんでんだず！（本当ですよ！）

家が寒くて霜焼け作ってました。 いくら北海道が寒いと言っても霜焼けはまだできていませんねー。

転勤族は行く先々で、一から友達を作らなくてはならないし、早くなじもうと、結構努力もするんだけど、またいつかは移動な訳で、幼なじみとのおつきあいとか出来ないんだズ。人付き合いがへたくそなのは、この頃に学習出来ていないからかも。 かなしー。
で、結局、北海道が居心地が良かったのかな・・・。
北海道での暮らしが連続いちばん長いですねー。

コメント

take : ほえー。状況が大分わかってきました。ズーズー弁もわずか 2 年で筋金入りですね。おみそれしました m(____)m
>もう、ホントにくらい青春の毎日だったんだす。
同情します。(ー-;))
>なんと幽霊が出たんですね！しかも座敷童も出たんだす！！
信じます。(ー-;))
>家が寒くて霜焼け作ってました。
昔は霜やけは言うに及ばず、青っ洩をたらしたものです。(´-)-☆
きょうこワンさんが書くと、悲劇っぽいのが喜劇っぽく明るくみえるから不思議です。山形繋がりの糸が一本できました。(´J´)
きょうこワン: 青ッパナは今出そうです。
ずいぶん昔の話なのに、しつこく覚えているもんですねー。
ズーズー弁は妹の方がずっと上手で私はカッコつけだったんでイマイチだったと思います。 本ばかり読むオタクっぽい内向的な女子高生だったかも。
いいところだったんですねー。シャマガタ！ 再びおとづれてみたい！
当時は山に全部囲まれているのが息ぐるしぐってかなわなかったずー。
湯殿山とか好きで 1 人で行きましたけど、霊山って言うんですか？
山伏とか修行する様な場所だから、なんか気配が漂っていたような。
幽霊とか座敷童とか、やっぱ、出るんですねー。
ね、きっとその爺さん幽霊、きちんとおくってもらえなかったのかもねー！
で、おくりびとに戻りましたー。
おてい : 剣道に反応したおていです。
インターハイ？
すごい！でも行けなかったんだあ……。残念。
我が家は何を隠そう（隠してないけど）家族皆、有段者です。
でもずっと続けているのは夫だけ。
少年団で指導してますよ。
なあんだー 竹刀持って犬ぞりいけばよかったあ……。 (笑)
きょうこワン: へー！

おていさんも剣士なんですね！！

私は冬練習にめげたへなちょこなんですけど、国士舘出身の新米先生（選手だった）に基本から叩き込まれました。その人が小さい人だったので、私も出来るかなというのが動機でした。

その高校の女子剣道部は 7 人しかいなくて、私が転校した年に県大会で優勝してインターハイに行ったんですよ。その後はしばらく常勝チームだったと聞きました。みっちり 1 年しかしていないんだから忘れた様なもんだと思いますが。パッと止めたからまだ覚えているかななんて。

結局、試合だから「戦わなくてはならない」訳で、競争心の弱いタイプは、てかクールすぎるのは、ココゾで弱いんですねー。

けど、剣道は今でもやってみたいです。全国大会はテレビで必ず見るようにしています。

初段まではとったんですが、転校して続かなかった。

転校した先にも剣道部はあったんですが、試合 3 人制だし、形なんか乱れてるというか、力まかせだし（こういうの苦手）、きっぱり止めちゃいました。道着はどこへいったんだろう。

あの頃より、今の方が腕力あったりして。

少しは根性出来ただろうから、面白いかもですね。

剣道体験（なんだそりゃ？）しにいききたいな。

アオタン土産にかえってくるね。

みかん : すんばらしーい（何弁だ??）

堪能しましたあ。（^o^）ほんでんだず！

take : 冬の剣道。お面と防具つけるの、つめたいんだよねえ。

高校 3 年間、どういう魂胆か、冬の体育は柔道と剣道ばっかしでした。

剣道、なすがすいっす。（笑い

>競争心の弱いタイプは、てかクールすぎるのは、ココゾで弱いんですねー。

ははあ、わかるような。

>。（^o^）ほんでんだず！

使い方が上手です。

take : そいえば、聞こうと思ってたんです。

（ここで、山形弁がカブ（-_-;）

きょうこワンさんは、あの渡辺えり子の後輩にあたるのかな？

<http://tuki-yama.jp/yamagatan/famous/?id=185&p=log&...>

mido : 私も剣道に反応して出てきました（^_^;）

うちも剣道一家です。私以外は。

父、兄、甥 2 人

妹、妹の夫、姪 4 人中 3 人は剣道してます。
妹夫婦、姪夫婦、姪 1 人は国士舘です。
私は、子供のころからだ小さくひ弱だったので、
（今は堂々たる太さですが）
剣道は 3 回行っただけで終わりましたが(^_^;)

*** : (≧▽≦)ノ彡

スンません 食いつけない・・・
けど 読んでいると 楽しい・・・・・・・・・・
なんとも スローリーに感じます。

take : >湯殿山とか好きで 1 人で行きましたけど、霊山って言うんですか？
わたしも 2, 3 度行きました。すごくスピリチャルなところですね。
感じないはずの当方ですら、ビンビンと。当時、絶不調の最中に行ったときは、パニック症になったような名状しがたい気分になりました。あの、オドロオドロシサは格別です。(=_=;)

きょうこワシ: >みかんさん

なにが、すんばらしいーんだづ???
ま、親の都合で育つ環境が変わっても、子にとってはすべてがその後の人生に役立つ経験になりうると・・・。
多様な経験をする、多様化する社会に生きていくにはプラスに働くでしょうか？
幽霊は勘弁でしたよ。
妹と数年後に「山形のあの家でさあー」と話したら、「ジィさんでしょ！」みたいなことになって、2 人でキャーとなったのですね。

きょうこワシ: >take さん

「冬の剣道」足つめたイーーーーーー!!!!
切れて血が出るし!! 小手硬いし!! 最悪!!!
でも体温まる? 精神鍛錬???
なづがしいすねはー。
>ほんでんだず!

これ初めて聞いた日、学校から帰って妹と笑い狂いました。
しばらくは、家に帰って復習で、その度に姉妹で笑い転げるの。

きょうこワシ: あ、残念ながら後輩じゃないっす。

高校の中途編入の話は聞くも涙だズ。
その当時、公立校の対応は、学区内で十分に選抜して入学した定員だから、そのときに欠員がいればテストを受けてもらうことは出来るけれども、その成績もワンランク上くらいでようやく選考対象になるって言われてテストも受けら

れなかったんですよ。で、泣く泣く私立女子高に。そのなかに進学コースがあってそこに入りました。（泣）

ぐれて、暗いハードロックとか聞いていたっす。

きょうこワン: >mido さん

こんにちはー！

剣道一家！！ さそがし小手の香りがしそう。

剣道って、カッコいいですね。 姿も技も、実戦でどのくらい役に立つかわからないけれど。

あと、男性は頭頂部が薄くなりがちだったり、女性は足が頑丈になりがち……。痛いのも臭いのも大丈夫な M 系でないと……。

きょうこワン: >owl さん

大丈夫、おいしい訳ではありません。

面白いのは owl さん格別でっす！

スローリー？？？ですかー。

山形弁はたしかにテンポは外されると思いますー。

きょうこワン: 湯殿山ってやはりそういう場所なんですね。

とてもとても不思議です。何がそういう感覚を起こさせるんでしょう？ ユーレイ？ 地磁気？ 電磁波？ 気温？ なにーーー？？？？

お寺とか、神社とか、大木のある森林とか、

どうしてなのでしょう？？？？？

らっこ : どこに反応していいのかわかりませんが、実意面白いです。

引っ越せない家業でしたから引越しは羨ましかったなあ。

剣道は痛いのと臭いのに辛抱？

今の私の仕事もそうです（＾＾）v

** : 薪割り体験におじゃましたときに竹刀の持ち方を教えてくださいね。

隊長はまったくの非体育会系の文弱。

体型は別ですが（＾＾；）

take : 湯殿山はそういうスポットのようですが、羽黒山の山道はおそらく（いったことのない）熊野古道に近いのではないかと想像しています。月山もまったく別の持ち味だと思います。

きょうこワン: >らっこさん

「引っ越せない家業でしたから引越しは羨ましかったなあ。」

無い物ねだりって言うんですか……。私が転勤族に生まれていなければどういう人生だったのだろう……。？と思います。

大好きだった狭山ヶ丘に住んでいたら、友達もたくさんで来た仙台だったら……。？福岡だったら……。？

フーテンディスティニーですねー。
痛いのは叩かれるから。防具をつけていても痛いもんです。
たまに外れるし。
臭いのは、防具が汗でだんだん臭くなるんですよー。
あの匂いがこれ又いいんですけど・・・。

きょうこワシ: > **さん

薪を割るのと、武道とつながりそうですね。
剣道って、正々堂々と相手を叩けるんですよー。
対戦相手を憎たらしいヤツと思って対戦するとすっきりするのでしょうか...。
・・・負けたら逆効果ですね・・・。
私も文系だったはずなんですが、どうしてああ思ったのかわからないのですが、
高校に入った時「運動をしなければならない!!!」って思ったんですよ。最初
はバレー部に体験入部してみましたが、そんなに小さいのになんで来るんだ
ーみたいになんて言われて辞めました。確かに正解です。

きょうこワシ: > takeさん

湯殿山、羽黒山、月山、蔵王（ちょっと違いますね）霊山と呼ばれる山がひと
つの県に集まっているのは、面白いですね。
東北6県って、すごいですねー。
クマの子道・・・いつもそう言う風に頭に浮かんで来て、なんかかわいい場所
ってイメージが出て来てしまう困った地名です。
ティディーベアみたいなクマちゃん達が森の小径を走り回っているんです。
きゃー、かわいいー！！
ちがうってば。

トピック: 2009年4月12日 議論でクジラをおいかける.....輪、和、ワッ!

ー Helvetiaさん

2009年5月9日

みかん : 実は、この日記、現在スレッドがまだ続いています。
4月1日にあげられた、こままささんの日記の続編で、「反知性主義」を違う切
り口で議論しようという試みです。
特にお勧めは、Helvetiaさんの近代日本の分析。読まないで、日本人は理解で
きません。
http://www.hokkaido-sns.net/OpenPNE2/public_html/?m=pc&a=...

書き込み

ATU : この日記のスレッド、なかなか唸ってしまいますね・・・

今、拝見したら、48 になっていました。

自分も一度、途中でコメントをしかけましたが、それぞれが繋がっているのに、書こうとする内容がズレていることに気がつき、つい、読んでしまうだけとなっております。

ま、ズレるといふか、場違いという感じがしてしまったのです・・・

そうこう考えているうちに、参加しないで、読むだけのスレッドもあるのだと、つくづく感じた例です・・・

それにしても、宗教&神は深いと思います・・・

あ、↑これを、書き込めれば良かったのかもですね・・・ ひひ

日 記

こままさんの「釧路と鯨食文化」の日記にのせていただいて、いつの間にかクジラを追い出してしまった形になりました。書き込まれた方、皆、こままさんの「網」の広さに、感謝しております！

同日記の最後の書き込みで、みかんレフェリーが、ゴングを鳴らして第2ラウンドを告げられました！（レフェリーは、自らリングにあがられるはずですが。.....それと、これはボクシングじゃなくて、むしろフェンシングのリングですね、レフェリー？）

レフェリーに従って、この辺で、第二ラウンドに行きますので、関心のある方、おやっ！という感じや、えっ？！という感じ、あるいは、それはこうだろう？という感じをお持ちになった方々、ご一緒にクジラを追いかけたいと思います。

こままさんの日記への書き込みで、いくつか、「くじらのしっぽ」（正確には尾びれ？）らしきものが、波間にちらほらと見えたので、そこを手がかりにして、日記の流れが繋がっていくと良いなと思います。

take さん

これまでの、「知性」の議論を少し吟味して当てはめると、

35番の書き込みで言われている：

>仏性というのは日常の、条件反射してしまう心の動きを止めたときに、..... 浮かび上がることがありますが

という下りで、「条件反射してしまう心の動きを止める」のは、知性の働きではないでしょうか？自己省察といえませんか？

知性は、論理的であると言われますが、論理的であるという事は、「問題を解決する」ことであり、ガチガチの論理学的ルールのことではないということ（K. ポッパー、A. カプランなど）なのではないか。だとすれば、「心の動きを止める」というのは、多分、座禅、黙想（カトリック）などの内面に向けられた行為に近いことなのではないでしょうか。

take さんの言われる神性・仏性（鈴木大拙のいう”日本的靈性”？）は、知性に基づく自己省察と・自己抑制（夾雑物を見分ける、明確に区別するという意味で批判的）な精神活

動によって感受されるとすれば、両者は、むしろ密接に連携していると言っていいのではないのでしょうか。霊性にいたるために知性を遠ざける、あるいは排するのはむしろ矛盾する行為なのではないかと、と思いますが？

今日はここまで！（もう明日になりました。おやすみなさい！）

コメント

みかん : Helvetia さん

どうもお疲れ様です。最近色々な名前と呼ばれている私ですが、実は横からハラハラドキドキしながら勉強させていただいているだけです。（＾＾）v

それにしても、「議論でクジラをおいかける」というタイトル、さすがですね。思わず、うまいっと唸りました。

鯨がこれほどまで人を感化するものだということになると、日本人のみなさま、おばけなどと言ってる場合ではありませんね。ひひ

実は私も切り口を自分なりに考えていたんですが、思いついたものは、少しばかり邪なものなので、それはまた番外編にということで。（＾＾；）

前回の議論では、最後の方で、こままささんから、

「実は私的には、日本人がなぜ知性を重視しないのか、については、山本七平さんが述べていた、日本人が得意な『臨在感的把握』に原因があるのではないかと考えていました。

臨在感的把握とは、神様がそこにいることがさも当然のように感じられるというようなもので、説明はつかないけれど、そこに神様がいることは分かるというような感覚です。

つまり日本人は、説明されなくても答えが分かってしまっていて、一度答えが分かってしまうと、いくら説明されても態度を変えないという性格が強いということです。

知性を戦わせて答えを導くというのが議論だとすると、日本人は議論などしなくても、実は誰と誰が議論しているというだけでどちらが正しいかというこたえにたどり着いているのではないのでしょうか。

だからそれ以上議論を続けることは実は余り意味がないという…。

さらにいえば、だからといって相手を傷つけるのは好きではない国民性から、議論が続いていることを別に止めもしないというような事ではないかと思うのです。

その直感力には優れていても、実は感情が先走ることも良くあって冷静な知的なロジックの積み上げは苦手という面もありそうです。」

という投げかけをいただきましたが、これは、また別のレベルの反知性主義なので、別の場で料理するということですね(笑)。

ということで、ここはご挨拶だけで、一度引き下からさせていただきたいと思います。^^

take : Helvetia さん

早速のご準備ですね。ありがとうございます。

>「条件反射してしまう心の動きを止める」のは、知性の働きではないでしょうか？自己省察といえませんか？

はい。もどかしい言い方で表現を許してもらえば、「心の動きを止めた先に別の世界が見えるらしい」と知るのが知性、そのメソッドを手にしてみるのも稀な知性かと思います。

で、そこに実際に入ってみるのは・・・「好奇心」(笑い)、それもそのまゑに「〇〇的」といいたいようなもの、ではないかと。

>「心の動きを止める」というのは、多分、座禅、黙想(カトリック)などの内面に向けられた行為に近いことなのではないでしょうか。

まさにそのことを指しました。仏陀はもちろん、キリストもマホメットも悟りを冥想から得ています。わたしは毎朝自己流のヘッポコ冥想を営みますが、ヘッポコですら、しばし心の動きを止めるのは辛うじて可能であることがあります。日本人がこだわった呼吸法も重要なメソッドですね。

では知性派の多くの方が冥想や座禅などのメソッドに近づいたか、といえは知性は門への矢印は教えるが、導きはしない…。あ、またこの話になってしまいました。(´_`;))

ただ、精神病理その他を解くカギをもつもののトップランナーが、実は冥想だと言われ始めているようです。米国では子供に冥想の前段を教えるエクセサイズが出始めたとも聞きます。

またまた、横道にそれそうですので、しばし退散をいたします。

>一緒にクジラを追いかけていただきたいと思います。

航海の安カランことを祈って。

collinmama : 洗濯しながらの覗きこみで、こんな時間になってしまいました。

お三方の書き込み、大変興味深く拝読いたしました。

私も話はずれますが、最近の若い世代をみるとどうも「知性」の考え方が違うように思います。

「知識」を知っている内容とすると、それを土台に考える力が「知性」ではないかと私は思うのですが、どうも彼らは「知識」の習得がメインになってしまっているのではないかと。

Helvetia : collinmama さん

こままさんの日記に書き込みをなさっていた、「ゆとり教育」を受けた世代から、大人(例えば教師)に疑問を出したり、議論をしたり、する生徒が少なく

なっているのではないかと言うご意見が、頭に残っています。

ゆとり教育は、教育のたがを緩める場所を間違ってしまったのかも知れません。教える知識の量を減らすとか、円周率をはしょって教えるとか.....。

「知識」は、「習得」したものが確実・不変だという印象を生徒に与えてしまうことも、今の日本の教育システムにあるのではないのでしょうか。

むしろ「ゆとり」は、生徒に、すべての「知識」の背後にある筈の「疑問の空間」を開いて、偉い学者が言ったことでも、生徒の経験と考えをもとにして、考え直してみる知的な「ゆとり」を可能にすることであるべきであったのではないのでしょうか？

生徒の疑問の立て方や、理由の説明の仕方〈問題の解明に繋がるかどうか〉を教師が指導するような時間を、十分にとらなければ、若い人たちが、自分の中や周囲に在る「問題」に気付き、考え、それによって自分自身を把握し直すことも出来なくなるのではないのでしょうか。

「生きるとは、問題を解く（明らかにすることによって「問題」でなくすることにつきる」と言う Karl R. Popper の言葉に重みを感じます。

collinmama : Helvetia さん

おっしゃるとおりです。ゆとり教育の本来の意味はそこにあったはずなのですが、違った方向になってしまいました。

ゆとり教育が失敗だったと言うのは簡単ですが、それではなんの解決にもなりませんし、今からでもできることはやろうと思っております。

>「条件反射してしまう心の動きを止める」のは、知性の働きではないのでしょうか？

>知性は、論理的であると言われますが、論理的であるという事は、「問題を解決する」ことであり、ガチガチの論理的なルールのことではないということ。

「条件反射してしまう心の動きを止める」ための「知性」になるように私はちゃんと対話をし、問いかけてきたらどうか・・・私にとっても重い課題です。

Helvetia : collinmama さんの書き込みに関わっていると思いますので、教えていただきたい事があります。

友人（アート／インダストリアルデザインのエージェント）のブログに、日本とヨーロッパを往復しながら制作し、個展を開いている日本人の造型作家が、「日本で個展を開いても、良いですね、キレイですねなどと言うコトバは聞かれるが、その人がなにを、どのように作品から受け取ったのかと言う、作家にとって一番関心のある事について、だれも何も言ってくれない。

ヨーロッパだと、作品を構成しているパーツやその意味や歴史について、好奇心に満ちた質問がされる」という事を書いています。

この書き込みに対して、以下のようなコメントを書きました：

.....私のコメントの一部分を転載.....

>日本では、国語の時間に、絵画作品を生徒に見せて、「眼で見たものを、それを見ていない人が想像できるように言葉で表現しなさい」などという教育は行われていませんが、ドイツの場合、視覚の印象を言語で表現する訓練がどの学年でも行われてましたね。

中学上級くらいの学年では、ピカソの、何を描いているのか一目では判らないような作品を、言葉で再現しなさいなんて、要求されてました。これはギュムナジウム（リセ）での話です。しかし、小学校一年生でも、具象的な絵に表されている事象を言葉で表現させたり、あるいは何枚かのスライドを見せて、そこから、ストーリーを考えさせるという事をドイツ語（日本で言えば国語）の時間にやりました。

さらに、高校レベルの美術の時間には、ハンス・ゼードルマイアーの、たしか、「芸術の美と真実」という、美学・芸術哲学の範疇に入るテキストを教材にして、美術担当の教師が授業を行っていました。

つまり、（日本の展覧会来訪者は）造型作品を見て、「いいですね」、「キレイですね」というだけでは、自分は何も把握できていない事を表明すると言う、実は無意味な（ナンセンス）な事を口にしてているのだということを、教えられていないのではないのでしょうか？ 作品から何かをつかめたら、それは当然言葉になるはずだとヨーロッパ人は確信していますが。<おわり.....

この辺りに、未だに日本が謎の国のように見られ、「本心を明かさない」、「腹に一物あるに違いない」などと思われている、外の世界とのコミュニケーションギャップが生じているひとつの原因があると思いますが、どう見られますか？日本の教育現場についての私の判断は当たっているのでしょうか？

みかん : ↑

なるほどお。興味深いです。

たとえば日本語では、主語無しに「おいしい！」とか「食べたくない！」とか言った場合、それは自動的に発言者がどう思ったかになりますね。

で、「私は...」という主語をつけて発話すると、「私はおいしいと思います。」、「私は食べたくありません。」のようになって、変な風に聞こえますね。逆に第三者を主語にして、「ピカソのゲルニカは一度見たら忘れられない。」、「ピカソのゲルニカからは、戦争の悲惨さがリアルに伝わってくる。」と大丈夫です。このような日本語の微妙な主語の使い分け、ここにも鍵があるのではないのでしょうか（ないかな ^^;)。

Helvetia : みかんさん

ポイントは、一人称の代名詞の使い方というよりも、モット具体的な、ここ何十年の日本社会の変化の過程で醸成されてきた、見知らぬ人との出会いの場で

のコミュニケーションの「仕方」、つまり社会的なツールと言うか習慣と言うか、そういう know-how が、うしなわれてきた事の現れなのかも知れません。つまり、「きれいですね」とか「良いですね」と言った場合でも、「おいしい」とか「食べたくない」と言った場合でも、それが、「私」という一人称の代名詞を「前提してる」事は、日本語の文脈では自明の事ですから、「私は」をくっつけて話さないという事には、なんの問題もないわけです。ドイツ語やフランス語にあるような名詞の gender が、英語では微弱で、格変化もない事が、英語の文脈ではなんの問題もない事と同じです（ドイツ語やフランス語に翻訳する時は、それなりの苦勞が翻訳者にはありますが）。

しかし、コミュニケーション状況（生活を共有していない、いわゆる他人との出会い）においては、「おいしい」や「食べたくない」のもう一步踏み込んだ説明がないと、不十分でしょうね。其の人物が、食べ物に対して、プラスに、あるいはマイナスに「反応」した事は明らかだけれども、其のくらは、犬やネコの反応でも判りますから。

ピカソの「ゲルニカ」については、戦争の悲惨さ以外の何かを表現しているとは思えない画面ですから、それを改めて言ってみてもあまり「意味」がない。むしろ、何が、つまり、作品を構成しているどんな要素（複数の要素とその組み合わせ方など）を見ている人がつかみ取ったか、それが、その人の内面で、どのようにしてそう言う印象を生み出したのかを、コトバにして初めて、「会話」のやり取りが、つまり、コミュニケーションが始まるという事ではないでしょうか。

たいていの場合、其の手前で止まってしまうのが、上掲の造型作家が、日本の個展会場で肩すかしを食わされるような印象を持たされる原因なのではないかと思います。

collinmama: Helvetia さん

ドイツのお話をい伺うと、やはり日本はハイコンテクスト文化だと思いますね。小中学校の教育については tenman さんのほうがご専門なのですが、一時期大手通信教育の B 社の小学講座におりまして、ゆとり教育世代が演繹法や帰納法、といってもそのような言葉はつかえないのですが、その r を利用した小作文なども取り入れていたのを思い出します。

実際子供たちがどのように説得などのコミュニケーションとして使っていたかはわかりませんが、子供なりにこういった課題にまじめに取り組んでいました。ですから素地はあるのだと思います。

では、そこから突っ込んだ話がなぜできないのか・・・。

おっしゃるとおり、この数十年間の社会情勢の変化は大きいと思います。

若者に限っていえば、1対1なら結構自分を主張しますが、「皆が」「世間」で

となったときにその領域というか世界が非常に狭い。

そしてメールは絵文字の氾濫。やはり「以心伝心」察しの文化なんですね。

collinmama : 質問にお答えしていませんでした。

>造型作品を見て、「いいですね」、「キレイですね」というだけでは、自分は何も把握できていない事を表明すると言う、実は無意味な事を口に出しているのだということを、教えられていないのではないのでしょうか？

教えられていないかどうかはわかりません。

でも予習不足のところが大きいと思います。というより相手の readiness をきちんと分析することを意識していないのではないのでしょうか。

みかん : Helvetia さん、ありがとうございます。考えを生焼けで発言しちゃいました。
(^^;)

ところで、

>その人の内面で、どのようにしてそう言う印象を生み出したのかを、コトバにして初めて、「会話」のやり取りが、つまり、コミュニケーションが始まるという事ではないのでしょうか

>絵文字の氾濫。やはり「以心伝心」察しの文化なんですね
に反応しました。

以前、こままささんの日記でも少し書いたことなんですが、この辺、日本のマンガ文化が何らかの形で寄与してないかと以前から思っていたんですね。
たとえば、ハリーポッターのようなストーリーが日本で生まれていたら、小説になっていなかったのでは。

そして、その理由の1つは、マンガのほうがお金になりやすいからなのではないかと。(イギリスでも、小説を先に書いて、映画化権を高値で売ることを夢見ている作家も大勢いると思いますが。^^;)

英語に、お手軽な快樂/満足感という意味の Instant Gratification という言葉があるんですが、日本でも、これも1つのキーワードになるような気がします。

Helvetia : collinmama さん

>やはり日本はハイコンテクスト文化だと思いますね。

>そしてメールは絵文字の氾濫。やはり「以心伝心」察しの文化なんですね。

みかんさん

>日本のマンガ文化が何らかの形で寄与してないか

>英語に、お手軽な快樂/満足感という意味の Instant Gratification という言葉があるんですが、日本でも、これも1つのキーワードになるような気がします。

お二人の書き込みが、共通の問題を視野にとらえているように思われますので、

新しい観点から、問題を提出し、皆さんと議論するステップにしたいと思ってます。

第一の問題は、ハイコンテクスト文化で、漫画・絵文字の氾濫。ハリーポッターのアイデアは、日本だったら小説になっていただろうか、ということの背後にある社会構造〈法律的な意味ではなく、人間の行動システムという、むしろ社会学的な意味で〉で、

ゲマインシャフト (vs ゲゼルシャフト)

コミュニティ (vs アソシエーション)

共同体 (vs..... 日本語では対語が見つからない！)

安心社会 (vs 自己責任社会・信用社会)

個人主義 (vs 集団主義)

という概念のペアを並べてみると、何れも最初のカテゴリーに入る社会に特徴的な、文化・コミュニケーションの形であるといえないでしょうか？

第二の問題は、日本は、何時も、現代がそうであると言われるような、ハイコンテクスト社会であったのだろうか？ もしそうでないとすれば、いつ頃から集団主義的な社会傾向が強くなってきたのだろうか？ 其の原因はなんだったのか？

という問題です。集団主義的な社会は、当然、ハイコンテクスト文化とコミュニケーションスタイルを醸成しますが、其れは、変化し得るのではないか’ という事が、問題の根っこです。

少し考えてみたいと思います (というのは、今別の仕事の追い込み、本当は (追い込まれ(oo;)) 状態にあるので、少し時間をいただいて、考えさしてください。

おやすみなさい

みかん : おやすみなさいませー。

ちなみに、Instant Gratification の反対語として Deferred Gratification という言葉あり、すぐに満足感を得たいという衝動をコントロールする力を意味するそうです。

この力について行なわれた有名な実験があつて、マシュマロ実験と呼ばれています。

==ネットで拾って来た説明==

「1960 年代にアメリカのスタンフォード大学の心理学者達で行われた「マシュマロ実験」というものがある。

4 歳の子供の目の前にマシュマロを置き、15 分間食べるのを我慢できたらもう 1 個マシュマロをあげるといいその場を去り、15 分後までその子供を 1 人でマシュマロの前に残しておくというもの。

そして、何十年後かにその実験をした子供達の状況を確認したところ、マシュ

マロを食べるのを我慢していた子供の方が、社会で成功しているというもの。」
(<http://naotake.blog.drecom.jp/archive/74>)

この↑のブログの中で、農耕文化という言葉が出てきますが、もしかすると、日本人の一部は本当に農耕民族ではなくなっているのかも知れない???
くー、この素人臭がムンムンする発想…自分でもたまりません。^^;

Helvetia : みかんさん'

これは、J.Diamond: Guns, Germs, and Steel, Norton, 2005 (3 rd.Edition) で、歴史・地理学的に述べているように、文明は農耕民族から急速に進歩し始めた、あるいは、マックス・ウェーバーが、「プロテスタントの倫理と資本主義の精神」で、近代資本主義の資本蓄積の成立を説明する際に言及している社会／心理的メカニズムのひとつを、実験心理学的に跡づけたのですね。

>日本人の一部は本当に農耕民族ではなくなっているのかも知れない???

現在、日本の農業就業者は、約3百万人（1990年は、500万人）、その三分の二が60歳以上（1990年には、50%）ですから、到底農耕民族としては暮らしてませんし、先祖が農耕民族であった事の「記憶」を持って生きている状態でしょう。

ただ、変化のスピードが急速です。

collinmama : Helvetia さん みかんさん

第一の問題は、背後にある社会構造（法律的な意味ではなく、人間の行動システムという、むしろ社会学的な意味で）で、

第二の問題は、いつ頃から集団主義的な社会傾向が強くなってきたのだろうか？
其の原因はなんだったのか？

まとめて頂いてありがとうございます。お仕事が終わりましたら、ぜひお願いします。

<ゲマインシャフト (vs ゲゼルシャフト)

キャッ！勉強し直しをしなければ……。 すっかり忘れました（汗）

みかんさん

マシュマロ実験・・・

もし、私が4歳の被験者だったら、食べちゃった方です。（爆笑）

コリンと同じで・・・

<本書55pより

・マシュマロを直ぐに食べるな。しかるべき時期まで待てば、もっとたくさん
のマシュマロを食べることが出来る。

う・・・・ん、この見えざる閉塞感のなかでそれがわかるか・・・

言うのは簡単なんですけど・・・。

Helvetia : collinmama さん

昨夜書きました、一連の対比の最後の列の順序が逆である事を発見しました！

正しくは：

集団主義（vs 個人主義）です。

「夜更かしは三文の損」という事でしょうか。危ない、危ない！

みかん : Helvetia さん、collinmama、マシュマロに反応していただき恐縮です（笑。

>社会／心理的メカニズムのひとつを、実験心理学的に跡づけたのですね。

なるほどお。プロテスタントの倫理ですか。うーむ。

私も、子供の頃、待てるような子供ではなかったのは確かです（笑。

実は、この実験、先日テレビのドキュメンタリーでたまたまやっていたんですが、なんと、本当に待てる子がいるんですね。その子は、待っている間、他の事を考えたり、マシュマロから目をそらせたり、いろいろするわけです。

で、余談なんですけど、Helvetia さんも collinmama もヨーロッパに住んでらしたことがあるのでご存知かと思うんですが、イギリスでは、子供が、よその子がお菓子を食べているのを見たとき、すぐさま、親に自分にも同じものを与えてくれと声を出して要求することはほとんどないようなんですね。

これに気がついた時、本当に驚きました。

単なる、しつけの方針が違うだけかもしれませんが、面白いなと覆った記憶があるので、ここに書いてみました。^^

Helvetia : みかんさん

飼い犬達の中にも、買い主以外の人が与えた食べ物は、絶対に食べないようにしつけられている犬もいます。ドイツに結構多かったような気がします。もし、飼い主が先に死んでしまったらどうするのでしょうか？

うちの子ども達が育った環境（ケルンの中流の住宅地）では、よその子がいたらお互いにみんなに同じようにお菓子を分配してましたね。（ひょっとして、平等社会の幻想をインプットしてしまっていたのか？）。

イギリスの子どもはそんなとき、どうしつけられているのでしょうか。

親は、子どものなんと教えるのでしょうか？

我が家のビーグル、ゴンタ君にはそういうモラルは通用しません。もっとも、この子の（放浪生活以前の）幼児教育は、どうだったのか知る由もありませんが。

collinmama : こんばんは！

くもし、飼い主が先に死んでしまったらどうするのでしょうか？

国は覚えていないのですが、それで殉死した犬がいたそうです・・・。

私の周りでもいますが、しつけというより肥満防止のため、飼い主が愛犬にはローカロリーのおやつを、他のワンちゃんにはビーフジャーキーあげて（笑）

＜農耕民族であった事の「記憶」を持って生きている状態でしょう
日本の農耕文化・・・記憶から「DNA」になったら怖いですね。

Helvetia : collinmama さん

＞それで殉死した犬がいたそうです・・・。

犬は「殉死」したつもりは全くないでしょうにね。

＞飼い主が愛犬にはローカロリーのおやつを

うちの犬は、ネコ用のローカロリーのエサしか食べなくなりました。

同居ネコのエサ皿から失敬してるうちに、カリカリも毛玉防止用ののが大好きになり、米のメシにオカカをまぶして、ネコ用の練り物のエサをかけると喜んで食べます。

飼い主の感から行くと、この夏頃には、にゃあと鳴くビーグルになるかもしれません。

人間ならば90近い歳で、幾つも病気を抱えてますので、もう食べたいものを食べさせてやろうと思ってます。唯一の楽しみですからね。医者は、大好きなパンを食べさせるな、塩分があるので心臓病が悪くなるなんて行ってますが、無視！

みかん : Helvetia さん

＞飼い犬達の中にも、買い主以外の人が与えた食べ物は、絶対に食べないようにしつけられている犬もいます。ドイツに結構多かったような気がします。もし、飼い主が先に死んでしまったらどうするのでしょうか？

あ、これは、イギリスでも、一緒ですね。

食事中、人のお皿にのっているものには、絶対手をつけようとしない、人間の習慣が犬にも強要されているということでしょうか。猫には寛容みたいですが。(^^;)

食べ物を分け合って食べるというのは、普段の生活でも、親が子供に奨励していますが、お菓子とか人と同じものを欲しがって、親にねだる子供をほとんど見たことがないんですね。

あ、私の責任で、話を凄まじく脱線させてしまいました。申し訳ありません。でも、お二人様のペットへの愛情に、しばし和ませていただきました。(^^)v
では、No. 13に戻りますか。(^^;)

Helvetia : みかんさん

NO.14 以下、おかげで面白かったです！

犬猫の飼い方、子供の育て方、色々ですね。

昨日は同窓会の会合で東京まで、一日つぶれました。今日は、三島から音楽屋（ピアノ教師、オーケストラ主宰、ホルン吹き／釣名人、木工作家.....）の友達が遊びに来ます。

仕事を仕上げねばート思いつつ、そんなことを楽しみにしてます。

実に矛盾してます、

No. 13 のつづき、結構おおがかりな問題になりそうです。

みかん : Helvetia さん

ひひひ、現実逃避の甘美なることを私も充分存じてます。^^

こうやって行ったり来たりしてたら、すごろくゲーム感覚になりそうですね

(笑。でも、これも、Helvetia さんが、冒頭で投げかけられた疑問を考える下地になるのではと確信しております。

>No. 13 のつづき、結構おおがかりな問題になりそうです。

本当ですね。ブッシュ政権のキリスト教原理主義の反知性主義を論じるのとは、まったく異質のような気がしますし。

半年とか 1 年とかかかるかもしれませんが、みんなで楽しんでいけたらと思っています。

仕事のように感じてしまつては、元も子もなくなってしまうので。^^;

Helvetia : > 現実逃避の甘美なること

これ、まさに悪魔の誘惑。昨日、今日と二連発で、疲労困ぱい。

> 仕事のように感じてしまつては、元も子もなくなってしまうので。

全くね。おおいなる空想と、大胆な仮説であそび回りたいですね。

それをチェックすることがまた、次の思考のコヤシになるだろうとおもいます。

今日はこれで、寝ることにします。

オヤスミナサイ！

collinmama : < 現実逃避の甘美なること

はい、私もむさぼっておりました。

一度コメントを書いたのに、確認段階でほかのHPに移ったため

あえなく消えてしまいました。

さて、明日からまた若者のハイコンテクスト文化？に戻ります。

あえて「若者の」としたのは、通常私たちが言う「ハイコンテクスト」とはちよつと違うようなきがしているので・・。

Helvetia さん

おやすみなさい！

Helvetia : みかんさん、colinnmama さん

昨夜は 21 時頃に就寝してぐっすり眠り、もう朝かともってパッチリ目をさましたら、なんと 0 時過ぎ。それから以降にねられ寝ません。

さっそくですが、第一のレポート。1930 年代まで、集団主義社会は、職場・企業の世界にはなかった！

集団主義社会と言う日本の社会・経済界を広くおおう、行動様式、ルールが、

できあがったのは、1945 年の敗戦以後のとであって、
1930 年代初頭までの日本は、企業の組織・行動形態でも、会社内の行動様式でも、実は遥かに階級社会的であり、むしろ、ヨーロッパの社会に似ていた、明治以後の日本で最初の労働者のストライキが始まったのは、1890 年代の、陸軍軍需工場であり、それから、1930 年代初頭まで、一年として、大規模な労働争議が各地で起こり、警官隊とそう同社が衝突するような出来事のない年はほとんどなかった、

父の勤めてい三井物産’ 石炭部小樽支店港湾作業部門では、労働者は直雇いではなく、独立の「組」に所属し、組の親分が配下の労働者を会社に口入れしていた。今で言えば、「派遣会社」。労働者は、夏冬を問わず、地下足袋に法被、股引を着用、冬でも外套を着ないので、どこを歩いていてでも、直ぐに身分が分かった。

会社のサラリーマンと労働者〈沖仲仕〉が口をきく場面は先ずなかった。別世界。事務所にいるサラリーマンにも、本社〔東京〕雇いと現地雇いの区別があった、長のつくポジションは先ず本社雇いの人間が独占し、給料にも大幅な違いがあった。

さらに、物産の各支店は、事実上独立営業で、A 支店が、特定の石炭の種類（採炭地の種別、石炭の等級＝大部分は船の燃料用炭）の発注を受けてその備蓄がない場合、B, C, などの支店に問い合わせ、送ってもらう。その場合、支店同士の取引は一般の取引同様、供給側が一定もマージンを上のせした値段で発注した支店に売る渡す仕組みで、支店の営業成績にこれが響いた。

と言うような、ドライな仕組みだった。階級の区別のはっきりした、自己責任が、明確にされる社会だった。朝、仕事にあぶれた労働者は、在る程度生活程度の良さそうな家を回って、からの弁当箱に飯を詰めてくれとたのんで歩いたようだ。港の仕事は不定期だった。

銀行の倒産もあり、会社の買収もあいついだ。メインバンクが面倒を見てくれると言う 1950 年代以降の形態はなかった。

そのような会社の風景が、日米開戦前後に一変する。労働者もサラリーマンも、経営者も、日本産業報国会、と言う国策組合に組み入れられ、国民服と言う同一の制服を着せられ、経営トップと労働者が、始めてかを見知りになり、話をし、新年会などで同席して酒を飲むこともあるようになった。会社の所有者〈資本家〉の権力は抑圧され、マネージャー〈経営者〉が直接軍需省などからの生産指令を、業界団体を通じて受領し、それにしたがって生産する形式。

このような、戦争準備の為の経済の組織変更が軍需省・企画院主導でおこなわれ、資本主義的経済は、計画経済に取って代わられ、銀行・企業集団が編成され、そのシステムが 1970/80 年代まで続いてきていたのです。持ち株会社〈ホ

ルディングカンパニー〉禁止、銀行貸付が金融市場にとってかわる、生涯雇用、年功序列賃金がますます徹底する、そう言う企業社会になったのです。

でもどうして、そのような企業な組織が 1970/80 年まで続くようにな、それはこのつぎにします。

次回は：

＜GHQ と戦時中の計画経済専門家が造った戦後社会＞

Helvetia：＜GHQ と戦時中の計画経済専門家が造った戦後社会＞

昭和 20 年、敗戦後、日本は米国を中心とした（といっても、米国以外は本のお飾りの代表団がいただけでした）連合軍に占領統治されました。しかし、やはり敗戦国のドイツとは異なって、日本国政府も議会も天皇制も、敗戦以前と同じ国政制度が存続し、すくなくとも日本国が消滅する事はありませんでした。ドイツは、米英仏ソの四カ国の軍政の下におかれ、四つの占領地区に分断され、ドイツという国家は、4 年間、政治的には消滅し、単なる政治地理上の「地域」にすぎない状態になりました。

＜昭和 20 年後の経済社会の大変革＞

しかし、日本国政府を介しての米国（いわゆる「占領軍総司令部」GHQ）の日本支配には、独特の特徴がありました。それは、日本においては、ドイツでは行われなかった徹底的な農地改革が実行され、大規模土地所有者は、自家で耕作できる広さの土地だけを所有する事が許されることになり、それまでの小作農が（当然それぞれは小規模な）自作農家になりました。尤も、この政策は、「本来、日本政府が発案し、GHQ が此れに反対しなかった唯一の政策だった」、という人もおります。

さらに、ドイツではイー・ゲー・ファルベン（IG Farben）という巨大化学会社以外は適用を免れた財閥解体が、日本では徹底的に行われ、ドイツでは、あの有名なクルップ社もジーメンス社も温存されたのですが、日本では、例えば商社の場合、100 名以上の社員を有する事が禁止され、大きな商社も無数の小企業に分割されました。鉄鋼、造船、機械などの大生産会社も、幾つもの中堅規模の企業単位に分割され、さらに、大資本家は、所有していた株券をほとんど強制的に没収され、米軍のトラックで、米兵が山のような株券を（例えば三井家から）運び去る情景がニュースに流れました。

日本の農村に、ヨーロッパのような大規模農業が成立しにくくなったのには **こういう事があったから**なのですが、一方、新しく生まれた多数の自作農家では、農業収入の増加と、農地の売却が可能になった事から、現金収入が増加し、やがて、日本の産業が製造する商品のために、一挙に膨大な国内消費市場が準備される結果にもなりました。

一方、多くの企業では、経営の上層部は、戦争遂行に協力したという理由で、

公職追放になり、同時に大企業の分割で小会社がたくさん出来たわけですから、昨日までの一介のサラリーマンが、突如、部長だの、重役、社長に就任、会社経営の経験や重大な意思決定をおこなった経験のない人が、多くの従業員とその家族を食べさせなければならない事になりました。しかも、戦後の大混乱の時代ですから、中・長期の経営方針も建てられない。経験も浅く年も若い新経営陣は、従業員全体の支持を取り付けることによって、少なくとも会社内での対立紛争の危険を避けようと努めました。そのような状況の下では、従業員の誰もがよく知っているやり方で物事を決めるという線に落ち着くのは当然だったのでしょう。それが、戦後日本企業で盛んになった、農村をモデルにした「企業共同体」化です。

このような、戦後日本の占領下で行われた大改革には、1930年代に、企画院などで、予想される対米戦争準備の為の経済総動員計画の策定に当たっていた左翼系の官僚が、GHQにいた、ニューディール政策時代のアメリカの左翼系官僚と連携して、社会主義的な社会経済システムを作ったと言う裏があります。(1930年代のアメリカの若きインテリが、社会主義に傾いていった様子は、メアリ・マッカーシー「The Group」に活写されています)。

終戦後に造られた戦後経済復興の総司令部と言っていい「経済安定本部」の長官やその次官は、1930年中頃に左翼系官僚が検挙された企画院事件で逮捕され、戦後復活した人たちでした。日本が、のちに、世界中で「唯一の成功した社会主義社会だ」と言われるようになった大きな理由がこれです。

＜農村共同体での意思決定がモデル＞

企業の意思決定を、全員一致とする原則がそのひとつです。いま、手元にある日本統計年鑑（平成4年／1992年版）によると、昭和35年（1960年）頃の労働力人口（15才以上の就業者）を農林業と非農林業（製造業、サービス業など）にわけると、農林業に従事している人1名に対し、非農林業は3.5人で、農村の人口比率が非常に高かったことが判ります。主に都会にあった非農林業の企業で働いていた人たちも、農村地帯の出身者も多かったでしょうし、親の田舎との絆も深かったでしょう。〈1947〜49年に生まれた団塊の世代／ベビーブーマー〉が、「金の卵」などと呼ばれて、大量に地方から大都市の産業地帯に就職するのは昭和37年頃からです。

日本の水田で使用できる小型の田植え機、ハーベスター、コンバインなどが開発されたのも、昭和35年以降でした。それまでは、農村の米作などは特に、村人総出で、順繰りに、一軒ずつの農家の水田の田植えをしたり、草刈りをしたり、稲刈りをしたりしたわけですから、そのような、現実生活での共同体が、鎮守様の社を中心として行う祭りも、村全体の密接な連帯の自然な現れでした。このような、水耕稲作地帯では、多くの場合、水田は谷間に広がり、一本の川

の流れをいくつもの集落が灌漑の為に利用していました。もっとも重要なのが、春の田植えの前に行われる水の利用に関する寄り合いで、そこでは、昔から、地主や小作、大農家と小農家の区別なしに、全農家の代表がそれぞれ焼酎のびんを携えて集まり、河の上流から下流へ、流水の各水田への配分の時期について話しあい、幾晩もかけて、全員一致の結論に至るまで〈みんながヘトヘトになって、反対の声がなくなるまで〉意見を出しあった、在る意味での「草の根民主主義」です。〈K. ウィットフォーゲルの「オリエンタル・デスポティズム」における、無知が証明されてます。マルクスも、M. ウェーバーも、「東洋〈オリエント〉では、どこでも、大地主/領主/国王の巨大な権力が農業用灌漑施設を独占的に管理することで、農民を搾取していた」と思い込んでいたようです。東洋をメソポタミア辺りから、遙か東の日本まで広げてしまう、典型的な「欧州中央史観」の好例〉。

静岡県三島市の隣町の町長さんは、若い頃は、河の流水の引き入れの決まりが守られているかどうか、特に水泥棒を監視する為に村の青年が自警団を造り、夜中に田んぼを見回ったそうで、ときには、隣村の青年達と、水の引き入れをめぐって大げんかになり、けが人が出たこともあったと言っていました。この人の年令からして、終戦後に起こったことでしょう。つまり、江戸時代以前から続いてきた「水耕稲作を中心とした水社会」の共同体的行動様式は、息長く第二次大戦以後までも続いていたのです。実際、三島市の北部にある農村地帯では、1980年〈昭和55年〉ころまで、昔から続いてきた、神社参詣の二つの講〈大山詣でと秋葉山詣で〉が実在していました。

（日本の米作農村と水の関係については、玉城哲著「日本の社会システム」農文協1982年、および、「水社会の構造」論創社1983年、を参照してください）。今回は、〈企業の神社〉です。

では、おやすみなさい。

みかん : Helvetiaさん、息を吞んで拝見しております。ありがとうございます。まるで手品の種明かしを見ているような感じです。

実は、イギリスに来て一番衝撃を受けたときは、私の両親がもしイギリスで同じことをしていたら、恐らく今のような生活が出来ていなかっただろうと気が付いたときでした。

私の両親は、学歴も高くなく、自営業をやりながら身を粉にして働くことで今の割合快適なリタイヤ生活を勝ち取ったんですが、ワーキングクラスの間がこれほどストレートに報われる、そして、教育の大切さを堂々と信じられると社会というのは、こちらにいればいるほど奇跡のように思えてなりません。

私のイギリス人の友人も、私の生い立ちを話すと、どう認識していいのかわからないような表情をするときがあります(ミドルクラスの間より、ワーキング

クラスの人間に、逆にこの傾向が強いような)。階級という考え方に余りにも慣れているイギリス人にとって、日本の社会はなかなかストーンと落ちない不思議な社会なのではないかと思っていました。このせいで、ときとして、痛快に思うときもあります。^^;
次回も楽しみにしております。

Helvetia : みかんさん

日本よりも、左翼イデオロギーが強力で、その歴史も長い、しかも、労働党とか、社会民主党と言うような政党が政府与党になっているイギリスやドイツの方が、日本のように、高等教育の機会を社会的に平等に解放することになってはいないように見えます。

ドイツでも、ワーキングクラスの人にとっては、大学教育は、手が届き難いところにある、決して当たり前の進路とは思えないものであるようです。

日本の歴史では、「教会」や王侯貴族のような、強力な社会階層が、事実上、文化を独占した歴史が殆どないと言っていいのではないのでしょうか。さらに、戦後日本の資本主義経済が、実は、「社会資本主義」と言っていいような、成功した実験であったこともその要因だと思います。

しかし、日本の指導者達は、そのように日本を対外的に説明することを避けてきましたので、海外では、これまでの日本の経済・社会の本質を知ることが難しかったのだと思います。

唯、これからの日本をどうするか、と言うことが大問題です。

みかん : >しかし、日本の指導者達は、そのように日本を対外的に説明することを避けてきましたので、海外では、これまでの日本の経済・社会の本質を知ることが難しかったのだと思います。

私自身も、こちらにいなかったら、気づく事ができたかどうか自信がありません。^^;

>唯、これからの日本をどうするか、と言うことが大問題です。

まさに！

collinmama : ゆっくり、拝聴したいのですが、締め切りものが2つもあって・・・(泣)
お預けをくらったワンコの心境です。

Helvetia : みかんさん

私も、日本社会の固有の性格に気付いたのは、ドイツで社会学をやり始めてからだだったのですよ。つまり、日本と言う国の歴史とその社会や経済のあり方が、近代ヨーロッパの知識階級の常識、つまり、歴史学や社会学の定番のような理論には当てはまらないと言うことに気付いたので、中学・高校時代にはあくびのでそうにつまらないと思った日本史の文献を、日本から取り寄せて読んでみましたが、今度は、当時〈今から数十年前の話！〉の日本史学者の書くことに、

すくなくならず幻滅して、自分なりに考え直し始めたのですが、とんでもないことにハマってしまったと思っていますところ。

思想史的な問題としては、江戸時代の合理的な思考をした儒学者達、荻生徂徠屋新井白石などが思い浮かびますが、彼らの思想的伝統で育てられた筈の、明治維新の元勳達が、その伝統を日本の学校教育や、政治政策・社会経済政策の思索から放り出してしまったことでしょう。それを、欧米の「近代的」な思想や理論で置き換えようとしたのですが、それはいまだに根付いていない。

ヨーロッパの現代思想は、いまだに、特に 17 世紀以来の啓蒙思想（デカルト、ロック、カントなど...）の伝統の継承と対決の上に成り立っているのですが、日本は、ライシャワーをはじめ、アメリカの日本学者が、徳川時代なしに、日本の近代化はあり得なかったと言っていた徳川時代を、ほとんど無視して、所謂近代化が出来ると思ってきたようです。そのツケが今回ってきたように感じています。

Helvetia : collinmama さん

> 締め切りものが 2 つもあって・・・

お察しします！

締め切りモノが幾つあっても困らないような人が書いたものは、所詮それなりのもので、安易に大量生産された文章は、心に残りませんね。

御健闘をお祈りします！

collinmama : Helvetia さん

ありがとうございます。なんとか終わりました。

< 日本のように、高等教育の機会を社会的に平等に解放することになってはいないように見えます。

高等教育機関の中にいると、往々にして忘れがちなこのことを、中国や韓国からの留学生と接していると気づかされます。

< 戦後日本の資本主義経済が、実は、「社会資本主義」と言っていいたいような、成功した実験であったこともその要因だと思います。

案外、中国人の一部はそれを意識したのかもしれませんが。

< 欧米の「近代的」な思想や理論で置き換えようとしたのですが、それはいまだに根付いていない。

西洋思想史を一般常識程度にしか理解していないので、肯定も否定もできないのですが・・・

確かになぜそうなのかを考えると戸惑うことが多いです。

take : Helvetia さん

とびとびで拝見していたのですが、もう一度特に 28 以降を拝読しました。

日本社会をどうとらえればいいのか、西洋社会とどうつながっているのか、日

本の針路はどう歪められているのか、などいつもどおりはっとすることが多く感謝しました。

Helvetia さんがお書きの石炭労働を一種の階層としてとらえたことはありませんでしたが、なるほど、石炭の博物館などで見た「組」の仕組みが使い覚えのないこれに相当する、というのは驚きでした。

また、戦前のある時期、日本のエリートの多くが鉱業、とくに石炭産業に就職し、道北の下川や夕張などに東大出身者が結構いた事実などと、また引きの労働者などがひと繋がりにかなりリアルにイメージしました。

>私も、日本社会の固有の性格に気付いたのは、ドイツで社会学をやり始めてからだだったのですよ。つまり、日本と言う国の歴史とその社会や経済のあり方が、近代ヨーロッパの知識階級の常識、つまり、歴史学や社会学の定番のような理論には当てはまらないと言うことに気付いたので、中学・高校時代にはあくびのでそうにつまらないと思った日本史の文献を、日本から取り寄せて読んでみましたが、今度は、当時〈今から数十年前の話！〉の日本史学者の書くことに、すくなくとも幻滅して、自分なりに考え直し始めたのですが、とんでもないことにハマってしまったと思っています。

おかげさまで、わたしたちは Helvetia さんの呻吟の末の果実を、いとも簡単にしゃぶることができます。(^_^;) 歴史認識に全くうとく中学生レベルの知識しか持たないわたしも、ほんのたまに垣間見た欧州の景観という表面と結実を目の当たりにしそれと先達の著作をもとにしながら、日本のあり姿を自然に考察してみるのですが、読み解けないことばかりです。

>…日本は、ライシャワーをはじめ、アメリカの日本学者が、徳川時代なしに、日本の近代化はあり得なかったと言っていた徳川時代を、ほとんど無視して、所謂近代化が出来ると思ってきたようです。そのツケが今回ってきたように感じています。

自らの、この、歴史的存在感のおぼつかなさはここからくるのでしょうか。

たとえば親鸞などを読んで行くときに感じる、歴史でつながる日本人の脈のような快感は、アイデンティティの安心なのか、とふと思いました。

いつも、ありがとうございます。

Helvetia : collinmama さん

<欧米の「近代的」な思想や理論で置き換えようとしたのですが、それはいまだに根付いていない。

ということの「実験のような体験」は、1968 年のパリから始まったヨーロッパの学生運動（あれは「革命」だったという人もおります）が、ソルボンヌ大学の、パリ郊外にあるナンテル・キャンパスで始まったとき、学生たちが校舎の壁に書いたスローガンの文言でした！

なんと、「デカルトを殺せ！」というものだったのです。

これは、あの 1650 年に亡くなったルネ・デカルトの思想に代表される、17 世紀以来の啓蒙哲学が、300 年以上もたった 20 世紀の後半に、いまだに、フランスの（そしてヨーロッパ全体の）学校教育の根幹にあったのだということの証拠です。

学生の反乱は、リセ（高等学校）から大学までの、当時の教育システム、その当局による運営の姿勢など、教育体制全般に対するプロテストに始まったのですが、日本の同じ頃の全共闘による学生運動で、「新井白石を殺せ！」のようなスローガンを掲げてみても、所詮、「何のこと？」という反応しか生まなかったでしょう。

他方、戦前戦後の日本の思想界にもっとも影響のあった西欧思想といえば、まずマルクスでしょうが、1930 年代初めに始まり、第二次大戦時の数年間をのぞいて、戦後にまた続けられた「日本資本主義論争（講座派・労農派論争）は、膨大な数の参加者と刊行物にみられるとおり、歴史的な大論争でしたが、今からみると、巨大な空回りであったとしかいえないでしょう。参加者の思考訓練の機会になったことは事実でしょうが、生徒・学生の教育の核心になったとはとうていいえませんし、それに変わるような、思想・論理の中核が、いまだに見えてこないという状態ではないでしょうか？

Helvetia : take さん

北海道の港湾労働者（石炭の船積み作業、沖仲仕）しか見ておりませんが、階層というよりも、社会的現実の中に現存していた「階級」だと思います。服装、ものの言い方などにも、独特の共通の特徴があり、工場労働者とも一線を画した雇用形態でしたし。

この人たちは、戦争が終わった後で初めて、冬にオーバーを着用するようになりました。

> 自らの、この、歴史的存在感のおぼつかなさはここからくるのでしょうか。たとえば親鸞などを読んで行くときに感じる、歴史でつながる日本人の脈のような快感は、アイデンティティの安心なのか、とふと思いました。

同感です。明治維新以後の日本の近代化が、少なくとも経済や科学技術の分野で成功であったとするならば、それを準備していた、いわば「プロトモダン」な要素が、明治以前の思想の流れのなかに、強い力として存在してははずなのに、「近代」をそれにつなぐような教育を受けてきていない我々にとっては、まさに

> 歴史的存在感のおぼつかなさ

が、いつも通奏低音のように意識の中にあるわけです。しかし、この繋ぎを示唆してくれそうな本も、なかなか見つかりませんで、タイトルはそれっぽくて

も、中身は違うという感じ。ただ、

丸山真男：日本政治思想史研究、東京大学出版会、2004年（第14刷）

が、荻生徂徠を中心に、徳川期の儒学の展開を論じていて、「つなぎ」の手がかりを与えてくれそうです。

>いつも、ありがとうございます。

とんでもない！こちらこそ、モヤモヤをなんとか形にして外に出すと言うストレス発散の機会を得られて、ありがたく思っております！

Helvetia：前回の日記の記事は、第二次世界大戦後の日本の社会は、ある意味で、人工的な社会であったということでした。それは、沖縄をのぞいて地上戦はなかったにもかかわらず、約80%ともいわれる都市が焼夷弾を使用した空爆で破壊され、それに近い%の工場施設が破壊され、既存の大規模企業は解体されて、細分化された、いわば、「ゼロ地帯」となった日本の社会・経済を、再建する過程で、巨大な問題を解決する糸口として、それまでには企業の世界に存在しなかった、組織と意志決定のシステムが（大変動に対する社会集団の反応として）採用されたことが大きな要因であることを述べました。

茫然自失の状態に放り出され、経済の基礎である企業の指導者も無経験な人々であり、そうでなくとも騒然とした社会でありましたから、すべての従業員が理解し、納得し受け入れられる意志決定の方法と、組織の原理として、その頃は多くの人が見聞きしあるいは体験していた、昔ながらの、「水社会」であった水耕稲作の農村の作業・組織・意志決定の仕方が、戦後日本の企業に移植されたということです。

戦後日本の企業は、「農村共同体」を組織のモデルとして出発しました。

その象徴ともいえる現象が、「企業の神社」です。日本の古い企業の中には（たとえば三井物産を中心とした三井系企業）のように、創業者である三井家が江戸の本町に呉服店越後屋を開業して以来、守り神として祭ってきた三囲（みめぐり）神社を、同系企業の守り神としてまつっている（1970年代の変動相場制、オイルショックなどの危機に際して、三井系15社の代表一同が加護を願って参詣したと記憶する）例もあります。しかし、

神社新報社から昭和61年に出版された「企業の神社」（宇野正人記者の取材）に拠ると、「テレビ朝日稲荷神社」（昭和39年創祀）、カゴメの「伏見稲荷神社」（37年）、東洋水産（まるちゃん）の「幸稲荷神社」（36年）、中部製糖（沖縄）の「中糖神社」（34年）、王子製紙の「王子神社」（35年）、救心製菓の『筑波神社』、および救心商事の「薬祖神社」（それぞれ昭和44年）、日本鉱業（現：日鉱金属）の「山神社」（46年）、日本航空の「日航香取神社」（成田空港、53年）、宮崎放送の「MR Tセンター五所稲荷」（59年）、北陸電力の「有峰湖神社」（37年）、日本空港ビルディングの「穴守稲荷神社」（28年再建）、「羽田空港神

社」(38 年) いずれも羽田空港内、

のような、戦後、昭和 20 年以降の創祀の例があげられています。

さらに、東芝、新日本製鐵、日立製作所、石川島播磨重工業(現: I H I)、トヨタ自動車、竹中工務店、サッポロビール、キッコーマン、資生堂、アサヒビールその他の大企業は、戦前からの会社の神社をもってるそうです。

最近では、

中牧弘允著、「会社のカミ・ホトケ」(講談社選書メチエ、2006 年)では、企業の「会社墓」についても、報告・考察されています。関西の会社が大半を占めるそうですが、膨大な数の高野山にある「会社墓」(供養塔・慰霊塔)や、比叡山にある会社墓について述べてあり、それは、主として創業者および従業員の物故者の霊を供養・慰安するために、「特に戦後、多くが建立され」、1980 年代に建立された例(キリンビール)もあるといわれています。

会社の興隆繁栄を願う「企業の神社」と、会社という共同体に所属していた物故者の霊を供養するお寺の「会社墓」は、まさに、家や村のような共同体が、歴史的に大切にしてきた神道と仏教の宗教的な役割分担に見事に適合しています。

この文献では、米山俊直(文化人類学者)の、歴史的な「地縁」・「血縁」にかわる、「社縁」という日本固有の新しい共同体原理が誕生したという主張が紹介されています(38 ページ; および註 21)。この「社縁共同体」が、特に終戦後に発達したものであることは、すでに述べました、戦後の混乱から会社組織が再び新しい形で活性化する際に、水耕稲作を主とした農村共同体の組織原理を、製造技術や研究開発に関してはすでに高度に近代化されていた日本の企業が、「人工的に」取り入れた、いいかえれば、伝統的な「地縁」にもとづいた共同体の組織原理を、企業組織結合の新規の原理(社縁)として取り入れたということです、つまり、戦後の企業組織の特質は、決して従来の伝統がそのまま無作為に発展したものではないということの裏付けになっていると思います。

この現象は、日本の社会全体に、大きな変革的影響をもたらしたと考えられます。日本人の生活が、年とともに、ますます企業による雇用に依存するものとなりましたから、中心的な企業の「会社内社会」の変化は、多様な業務上のネットワーク(下請け、取引関係など)を通じて、中小の企業にも影響を及ぼし、それは、次第に社会全体の生活と行動のあり方に及んだと考えられます。

昭和 40(1965)年頃(日本の貿易黒字が構造的に定着した頃)から、平成 4〜5 年(1990 年代初め)頃までの日本社会は、戦前からの文化的・社会的伝統が、連続して生成発展した結果である、あるいは、第二次世界大戦以前の日本社会が、当然そうあってしかるべき発展のメカニズムに則って、自然に、到達した状態なのではなく、大都市と近代的な産業経済を基盤とした社会が、「人工的に」

いわば「再共同体化」されることによって生まれた、特異な「安心・安全」社会であったのだと思います。

つづく

みかん : Helvetia さん

いただいたコメント No. 34、ありがとうございます (すっかり遅れてしまいました)。内容をまだ 100%消化しきれていないんですが、今↑を拝見し、絶句してしまいました。

「再共同体化」！

確かに、こういう説明していただくと、本当にストンと落ちます。

ヘッドハンティングなどで、ひっきりなしにトップが変わり、いかに戦力をつけるかが最重要課題になっているこちらの企業は、確かに「共同体」といった感じはしないです。(^^;)

それにしても、「企業の神社」に「会社墓」とは！

Helvetia : みかんさん

>それにしても、「企業の神社」に「会社墓」とは！

この問題、日本国内では、あまり注目を引かないようです。社会学でも、近代化論や宗教社会学のトピックになりそうなのにさっぱりです。

日記に出てきている神社新報社の「企業の神社」も、個々の事例を集めているだけで、日本社会、経済界あるいは企業の経営様態などと絡めての分析はないのですが、いまだに、1986 年に出た版がネット上で販売中のようです (初版が売り切れていない?)。

ほかの先進工業社会では、会社や事業所が、自前の「教会」を持っているなどということは考えられませんが。

日本国内ではそこら中に神社や祠があるので、会社の中にそれがあっても当たり前、いっぽう、海外では、近代的な企業と「神社」、あるいは「会社墓」の取り合わせがあまりにもエキゾチックすぎて、手をつけようとはしないということなのかもしれませんが、実は、これは、深い意味のある問題だなのだと思います。

みかん : Helvetia さん

こちらでも日本でも、オーナーが自分の信仰に基づいて、会社の運営方針に宗教のエッセンスを取り入れている企業や会社がありますが、「企業の神社」は、これらとは確かに違うような気がしますね。

個人的に、神道に関しては全く無知なので、神道を「信じられないことを信じる」ことを前提にしている他の宗教(私の知っている範囲での)と同じように見ていいのかどうか、まだ分かっていません。

日本の伝統的共同体文化の中核をなしてきた神道が、今もその役割を近代日本

社会で果たしているということが、どういう意味を持つのか。企業という団体が、疑似宗教団体になっているという言い過ぎなのか。まさに、〈深い意味のある問題〉なのだと、今回気がつきました。ありがとうございます。

「企業の神社」、さっそく注文してみます。

collinmama : Helvetia さん

レスが遅くなりました。

くなんと、「デカルトを殺せ！」というものだったのでした

そうだったのですが・・・存じませんでした。

というより加藤登紀子の「美しき5月のパリ」の歌で知ったぐらいで。

く生徒・学生の教育の核心になったとはとうていいえませんし、それに変わるような、思想・論理の中核が、いまだに見えてこないという状態ではないでしょうか？

そうですね。第二次世界大戦後、教育基本法（旧法）ができたときもアメリカ教育使節団の影響が大きい。おっしゃるとおり日本の思想・理論という重要なところがその時に揺らぎました。

く伝統的な「地縁」にもとづいた共同体の組織原理を、企業組織結合の新規の原理（社縁）として取り入れたということです

く大都市と近代的な産業経済を基盤とした社会が、「人工的に」いわば「再共同体化」されることによって生まれた、特異な「安心・安全」社会であったのだと思います。

ものすごく勉強になります。というか、勉強不足を恥じています。

take : 「水社会」を引きずりながらも

く、「ゼロ地帯」となった日本の社会・経済を、再建する過程で、巨大な問題を解決する糸口として、それまでには企業の世界に存在しなかった、組織と意志決定のシステムを産んだという説は、その複雑なしくみと背景を理解する上で助けになります。企業神社は出光の宗像神社やいすゞ神社なども見ました。安全祈願と社業繁栄をみんなで祈る依り代程度の理解でいましたが、まるで、稲作地帯の田の神、山の神、氏神と同列のものだったとすれば、別の見え方になります。

昨年から、世界と日本のコモンズの勉強を細々としていたのですが、コモンズがもつナワバリと自制、規範、対立、協議などは、確かに企業社会とか社風のようなものと重ね合わせてみるときに、ニュアンスとして近いものを感じています。

く、「人工的に」いわば「再共同体化」されることによって生まれた、特異な「安心・安全」社会であったのだと思います。

ここもその文脈で理解するとよくわかります。そして今、わたしは地域で自然

発生するソーシャルキャピタルが、今でもやはりどうもこの地縁が芽であり地縁によってバーストする、という仮説にちょっととりこになっているところで
す。(´_`;)

Helvetia : みかんさん

>神道を「信じられないことを信じる」ことを前提にしている他の宗教(私の知っている範囲での)と同じように見ていいのかどうか、

神道のばあい、明治以降国家によって各地の総計 18 万という、古来の民衆の農耕生活と密着した（土俗的？）神道信仰や行事が禁止され、12 万の社に統合され（各地の鎮守の森を接収して財源とする意図もあったらしい）、いわゆる「国家神道」（現在の神社神道）にされてしまっていて以来、神道信仰の本来の姿が見えにくくなりました。何が神道なのか、分かりにくくなってしまったのですが、個人的には、「人間の知恵と能力を超える自然の力（生産力、破壊力）の向こう側に、超自然的な「何か」を感じていた人々」の、信仰心が本来の神道的なものなのではないかと考えています。

哲学的には、ルドルフ・オットー「聖なるもの（Das Heilige）」やデュルケームの「宗教生活の原初形態」などで述べられている人間社会と宗教的信仰の根源的な関係に含まれる、その意味でやはり、神道信仰も「宗教」であると思います。

「信じられないようなことが書いてある教義＝言葉」を信じるか、あるいは、「言葉には書いてなくとも実生活を通じて想像できる信じられないような力の存在」を信じるか、という相違はありますが、信仰者の側からすれば、違いはないように思うのですが。

キリスト教（カトリック）にも、本来は大いに「土俗的」な要素があります。「困ったときの神頼み」は普遍的だったので、たとえば「雨乞いの祈り」もありますし、ポルトガルには、「神よ、我らを、邪悪なるカスティリア人（＝スペイン人）より守り給え」という祈りの言葉が 20 世紀に入っても存在していたそうです。ロシア正教などには、そういう要素はもっと濃厚にあるだろうと思います。

Helvetia : collinmama さん

>加藤登紀子の「美しき 5 月のパリ」の歌

この歌は、知りませんでした！

ミュンヘンから、パリまで出かけて学生・労働者と警官の対決の現場を見に行こうという計画は立てたのですが、行ったら、フランス警察の機動隊にぶん殴られていたかもしれません。でも、ちょっと残念。

80 年代にできあがった社会システムが急速に変化して行っている現在ですが、これからがどうなるのか、あるいはどうすべきか、歴史的な展望を視野に入れながら考えることが必須だと思っています。

Helvetia : take さん

>稲作地帯の田の神、山の神、氏神と同列のものだったとすれば

「社縁」共同体は、「田の神、山の神」のような、自然の「力」の「場としての地縁」を仕立て直した観念ですから、自然の力の代わりに「集団の力」の場としての会社・事業所が想定されると思います。そうすると、むしろデュルケームがあげている、集団統合の象徴であるトーテムが集団の成員によって共有され、そのトーテムが機能する上で必要な行動の規範（タブー、典礼など）が全員によって実践される、その意味では、「田の神・山の神」と、本質的にむしろ近いのではないかと考えられます。

「氏神」は、現在では、「地域」の守り神である鎮守様と同義と考えれば、「企業の神社」には、直結している概念のようですね。

日本の企業の特徴である、入社式、朝礼、社歌、社訓などを見ると、やはり、ヨーロッパなどの企業とはだいぶ違う、上の43の書き込みで、みかんさんが使っている「疑似宗教団体」という表現が可能なような、「行動様式」上の特徴があるように思います。

コモンズというと、日本では昔からの入会地ですか。これをまた国は認めたくなくて、国有財産にしてきたらしいですね。それで、住宅団地を造って売り飛ばす。「遊休地」と見なされてしまうんでしょうか。そもそも、土地の私的所有権という概念がよくわかりません（国有でも似たようなものです）。憲法上で所有権と使用権の区別をはっきりさせれば、少しはましだと思うのですが。

take : >コモンズというと、日本では昔からの入会地ですか。これをまた国は認めたくなくて、国有財産にしてきたらしいですね

わたしもちゃんと勉強したわけではないのですが、GHQのかかわりのなかで、近代的所有権に統一しようとした、と聞きます。共有財産や財産区を基本的に私有に区分する。そうすることによって、入会的所有は壊滅した、と。

しかし、歴史の浅い北海道などはとくに、2,3代前に来た人が縄をはって所有を宣言したというウソのような本当の話もあるわけですね。北欧の万人権のように、そもそも土地は風土と同様「みんなのもの」というとらえ方が（大きな声ではいえませんが）のさばって欲しい。土地の再利用、ダウンタウンの再生などは個々に行き着くのではないかな…。

あれ、タイトルはなんでしたっけ？とスクロールしました(爆

よた話ですいません m(__)m

Helvetia : take さん

空気や水は原則万人共有財という見方が成り立っていると思うのですが、土地だけはどこにも私有制があるのが不思議ですね。

文明の発達、定住農耕型社会の成立と密接に関わっていると言うことを考え

ると、マルクスの考えていたことの意味もわかるように思えます。

まったく

>そもそも土地は風土と同様「みんなのもの」というとらえ方が（大きな声ではいえませんが）のさばって欲しい。

と思います。

少なくとも、「公共の利益は、土地等の私的所有の権利に優先する」という一行を、憲法の条文に加えてほしいものだと思います。

トピック：2008年2月27日 - 女は偽装する？

ー グリとグラさん

2009年5月8日

みかん：個人的に忘れられない日記の1つ。日記のオーナーは現在どっとねっとを遠ざかってしまいましたが、ググさんのレガシーは今なお、どっとねっとに生き続けているのです。（^）v

http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary&tar...

書き込み

らっこ：この日記、交流がなかったので知りませんでした。

しかもこの方、ずっと女性だと思っていました（^；）

その衝撃たるや…

みかん：>その衝撃たるや…

ですよー。

少なくとも、イギリスには絶対いないタイプです。このかた、PC もまったくやりませんし（爆。

ATU：このときのコメントを思い出しました・・・。

偶然が意図したと思われるのではないかと感じたときの

微妙な心理を上手に描いた例で、なるほどと思っていたものです。。

ああ、懐かしい・・・

take：ああ、あの頃、Helvetia さんが署名なしの頃だったのねえ（笑い

サンナンポーはクレランポーのあと、燃え尽きたのかも。（爆

彼に、「受けるのもつらいんだ」、と聞いたような。太宰治みたいです。

みかん：確かに、ググさんの存在は、ときとして、痛々しく、それでいて、快感みたいな。

リアリズムの巨匠でありました。（^）v

日 記

さっき、カレンダーを見てまして、気づきました。

ピアノの先生からバレンタインデーの「ころ」にチョコレート頂きまして。

今、チョコレートを頂いた日が14日だったのかどうかを調べたんです。

そしたらチョコレートを頂いたレッスン日はちょうど14日でした。

曜日のことは意識して分かっていたのですが、その木曜日が14日であるかどうかまでは意識していなかったの、今、カレンダーを覗いて初めて分かったのです。

私のレッスン日は毎週火曜日に指定されています。

しかしその前日月曜日は、仕事が終わらなくて火曜日の朝方までかかってしまいました。

私は先生に電話をして、急遽、木曜日にずらしてもらいました。

火曜日が都合が悪いときは、木曜日に振り返るというのがこれまでのルールでした。

先生は木曜日は生徒たちの振り替えの日に当てているのです。

だから、ずらしてもらった木曜日が14日だなんて特に意識していませんでした。

そして、今、考えたのですが、

「わざわざ、14日にずらしたってことは、この人、バレンタインデーを期待しているんだな」

と先生に思われたのかも知れないなと思ったのです。

俺っていやな奴？

それとも、えぐい奴？

(どっちもいっしょやね)

これまで、先生にチョコレートを貰った経験などなく、

キレイなピアノの先生に初めてチョコレートもらったもんですから

今のいままで、ず〜と、気分が良かったんだけど・・・、

ちょっと、今、複雑な気分です。

ああ、カレンダーなんか、確認しなければ良かったな、くそー！

・・・以上、ミクシーのピアノコミュに書き込んだ内容をほぼ全文転載しました。

私が立上げ、管理しているコミュなのに、ずっと放置状態が続いていたので、新しいトピックとして書き込んだのです。今、なんてしょうもないトピックを書き込んでしまったんだろうと後悔しています・・・

それから一晩寝てからの今朝、さらに、妙なことを考えました。

あの日、先生が私にチョコレートを渡してくれるときに、「奥さんにも差し上げたんですよ」とわざわざ付け加えていたことを思い出しました。

妻も、先生にピアノを習っているのです。

しかも、同じ火曜日にです。

その日の木曜日が14日だったということは、火曜日は12日です。

12日にチョコレートをわざわざ渡したりするもんだろうか？
14日に会えないから別の日に渡すってことも考えられるけど、
義理チョコでそんなことをわざわざするのだろうか？
しかも、女から女へ。まして、その女は私のよめはんだぜ。
どう考えても自然じゃない。
こう考えるのがより自然ではないだろうか。
先生は私にチョコレートを渡したかった。
だけど、私には妻がいる。
でも、どうしても渡したい。
しかし、ストレートに渡すのは恥ずかしい。
そこで「よめはんを出汁に使う」と考えた。
本当は私にだけ渡したかったんだけど、「奥さんにも差し上げたんですよ」と言って、
さも、その「チョコレートは義理なんですよ」と偽装する。
しかも、作為ある偽装！
ああ、純朴でキレイなぼくだけの先生！
きのうカレンダーを何気なく見たばかりに複雑な気分になっていたのが、
今朝また晴れた！

コメント

bun : 考えすぎ！（笑い）
でも幸せになれる方向ですね！
グリとグラ：今、とっても幸せです。

atu : おお、これは奥が深い。
義理チョコの場合、日が違うと上げたりはしないハズ・・・。
これは、もしかすると、もしかしますね。（＾＾）

金魚 : 10代の男の子みたいですね。ニャハ
ポジティブシンキング、いいことです^^

グリとグラ：分かってくれる男。
突き放す女。

atu : いいコメントです。（__ __）ノ__多☆バンバン！

やっさ : >しかも、作為ある偽装！
思わず、作為なき偽装？に思いを巡らせました。（＾＾）
当方、孫4人からのみ。今からホワイトデーが待ち遠しい…。（＾＾；）

Otsucar : 当店では店内で義理チョコは禁止しています。
必ずもらえない人がいるからです。
w(11`□´;)w ガーン ナデボクダカモエナイー

take : ググさん、そりゃあ、妄想の世界だなあ。

おてい : 3月14日のホワイトデーは金曜日

3月2週目のレッスン日について

「火曜日も木曜日もこちらの都合が悪いので

グリグラさんは金曜日に来てください」

と、先生に言われるよう祈っています。

福袋に入っているクッキーは間違っても持っていかないでね。

グリとグラ : ◆やっささん、ホワイトデーが待ち遠しいですか？

ほんとなら、お返しとかってせがまれて、鬱陶しいんだけどね。

お孫さんならせがまれても可愛くてしょうがないって感じですね。

◆Otsucar さん、ということは

Otsucar さんの店内では、

義理チョコじゃなければ許されているわけですね。

おお怖！

バレンタインデーなるものが定着したのは、私が高校生くらいになってからだったような気がします。

それ以来、もてるものともてないものとの悲哀をず〜と感じて生きてきました。

今は、義理チョコなんてのが流行りまして、妄想力こそが

幸せへの近道だと思えるようになりました。

幸せは、幸せな人にあるのではなく、幸せだと思える人に

あるのだと思っているのですが、こういう考え方では駄目でしょうか。

◆take さん、

ということで、妄想でもいい、もう暫くそっとしておいていただけませんかでしょうか。

◆おていさん、

福袋にクッキーが入っているのかどうかは分かりません。

超ミニスカートが入っていたというのは確認済みです。

これ、いいですねえ。

娘から取り上げて、先生にプレゼントしようかな。

ますます、ピアノ教室が楽しくなってきました。

もう、上手になるとかそういうことは問題外です。

3月14日以降、「ピアノのある教室」ということに名前は変わります。

オカリナねえさん : これだけのこと（スマン）でこれだけ書けるだなんてさすがググさんね！

でも私の感じとしてはこれは義理チョコではないかも---

奥様にも上げて、表面上は自分の気持ちをおさえてる、って。

これは由々しきことかも。

不倫につながるかも――ン？

おていさんの

3月2週目のレッスン日について

「火曜日も木曜日もこちらの都合が悪いので

グリグラさんは金曜日に来てください」

となったらば～、エライことですわ。

でも色々想像すると、楽しいね♪

グリとグラ：◆オカリナねえさん、

ほんと嬉しいです。

妄想した甲斐がありました。

由々しきことが、世の中には沢山起こっています。

なぜ、僕だけには起こらないのだろう、といつも不満に感じておりました。

ますます、HAPPYな将来が待っているような気がしてきました。

♪明日は僕のためにある～

後日談も詳しく報告させていただきます。

やっさ　：ホワイトデーも楽しみ、後日談も楽しみ。ひひ。

Helvetia：グリとグラさん

♪オカリナさんの推理、すごいですね、こわいですね！

我々男どもの行動もこういう女性的・直感的推理力で分析されているわけですね。

♪♪明日は僕のためにある～

ですか？お気をつけあれ。ピアノの先生も女性ですよー

『♪明日は僕のためにある～』では、何度もソフトな肩すかしにあって、痛手を負いました……………

♪3月2週目のレッスンは、魔の日かも？

atu　　：かなり笑えるコメントが多いですねえ～（T▽T）ノ__彡☆ばんばん！

みかん　：クレランボー症候群：

恋愛において、自分が相手に愛されているものと曲解する、極度の妄想癖を持った精神病のこと。

いかがでしょ。ひゃひゃひゃ。

Helvetia：アンドレ・モーロワが書いてましたが、男は空想に生きる生き物なんだそうです。女はいつも足下にしっかりした大地を感じていなければ生きていけない生き物だと。その証拠に、『女は、新婚旅行にも小説を持っていく、現実の世界を忘れないために』。

クレランボー症候群という名前は初めて聞きましたが、どうも病気じゃありません。

せんね。Y染色体固有のDNAじゃないでしょうか？

みかん : >クレランボー症候群

なんか無神経なことをコピペしてしまいました。ググさん、お許しくださいませ。

実はこの言葉、ちょっと前の映画の予告を見ていて初めて知りました(イアン・マキューアン:愛の続き)。作家というのは、面白いところに題材を求めるものだなあと感心していたところ、ググさんの日記に。

>Y染色体固有のDNA

なるほど、なんとなく、明瞭になってきました。^^;

グリとグラ: あれっ、また、コメントが増えてるぞい。

みかんさんの病名宣告のコメントを読みまして、一生懸命インターネットで病名を調べながら治療法を調査しておりました。

以下、ひとまず調査結果のレポートです。

.....

Helvetiaさん、聞いてくださいまし。

オカリナねえさんの推察力も凄いですけど、

みかんさんの診察力ももの凄いです。

誰もがグリグラに対して、「この親父、妄想癖強いやっちゃなあ」というところまではお感じになっていただけたと思いますが、ずばり、病名まで付けていただけるとは思っていませんでした。

で、ですよ。

早速調べました。

クレランボーってなんやろ?って。

兄が2人いるから私はサンナンボーやんかあ!

いつから、クレランボーなんて呼ばれるようになったんやろ?と不思議に思いました。

で、

症候群なんちゅうたら、聞こえのいい病名に思えるけど、相当ヤバイ病気だったらどうしようと思ってびくびくしながら調べたんです。

したら、どのホームページにも

ずばり、「あなたは、エロトマニアです。」と出てきました。

エロとマニアですよ。

これ以上、名誉な病気がこの世の中にあるでしょうか。

私は、もうこの病気を宣告されて、立ち上がれないわけでした、

といっても、当然、私の息子はエロとマニアですから昼夜問わず、のべつ幕無しに立ち上がっているというオカシナ現象を呈しているわけでございます。

私には娘はいるんだけど、いつから息子が現れたのものかとますます不思議に思いました。

オカシナ現象といえば、オカリナ姐さんの名前にちょいと似てませんか。

なんだかんだと言いながら、

女は偽装する？なんちゅう、安直なタイトルをつけてしまったがために、女性の方々を敵に回すことになってしまいました。

実は、問題はここからなんです。

病名がはっきりした以上、それどう直すか、治療すればいいのかということになります。

私は、治療法の載っている HP を早速見つけました。

ここです。

<http://homepage3.nifty.com/kazano/erotomania.html>

このホームページの最後に、こう書かれてました。

「さて、ではどうやって治療するか、ということになるのだけれど、これが難しい。大橋貢らなどは「総じてこの種の患者に対する治療はきわめてむずかしい。とりわけ純粋型に対してはいかなる治療法も功を奏さない」と、さじを投げているくらいである（純粋型というのは恋愛妄想のみが存在するタイプ。それに対して、二次型は分裂病に移行したり他の妄想と合併しているようなタイプ。意外に思えるかもしれないけれど、純粋なエロトマニアより、分裂病などと合併している方が治りやすいのである）。」

どうですか、

現在の進歩した医療技術をもって

「いかなる治療法も功を奏さない」と断罪されている訳です。

これには、さすがの私も萎えてきたわけですが、以外にも息子やせがれは却ってますます元気になってきたりしている始末。

世の中ますます分からなくなってきました。

.....

みかんさん、お気になされることはないですよ。

どんなコメントも私には愉快的なものです。

勉強にもなりますし、ただ、問題は、私の調査レポートにもありますように、息子やせがれが全然勉強してくれないということなんです。

元気なだけを取り得ってのも問題ですわねえ。

Helvetia さん、

「女はいつも足下にしっかりした大地を感じていなければ生きていけない生き物だと。」という下りには、男の私にも直感的推察力が働きました。というか、小説はむしろ現実の世界から逃避する作用があるのかと思い、せがれや息子を

足下に引き連れてらっしゃるご婦人方も多いのではないかと思ったりしたのですが・・・。

Helvetia：グリとグラさん

モーロワは、『新婚旅行』についていっているのですが
>せがれや息子を足下に引き連れてらっしゃるご婦人方は、だいたいその後の年月の多くなっている方々ですね。
人間は状況の動物である、なんて、誰か言ってなかったかな、とおもいますが、そんな生き物である事は確かでしょう。

グリとグラ：Helvetia さん

もう、愉快でたまりません。
女性を敵に回した分、男の先輩方々を味方にできた思いでさらに愉快になっております。
男だって、息子たちは女性の味方でしかないわけで・・・
所詮、男の裏切り者ですから。
特に、ご婦人方には滅法弱い、情けない裏切りモノ！
(はあ！)

Helvetia：グリとグラさん

付け加えるの忘れてました。
縄文時代の精神科医（がいたとして）ならば、現代の人間をどう診断したでしょうか？
たぶん、自己破壊欲望症？
クレランボー症候群とやらは、昔ならばごく健全であったのではないのでしょうか。（これは、J.-J. ルソーも賛成する意見だと自負しています。）

グリとグラ：Helvetia さん、有難うございます。

昔、母からよく言われました。
「お前は、縄文時代に生まれておれば、立派な男じゃったのに」って。
ルソー！もエミールでは、縄文時代型男児の教育法までは書いてくれていなかったような気がしました。
クソー！

グリとグラ：Helvetia さん、

付け加えるの忘れてました。
そう言えば、ルソーは、自然に帰れ！なんて偉そうなこと言っていましたよ。
わたし、縄文時代人に向かって、これ以上、どこに自然に帰れって言うつもりなのかと、しばし考え込んでしまいました。

Helvetia：グリとグラさん

ルソーの「自然に帰れ！」は、「そして文明をぶっこわせ！」と続くのですが、

ルソーが紹介された頃の日本では、革命的な思想は御法度だったので、偉い先生方も、この後の部分はさっぱり紹介していないようです。ロベスピエールはルソーを死の少し前に見舞っていますし、マルクスの革命思想も、ヘーゲルよりも、むしろ、ルソーの『文明をぶっ壊せ』という声の方により強く影響されていたと思われます。

『文明をぶっ壊せ』というのは、確かに穏当ではありませんが、時々ソウダー、と思ってしまうくらい、引力がある言葉です。

いつまでも縄文時代に憧れている

Hermetia

みかん : いやー勉強になりました。この打てば響くどつとねっと。たまらないです。(^^)/
ググさん、お大事に。ひひひ。

グリとグラ : 「いつまでも縄文時代に憧れている」

おお、これ、男のロマンです。

『文明をぶっ壊せ』

これ、阪神ファンにも共通する通奏低音です。

だんだん、過激になって行きそうです。

「死に至る病」はヘーゲルだったでしょうか？

(読んだことないけど、タイトルだけは覚えさせられたような気が・・・)

で、ヘーゲルさん、

「死に至らない病」って、どんなやまいじゃあ？

だんだん、壊れて行きそうです。

グリとグラ : みかん さん

いつか、仕返しをご期待あれ！

世の中の淑女、ご婦人方に、目覚めさせられたせがれが
そう申しておりました。

みかんさん、くれぐれもお大事に。ひひひ。

グリとグラ : Y染色体、

我はやまいなり。

固有のDNAと人は慰めてくれますが、
ちょいと、撥ねると、元気がよろしうて。

(ああ、金魚さんの仰ってた10代の僕に戻ったようだぞ！)

Helvetia : >で、ヘーゲルさん、

「死に至らない病」って、どんなやまいじゃあ？

えー、ヘーゲルさんお出になれないようなので、代わります。あれ、キェルケ
ゴールという人の本で、自分の本ではないと言っております。

あの病気は、縄文人みたいに、小山のように貝殻がつもるほど、ただで、漁業

権がどうのこうのという問題もなく、腹一杯、食べただけ貝を食べた祖先を持たなかった人々がかかる病のようです。

つまり、『絶望は、死に至る病である』ですが、この著者、結構嫌な奴で、『真の絶望とは、自分が絶望的な状況にある事を意識していない事である』とも言ってます。だけど、これ、ルール違反だと想いますが？

ま、デンマークでは、ホッキを山ほど食べるわけにも行かず、こんな事を書いてしまったのかなー。

グリとグラ：『真の絶望とは、自分が絶望的な状況にある事を意識していない事である』
さすが、キェルケゴールさんです。

私のことを想定して、仰ってくれているような気がしてきました。

『真の幸福とは、自分が絶望的な状況にあってもそれを意識できない事態である』

と読み替えてしまいました。

ヘーゲルさんは、弁証法でしたか？

私に国家が費やしてくださった義務教育費を弁償せにやならんです。

国家弁償法！

＊ ＊ ： どっとねっとはすごいですね。

バレンタインのチョコの話がヘーゲルになっているではないですか。

「貧困の○●」シリーズで日記を書いてみようかと壮大な妄想を抱いていたのですが、今までの↑をみて自分に足りない部分をちょっぴり知ったわけです。

みなさまはどこで思索されているのか。

グラさんがいわれるように、息子が女性の仲間だとするならば中高年男性は連帯と団結でしょうか。（ジコトニオカカズカシイ）（ー）

bun ： おや しばらく来ないととても発展してますね。

>せがれや息子を足下に引き連れて

>で、ヘーゲルさん、

「死に至らない病」って、どんなやまいじゃあ？

>『真の幸福とは、自分が絶望的な状況にあってもそれを意識できない事態である』

いくら世界で一番使い勝手のよい日本語でも酷使しすぎではないですか？ コミュニケーションできるのが不思議！！

グリとグラ： ■ ＊ ＊ さ～ん、

「どこで思索されているのか？」って、

頭はもう働きませんから、それさえもせがれに任せています。

（おう、こんな話を何日にもわたって書く自分が情けない。

じゃ無くて、情けないのに、なおも書き続ける自分とは・・・。）

■ bun さん、日本語が一番使い勝っていいのですか？

ならばもっとご主人様の言うことを聞いてくれてもいいと思うのですが、

まあ、しゃあないか、給料も払ってやったことないし。

金をかけたあちら語は全然身に付いてないし、日本語が嘆いていますね。

おてい : すごい

ここ、まだ続いていたのですね。

やっぱりグリグラさんの日記は魅力的なのでしょうね。

それにしても、すごい。1週間？

atu : ほんと、凄いですね♪

皆さん、文学的なレスが多い・・・。

あ、10代は少しでも触れると、

パワーが爆発と言うイメージです。

20代はそれに経験がプラスと言う感じでしょうか・・・。

30代以上の話は敢えて記載しません・・・。(^.^)

だいぶハズれた書き込みでした・・・。

グリとグラ : ■おていさん、アリガトです。

日記のねたがないので、ひとつの日記で10日は持たさないと
困っちゃうんですよ。

また、コメント頂～戴！

■atu さん

その意味深！コメント、逮捕です。

で、30代なら、どうなんじゃあああああ！

白状しなさ～い！

家には奥さんも可愛い子供も待ってルンじゃろ！？

さあ、一気に吐きなされっ！

だいぶハズれたお返しでした・・・。

かくちゃん : うふふ (^m^*)

愉ませて貰いました♪

トピック : 08 年 Helvetia さんのあの日の夏

2009 年 5 月 9 日

(Bun さん収録) 書き手は Helvetia さん

: 「あの年」の夏, 小樽にて

日本の敗戦を体験したのは、その頃は旧制の、中学一年生の時、小樽であった。

あの年の7月頃から、北海道の各地が、アメリカ太平洋艦隊の砲撃と艦載機による空襲にさらされていた。あとで聞いたのだが、15隻の航空母艦（軽空母6隻）を含む、計95隻の大艦隊（アメリカ第三艦隊）が、東北沿岸から北海道にかけて空襲と艦砲射撃を行った。

戦艦の主砲による砲撃を受けた室蘭では、日本製鉄、日本製鋼など、標的とされた軍需施設の上を砲弾が飛び越して、社宅街に着弾した。昭和22年には、室蘭の中学に転校したので、被災地を視たのだが、社宅の5分の4が、人が住めないほど破壊されたままになっていた。

小樽では、同じ頃（昭和20年7月14日ころ）から、何日も続けて艦載機による空襲があり、市街の北西にある丘を越えて低空で進入してくる戦闘機から、機銃と機関砲が打ち込まれた。町内会の組の住民総出で掘った、50人以上が入れる防空壕に退避していると、発射間隔が少し遅い、機関砲弾が、ブス、ブスと地面に当たりながら次第に近づいてきて防空壕の上を通りすぎていった音を思い出す。

防空壕は、高台に在ったので、外へ出てみると、小樽港全体がよく見えた。

ある日、港の方で、米軍機と港内にいた数隻の日本海軍の小型艦艇（駆逐艦より小さい海防艦であったと思う）が戦っていた。急降下する米軍機に、高角砲と高射機銃で応戦していた。

米軍機は、煙を吐きながら急降下しては反転上昇を繰り返す。始めは応戦する艦艇からの弾が命中したのかと思ったが、どうも、米軍はすでにロケット弾らしきものを使っていたらしい。尾を引く煙は、ロケット弾のものであったようだ。

応戦した海軍の艦艇は、どれも相当な被害を受け、死傷者も出たと言うことだが、米軍機も少なくとも一機（三機と言う説も在った）港外の海上に墜落し、そのパイロットは、浮上した米軍の潜水艦に救助されたそうだ（港湾関係者の話）。

その間、日本軍の飛行機は一切姿を見せなかった。

日ソ中立条約で、ソ連との戦争がないことを信じていた日本軍は、北海道に在った兵力をもっぱら南方戦線に移動させていたので、北海道には、防衛する戦力らしいものは残っていなかったのだ。

こんなこともあった。在る時、空襲のあと、警戒警報も解除されたので、友達と一緒に家ノ前の道で遊んでいると、手宮の丘を越えて、グラマン戦闘機の一帯が超低空で進入してきた。大きく見える機体が珍しくて見ていたら、いきなり機銃掃射を浴びせてきた。道の上に伏せた両側を機銃弾が通りすぎる（機銃が機首に装備されていたら、多分やられていた）。すると、グラマンが反転して引き返してきて、またしても機銃で撃ってきた。これをやり過ごして、大急ぎで角を曲がり、近所の家に飛び込んだ。やっと機銃の音も飛行機の爆音も聞こえなくなったので、辺りを見回すと、そのお宅のちゃぶ台が真っ二つになっていた。

中学校では、4月1日の入学から4ヶ月間、毎日、朝の一時限目は、軍事教練であつた。毎週何時間かの英語の授業は続けられていた。その一方で、この毎朝の教練では、特攻訓練が行われていたのだ。

当時、小樽市内の中等学校（商業学校、工業学校もふくめて）の三年生以上は、いわゆる勤労働員で学校には殆どおらず、農家の手伝いや工場の作業にかりだされていた。

学校に残っている中学一・二年生が、予想される米軍の上陸に対応する唯一の「戦力」だということだった。

我々は、海岸の砂浜に掘ったタコ壺に隠れて、未明からの爆撃と砲撃の終熄を待ち、生き残ったものが、一人一個の爆薬を抱えて敵の戦車の下に突入してこれを破壊すると言う、いまでは、イラクやアフガニスタンで行われている「自爆攻撃」が最後の抵抗の手段であるとされ、連日、爆薬の箱を抱えて匍匐前進する訓練を受けた。

もはや、お国の為でもなく、天皇陛下のためと言う言い方もされず、ただ、「おまえ達の家族を、敵軍から守る為に死ぬことだけが、おまえ達の生きる道だ」と言うような教育がなされた。

実際、その頃の小樽（いや日本中）には、それが当たり前であるように思われる状況があつた。

級友達も、みんな、自宅の机を整理したりしていたが、中には、遺書を書いていた奴もいた。

12/13才位の子供たちが、最後の攻撃でみんな死ぬのだと覚悟していたのだ。

――――

短い夏休みが終わって、学校に行ってみると、そこには、驚くべき状況が待っていた。

教師の大半が、一転して自由主義者、民主主義者になっていた。「諸君、アメリカの民主主義とは――.....」と言うような話を始めるのだ。

戦争が終わるまで、学校内でもっとも軍国主義的であつた国史（日本史）の教師は、まもなく、教員労組運動の指導者になった。それほど極端ではないにしても、教師の大半は、ほんの二・三週間の間に、まるで、当たり前のように、つい昨日までとは反対に、民主主義・自由主義の代弁者と化していたのである。

今から思えば、家庭があり、子供がいる人は、さぞかし生活の不安も在つたのだと思う。しかし、あれほど一斉に、それまでとは正反対の流れに乗ってしまう必要もなかったのではないかという疑問が残る。悪乗りするかわりに、もっと沈黙している時間があっても良いのではなかったか？

幸いなことに、幾人かの、今から思えば勇気ある例外の先生もいらした。いまでも、思い出す度に尊敬の念を新たにしている先生方である。

戦争中には、一言も政治的な発言をせず、その意味で周りとは無関係に、実に面白い生物の授業をしていたM先生は、8月15日のあとも、淡々と、何も変わらずに、面白い授業をし、実験の指導を続けた。

漢文のN先生も、教科書であった「十八史略」について、「あの日」の前にも後にも、淡々と授業をしておられた。

地理のO先生や、英語のT先生は、7月末までは、いつも、どう見てもきわめて安物で、あまり清潔でない一張羅らしい「国民服」を着続けていて、校内では、子供の目から見ても、あきらかに消極的抵抗であることが判るような態度で一貫していたのだが、9月の学期初めからは、ぱりとした上等のスーツを着て学校に現れたのが印象的だった。両先生は、翌年、校長として他所に転出された。

—————

「あの日」のころ、小樽で目の当たりにしたのは、ハイデッガー風に言えば「世界」の裏側であったように思える。

書き込み

bun : Helvetia さんの終戦の情景であり、その時の感情が出ていると思った。ここから、Helvetia さんの遍歴が出発しているように思える。

確か08年だったと思うが記録がないのであいまいである。

これに対するコメントも多数あったと思うが、残念ながら残されていなかった。最初の部分だけあげます。

みかん : bun さん、ありがとうございます。m(- -)m

どっとねっとは、私が加入した時点で既に ” School of LIfe ” 的な特徴を表していましたが、Helvetia さんのおかげで、その意味での存在感が一層強くなったような気がします。

シリアスもあり、お茶目もある、どっとねっと。

Vive la どっとねっと、ですね。(^ ^)v

ATU : 終戦の一部をリアルに知ることができる、貴重な内容だと思います。

保存版にしたいですね・・・。^^

そういえば、父もその当時は貨物船に乗組員として乗船しており、その船が留寿都沖で米国の射撃に合い、沈没したと聞いたことがあります。

月日が経過すること、何か感じるところがあるらしく、自分が中学生のときに、留寿都に出向き、当時を知っていると思われる年配の方を探しましたが、見るけることはできなかったようです・・・

これは、懐かしいというよりも、「その時の自分はどう生きたのかか？」を、再確認したかったのだと思います・・・。

戦争の悲惨さは想像を絶するものがあるようです・・・。

今、あの時の白い砂浜で、バック転の練習をしたことを思い出しました・・・。

take : 今、山の先輩のお母さんがかかれた「がむしゃら婆の体験的昭和史」というのを読んでいますが、Helvetia さんのこのトーンとはほぼ同じ目線です。満州から北陸、関東とステージは動きますが、極限の体力の中で田舎の因習との戦いなど、少しわかる世界がみえています。

今までの、どんな昭和史より赤裸々につたわるものがここにはあります。

みかん : take さん、タイトルで検索してみましたが、ヒットしませんでした。

売られている本ではないんですね。

私も最近、Helvetia さんのおかげで、何となく自分がどこから来たのか分かりかけてきました。

take : あ、すみませんでした。

自費出版ですが、本題のタイトルが難しいんです。

四冠の下に革その右に馬、そして旅とかいて「たび」と読ませ、「たびの想記」。漢和辞典で調べてみます。

トピック : 2008 年 07 月 18 日 - 食べ損なった

— Otsucar さん

2009 年 5 月 17 日

みかん : Otsucar さんのお人柄が忍ばれる数ある日記の 1 つ。個人的にこれがお気に入り
の 1 つ。(^^)v

http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary&tar...

教え子である子供達との交流を綴った日記も、私のお気に入りですが、これは、
また後ほど。

書き込み

金魚 : ほのぼの心温まる日記でしたね。^^

かく言う私はいまだに親の食べてるものを譲ってもらってるかも。。ダメスネ^^;

Otsucar : 父もこの頃は 頭の方がまだ OK の状態でしたが

今は かなり思考能力が落ちてきました。(^^;)

みかん : >ダメスネ^^

姉の面倒を見させてあげます。嬉しい？

みかん : Otsucar さん

いつまでも長生きしてくださるといいですね。本当に。

Otsucar : みかんさん、

老人ホームの順番待ちで

100 番くらいですから まだまだ大丈夫です。

入るには上位 5 番にならなくっちゃね (^^)

金魚 : >嬉しい？
 嬉しすぎて、鼻から涙が出てきたわ。(T ε T ;)
 ATU : はい、この日記、思い出しました。 ^ ^
 ほんと、長生きしてほしいですね ^ ^

日 記

私の親は惣菜屋だったので 魚などを簡単に取り扱えます。
 でもその息子の私は 親にまかせっきりで全くだめです。 (-_-・)ゞ
 魚屋で 25 センチくらいの 小さなマスを買っていました。
 やってみるか と その小さなマスを買って チャレンジ。
 二枚におろしたのですが
 な、な、なんと小さな小さな筋子が あるではありませんか。
 太さが鉛筆くらいで 長さが 10 センチの筋子です。
 。(0^0;) (;0△0)。ウオー
 マスを急いでカットし終え
 筋子のしょうゆ漬けを作りました。 (ノ∀`*)vv ルンルン
 84 歳の父があまりにも欲しそうな顔をしているので
 やってしまいました。 (^ ^ ;)
 まともな筋子と同じ味で 美味しかったそうです。 (*^_^*) タベソコナッタヨ

コメント

やっさ : 小なりといえども、大なる親孝行。エライ。(^_^)v
 Otsucar : 有難うございます
 (*^`∀`^ 嬉) ワーイ ホメレタ
 みかん : 心温まりましたです。ホカ。
 Otsucar : みかん さん、
 ホンワカになってくれましたか
 柱| - ^)v 隠れヴィ
 オカリナねえさん : えらい、えらい！
 涙が出ます！
 安いニシンを一パックかったとき、中に子持ちのが一匹入っていたときなど「ヤ
 ッター」と思いますね。
 Easyrider : 筋子って書くのか。
 魚屋で「すじこ」か「スジコ」って書いてあったので、ピンときませんでした。
 「セツコ」ってなんだ？・・・・・・ (^ ^) ハハハ
 Otsucar : オカリナねえさん、

ありがとうございます。
これぐらい親にしくちゃね (^ ^)
>「ヤッター」と思いますね。
今回は本当にそう思いました。
150 円のマスでしたから (^ ^)

Otsucar : Easyrider さん、
こっちの魚屋さんは だいたい筋子って書いていますよ (^ ^)
セツコは うけます (^ 0 ^) ギャハ
atu : その筋子、きっと不老長寿の薬ですね・・・。
親孝行の話はとても好きです・・・。
自分も見習おうと思います。(^.^)
** : 幸せを与える！
なんとすばらしい！
筋子をいただくチャンスはきっとまた訪れることだと(^_^)
Otsucar : atu さん、
親孝行は特にする気がないんですが
家族が二人なので 結果的に親孝行になってしまいました (^ ^ ;)
Otsucar : ** さん、
筋子は期待すると 手に入らないでしょうね (^ ^)

トピック : 2008 年 10 月 13 日 - 高々指 (続)

ー やっささん

2009 年 5 月 23 日

みかん : すっかりお馴染みになった、やっささんの熟語日記。九州に菅原道真がいれば、
どっとねっとでは、やっささん。(^^)v
日記の中で、やっさ氏が「で、これを使いながら遊んでみます。」とさりげなく
前置きを置くところは、本当ニクいです。
http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary&tar...
そして、こちらも忘れられません。(^^)
<正々堂々>
http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary&tar...
<湯婆婆>
http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary&tar...
<全勝優勝>
http://www.hokkaido-sns.net/OpenPNE2/public_html/?m=pc&a=...
<思い出の日記>

書き込み

- 金魚 : そうです、そうです、やっささんお馴染みの日記では、
いつも感服しています。
時事ネタをからめながらの日記はさすがということしかありませんね。^^
- みかん : 最近、ちらっと思ったんですが、「どっとねっとでしか読めないもの」がどっと
ねっとの将来を変えるかも、と。^^
- ATU : 漢字の持つ意味は本当に深いというのがわかる日記でしたね ^^
「どっとねっとでしか読めないもの」で確かに貴重です。
しかも、どんどん蓄積されていく。
凄いことだと思います。^^
- やっさ : >凄いことだと思います。^^
ほんとにそう思います。
表紙で管理人さんにご紹介され、企画の素晴らしさが好評のよう。ウルシ。(^ ^)
- みかん : コミュ変化という新語まで作っていただきました。(^ ^)v
やっささんの、電通真っ青のPRも効きました。感謝。(^ 3 ^) y - ☆ナゲキス
- ATU : 「コミュ変化」もなるほどと唸る例ですね。^^
人それぞれの知識は異なるものを持っていますから
少しのきっかけで対話がどんどん加速すると感じました。^^
- やっさ : こ、「コミュ変化」ときましたか。
それにしても近頃、何となく背中がむず痒い。何故？
>九州に菅原道真がいれば、…
>…の、電通真っ青のPRも効きました。
原因はひょっとして、これ？ムズムズ。(^ ;)

日 記

<高々指(続)>

三文字熟語は普通「人差指」のように並びは「ABC」です。中には「人指指」のように「ABB」でのもの。タイトルの「高々指」は「AAB」。

この「AAB」という熟語は少ないですが、面白いものもあります。で、これを使いながら遊んでみます。

* * *

いよいよ漬け物シーズンに。二人暮らしの我が家でも、越冬用に鯀漬けや沢庵漬けなど、何種類か漬けます。集合住宅住まいゆえ、沢庵漬け用の大根は、洗って干したのを農家から直接調達してます。

毎年、沢庵漬けは「塩塩梅」に気を遣いますね。たまたま去年は「上々吉」の出来栄で

「万々歳」でしたが、今年はどうでしょう。「万々ー」味がいまいちでも、ひと冬我慢して食べます。トホ。

来月はじめ頃に漬け込むと、「来来月」には練漬けは漬かります。楽しみ。

「大々的」に宣伝する訳でもないのですが、たまに、漬け物好きの方に差し上げることもあり喜ばれます。貰った人が、お礼に「都々逸」を唄いたい、と言ってもお断りすることにしてます。嘘です。(笑)

年寄り家族ですので、いつまで漬けられるでしょうか。少しでも長く漬けたいもの。せめて明明後年くらいまでは続けたいと思っていますが…。

コメント

コリンのママ: 今までテレビの「Qさまスペシャル」の漢字検定に挑戦していましたが、こちら
もすごい! AABは難しいですね。

atu : やっさん、この熟語は奥が深いですね・・・
うむ・・・と唸ってしまいました・・・ ^ ^ ;

やっさ : コリンのママさん、
>テレビの「Qさまスペシャル」の漢字検定に挑戦していましたが、
その番組、知りませんでした。
今度観て勉強しなくちゃ。(^^)

やっさ : atuさん、
三文字熟語、四文字熟語、けっこう面白いです。
ほんと「奥が深い」かも。

Otsucar : >奥が深い
あまりにも深すぎて 逃げるが勝ち
(((C= C= C= C` (ノ><)ノ ヒイイイイ～

やっさ : 奥が深そうなので、入り口付近で「堂々回」して遊んでいます。比。(^^)

<正々堂々>

前回は三文字熟語、高々指の「AAB」で遊びました。今回は四文字熟語、「正々堂々」の「AABB」で遊んでみます。

* *

いよいよ明後日から、パリーグ・クライマックスシリーズ第2ステージが始まります。
我が日本ハムファイターズは、ペナントレース3位で第1ステージに進みました。これをストレートで勝ち上がり、みごと第2ステージに進出の快挙。

第2ステージは「リーグ1位球団に1勝のアドバンテージが与えられる」システム。
ですから、日ハムは、「第1戦は稲尾投手に完封負け」したと思って、第2戦以降を戦う

しかありません。フル缶。(笑)

日ハムには不利なシステムですが、ここは「正々堂々」と戦いましょう。とはいっても、各選手のコンディションは「時々刻々」変化していきます。

現に、稲葉選手の肉離れなどは選手が痛いばかりでなく、チームにとっても大きな痛手なのは「明々白々」です。

でもま、どのチームにも「個々別々」の事情があります。ここはひとつ、両監督の「虚々実々」の采配を楽しむことにしましょう。

ファンの皆さん、試合当日は「三々五々」テレビ機数に集合して大いに応援しましょう。

そして、3年連続で日本シリーズに臨んだことを「子々孫々」に伝えたいもの。升材がサ？
(爆)

コメント

コリンのママ: ウワァッ難しい

ほとんど出ています(汗)

唯々諾々?文章にならない(泣)

Otsucar : 全く頭に浮かびません

と言うか 知っていません (^^;)

やっさ : コリンのママさん、

漢字パズル遊びの中で出てきたものばかりです。^^;

西武ファンは「ペナントレースが大差だったから、うちの勝ち」と言うかも知れないが、こちらとしては、そんな科白を「唯々諾々」と受ける訳にはいかんのです。カンカン。(^^)

やっさ : Otsucar さん、

「毎日が土曜日」派が、「日々夜々」暇つぶしに遊んでます。(^^;)

Easyrider : 乗れない自分が、惨め・・・。

やっさ : Easyrider さん、

この際、日ハムファンになり、一緒にノリましょう。(^^)

おてい : 前回の「AAB」を見て、なんとかコメントしようと

頭の中では「AAB」ばかり考えていました。

ごはんを食べても「AAB」トイレにいても「AAB」

新聞見ても「AAB」

こんなに考えているのに、うまいこといきません。

ひらめきません。

ちょっと悔しいです。

いやあ〜ん、今日は「AABB」?

ギンギンギラギラ なんてダメにきまってる・・・スママセン

やっさ : おていさん、

「ギンギンギラギラ」面白い。立派に「A A B B」です。(^ _ ^)v

>こんなに考えているのに、うまいこといきません。

そんなことありませぬ。「A A B」も「A A B B」も少ないんです。

単なる漢字パズルの経験の累積値だけなのでして。ヒマゾン。^^;

Easyrider : >この際、日ハムファンになり・・・

私は、最頂のチームがありません。だからいいかも。

尊敬する先輩は阪神ファン。

尊敬する経営者は巨人ファン。

・・・・・・・・・・難しい・・・・・・・・。

オカミサンは、優勝セールで恩恵にあずかえるチームがいいと・・・・・・・・。

・・・・・・・・・・難しい・・・・・・・・。

bun : 侃侃諤諤

是是非非

子子孫孫

こんなんあったかな？

やっささんは時々刻々進化していますね。

やっさ : Easyrider さん、

そうそう、優勝セールに合わせてファンになるという方々もいらっしゃるみたい。その手、ありかも。(^^)

やっさ : bun さん、

カンカンガクガクとケンケンガクガク、よく分からないので、使えませんでした。(^^;)

金魚 : 明日からいよいよ第2シリーズですね。

もうテレビの前で、「戦々恐々」とした気分でしょうか。

>A A B B

NHKの連想ゲーム思い出しました。

しかも「ワンワンニャンニャンコーナー」でしたっけ。トフル?笑

やっさ : 金魚さん、

始まります、始まります。

北海道、否、日本中の「津々浦々」まで響き渡るように応援しましょ。(^^)

>「ワンワンニャンニャンコーナー」でしたっけ。

ありました、ありました。ナツカシ。(^^)

Otsucar : 月月火水木金金

これはだめですね (^ ^ ;)

やっさ : お、七文字熟語ときましたか。

>月月火水木金金

=「A A B C D E E」ですね。

?「三三七拍子八八（パチパチ）」てのはどうでしょう。ｸﾙｲ。(^^;)

ゴンタのママ:みなさん面白いですね（笑）。

私には全く無理なので楽しく読ませていただきました。

やっさ : ゴンタのママ さん、

>楽しく読ませていただきました。

ありがとうございます。

我らが日ハムも「正々堂々」と戦って、五分の星にこぎつけました。

それにしても、毎試合「ハラハラドキドキ」の連続です。(^^;)

<湯婆婆>

湯湯婆の話題で日記を書いたら、漢字パズル・シリーズを思い出しました。

最初は「高々指」（A A B）、次が「正々堂々」（A A B B）でした。前回は「湯湯婆」（A A B）。

するとコメントの中に「湯婆婆」（A B B）が出てきました。どうやら近頃は、ユタンポよりユバーバのほうが流行りらしく。

で、この「A B B」なる熟語、わりと少ないけど、幾つかはパズルで遭遇。少しく挙げてみます。

*

いよいよ裁判員制度が始まるようです。テレビなどでも「今日日」この話題で持ちきりです。（このネットにもちらほら）

やっさは裁判員になるのは真っ平だと思ってるくち。人を裁くのが嫌だし。裁判は本職裁判官の「御歴々」に委せとけば良いと。

などと云ってるうちに時が経ち、どうやら年齢制限免除群に包含。大威張り「鼻高々」で辞退できそう。やれやれ。

一方、家人のほうは興味津々の様子。折角だから一度は裁判員をやってみたいとはや「御手々」を挙げてるのです。

かねてから「凶悪犯を弁護するベンゴシが嫌い」という説の持ち主。早く籤?に当たらないと、間もなくこちらも年齢制限になっちゃいそう、と焦ってる気配。人それぞれです。

アンケートを見ても、やりたい人やりたくない人、相半ばしてるよう。結局のところ、裁判所の「帳面面」は合うのでしょうか…。ﾄﾞｳﾅﾙﾛﾄﾔ。(_ _ ;)

コメント

Otsucar : すごい、A B Bが沢山ありますね Σ (° ▽ ° *) スゴイ

やっさ : よく遊び、よく学び。なんちゃって。

新しいのでは「新電電」なんてのも。(´_`)v

take : いやあ、よく出ますねえ。こういうの弱くて(¬¬;)

金魚 : いつもながら頭が柔らかいですね。ツケ

考えてもA B B、全然出てきません。

しいて言えば、あはは、いひひ、うひひ、と笑ってるだけです。^^;

やっさ : take さん、

どうも。

ここまで持ってくるのが厄介（楽しみ？）でして。もしかして、一片の日記をあげるのに要してる時間、長いほうかも。(^^;)

やっさ : 金魚さん、

そうそう、いつも出てる類のものです。えへへ。(´-`)

みかん : >裁判は本職裁判官の「御歴々」に委せとけば良いと。

実は、私、日本の内情は良く分かっていないんですが、多数の方がこう思っ
てらっしゃることに、へーと。

イギリスは、「御歴々」に委せておけないという感じですかね。

でも日本は死刑制度があるから、その点では、私も躊躇しちゃうかなと思いま
す。^^

やっさ : みかんさん、

>イギリスは、「御歴々」に委せておけないという感じですかね。

それが「オトナ」なのでしょうが、

いまだに「オカミ」頼みが抜けなくて…。(¬¬;)

みかん : やっささん

実は、昨日私が敬愛かつ尊敬するある動物学者が陪審員制度に反対だとい
うことが分かって、その理由を読んだら、なんと先日私が書いた「社会的参照」
が理由でした。

http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary...

先入観や偏見なき判断は、人間の脳では不可能だと。

結局は、法は犯さないというのが一番安全だということですね。ひひ

やっさ : みかんさん、

なるほどお。

云われてみれば、孫へのクリスマスプレゼント、「ホーキング作／宇宙の秘密
の鍵」にしようかと思ったのも、それでした。えへ(^^;)

<ABCB（全勝優勝）>

前回の日記、春場所千秋楽で、白鵬の全勝優勝を紹介しました。この「全勝優勝」、4文字熟語の「ABCB」型。

4文字熟語で一番多いのが、「一喜一憂」や「一期一会」などの「ABAC」型で、これに次いで多いと思われるのが、「ABCB」型でしょうか。

ともあれ、白鵬の全勝優勝は、まさに百点満点の出来栄え、天晴れでした。それにひきかえ朝青龍は終盤息切れして、残念無念。

古手の大関陣も成績が振るわず、いずれも青息吐息の体。そろそろ世代交代の時期かとの印象を受けました。

早く日本人の若手大関が出てきてほしいものですが、何しろ幕内には、モンゴル勢を含めた海千山千の強者が揃っていますから、相撲協会の思惑のように、今日明日とはいかないでしょう。

そろそろ、もう少し、大所高所からみた改革が無理矢理にでも必要でしょうね。

（あ、ABCB、幾つ入ったかな）（^_^）

コメント

*** : 判らない チンプンカンプン これもA B C Bかなあ?????
（^ ^）

オカリナねえさん：夕張の少年が茨城の立波部屋だかに入門したそうですが、がんばって欲しいですね。

夕張を活気付けるためにも。

教養ないから、「ABCB」も「ABAC」も頭に浮んできませんデス。

take : 全勝優勝 百点満点 残念無念 青息吐息 海千山千 今日明日
大所高所 無理矢理
8つでした。おみごとおおおおお！（^_^）v

やっさ : ***さん、
でつ。お見事！！

やっさ : オカリナねえさん、
多分、ですが、きょーよー、とは関係ないと思います。
ただ単に、遮二無二、こじつけるだけかも。（^-^）

やっさ : take さん、
残念無念。世代交代もありましたあ。（^_^）v

take : あちゃー（_-;）

やっさ : 弘法も筆の誤り、かな。
ま、一切合切を拾い尽くすというのは、難行苦行というものかも知れません。
（^_-）

ATU : なるほど、このように拝見すると、一目でわかりますが、
 自分がいざ使うとなるとなかなか思い浮かばないですね～ ^ ^
 納得してしまいました。

take3 : あちらこちらを右往左往して
 有形無形のものを思い浮かべてみてもなかなか思いつかず、
 四苦八苦してたらこんな時間になってしまいました・・・。
 って、ｸﾙｯﾏｷﾞﾚ (^ _ ^ ;)

やっさ : ATU さん、
 年寄りの冷や水、てな見方もあるかも知れませんが、せめて、万年青年の遊び
 心を持ちたいものと…。(^ ^)
 take3 さん、
 ですなぁ。
 こうして言葉遊びができるのも、何か、合縁奇縁を感じてしまいます。(^ - ^)

金魚 : やっささん、いつもながらアツパレです。
 コメントを含めると、もう出てこないんじゃないかと。笑
 うう～。「セブンイレブン」しか浮かばない自分がササナイ。(_ - _ ;)

やっさ : 金魚さん、ありがとうございます。
 そんなに褒められると穴があったら入りたいくらい、恥ずかしいような。反面、
 無茶苦茶嬉しいような…。(* ^ _ ^ *)

<思い出の日記に>



先月から、みかんさん主宰のコミュニティ「思い出日記」が立ち上げられています。この
 コミュニティが立ち上げられたときは、はて、どんな日記が選ばれるのかと内心、興味津々
 でした。

一つ二つと載せられるにつれ、さすが選者、自信満々の選択と感心してました。書き込み
 も和気藹々として、楽しいコーナーになっています。前途洋々、大いなる発展を期待しま
 しょう。

と先日、思いがけず、やっさめの「熟語日記」が取り上げられてました。驚きました、ま
 さかと。数多ある多士済々の名日記の中に、こんな軽めのものが列してよいものかと小心
 翼翼。とても余裕綽々とは参りません。

四季折々に漢字パズルを嗜みながら、面白そうな熟語があればメモし、そのメモを眺めな

がら、たまに熟語日記を認めるのを密かな楽しみとしているだけでして。
でもま思えば、紹介された旧バージョンでの3作と、新バージョンでの1作の熟語日記、
改めて眺めるとシリーズものと言えなくもないか、とにわかに勇気凛々。
テーマを再録してみますと、
*高々指(AAB)
*正々堂々(AABB)
*湯婆婆(ABB)
*全勝優勝(ABCB)、でした。
で今回は、白昼堂々?「ABCC」で遊んでみた訳です。㍻㍻。(笑)
(画像:近所の八重桜)

コメント

みかん : おおー、コミュに体するポジティブかつウィットに富むフィードバック、恐れ入ります。さすがです! (^_^)v
選択基準が何もないまま、エイヤーで選んでおりますが、〈自信满满〉というところは当たっております。 (^_^)v
みなさまもどうぞ、みなさまの思い出日記、張り付けてくださいませ。
やっささん、これからもよろしくお願いいたします。 (^_^)

やっさ : みかんさん、このたびはどうも。
なまじアンケートなど試みても、諸説紛々でしょう。
ですからここは「エイヤー」が、むしろ合目的的かも知れません。 (^_^)v

ATU : やっささんのテーマを思い出しますね ^ ^
普段、なかなか見れない熟語あるので興味津々です。 ^ ^

やっさ : ATUさん、ありがとうございます。
はい、かなりマイナーですが、漢字パズルの副産物活用、今様に言えば「副活」? でしょうか。 ^^;

take : なんていうんでしょう、歳時記や熟語のご紹介などは、
意外な軸があって、はっとしますね。次回をまた期待して (^_^)v

やっさ : 今回のは、みかんさんのお陰、つい興が乗りまして…。 (^_^);

みかん : やっささんのPRが聞きまして、また数人の方に加入していただきました。ありがとうございます。
ゆくゆくは出版もあり得るかも知れない? ああ、夢は広がるばかり。 (^_^)v

やっさ : >ゆくゆくは出版もあり得るかも知れない? ああ、夢は広がるばかり。 (^_^)v
おお、やっさの目の黒いうちに叶うかどうか…。 (^_^);

みかん : やっささん、エイヤーです。 (^_^)v

やっさ : た・の・し・み。 (^_^)

トピック：どっきりシリーズ

2009 年 5 月 23 日

ATU : どっきり！正確には「やられた」と言えば、
物騒な出来事を想像してしまいますが、
「旧どっとねっと」では 4 月 1 日に事件が起きていました。
その中でも印象深いのが Otsucar さんのこの 2 件です。
心の準備がなかったと言えばそれまでですが、
今見てもニコニコしてしまいます～
というか、2008 年版はドキドキしてしまいますね～ ^ ^ ;
では、以下に紹介します～
↓↓↓
2007/04/01 退会事件
http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary&tar...
2008/04/01 どうしよう 事件
http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary&tar...
がははは ^ ^
あ、因みに本年は Ow1 さんがやってくれました。 わははは
http://www.hokkaido-sns.net/OpenPNE2/public_html/?m=pc&a=...

書き込み

Otsucar : あらら、今年のエイプリルフールは 忘れていました (^ ^ ;)
ATU : Otsucar さん、そうでしたか～？
実は、今年はどうして書かないのか、
それが意図的なものかどうか、考えていたんですよ～ ^ ^
ひひ
みかん : ATU さんって、ほんと、いい方なんですねぇー。
なんか、自分がいかに猜疑心で汚れてるか分かりました。ひひひ
ATU : 言葉で楽しむことがとても爽快だと思うのです。
実は、自分も 4 月 1 日を意識したんですが、何を書こうか迷っていました。
逆に日記に書いている方が少ないので、皆さん興味がないのかとも
思っていたんです。だから、今回掲載した日記のオチ部分がとても
新鮮だったのです。 ^ ^
ま、時を過去に遡ってみたわけですから、なおさらですね・・・
こうやって数年間の時系列を 1 つに見ることができるのも
このコミュニティのおかげですね～ ^ ^
今回の Otsucar さんの、忘れていたというフレーズは、
実は過去 3 年間の延長だと感じるとロマンを感じてしまいます。

言葉の遊びって本当に面白いなと思います。

みかんさんも、猜疑心などとおっしゃってますが、多分、
言葉を存分に操って、それを楽しんでいるのではないですか？・・・。

ひひ

Otsucar : 今年もエイプリルフールをしても

3年連続ですので バレていたでしょうね。(^^;)

忘れていて正解でしたね。(^^)

ATU : Otsucar さん、なるほどです～

確かに期待して見たので、バレたかもですね～ ひひ

日 記

<退会 -Otsucar- 2007 年 04 月 01 日>

みなさん 長らくお世話になりました。

今日をもって 退会いたします。

お世話になりました。(T_T)

なーんちゃってね。エイプリルフールでした。(〇〇)(〇〇)(〇〇)

コメント

キャロル : 先にやられた。

ない知恵を絞って考えてます・・・

Otsucar : ガハハハ まず一人 (〇〇)

かくちゃん : えええ～！！

って、びっくり～ (@ 0 @

そっか、今日はエイプリルフールかぁ ^^ ;

やっさ : え、Otsucar さん、退会かぁ、折角、キリ番当たってくれたのに、残念。

それにしても、今日はずいぶんと空欄があるなぁ、ん！フール、て何？

Helvetia : もお～人のことを誘っておいてそりゃないでしょ！

って思いませんでした (笑)

Otsucar : クンタッチ さんと かくちゃんと silk さんには うまくいった。(^^)

やっささんは 全く動ぜず。負けた。(〇^;)

オカリナねえさん : 純真な姐さんは Otsucar さんの「退会」の文字で凍り付いてしまいました。
えっ？何か私 気に触ることでも言った？と。ノミの心臓の持ち主なんですからー。そして今日がエイプリルフールだなんてぜ～んぜん頭になかったんです。でもエイプリルフールでよかったわー。ヤレヤレだわよ、Otsucar さん。
コラ～！

Otsucar : オカリナねえさん には 完勝 (^○^)

take : 大人になってもハマルんだなあ、われながら…
忘れてました

コリンのママ: こんにちは！

午後からずーっと出かけておりましたので、今、日記を開きました。
結末みちゃったんで、引っかけりませんでした（笑）

*** : ☆Otsucar さん 大変 お世話になりました。m (＿) m
owl 先ほど 退会のボタンを押しました。
自動処理なら、1～2時間で、手動処理なら、明日、空欄に成ると思います。
短い 間でしたが、楽しい 時間を過ごせました。
ありがとうございました owl

*** : 時間内 セーフ！！
ウソ！ O (≧▽≦) O

+++ : あっ・・・・・・・・・・・・・・・・
びっくりしたあ~~~~~
こりゃ！ お二人さんったらあ~~~~~
(-^○^-) アハハハ

Otsucar : エイプリルフルに だまされる人が多く 大成功 (^o^)
さあ、来年も ひっかけるぞー (^◇^)(^◇^)(^◇^)

+++ : 2日なのに・・・何故かひっかかる まーや！！
o(((*^▽^*))o ゲラゲラゲラ

Otsucar : だまされた人 一人追加 (^○^)

妃パパ : グリとグラさんの日記を見てびっくりして・・・
なあーんだ！昨日はエイプリルフル・・・でしたか！

グリとグラ: パパ も騙されましたか？
グリグラも Otsucar さん に騙されてね、
悔しくて悔しくて・・・。
でも、仕返しするにも、来年の4月1日まで待てませんし。

Otsucar : 来年のネタは 何にしようかな。今から ワクワク (^○^)

のぶりん: エッ(T_T)
まったく・・・
<<o(>_<)o>>

Helvetia: え、これで騙されちゃう人いるんだ？

完全に騙されましたあ（プンプン）。

ちょっとだけ心臓がバフバフしちゃったよ〜。

Otsucar さんもなかなかやるなあ・・・なんて半分思いながら、困ったなあって・・・

あ〜あ心配して損した！（笑）

金魚 :ゲゲッ！ひっかかりやしたゝ(° Q。)ノ ハラホロヒレハレ

ひっかかるとひっかけたくなるのが人情←ケケ

よし帰ったら誰かを…。みかんは後が怖いし、やっぱ娘に。ケケ

Easyrider : (^0^)ハハ ソナハズナイ

Otsucar : 2年連続で 引っ掛けるなんて 最高

(〃 ^ ▽ ^)o 多☆あははははっ

atu : Otsucar さん、実は自分も・・・。^_^;

ぎやはははは♪

全敗！

Otsucar : これで5勝

あはっ♪ (^ ▽ ^ *) * ^ ▽ ^) あはっ♪

みかん : げ、私も。不覚。(ー ;)

Otsucar : 6勝です (^ ^) ルル

おてい : あっ、、、やられた。

Otsucar : 7勝 (^ ^)

** : 五番街のマリーを口ずさんでしまいました。

Otsucar : 隊長 さん、

五番街のマリーは懐かしい曲ですね。

誰が歌っていたのだろう。(^ ^ ;) ワスレタ

take : すいません。わたしは昨日ほとんど日記をよまず、

今日のから遡って読みました。

だから、シラー！って。(笑い m(_ _)m

ネタ割れてあとに手品見るような、、、m(_ _)m

Otsucar : take さん、

来年は しっかりとひっかかってください (^ ^)

トピック：2009年4月1日 釧路と鯨食文化

ー こままささん

2009年4月24日

みかん：実は、この日記、タイトルからお分かりのように鯨食文化についてだったんですが、いつのまにか、「議論とは」という話しになり、そこから「反知性主義」なる言葉が飛び出し、ハラハラドキドキのやりとりが展開されました。お勧めです。

http://www.hokkaido-sns.net/OpenPNE2/public_html/?m=pc&a=...

書き込み

take：日記ベースで進むことのもったいなさは同感です。
コミュの目に付きにくさ、しかし、穴倉に入り込んだときの安心感。
やはり、コミュの活性化はSNSの課題だと思いますね。そこは当面、ボランティアの方々のお力かもね。
書き込まれてしばらくして気づいて、宝物にであった気分になれるのはやはり日記ではなくこちらだということは明白ですもんねえ。(^_^;)

みかん：>書き込まれてしばらくして気づいて、宝物にであった気分になれるのはやはり日記ではなくこちらだということは明白ですもんねえ。(^_^;)

なるほどお！ 確かに。

こままさ：皆さんの関心や知識が持ち寄られることで、話題の土俵がぐんぐん広がるのを感じました。これこそ「集合知！」という感じでしたね(^0^;)

ATU：釧路と鯨食文化の日記は大変勉強させて頂きました。^^
たまに読み返してみるのは本当に必要だと思います。^^

こままさ：本当に、会話の痕跡が残されているというのは、思い返して振り返ることができて良いですね。記録って大事です。

おてい：興味深く読み返しました。
「集合知！」
なるほど。^^)

日記

昨日、釧路市の知人が職場を訪ねてきてくれて、釧路市の現状についての話題となりました。

現在日本には、7箇所の捕鯨基地があるそう。列举すると、北海道の網走市、釧路市、函館市、宮城県石巻市鮎川浜、千葉県南房総市和田町、和歌山県太地町、山口県下関市の7箇所の7箇所だそうです。

釧路でも調査捕鯨基地があることでクジラの新鮮な肉が手に入るようで、クジラ料理を地域の食文化として打ち出す努力も行われているのだそうです。知らなかったなあ。

ネットで調べていたら、釧路市星園高校 家庭クラブの活動をホームページで公開していました。題して 「クジラ鯨で復活 ～釧路に新しい味を～」

<http://www.kateikurabu-renmei.jp/zen55-pdf/55b1.pdf>

改めてこの機会に捕鯨と鯨の食文化を考えてみても良さそうです。

Wikipedia「捕鯨」 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%8D%95%E9%AF%A8>

ところでこのホームページの星園高校、道内唯一の公立女子高だったそうですが奇しくも今日を持って統合されてその歴史を閉じることになるのだそうです。新しい環境でも頑張っしてほしいものです。

* * * * *

平成20年度も今日でおしまい。送別会が二つ重なって、一次会を横浜でやった後、東京での別な会の二次会に合流。

なんだかんだで最終電車で家に着いたら夜中の1時半でした。こんな時間まで公共交通機関があるというのがすごいなあ、都会は。

コメント

みかん : くじらに限らず、ある動物をもっと食べようというキャンペーンに遭遇するたびに、少し引いてしまいますが、こんなこというと、嫌みなりベラルと言われて嫌われるんでしょうね（爆）。

Collinmama : 鯨の大和煮の缶詰・・・今でも好きです。

鯨のオバケの酢味噌和え、鯨ベーコンなど、鯨を全部を利用する食文化。

それこそ伝えていきたいものですね。

Easyrider : 人の意識って、何かのきっかけで変わるんですよ。

木は切ってはいけない → CO2削減のためにどんどん切って若木を植えよう。

: CO2の吸収は成長の止まった木より若い方が多い。

割り箸は使わないでマイ箸を使おう → 竹の箸、再生可能な箸の利用。

: 廃材で箸を作ると燃料を使い、使用後は焼却処分。それなら加工しないで燃やしてしまえ。箸は洗って使え。

原子力発電は止めよう → CO2削減のため原子力を使おう。

: 温暖化対策には化石燃料を燃やすより優しかった。

鴨が減少してきたので増やした → 飛行機の墜落。

: エンジンに吸い込まれて川に墜落、パイロットは英雄に。

鯨を食べるのは可愛そうだ → さて・・・。

: 牛と豚と鯨・・・命はどれも同じ。生きるためには食すのは必要。

外国人の考えは極端です。

take : pdf ファイルをざっと見ただけですが、「くじらの今」と視点というのが

あって、「それでも…」という筋書きを考えたいな、と思うのは無理な、あるいは不要なことでしょうか（笑い
難しすぎるかな。

みかん : >外国人の考えは極端です。

そうなのですが、だからこそ対話のきっかけになるんですね。それに固執するわけでは、ないんですね。

実際、一般の外国人たちも、自分たち側の一部のヒステリックな反応にうんざりしてきていますし、かなり見方を変えている感じです。

間違っている、対話のきっかけを作ったということで評価されることが往々にあります。それが大事かと。

Easyrider : みかんさん

こんな感じでしょうか。

会話・・・・・・気楽な情報交換など。

対話・・・・・・話し合い。場合によっては聞く耳を持たない。

議論・・・・・・言論による戦い。後には引けない。

喧嘩・・・・・・正当性を暴力に訴える。勝つまで止められない。

戦争・・・・・・主張の武力行使。勝負で反省する。

・・・・・・対話ままだお願いしたいものです。(´0`)

Helvetia : Easyrider さん こんにちは。

大変面白くて、また、詳しく知りたい部分もありますので、お邪魔しました。

この段階的な分類ですと（多分、いわゆるコミュニケーションの段階と考えていいとおもうのですが）、

会話・・・・・・個々では、相手の心情や考えなどには立ち入らない事が暗黙の前提のようですね。相手を積極的に理解しようとするわけではない状況でしょう。

対話・・・・・・場合によっては聞く耳を持たないとの事ですが、一生続く対話（同じテーマについて！）もあることですし、「何しろ相対して話す」のが根幹ですから、

>場合によっては聞く耳を持たない

態度を取る人もいるかも知れませんが、それは、対話というコミュニケーション状況では、「失礼」であると思います。

議論・・・・・・『言論による戦い』であり、『後には引けない』
そうですが、むしろ、『概念と論理を使ったゲーム』であると理解したいですね。『言葉』で将棋

や碁をうつ事に例えてはいかがでしょう。気軽に議論をしているうちに、腕も上がるというものです。

あるテーマについて、自分が見落としていた側面を知ったり、新しいアイデアと出会う事が、議論を戦わせる事のメリットですが、これは将棋や碁でも同じでしょう。

喧嘩・・・・・・・・喧嘩でクロシロを着ける事は、子供の頃によくやりました！！しかし、文明社会では大人はやらない事になってます。

戦争・・・・・・・・日本は、まさに第二次大戦後、負けた後で反省したのですが、これ、一番愚かな戦争の仕方。

明治のご先祖様は、国際的に手を回して、戦争の止め時と、戦後処理の仕方まで見極めた上で兵を動かしたとか。其れが出来なければ、戦争などという手段に訴えるべきではないのです。

>主張の武力行使。勝負で反省する。

は、従って、悪例中の悪例ですね。

こう見てきますと、どの段階でも、人と人の相互理解は、難しいということになりそうですが？

個人的な好き嫌いは別として、コミュニケーションから「議論」を外してしまうわけにはいかないでしょう？

議論を避けるのは、しばしばむしろ致命的です。

日本国内では、ほめられる事が多いようですが。

Helvetia : こままささん

公共交通機関を名乗るような乗り物は、終夜運転が原則であるべきではないでしょうか？

30分に一本でも、電車が規則的に終夜運転されると、助かる人がたくさんいるとおもいます。

東京でも、ナイトライフの『ナイト.....』ぐらいで打ち切らないと、家に帰り着けないですから

みかん : >『言葉』で将棋や碁をうつ事に例えてはいかがでしょう。

こう考えてみると、議論というのは、禅の思想に通じますか。個人的な感情が入ると、もうそこで負けですもんね。

人間だから不愉快に思ったり、憤慨するのは当たり前なんですけど、それを微塵

にも見せない強さ。あこがれます。^^

Easyrider : みかんさん

会社にいた時に思ったのですが、声の大きい上級職の人にみなさん従うのです。

その人が間違っている時・・・

陰で、「あの人はああ言うけど、違うよな」・・・という会話がなされます。

相手の話しを聞く場合は、声は大きくなりませんね。

議論は冷静に成されます。

みかん : Easyrider さん

>陰で、「あの人はああ言うけど、違うよな」という・・・

方達を、一概に攻められないというのもあると思うんですね。

これは私の持論ですが、日本（日本だけじゃないですが）では往々にして、相手の反応/出方が予見できない怖さがあると思うんです。

これが結果として極端な行動に繋がったり。

まず相手の出方をじっくり見て安全だと確認してやっと、本音を言うことができる。

そういう傾向、ないですか。

どなたでも勘違いしてたら指摘してくださいませ。

Easyrider : みかんさん、はっきりいって、ありますね。

要は、背景に責任の取り方があるのではないかと思います。

こままさ : 投げかけた話題は「鯨の食文化」だったのですが、展開の中で対話や議論の仕方についての深い意見交換となったようです。

これこそ集合知と言えそうです。

さて、対話や議論をする時は、話している内容と話している人の人格を分けて考えましょうね。以前「交渉術」について書いた時にも触れました。

ここを間違えると「そんなことを言うあなたのことが嫌いになった」という、議論結果が互いの人格への感情に結びついてしまい、建設的な時間になりません。

どっとねっとは、多少の失礼を理解した上で感情を抑制出来る人たちの集まりなので、穏やかで建設的な議論進行になっているように思います。

take : >話している内容と話している人の人格を分けて考えましょう

これが簡単そうでそうでない…。慣れでしょうか。

「議論」のあり方というのは、今でも流儀に戸惑いを覚えるひとつです。

対話的議論、けんかに近い議論とさまざまなケースが、場のニーズによってどんどん変わるからですね。実際はそれをどんどん使い分ける（笑い

学会、職場・ビジネス、NPO、町内会、クラブ活動、そして家族。&ネット。

すがすがしい議論にしばしば遭遇したのは、学会のようなアカデミズムでした

が、やはり議論になれた、Helvetia さんのおっしゃるような腕のたつ論客もいるからでしょうか。くやしいけど、納得、なんて。かばってくれる人もいたり。

傷つきやすいのが家族かも。つい言葉が過ぎて参ってしまったのがクラブ活動。先輩風をふかす人もままして激昂したりその他流試合。クラブ活動でやりあってしまうと、なあなあ議論では飽き足らなくなってしまう。あと男女比。トラウマにならない程度のコミットメントのギリギリをどう建設するか。これはわたしにはとうてい完成できそうもありません。(ー;)

「どっと」は日記のオーナーによってコミュニケーション（議論）の質が変わったり、日記とコミュでは自ずと違ったり、こちらのスペースを拡大しているようです。

「どっと」は会話、対話の交歓がベースのスタートでしたが、この変遷は興味深いところです。実験サイトの目に見える部分かも、と今、客観的にみることが出来ますね。こままさんのいう「集合知」という言葉を重ねるとまた新しい展望がみえそうです。

なおかつ交歓のグラデーションももちろんある、と。議論だけではつらいから（笑い 結果、町内をはしごする、と。

みかん : >グラデーション

ほんと、これですね。

要は何でもあり、ですか？ みんな同じは、怖いでもんね。

Helvetia : おやおや、議論についての議論が続いてますね！

議論は、会話の途中でも、何かのきっかけで始まることありますね。

「あ、そういえばね、……」などと言う、ちょっとした切り替えで、議論のスイッチが入ったりします。つまり、ちょっと一杯やっている所謂スモールトークの場面で、ある問題が話題になり、それについて、『概念』を明確にしながら、『論理』の手順を踏んで、一步一步、その問題の様々な側面に光を当てたり、その問題についての、有り得べき解答を提示したりする。それは、勿論、話者の頭の中にわだかまっていた『仮設的説明』を投げ掛けてみることです。すると相手がそれに乗ってきて、別の見地から、別の解答案を話題に乗せる、それについて、また議論が進む、と言うやりとりで、結果的には意見が一致したりしなかったりする。そのやり取りが楽しいのであって、一種のゲームですね。昔なら、侍だけででなく、町民や農民もやっていた剣道の『手合わせ』見たいな物だと思います。

剣道が、サッカーや野球の影に消えてしまってから、我々も、議論をする出会いを失った（日本では）ということかな。

議論の場に出される意見、そこで言われる言葉は、あくまでも『論理的な手順

にのって』のことでありますから、剣道の、ルールみたいなものがあるので、楽しみの本質は、将棋や碁と同じ、思考と言語でのゲームだと思いますが、『言葉と論理』と言う道具が違いますけど。

剣道の一打が、その瞬間に個人の人格を離れた客観的なものであるように、議論の場での言葉も言説も、原則としては、個人の感情や人格の内容とは切り離されて、客観的にその場に置かれた『考察の対象』に成るわけです。そんなゲームが、「面白かった」という後味を残す、楽しい会話の重要な要素。参加者の誰もが、そこで何かを得る、思いつく、そんなシチュエーションですね。

ただ、日本の社会では、スモールトークの枠を超えると、少なくとも固い話を持ち出したという、暗黙の非難を浴びることがおおいですが、これは、多分、1945年をすこし過ぎた頃からの、比較的新しい現象のように思います。

スモールトークしかない人、というのは、決してポジティブには評価されない社会も沢山あるのですが。

take : Helvetia さん

興味深いお話をありがとうございます。

>日本の社会では、スモールトークの枠を超えると、少なくとも固い話を持ち出したという、暗黙の非難を浴びることがおおいですが、これは、多分、1945年をすこし過ぎた頃からの、比較的新しい現象のように思います。

ということは、それ以前は、固い話ももっと普通にやっていた？

>剣道が、サッカーや野球の影に消えてしまってから、我々も、議論をする出合いを失った（日本では）ということかな。

これは含蓄のあるお話です。考えて見たいと思います。

みかん : Helvetia さん、なんとドンピシャな説明と思って拝見しました。

政治家など意見が対立するもの同士が、仕事を離れた場所で、相手の実力を認め合っているのを目撃したとき、これだと思ったことがあります。

日本でもイエスマンは尊敬されませんね。でも、私を含め、それをやってしまいがちです。

Helvetia : take さん

>ということは、それ以前は、固い話ももっと普通にやっていた？

そう思います。

昭和20年代半ばころの北海道の高校生でも、ちょっとプライドの高い連中は、カント、西田幾多郎、ニーチェ、ヘーゲルなんかの岩波文庫をポケットに入れた持ち歩いてもンです（ちょっとはそういう事を語れないと、ある種のインナーサークルに加われなかった）。

ひょんな事から、大学生達を経年観察する機会があったのですが、終戦後の高校生／大学生ほどではないとしても、昭和57／58年ころまでは、生きる事

や世の中について、まじめな疑問や問題を持っていて、それを言葉にして大人とも話の出来る人達が多かったのですが、その後、そういう人の数が急速に少なくなっていました。

「固い話」をすることにためらいを見せ始めた。自分の考えている事を、明快な言葉にする能力が後退していったような印象を持っています。そのうちに、自分の好きなこと、やりたい事が何なのかさえ、はっきり言えない人達が多くなっていったような気がします。

Helvetia：みかんさん

日本の国会中継がつまらないのは、脚本にない発言が飛び出さないようにしてあるからではないでしょうか。

つまり、各党は、それぞれ議員が規定の文言を繰り返す、表現を変えても、誰もが同じ趣旨の事を延々と言う、つまり、トートロジーの繰り返しですから、それぞれの党は、誰が議員になっても大して変わりはない「イエスマン」の集団なのでしょう。

政治が信頼されない、尊敬されない原因のひとつはそれでしょうね。党内言論統制（ファシズム！）が当たり前になっている事、党議拘束が通則になっている事！

各党議員をロボットで置き換えても、経費の節減にこそなれ、国会論議の質にはあまり関係ないのではないのでしょうか。

「偉大なるイエスマン」を自称している「正直」な人もいます！

Helvetia：こままささん

捕鯨については、国際捕鯨委員会の会議に出る日本側の代表が、オーストラリアの代表の明らかに矛盾した発言に正面から反論できなかった（言葉の能力と、議論の仕方の問題！）事が、何年か前にあって（NHKのドキュメントにありました）、それから日本の立場が悪くなったようです。

毎回、日本代表団の顔ぶれ代わるのに、反対派の各国は、何年も同じメンバーを貼付けてますから、ベテランと新人では、勝負にならない。それに、クジラなど見た事もないような、アフリカのど真ん中の国まで陣営に引き入れて、勢力を増やす（米国が中心）事もやっていますので、戦略的に負けてましたね。

イギリスが議長国になったロンドンの会議では、例のシーシェパード号事件が、批判され、日本の立場も少し回復したようですが、あれは、海賊行為ですから（日本籍船舶への航海上での不法侵入、捕獲したクジラの強奪行為など）、ソマリア海域と同じように、日本の捕鯨船は武装艦艇によって保護すべきだと思います。

大量にオキアミを食べてしまうクジラが増えている事と、魚の漁獲量の減少との間に、因果関係があるのかないのか、これも、はっきりさせてほしいもので

す。

みかん : >党内言論統制（ファシズム！）が当たり前になっている事、党議拘束が通則になっている事！

イギリスの各党も実はこれをやりたがっているけれども、できないでいるように感じます。日本の徹底ぶりは、やはりレベルが違いますね。

>「固い話」をすることにためらいを見せ始めた。

アメリカのブッシュ元大統領が反知性主義と非難されていましたが、日本にも違う形で半知性主義なるものが存在するのではないのでしょうか。

日本人は、知性的な国民であることは間違いないのに、同時に知性的なものに対して居心地の悪さも感じている。

石原都知事や麻生首相のように、政治家さえも、こぞって反知性主義に傾いているように見えるんですが、それは私の勘違いでしょうか。

take : Helvetia さん

知性からひこうとしている傾きを思い出しました。

わたしの学生のころですら、ニーチェやハイデガーは敬遠して、サルトルあたりから始めると行った工合でした。時代はたくさんの著作があふれ、何を読むべきかにも迷っていた感もあります。

若い頃、職場の大先輩に「君の疑問は、「純粹理性批判」のなかに答えがあるよ」などといわれ、ビックリしたことがあります。結局、読み切れませんでした。情けないんですが（笑い

といいながら、また、思い出しました。明治からのクリスチャン系の自治寮の日記のデータベースを作っていることをかつてちょっと書きましたが、その中には硬派の議論と、自らを知性、理性、ストイックな日々で律しようという精神があり、舎是は control your appetite & passion でした。

<http://seinen-kishukusha.com/nenpyou.html>

みかんさん

政治家の印象は、知性と他のものとのバランスでいくらでも替わるのかもしれないね。竹中平蔵氏ならば、学者のアカデミズムに魔性の何かをまぶしていたような。石原さんも麻生さんも知性がないというよりほかの匂いが強いのかも。しかし、それを補うのが知性だ、といわれると、おっしゃるとおりと言うことになりますね。知性は羅針盤だ、と。わたしは羅針盤は知性ではなく、神性または仏性ではないかと思っていますが。

みかん : take さん

私は、羅針盤が神性であっても仏性であっても、個人的には問題はないんですが、知性がそれから切り離されたものとするのは、まだ自分の中でわだかまりがあります。

私の前のコメントは、石原都知事や麻生首相が知性がないという意味ではなかったんですね（すみません、紛らわしかったです）。

知性＝信用できない/不誠実みたいな、何かネガティブなものでもあるかのようなメッセージを人々に送っているような気がするんです。

take : >知性がそれから切り離されたものとするのは

あ、それ、同感。知性と神性または仏性はひとつながりで
ありたい、と自分では一応願っております。

>知性＝信用できない/不誠実みたいな、何かネガティブなものでもあるかのようなメッセージを人々に送っているような気がするんです。

そうですねえ。知性が信用できない、不誠実、、はおかしいですね。

知性が変なロジックにつながっていくとき、眉をこすりますけどね（笑い
最近、ロジックにメチャメチャ弱いからコンプレックスが強くて…。(_ _) ;

みかん : take さん

私の意図は、知性 VS スピリチュアリティではなかったのです。

これはこれでまた問題があると思いますが（変なロジックはどちらにも存在しないですか）。

普通のボキャブラリーを使って普通に話す。なぜ自分を人工的に落とす必要があるのか、不思議だったんですね（卑俗主義？）。

take : みかんさん

>私の意図は、知性 VS スピリチュアリティではなかったのです。

了解してますう(^ _ ^)v すいません、わたしの言葉が足りませんでした。

>変なロジックはどちらにも存在しないですか。

そうですね。なにか、人を批判することが悪いことだ、というような慣習に自分が漬かっていたことがあるのか、無批判人間つうか批判力が著しく劣っていると自覚しています。わたしが育った環境のせいです、恐らく。

そういえば、「〇〇力」という本が随分売れてきたのに、「批判力」は未だだったのでは？ 惚れ惚れする優れた批判精神は一杯あるのに、「悩む力」「質問力」などのようなプラス評価はむずかしいのでしょうか。批判力がかなり欠けているために密かに待望中です。（笑い

Helvetia : take さん

>羅針盤は知性ではなく、神性または仏性ではないかと思っていますが。

羅針盤を、どの高さに設定するかという問題でもあります。それから、羅針盤

と現実の事象との間をどう連関させるか、という問題もあります。

神・仏・絶対者（一神教の神）についての教えは、この世ならざるもの世界（死後の靈魂の問題）についての教えであると思います。所詮、人間の知性、ましてや、科学的判断の根拠である経験のレベルを超越した世界についての教えではないでしょうか。

パスカルは、「信仰とは賭けである」と言い切ってます。「神は在る」にかけるか、「神は存在しない」にかけるか。所詮、神の存在を「証明」したり、「否定」することは、知性には不可能であるからです。こういう言い方が、不遜であるという誹りを受けるであろう事は明らかですが、人間の知性や経験の限界を考えると、そのように結論するほかないのではないのでしょうか。つまり、個々の人間の内面で、生きている限り解決できない大きな矛盾としてあり続ける問題なのであると思います。

ですから、神性・仏性のレベルに、現実のこの世での行動を決める羅針盤を取り付けてしまうのは、危険ではないでしょうか。

知性というのは、その意味では、この世で使える羅針盤、不完全なこの世にふさわしい羅針盤なのではないでしょうか。知性は、切れの悪いナイフ、誤差の多いゲージ、時には物事を壊してしまうノコギリみたいなものですが、それ以上の道具を、人間は持ち合わせていないのだと思います。

パスカルは、「神は在る、という方に賭けた方が得だ」から、そちらへ賭ける」とと言ったそうです。デカルトの「理性」（知性）の哲学はすばらしいが、神の無限の恩寵の前には、限りなく小さいものだとも言っていますが、もしも、39歳で病死しなかったら、西行法師のような、一生を送ったかも知れません。羅針盤の針を動かすエネルギーは、神性・仏性に起因しても、方角を読み定めるのは「知性」でしかあり得ないようにおもいます。

パスカルが日本人に親しみやすいのは、西行さんの心境に近いところにいたからかも知れません。

みかん : take さん

>無批判人間つか批判力が著しく劣っていると自覚しています。

これは私の take さんに対する認識とかなり異なりますが。^^

take : Helvetia さん、みかんさん

おはようございます。こままさんの日記上で、勝手に（笑い）興味深いお話を展開させていただいております。

みかんさんの投げかけを反芻しながら、いつしか、自分なりの掘り下げが始まり、朝のお勤めのさなか、ユングの、心の二重構造に思い当たりました。これはもう少し整理して書きます。

と、日記を開いたら Helvetia さんの書き込みを拝見。出勤前ですので、斜め読

みして、書かずに参ります。美味しいケーキを帰宅後のおやつ用に
しまつて出かける少年の心境。

みかんさんは、Helvetia さんが再三ご指摘されてきたように、核心部分を
えぐる問いかけにおいて、実にスーパーな力をおもちですね。

それはなんなのか、気づきと呼び起こす、なにか。

ひょっとして、天性のファシリテーター！そんな形容詞が浮かびました。

では。髭そって（爆

collinmama : 私も p c の調子が悪いので、斜め読みで、若者の考えだけちょっと代辺じゃ
なくて代弁しておきます。

＜固い話＞をすることにためらいを見せ始めた。

いわゆるゆとり教育世代の「固い」「軟らかい」という基準が私たちと全然違う
んですね。というより、「固い」「軟らかい」にかかわらず自分の興味がわかな
い分野には参加してきません。

＜自分の考えている事を、明快な言葉にする能力が後退していったような印象
を持ってます。

はい、明快な言葉と省略して短快？にすることと取り違えています。

＜そのうちに、自分の好きなこと、やりたい事が何なのかさえ、はっきり言え
ない人達が多くなっていったような気がします。

一番憂いているのはこのことです。

ボケとツッコミを繰り返しながらやっとか聞き出しています。自分で自分の考
えを整理できないみたいで・・・。

take : Helvetia さん

ありがとうございます。

>知性は、切れの悪いナイフ、誤差の多いゲージ、時には物事を壊してしまう
ノコギリみたいなものですが、それ以上の道具を、人間は持ち合わせていない
のだと思います。

思わず、表現の正確さとユーモアに膝を打ちました。

前後しますが、

>ですから、神性・仏性のレベルに、現実のこの世での行動を決める羅針盤を
取り付けてしまうのは、危険ではないでしょうか。

ここには直感を述べてしまうと、それこそ「賭け」ではないかと思います。

ただ単純な賭けと違うのは、その賭けあるいは見なしによって、「安心」が芽生
えることではないかと思います。

わたしのほんのわずかな経験では、仏性というのは日常の、条件反射してしま
う心の動きを止めたときに、たま〜に、ホントに稀に浮かび上がることがあり
ますが、きっとその際に、きっとこの仏性あるいは神性は誰にも眠っているも

のだという、妙な確信を得たのを覚えています。

これももちろん危険な賭の結果ですから危ういのですが（笑い）、この部分はユングの集合的無意識（だったでしょうか？）とつながるものではないか、とあとで気づきました。この仏性という、普段は仮面（ペルソナ）の陰で気づくことのない「自分」というものに視点をあてれば、自他一如の世界も少しは近くなったように思われたのです。

話はこんな私的な取るにたらない経験のことではなかったですね。知性と議論が始まりでした。結局、みかんさんが書かれた、

＞知性＝信用できない/不誠実みたいな、何かネガティブなものでもあるかのようなメッセージを人々に送っているような気がする

に戻ると、わたしたち日本人の、わたしを含む一部は知性に「まごころ」というのをまぶされていないと、「えせ」「思弁的」と見てしまう傾向があるのではないのでしょうか。

ただ、知性というのはきっと「科学」も「未科学」もあわせて包むものだと思いますし、「まごころ」はこの未科学に含まれる、ということに関係がないのでしょうか。

書きながら、自分なりにいくらか整理されてきました。

＞パスカルは、「神は在る、という方に賭けた方が得だ」から、そちらへ賭ける」と言ったそうです。デカルトの「理性」（知性）の哲学はすばらしいが、神の無限の恩寵の前には、限りなく小さいものだとも言っていますが、もしも、39歳で病死しなかったら、西行法師のような、一生を送ったかも知れません。これ↑は目からウロコです。（^_^）v

＞パスカルが日本人に親しみやすいのは、西行さんの心境に近いところにいたからかも知れません。

ユングも間違いなく東洋の哲学を反芻していますね。

ありがとうございました。

take : こりんさん

貴重な現場報告、神妙に伺いました。

＞一番憂いているのはこのことです。

ボケとツッコミを繰り返しながらやっと聞き出しています。自分で自分の考えを整理できないみたいで・・・。

ううう。これはどうする…。まわりが我慢強いカウンセラーになるしかない？

みかん : みなさま、

私の思いつきのようなナイーブな問いかけから、これだけ手応えがある交換が生まれ、至福を感じています。ありがとうございます。

take さん、やはり、日本には反知性主義が存在するんですね。

オバマ大統領が就任して以来、ブッシュ政権時代に影響を及ぼしていた反知性主義(anti-intellectualism)の時代が遂に終焉したと、アメリカだけではなく、イギリスでも歓喜の声が上がっています(就任直後のオバマ大統領による幹細胞を使った実験の禁止の撤廃はその象徴でした)。

それだけ、アメリカでは反知性主義が脅威だったということだと思います。

ご存知の通りイギリス社会はアメリカ社会といろいろな点で大きく異なるんですが、アメリカ社会と違いスピリチュアル的なものと知性的なものが、お互いに排他することなく、別のものとして受け入れられているような気がします。

勿論、お互いの行き過ぎのために、摩擦が生じることもありますが、その摩擦でさえも、知性のぶつかり合いと言った様相です。恐らく、これはキリスト教そのものとイギリス的なものの性質を反映したものだと思像しますが。

で、私が take さんのお話を伺って興味深いと思ったのは、日本の宗教観では、知性とその他のものが対立関係にあるように見えることなんですね。

確かに生におけるある局面においては、知性だけでは救われない場面もあると思うんですが、Helvetia さんが仰られた通り、道具としての知性を対立するものとして否定してしまうのは、とても危険なように思います。特に、若い人たちから、それをとりあげることは、自立して生きる術を取り上げてしまうようなことだと。

その点において、日本社会で、政治家や有名人など、影響力のある人たちが、>知性＝信用できない/不誠実みたいな、何かネガティブなものでもあるかのようなメッセージを人々に送っている

ような気がして、懸念を感じるのです。

みかん : <つぶやき>

それにしても、知性のない私が知性の塊のような take さんに、反知性主義を懸念してるなんて、なんか穴があいたら入りたくなるような心境になってしまいました。(^ ;)

take : みかんさん

>>知性＝信用できない/不誠実みたいな、何かネガティブなものでもあるかのようなメッセージを人々に送っている>ような気がして、懸念を感じるのです。

懸念はわかってきました。Helvetia さんもおっしゃる、

>知性というのは、その意味では、この世で使える羅針盤、不完全なこの世にふさわしい羅針盤なのではないでしょうか。

ももっともだと思います。かつ、とても興味深いテーマだと思います。おもての世界で考えて、社会の舵取りの判断で頼りにできるのは蓄積された知性だ、としか言いようがない、とも言えます。これは真実であり正しい解だと思います。

わたしの小さなこだわりで敢えて固執するとすれば、チャーチルがしばしば大事な判断をするときに、当然知性にもとづく一般の判断をしたうえだと思えますが、なおかつ、ポケットのなかでもぞもぞしていた、というエピソード。何しているの、と尋ねると、ポケットの友人と相談しているのだと言ったというアレです。あの、ポケットの中で相談していた相手は、石でできた、いわゆる観音エクボだったわけですが、これなのかもしれません。たしか、「主知的」という言葉があったような気がします、その「主」がどの程度なのかの違いだけなのかも知れません。数々の判断をガイドするのは知性である点は、繰り返しですが、やはり否定しようがないと思います。しばしば穴があったら入りたくなる、それはわたしの日々です。(爆) だんだん自分の感性が鈍ってきて、本当によかった、と本気で思う反面、ときどき詩人に変身できれば、と思うことも(笑い) この、不可思議な、人の一生。多様なものさしをたてよこに使いながら、なんとか道具になるものを探し続けるのだと考えると、ちょっとまた楽になります。

みかん : take さん

お話、謙虚な気持ちで拝聴しました。ありがとうございます。
懸念という言葉は、take さん自身に当てたものではないので、なにとぞ誤解なさらないでくださいね。
ここまできて、なんとなく、雰囲気 が ” スペイン異端審問 ” のようになってしまったので、問題を一度整理させてください。
えーとですね、またまた繰り返しのになりますが、私が反知性主義という言葉を投稿かけたときは、スピリチュアリティのことは、それほど念頭にはなかったんですね。
それよりは、日本社会に何となく蔓延しているように見える、知的なものに対する居心地の悪さはどこから来るのかという問いかけでした。(ブッシュ政権の例が、よくなかったかもしれません。)
恐らく、take さんは、これを非常に高い次元でとられて、知性の反対にくるものの代弁をかってでられたんだと思います。
今白状しますと、このような展開は私には予想できていませんでした。
take さんが代弁者をかってでられたことで、今回の話の展開が非常にパーソナルなものになってしまったため、議論のテーマ上、議論自体が公正ではなくなってしまうような気がします。個人の信条を議論するのは、きついですね。
でも、それに関わらず、今回 take さんは敢えて、自主的にそれを公にされた。なぜなのでしょう。私の言葉の中で邪悪なものを感じられのかもしれませんがね。
^^ ;

実は、私が擁護しているのは、take さんが考えてらっしゃるような高いレベルのものではなくて、take さんがご自分の本で、自分の好きな言葉を選んで、ご自分の考えをを自由に表されているように、言葉を使って自分の考えを表すことがもっと奨励されるべきだと思ったからなんです。

この辺で、恐らく誤解があったかもしれません。

ただ、告白してしまうと、日本的宗教観と知性の相関関係にも、とても興味があります。もしかしたら、それも、先ほど申し上げた日本人の知性に対する居心地の悪さに貢献しているかもしれない？

自分でも、どうして、こういうことに関心があるのか分かりませんが、批判が目的ではないということだけ、理解していただけると幸いです。^^

take : みかんさん

どうもごていねいなレスに重ね重ね感謝いたします。

みかんさんが、冷静で公平な議論として展開していることを重々承知しているつもりですし、今回、中を飛ばさず（笑い）しっかりと平行線を維持してみたのは、この際、人を自律的にコントロールする「おおもとの教え」みたいなもの（羅針盤と表現しました）と「知性」をわたしも整理してみたいという動機があったのです。

Helvetia さんからもタイムリーなコメントをじゃんじゃんいただいていたし、大変好都合でもありました。批判を受けていると考えてむきになっていたのではありません（笑い）し、みかんさんの方が、いつもどおり、適切なウガチ方をしてくれる流れにそのまま乗ってたどっているものです。ただ、個人的な懸案事項を引きずってバイアスをかけてひっぱったかもしれません。

>なぜなのでしょう。私の言葉の中で邪悪なものを感じられのかもしれませんがね。

これは全く違います。冷静・公平な議論を綴るには情緒的で不穏当な言葉遣いがあったのは恐らくわたしの方です。それで懸念を抱かせることになった可能性は大です。

このバイアスはわたしの私的な実験に遡るからだと思います。わたしは林とのつきあいを深める中で、林とか樹木はこちらの感性次第で実にさまざまなメッセージを出していることを知るにいたりました。そのメッセージは、時代との不適合や理不尽との闘いなかで病んでいく、あるいは成長できずにいる人にとって、ある種の福音、というか扉を示していると見るのに等しいものです。

そのメッセージは日常活躍している理性や感情のもっと深層の、無意識に働きかけているようだ、とも考えるようになったのです。これはギブソンや佐藤正人のアフォーダンスともつながるようですが、結局、林や樹木の今日的意味は、資源とか地球環境への貢献とは別に、イモータルな人智を越える存在としてあ

り、こちらの向き合うマナー次第では時代の病理を和らげる力をもっていないか。

それを何と呼ぶのが最もいいのかわかりませんが、ともかく、未科学だからと排除されそうなそこから、自分だけでも逃げないでつきあおう、そこはまさに「知性」と「仏性」、誤解を恐れずに書けば「良心」、それがどうつながるのかを見つめる実験ではないか、ということです。

知性が意識上のものである、一方仏性はコロコロ反応する自分という心を滅失した無意識のなかに横たわっている、そこを越えることができるのかできないのか。

そのように心をニュートラルにするのは、恐らく瞑想のほかに（どういうわけか）林の中の散策などがあると思います。だから、結論としてはそもそも、「当面は知性を拠り所とするしかない」という見方と、未科学なハイヤーセルフに出会おうか、という進路の問題であり、二者択一のように話題にするべきではなかったかもしれません。

こういう傾き自体がヨガに学びほそぼそと実践していた結果のことですから、普通は実に唐突な話でした。土俵が違うぞ、ということかもしれません。それを敢えてしてみた、それで一見平行線になってしまった。状況はまったく悪くないどころか、少なくともわたしには大切な気づきと呼びました。みかんさんの言動には何のともないばかりか、再三に言いますが、そのリードは得難いファシリテーターです。

（おお、人の日記でこれだけ書くと「狼藉」を働いているに等しいですね。しかし、これは鯨のせいです。鯨は、こういう議論をおこす魔性をもっているようです）

わたしなりに整理すると、みかんさんは知性の一般解を求めて、わたしはそこに一般解の顔をして特殊解を書こうとしたことに、齟齬の原因があったのでしよう。

そして恐らく、困ったことに、言葉の定義に厳密なみかんさんに対して情緒的なふわりとした言葉を多用するわたしとの、必然的なズレなのかもしれませんね。でもそのズレもものかわ、そこをていねいにカバーしあって交信している、ひょっとしたらネットによる交信で相互理解にストンと落ちない場合の、かなり模範的なことを演じているのではないか、と思うようになりました。（笑い）
←マタ、ジガジサ

みかん : take さん

take さんのメッセージ、神妙かつ興味深く、何度も読み返えさせていただきま

した。

特に、スピリチュアリティとしての林/樹木とアフォーダンスの関係は目からウロコでした。

なんとなく、このところで、takeさんが仰りたかったことが（少しだけ）分かったような気がします。

>かなり模範的なことを演じているのではないか、と思うようになりました。（笑い）

はい、まったく同感です。

それにしても、パスカルの”賭け”という言葉は、まさに正鵠を射ていますね。考えれば考えるほど、これ以上、ストーンと落ちる言葉はないような気がしてきました。この”賭け”という言葉から、またいろいろ議論が派生しそうですが、それは次回のお楽しみということで（笑）。

こままささん、

こままささんに提示していただいたトピックに感化され、気がついたら、こんなに長いスレッドになってしまいました。でも、恐らく、こままささんも私と同じく、一度公開された日記は公に属するという考えでやってらっしゃると信じてましたので、あまり心配していませんでした。しかしながら改めて、今回は場所提供、ありがとうございました。^^

こままさ： 面白い展開になってワクワクしながら見ていました。熱心な意見交換ご苦労さまでした。

実は私的には、日本人がなぜ知性を重視しないのか、については、山本七平さんが述べていた、日本人が得意な『臨在感的把握』に原因があるのではないかと考えていました。

臨在感的把握とは、神様がそこにいることがさも当然のように感じられるというようなもので、説明はつかないけれど、そこに神様がいることは分かるというような感覚です。

つまり日本人は、説明されなくても答えが分かっちゃって、一度答えが分かっちゃしまうと、いくら説明されても態度を変えないという性格が強いということです。

知性を戦わせて答えを導くというのが議論だとすると、日本人は議論などしなくても、実は誰と誰が議論しているというだけでどちらが正しいかということたえにたどり着いているのではないのでしょうか。

だからそれ以上議論を続けることは実は余り意味がないという…。

さらにいえば、だからといって相手を傷つけるのは好きではない国民性から、議論が続いていることを別に止めもしないというような事ではないかと思うの

です。

その直感力には優れていても、実は感情が先走ることも良くあって冷静な知的なロジックの積み上げは苦手という面もありそうです。

最後の最後でまとめにならずにまたいけんをふっかけてしまったようですが、お許しを。

Helvetia : こままささん

ソマリアの海賊見たいに、こままさんお日記に乗り込んで。あちこちに舵を切って、水平線の見えない思想の海を、出来の悪い羅針盤をたよりに、さまよわせていただきまして、有り難うございました。驚くべき寛容さを発揮してくださいまして感謝いたします。

別のスレッドをたてて、このテーマを追ってみたいともいますので、そのせつはよろしくおねがいたいいたします。

Helvetia 拝

ATU : 後から、こそつと書き込みをさせていただきます。

いやあ、皆さんの内容になるほどと唸っております・・・。

大変勉強になりました。

知性と神、仏、信仰・・・その考え方と表現に納得です。

今度、Helvetia さんの別スレッドに少しでも参加させて戴きたいと思います。^^

こままさ : Helvetia さん

いえいえ、どういたしまして。こちらこそ楽しませて頂きました。

おそるべき鯨パワーでしょうか（笑）

take : みなさま

あつという間に長くなりましたね。縁あつてご参集のかたがた、どうもありがとうございました。Helvetia さんの新スレッド、楽しみに待ちます。地球のさまざまなテーマを象徴する鯨には、なにか議論の霊力があるのではないか、これをまた勝手に信じそうです。（爆

みかん : ぬ、ぬわんと。みなさま、まだまだ、余力ありという感じで。@@)

それでは、第2ラウンド、まいりましょうか。

L(-_-)/☆Ω チーン

あ、でもその前に、みかんは羊羹と緑茶で一服です（笑。

トピック：2007年12月31日 - われわれはどこへ行くのか

- bun さん

2009年6月3日

みかん : 形而上することを恐れないのも、どっとねっとの特徴でしょうか。(^^)

「われわれはどこへ行くのか」シリーズは6まで続きましたが、ちょっとしたオディセイという感じでした。

相棒のチョビ君との散歩を綴った日記に混じって、ずっしり手応えのある日記が突如として現れる快感...bun さん、また楽しみにしております。(^^)

<われわれはどこへ行くのか>

http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary&tar...

<われわれはどこへ行くのか2>

http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary&tar...

<われわれはどこへ行くのか3>

http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary&tar...

<われわれはどこへ行くのか4>

http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary&tar...

<われわれはどこへ行くのか5>

http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary&tar...

<われわれはどこへ行くのか6>

http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary&tar...

書き込み

ATU : 地球を語る上では宇宙を見ることが必要で、bun さんの日記にはそれらが凝縮されていますね・・・。

今、拝見して昨年1月には見逃していたことに気づきました・・・。

うう・・・

らっこ : これはあとでじっくり。

宇宙に対する疑問より今はbun さんて何者？との疑問が(笑)

日記

<われわれはどこへ行くのか 2007年12月31日>

宇宙科学者の本の題名です。大晦日に間に合わせようと思いましたが、いろいろとあって感想を書く時間がありません。宇宙から地球科学(地球システムの現状)を語った本。

とりあえず題名と私にとって魅力的だった見出しを列挙、
来年の話題として、やわらかく語る北海道開発に出てくるかも？
われわれはどこへ行くのか？ 松井孝典 ちくまプリマー新書

1 われわれはどこから来たのか

われわれとはなにか

生物学的な意味でのわれわれ

われわれは「地球システム」の中に「人間圏」をつくって生きている

「地球学的人間論」でなければ文明も環境も語れない

「人間圏をつくって生きているわれわれとは何か」を問わなければならない

部分ではなく全体を見なければ意味がない

地球を外から見る

地球システムという発想

地球システムの「構成要素」

「駆動力」が構成要素に「関係性」を生む

2 われわれはどこへ行くのか

人間圏と生物圏の違い

農耕牧畜をはじめたときに「人間圏」はできた

文明とは、「人間圏」をつくって生きる生き方

人間圏もまたシステムである

江戸時代のフロー依存型人間圏

明治以降のストック依存型人間圏

現在の人間圏では地球の時間が10万倍の速さで進む

時間をゆっくりさせるには

地球も自分の体も地球のものであるということ

「レンタルの思想」で生きる

なんのために豊かになるのか

勝ち組・負け組という空疎な発想

経済的な価値観では人間圏は安定に保てない

5億年後、地球から生物圏は消える

人間圏は今世紀半ばに破綻する

3 地球生命とアストロバイオロジー

「生命は何か」は答えられない

地球上の生命とは何か

アストロバイオロジー

火星—過去に地球と似た地表環境の惑星

火星移住計画は実現可能か

エウロパー氷の下に海が広がる衛星

タイタニーメタンの雲が湧き、メタンの雨が降る衛星

生物学が普遍的なものになるには

われわれの宇宙は特殊である

この宇宙は宇宙人に満ちあふれた宇宙か？

生物学では宇宙人を議論できない

4 地球環境の歴史

太陽系は年々明るくなっている

「暗い太陽のパラドックス」が生まれる理由

地球システムは太陽光度変化に応答する

文明は石灰岩と大理石を使う

大気中の CO₂ 量を調節して気温を一定に保つ

今の環境問題は、地球システムの理解なくして考察できない

地球のことを知らない人が語る地球環境問題

汚染が悪なら地球の歴史は悪の歴史である

5 われわれの宇宙はどうやって生まれたのか

太陽系はどうやって生まれたか

地球が地球になるまで

地球生命はいつから存在したか

分化—歴史の本質

生命はどのように誕生したか

銀河系はどうやって生まれたのか

宇宙はどうやって生まれたのか

宇宙の元素組成はどのようにつくられたか

ビックバン以前は何か？

あとがきにかえて—「わかる」とはどういうことか

考えても意味のないこと

「わかる」と「納得する」の違い

コメント

みかん : 確かに見出しを見ただけでヨダレもの。^^

ご感想、楽しみにしております。

take : わたしには難解すぎて、読む前に寝ちゃいそう…(-_-;)

やっさ : 読後感：グリとグラさん級だなあ。

> 「わかる」と「納得する」の違い

ここんとこの、ご感想、楽しみにしております。

のぶりん：ウウウ・・・・・・意味が分からん。。。。

o(((*^▽^*))o ゲラゲラゲラ

来年も良き年をお迎え下さいませ♪

2008年もよろしく申し上げますm (____) m

金魚 : 難解ですけど、読んでみたいかも。

まずは感想待ってますね。

来年もどうぞよろしく申し上げます<(_ _)>

相棒君にも良いお年をー

**** : 地球になれなかった火星・・・

とても地球と似ているのでしたっけ。

とても面白そうです。

私もたまにはそういう本に触れてみたくなりました。

** : **です(^_^)v

やっささんと同じ感想です。

ただ、**が理解するのはかなり難しい(T_T)

bun : みかん さん

絵日記でないのは、珍しいのですが、感想がかけなくてすみません。

bun : take さん

新書版ですから take さんなら数時間で読破するでしょう。眠っていなければ！

bun : やっさ さん

○科学は二元論と要素還元主義

・二元論とは脳の外部の「世界」を考える際に世界を考えている自分（脳）とは何なのかという問題をとりあえずは考えないこととして外部の世界を考えること

・要素還元主義 考える対象をより細かくとることで、考える問題をより具体的化して考えることです。

科学は、二元論と要素還元主義によって分かること、

その他社会科学、文学などは、納得することだそうです。

bun : のぶりん さん

こんにちわ、おそらく著者は、地球温暖化の環境問題を宇宙科学や地球科学から見て論じたいのだと思います。

今年もよろしく申し上げますm (____) m

bun : 金魚 さん

>難解ですけど、読んでみたいかも。

読んでみてください。

bun : silk さん こんにちは

太陽との距離、大気組成の違いによって温度のさによって違ったようです

たまには、こんな本も面白いかも！

bun : ** !

こんにちは！

もっと感想を書けばいいのですが！やっさんのところにも書きました。

Helvetia : 超新星の爆発みたいな効果（それがどういうものになるかは、分かりません！）を、お正月を迎えた hokkaido-sns.net 銀河系に及ぼしそうな、強烈なトピックスが詰まってるようです。

『ビッグバン以前はなにか？』と言う設問は、本当に気になる問題ですが、科学の問題なのだろうか、それを判る手だてはあるのだろうか、それともこれは、きわめて宗教的な領域の問題ではないのか？

とか、宇宙 (universe) には、境界があるそうですが、その向こうは何かなどという問題と同じように、非科学の領域に入る問題ではないでしょうか？

「判りえないもの」に包み込まれている『判りえるもの』の世界？

いろいろなことが科学的に判ってくると、判ったことよりも多くの判っていなかった問題があることが判ってくる、というジレンマから抜け出す道を、著者は示唆してくれているのでしょうか？

それはともかく、松井孝典氏のような、とてつもなく風変わりで、これまでの常識を見事にひっくり返してくれそうな研究者達を北海道にあつめて、「高等研究所」をつくったら、北海道は一気に世界のメッカに成るでしょうね。

「急がば回れ」と言いますが、案外、投資効率の良い、未来への発展の起爆剤になりそうな気がしてます。マジで。

** : 確かにそのように思えます。

北海道に多くの研究者が集まればきっと世界に発信できる変革の土地になるかも。

bun : Helvetia さん 隊長！

> 「判りえないもの」に包み込まれている『判りえるもの』の世界？

確かにそのように思えます。

考えても意味のないことに属するのか。

宇宙の果てはという問いには、あなたのイメージできる外側ですと答えているようです。

「太陽系がイメージでき、銀河系がイメージできなければ」太陽系が果てになる。と言うことらしいです。想像できる範囲が果てらしい。

> 常識を見事にひっくり返してくれそうな研究者達を北海道にあつめて、「高等研究所」

なるほど、そうですね。

丹保憲仁さんも同じようなことを考えているようですが？

以前、国際開発大学を構想した方がいましたが、外務省の関係大学として設立

されたようで、まったく違ったもののようです。国連大学も！

ですから、どのようにしてそのような集団をつくっていくのか？集めるのかはなかなか難しいことらしいですね。Helvetia さんはじめ皆さんの智慧を借りたいところです。

Helvetia : bun さん 隊長さん

＞外務省の関係大学として設立されたようで、まったく違ったもののようです。国連大学も！

現状ではそうなるしかないようです。そのような機構上の「しぼり」にあって、国際競争には勝ち抜けないと判断した山中教授は、ヒトの胚細胞から ES 細胞を作るのを止めて、成人の皮膚細胞から iPS 細胞を作る方向へ研究を転換したと、ロンドン・タイムズのインタビューに答えてました（同紙昨年 11 月 27 日インターネット版）。

やはり民間の資本で、やるのが一番でしょうね。徳川家康が本阿弥光悦や俵屋宗達、角倉素案などの京都鷹峯の芸術家コロニーに、知行地を与えて好きなようにさせたことから、今の京都文化の基礎が生まれたということですが、そんな、おおらかな考えは、今の政治家にもないでしょうからね、これ、江戸時代のはじめにしては、えらく現代アメリカのファンドレイジングによる様々な研究機関のあり方とにているように想われて成りません。

アメリカどころか、江戸の日本にも遅れている現代日本？

bun : Helvetia さん

なるほどそういうことがあるのですか？

アメリカのファンドレイジングと言うのはそんなにおおらかに活動しているのですか？

NPO の経営論があるくらいですから何か違うとは感じていましたが？

そこまですすんでいるんですかねー？

Helvetia : やはり税法の違いではないでしょうか？

税の軽減対象になる寄付を受ける資格ありと判定された組織に寄付をすると、税金が割引きされる制度がカギではないでしょうか。だから、財産をそっくり寄付して大学を造ってしまう（スタンフォード、カーネギー・メロンなどなど）、あるいは新学部、あるいは研究所を寄付する大金持ちや企業がいるようです。

ちなみにドイツなども同じ制度がありますから、他のヨーロッパ諸国にも同じことが言えるかもしれません。政府にしてもその方が安上がりのはずです。

日本の民間研究所は、じつは独立ではなくて、大企業の調査部が枝分かれして『なんとか総合研究所』を名乗ってるのが大部分ですが。

戦前の小樽では、1925 年、板谷宮吉氏が中心となって拠出した民間の資金・土地で、旧制の市立小樽市中学校（一説によると市立の旧制七年制高等学校への

発展を計画していた) が設立されました (現在は長橋中学校) . 北海道で最初の市立中学校だったそうです. (実は、小生、旧制時代に、二年ほどここ在学しました) .

一万坪の敷地、最新式のプール、モダンな校舎、豊富すぎるほどの科学実験設備を持った学校を丸ごと市に寄付してしまったわけです.

今は昔、北海道には、こんなこともあったんですね.

bun : Helvetia さん

多彩なご経歴ですね。

戦前の日本では、ずいぶんおおらかになされていたのが、かいま見えますが、あまり表に出てきていないような気がします。

また、教えてください。

みかん : そういえば、日本では有名な慈善家はあまりいないような。ちょっとググったら、笹川良一の名前がぽこっと出てきました。^^

西洋では、自分の名前が空港の名前になることを夢見る人もいるようですが。
^^

**** : かなり飛躍しますが・・・

民間資本なんて日本はだめではないかなあと思います。

だって社員もともに雇わない時代に・・・使い捨てが良いとされてしまったこの日本に・・・期待はできません。

どんな芸術家もどんな事業家もみな日本を出て行きます。

それだけ余裕のない集団ということだなあ・・・と・・・

いつでしたかアメリカの野球選手の年俸が何億何十億とあるけれども

その大半は寄付という形で社会に貢献されているはずですよ。

日本にはそういうシステムがまったくない・・・ですよ。

それでは慈善事業などできようはずもないし

なによりも3台で財産は全部なくなるような仕組み・・・東京だって昔は大きな家が多かった・・・話がそれました・・・

Helvetia : silk さん はじめまして！

日本の財産税率は、これまで75%だったのが、近年、50%だいで『軽減』されたそうです。

例えばスイスでは、財産税は州法で決まりますが、0%の所がいくつも有ります。一番税率の高い州でも、7%ぐらいです。お隣のドイツでも、10%代の半ばくらいのはずです。財産をのこしたい人は、日本にはいられませんね。

<われわれはどこへ行くのか 2 2008 年 1 月 5 日>

われわれはどこへ行くのか？ 松井孝典 ちくまプリマー新書

1 われわれはどこから来たのか

われわれとはなにか

現生人類（ホモサピエンス）のこと 16 万年くらい前アフリカに誕生、ネアンデルタールは、消滅し、クロマニヨンが生き残った。さらに 5, 6 万年前に世界中に分散した。

ミトコンドリア DNA をたどるとそうになっている

生物学的な意味でのわれわれ

われわれ現生人類は地球という星でほかの人類とは違った「生き方」をしている。

地球上で「人間圏」という新しい構成要素をつくったと考えられる。

われわれは「地球システム」の中に「人間圏」をつくって生きている

地球という惑星は一つのシステムであり、システムには「構成要素」があり、その構成要素間には「関係性」がある。「関係性」はモノやエネルギーの流れを生じさせる「駆動力」をシステムに与えている。

地球も「構成要素」「駆動力」「関係性」によって定義できる。

「人間圏」は地球の構成要素と考えられるし、現生人類だけが「人間圏」（これもシステムの一つ）をつくって生き、他の生物種、人類は生物圏という別の構成要素の中で生きているだけ。

「地球学的人間論」でなければ文明も環境も語れない

「生物学的人間論」「哲学的人間論」に加えて地球星を通してわれわれのあり方を考える「地球学的人間論」が必要と思われる。

今、議論すべきは「地球学的人間論」で「地球学的人間論」でなければ文明も環境も語れない。

「人間圏をつくって生きているわれわれとは何か」を問わなければならない。

と今日はここで終わります。

かなりはしょっていますが、現生人類のみがつくって生きている「人間圏」がキーワードでしょうか？

(bun の絵なしの絵日記)

コメント

やっさ : > 「人間圏」がキーワードでしょうか？

やっぱり、難しそうな本ですね。

コリンのママ: 「グローバル」ってなんだろうにも通じそうですね。

みかん : 超マクロと言ってしまうと、身も蓋もないですね。難しそー！

ある人が量子力学について「完全に頭がこんがらなければ、理解したとはいえない」と言ったらしいですが、この言葉結構気に入ってます。^^

bun : やっさ ん

「人間圏」は現代人の活動する範囲すべてを表現しているんでしょうね。
地球から生物、鉱物、エネルギーなど文明的にあらゆるものを地球から摂取して加工する。加工する機械さえ、移動手段さえ、エネルギーを地球から得ている。そうした活動すべてをほかの生物とは違って地球での再生産には、余り貢献していない。宇宙から見て夜の部分に灯りが煌々としているのが人間圏の象徴だそうです。

bun : コリンのママ さん

>「グローバル」ってなんだろう
本当に！

経済、流通はグローバルになりましたが、グローバルな政治的基礎は、まだできていませんね。

COP 1 3 などでの合意がまだできず、駆け引きばかり、インドや中国が CO2 の削減を先進国に押し付けて自分は、途上国だから、関係しないという態度ですから。

bun : みかんさん

>ある人が量子力学について「完全に頭がこんがらなければ、理解したとはいえない」

なるほど、小生はこんがらがっていますが、量子力学を理解していません
光の粒子性と波動性の対決ですが、「どちらかを選ぶのではなく、どちらも同時にありうる」という答えはどうですか？

みかん : bun さん

私なども理解するなど夢のまた夢。ただ巧みなレトリックに頭がクラクラと。
(@@)

3 も楽しみにしております。^^

** : 頭がこんがらがっている隊長ですが理解にはほど遠い。

でも逆説的に理解できない者と理解する者は近い存在になれるのではと思っています。

でもこれって苦しい言い訳でしょうか(*^_^*)

みかん : 「理解できたと思ったら、理解していない証拠である」とも。

すみません、もういい加減にします。m—m

グリとグラ : して、グリグラはどこから来て

どこへ行くのか気になります。

教えてください、bun さま！

bun : 隊長！

別に苦しいいいわけでは、ないのでしょうか。日記を見ると、結構楽しそうにや

っているじゃないですか。楽しくやれるのが一番です。
でも楽しいと自分で努力している実感がないでしょうね。

bun : みかん さん
＞「理解できたと思ったら、理解していない証拠である」とも
このレトリックを使うある人は、日本人ですか？それとも欧米人ですか。
仏教的においがしますね。

bun : グリとグラ さん
お久しぶり。やはり帰ってきたのですね。
＞グリグラはどこから来てどこへ行くのか？
今までで症状は出ていませんか。日本列島を北上しているんですよ。
最北端に来ていますから、後は海外に逃げるか（北極？、シベリア）

みかん : bun さん
ホントに。だから受けるのかもですね。
Richard Feynman という物理学者です。この言葉だけ一人歩きしてる面もある感じですが。日本ではそれほど知られてないのかもです。カタカナ名でググったら、700 そこそこしかヒットしませんでした。^^;

Helvetia : 人間は、『動物』の一種であることに間違いはなく、ホモサピエンスと言うグループ名まで頂戴しています。それに、人間は、他のどの動物よりも優れていると言う前提で生きています。

だけど、ヒトを、動物として見切ってみた場合、
本当に人間は他の動物よりも出来の言い動物か？ この問題の方が、私には気掛かりです。「我々はどこへ行くのか」、と言う問題ともつながってくるようで、薄気味悪い気がしているのですが、地球をでてどこかへ移住するで生き延びていられるのだろうか？

人間の赤ん坊は、実に不完全な状態で生まれてきます。頭の骨もつながっていないし、自律神経もつながっていないから、三ヶ月間は呼吸困難。心拍異常、血圧不特定、循環障害、等々。大人ならば集中治療室に入れられる状態。

そして、他の動物の新生児が身に付けている最低の自己防衛本能もない。完全な無防備。

殻からでたばかりのヒヨコでさえ、巣の上で黒い紙を動かすと一斉に身体を隠す、犬の子は、母親が帰ってくるまで、お地蔵さんのようにに身じろぎせずに座っている、石になった感じです。

しかし、人間は、本能もプログラムも全くいい加減で、漠然としたものでしかないから、何時までたっても身を守る役には立たない、天変地異の予知能力もないに等しいので、気象庁や地震研究所も、いまだに野生動物の予知能力には追いつけていない。（東南アジア大地震と津波では、野生動物はほとんど犠牲

になっていない) . ’

わが家の犬猫も、散歩に行くたびに、必要な草を何種類かせっせと食べているが、どれが食べられる、からだに必要な草なのか、教えられていないのに知っていて、「ペット撲滅運動テロリスト」が時々仕掛ける毒入りまんじゅうなどにひっかからない限り、食中毒などにかからない. .

こんな本能的判断力が欠如している生き物（人間）が核兵器まで持っているのは怖い。科学は一体人間の本能の欠陥を補正しているのだろうか、それとも助長しているのだろうか。「人間は欠陥動物である」（アルノルト・ゲーレン）と考えたほうが、問題の新しい一面が見えてくるのではないのでしょうか？

みかん : 少し前にホーキング博士が人類の別の惑星への移住を提案していましたね(提案だけなら私にも出来る？ ^^)。

地球の温暖化についても、地球の未来がどうのこうのではなく、種が滅びるだけと言い放った人がいました。そういう風に考えると、人間圏が与えられただけでも奇跡なんだなあと。

bun : Helvetia さん

>人間は、本能もプログラムも全くいい加減

ずいぶん昔、岸田秀が人間は本能が壊れた動物である（唯幻論）と書いていましたが、やはり、そうですかね？

人間の発明した理性や科学でもそれを補完できないので、現状があるんでしょうか。

確かに能的判断力が欠如している生き物（人間）が戦争など馬鹿なことをして、地球を支配しているように見えますが、地球温暖化問題についてこれだけ騒がしているのは、少しは、制御装置が作動しているじゃないかとも思っている私です。ただもう少し、早くしないと、戻れなくなるとも思っています。著者はそこを客観、冷静に書いているとも思います。

bun : みかん さん

量子力学で有名な Richard Feynman がそういつているんですね。

なるほど、彼自身の経験のたまものなのですね。

「ご冗談でしょうファインマンさん」や「光と物質の不思議な理論」

などに書いてありますかね。量子とは、光の粒子性と波動性の対決で、「どちらかを選ぶのではなく、どちらも同時にありうる」ことを目指した概念らしいですね。それでもまだ、解決したとは聞いたことがありません。

みかん : bun さん、カタカナの打ち間違いでした。大失態！！ ノーベル賞もらってるのに、おかしいなと思ってたんですが。

一回退場して、出直します。ササイトナ。

Helvetia : bun さん

♪ずいぶん昔、岸田秀が人間は本能が壊れた動物である（唯幻論）と書いていましたがむしろ、ヒトは、動物の一種でありながら、他のすべての動物とは違って、始めっから、本能のほとんどの部分を与えられていない状態で生まれてくるので、始めにあった本能が『壊れた』のだと言うような表現は、当たらないと思います。

本能が大幅に欠如しているだけ、可塑性があるわけで、本能の欠落部分や、他の動物に劣っている身体能力を、補完する為に人間は文化や技術を開発してきたのですが、このプロセスは、本能でコントロールするわけには行きませんので、文化や技術に内在的な論理連環でドンドン先へ進んでしまう、それが、ついに、地球の自然の許容範囲を超えてまで先へ進んでしまいそうな状態が現在の状況なのだと想います。

人間の、そう言う出来方（つくり）そのものが、実は、一番考えられるべき問題なのだと思うのですが、内容的に科学と哲学を往復するような思考が必要なのでしょう。

本来（人間以外のすべての動物）ならば、本能に任せておける危機的限界の見通しや、行為のプロセスの舵取りなどを、いちいち考え出していかなければならない。そしてコンセンサスを形成しいかなければならない。『人間であること』の裏打ちになっている、大問題ですね。

..... 白鳥の生き様など、つくづく羨ましい！

bun : Helvetia さん

♪文化や技術に内在的な論理連環でドンドン先へ進んでしまう

文化や技術に内在した欲望でしょうか？

と言うことはやめられない止まらないが人の本性でしょうか。

科学と技術の進行は止まらないという法則を聞いたことがありますが、その時は、あまり気にしませんでした。不明のいたりです。

bun : みかん さん

カタカナの打ち間違いくらい、どうと言うことはないので、退場せずとも！

私もやめられない止まらない気がつかないカップエビセンでした。

Helvetia : bun さん

イヌやネコの行動を観察していると、ヤバそうなこと（個体の生命と種の保存にとっての危険）は、やらない用に思えます。本能によるブレーキがかかるのでしょ。

しかし、人間は、 $E=mc^2$ （2は二乗）という方程式（1907、アインシュタイン）、つまり、理論を知ると、その結果の全貌を十分に見極められないままに、実際に原子核を破壊して見てしまう（1938、O. ハーン他）んですね、これ何なので

しょう？

たぶん、最初に「火」をつけてみた人類の祖先も、そのおかげで、将来、大火災が起こったりするだろうという『ヤバさ』の認識はしていなかったのだと思いますが、でもやってみた。そのおかげで、21 世紀の今日においても、世界中の消防署の方々が生活を立てている訳ですが、

先日、テレビで聞きかじったのですが、某医学部の教授（東京医科歯科大？）が、杉花粉の発生量はここ百年ほどは変わっていないのに、花粉症は昭和40年代から急に増え始めた。他のアレルギーにもそのような傾向がある。これは、身体の免疫力の低下の結果である。

人間のからだは、一万年くらい前の（つまり、縄文時代の始まり！）の自然環境（衛生条件！）にうまく適応するようにできているので、腸内細菌の激減（食品添加物や抗生物質）、脂肪酸の皮膜を作って皮膚表面を保護している細菌の死滅（中世洗剤や薬用石鹸で手を洗う）ことによるアトピーなどが増えてくる。サナダムシなどは常時一匹くらい腸内に飼っておいたほうがいいのか、という『元気な発言』をしておられましたが、製薬会社には憎まれるでしょうけど、健康な考え方だと思います。

「獅子身中の虫」を抹殺してしまうと獅子も死んでしまう。そう言うヤバいことをしないのが野生のライオンや他の動物諸君なんでしょう。しかし『汝の敵を愛せよ』ということは、人間にはなかなか実行できない。たまには、蚊に刺されるのもいいのかも？

みかん : みかん、再度入場。

エハ。実はこのお腹のムシを使った実験は既にかかなり前から行われていると。私が見つけた記事では鉤虫病と出てました。可愛いムシの写真が出てますので、良ければご覧くださいませ。^^
(<http://news.bbc.co.uk/1/hi/health/3287733.stm>)。

bun : Helvetia さん

> 「個体の生命と種の保存」にとっての危険に関しては本能によるブレーキがかかる

人間には、ない機能ですか？

この機能を回復または、創造することは難しそうですね。人間圏の歴史は、その課題と対策の繰り返しなのではないでしょうか。

$E=mc^2$ （2は二乗）と $ei\pi = -1$ （オイラーの公式）

は、もやもやとした概念を打ち払う、公式の代表として茂木健一郎が絶賛していますが、

公式自体に罪はないのですが、前者は質量がそのままエネルギーに結びついていて原子核の分裂をやってしまう人間の行動があるのですね。

このような公式を見いだす能力とその結果を使ってしまうこととは、残念ながら人間の脳の中で関係していないようです。公式自体には私も美しいと感じてしまいます。

オイラーの公式は人類の至宝と呼ばれているそうですが、 $E=mc^2$ はなんと呼ばれるのでしょうか

人間圏の地球への影響力を極小にする考え方を進めるしかないようです。

bun : みかんさん

虫の卵飲みますか？

カワイイは、嘘ですよ。

昔、ムシクダシは飲みましたが、むしのたまごは飲みません。

Helvetia : bun さん

こういう問題は、結局バランスが大事だということになるのではないのでしょうか？

バランスと言うと、相対立するものの存在を認めるということですから、近代科学の中核になっている西欧文明の論理構造では認められないことになりそうで、もっぱら具体的な現実と直面している政治の世界などでしか（例えば、バランス・オブ・パワー）、それも、現実世界の混とんへの妥協／譲歩としてしか言われたいでしょう。

対立概念の同時成立は、常にそれを止揚する高次の統一へむかおうとする潜在的な傾向を（政治の世界でも）誘発してきたと思います。

バランスを生命と存在の根本だと言う考えは、むしろ（多元論的な）東洋思想にこそあったと思います。西欧でも、単一原因への還元、あるいは、対立関係の解消を至上と見るのは、とくに近代（デカルトの時代以後）に顕著だと思います。

しかし、これは、いわゆる原理主義やファシズム、あるいはその他の全体主義を生み出す一面を持った思想ではないのでしょうか？

複雑な諸関係を、単純化してしまう知的な作業には、何時も一種の爽快感を覚えますが、それが高じると危ないことになるように想われます（いわく、きれいなバラにはトゲがある）。

BBC の記事は、このアメリカ人女性の、多分イギリス人も吃驚の、バランスを欠いた極端さを紹介していて、記事の終わりにはこの手の寄生虫が増えすぎると反射神経の対応速度を遅らせ、交通事故の原因になりかねないと言う最近の研究も紹介してますから、バランスは考えてあるようです。

ちなみに、東京医科歯科大の先生がいておられたサナダムシは、tapeworm で、写真の女性が信じ込んだ寄生虫は、hookworm （鉤虫）です。

農薬を使わずに栽培した、ぴかぴかに洗っていない野菜は美味しいけど、こう

いう虫の卵も一緒に身体の中に入ってくることになります。わざわざ虫の卵を飲んで見せる必要はないので、こういう行為は、一種の（逆符号の）「健康ファシズム」の現れだと思います。

みかんさんの一言は、「汝の敵を愛せ」というと、敵は可愛いと言えるか、たとえばそれが『鉤虫』であっても（？）、というワサビの利いた皮肉であると思いますので、反撃の機会を逃すまいと、眼を皿のようにして、つぎなる書き込みを待っている所であります。

>オイラーの公式は人類の至宝と呼ばれているそうですが、 $E=mc^2$ はなんと呼ばれるのでしょうか

やっぱり、至宝の一つでしょう。素人目にも、実に『美しい』方程式ですから。もっとも、アインシュタインは、エネルギー源としての原子力一般の研究促進を大統領への手紙で書いただけで、「原子爆弾の開発を促した文面」ではありませんね。その後の、マンハッタン計画などにも一切関係していないようです。彼の署名が、政治的に悪用されたことについては、最後まで悔やんでいたとのことですが。

>このような公式を見いだす能力とその結果を使ってしまうこととは、残念ながら人間の脳の中で関係していないようですね。

脳の中では関係している（この論理連環が問題）が、本能的に危険を感じて、抑制することは出来ない（できない？）のでしょう。アブナイからと言って、研究開発を中止した例を知りません（江戸幕府は、馬車の利便性を重々承知しながら、その社会的・軍事的『危険性』を察知して、馬車の導入を止めていたと言う説があります）、アインシュタインの理論的発見を原子力の平和利用だけでなく、抹殺兵器の開発に使ったことは、まさにおっしゃることの証明ですね。

bun : Helvetia さん

いつも明快なる講義ありがとうございます。深い知恵に感謝します。

みかん : bun さんと同じくです。楽しい。(^^)v

Helvetia : bun さん

みかんさん

「講義」に聞こえてたとしたら、ごめんなさい。

当人は、たんなる意見陳述以外の何の意図もなかったのですが、

大昔にかじった事柄の副作用が出てしまったようです。陳謝！

みかん : Helvetia さん

いえいえ、とんでもないです。大気圏の外に出て宇宙から地球を下に見ながらお話を伺っている気分。時空間の壁が感じられないのは凄いと。^^

ところで、例のムシのお話ですが、アレルギー持ちの私は、薬よりこちらを選

ぶかもですね。最近はワラジもクモも手づかみですから(笑。

bun : Helvetia さん

>たんなる意見陳述以外の何の意図もなかったのですが

もちろんそうでしょうが、こちらはありがたいですから、副作用をどんどん出して、勉強させてください。よろしくお願いします。

みかんさん

われわれはどこへ行くのか3も書きました。

よかったら見てください。

<われわれはどこへ行くのか3 2008年1月9日>

われわれはどこへ行くのか? 松井孝典 ちくまプリマー新書

外から地球を見る(部分ではなく全体を)

地球を研究しようと地球物理学教室に入っても、地球のことすべてが繋がることは学べなかった。「地震学」「火山学」「測地学」「気象学」「海洋物理学」「地球電磁気学」などすべて地球上の物質圏を個別の研究対象としていた。

そのような地球物理学から地球システムへの発想の転換は、1969年アポロ計画により人類が月面に降り立ち、地球を外から見る経験をしたことです。

その結果、大気圏、海圏、大陸圏、プラズマ圏などのあらゆる物質圏が地球を形成する「部分だ」ということが分かった。

全体は地球という星であり、いろいろな物質圏が有機的に繋がった一つシステムであることをはじめて認識した。

生命を生み、育む地球システムという発想や考え方が出てきて宇宙船地球号などと呼ばれた。部分ではなく全体を考える素地ができたのでした。

一方、1980年代に過去の地球が、原始大気、どろどろに溶けたマグマオーシャン(溶岩の海)、コアという3物質圏を構成要素としており、

それらの構成要素が相互作用して、現在の地球まで分化をして、大気圏、海圏、大陸圏、プラズマ圏などの構成要素を生み、ついには生命を育む生物圏まで生じさせたことが分かってきた。

システムですから、各圏が相互に有機的に密接に関係し、その成分や量などの活動範囲を決定していることが明確に分かってきた。

それで1980年代に地球システム論的な概念がだんだん定着してきた。

これらの分化作用を機能させているのが、「駆動力」と「関係性」で、

具体的な1例は、地球上の水の循環で、海からの水の蒸発→雲→大陸への雨→地殻の侵食→海への塩分供給になります。

このような物質循環が、具体的な関係性の1つで、エネルギーの受け渡しも起きています。

この場合のエネルギー循環の駆動力は太陽エネルギーになるわけです

2 われわれはどこへ行くのか

人間圏と生物圏の違い

狩猟採集をしていた人類は、同じ「生物圏」のほかの動物と同じで生物圏の食物連鎖に連なって生きてきた。

しかし現生人類が農耕牧畜をはじめたときに「人間圏」はできたと考えられる。

農耕は森林を畑に変え、そのときのモノや太陽エネルギーの流れの変化（地表の太陽光反射率（アルベド）の変化）を比較すると狩猟採集と農耕牧畜の生き方の差を地球システム論的に議論できる。

また物質論的にも、畑と森林では地表の侵食のされ方が違ってきます。

したがって、農耕は地球のモノや太陽エネルギーの流れを変化させ、閉じた生物圏の中で存在しているわけではなく「人間圏」という別の構成要素をつくって生きているということです。

そこから文明とは、現生人類が「人間圏」をつくって生きる生き方と言えます。人間圏もまたシステムであるといえますから、構成要素（たとえば国家）は、昔はローカルな人間圏から現在のようなグローバルな人間圏に進行してきました。

駆動力は江戸時代のフロー依存型人間圏のような前段階（ほとんど太陽エネルギーとする）と明治以降のストック依存型人間圏（石油・石炭をエネルギーとする）になります。

明治以降では、モノやエネルギーの流れは日本列島だけで完結せず、地球全体に拡大し、日本列島の人口が3000万人→1.2億人世界では15億人→60億人と4倍に増えました。

地球にストックされた構成要素である化石燃料やウランなどの鉱物資源を大量に利用し始めたのは産業革命以降です。

現在の人間圏では地球の時間が10万倍の速さで進む

このようなストック依存型人間圏では、われわれの欲望でいくらでも地球上のモノやエネルギーの流れを変えることができます。

言い換えると欲望を解放して生きると地球上のモノやエネルギーの流れを速めることになります。これが人間圏の本質です。

つまり、生物圏は20億年続き、人間圏は始まって1万年ですが、

今の人間圏の1年は、その消費物質とエネルギーの移動速度を考えると

人間圏のない地球の営みの移動速度の10万年分に相当し、このことが、地球に対する影響力の本質で、環境などいろいろな面での変化を速めています。

今日はこれで終わります。

2のコメントの答えが含まれていれば、いいのですが？

コメント

グリとグラ : 1 万年×10 万年分/年 = 1 0 0 億年 (たぶん)

人間圏が生物圏で言う 1 0 0 億年分を生きていたとしたら (負荷を与えてきたとしたら)

地球の歴史は 45 億年。

もう、地球の寿命はとうの昔に尽きてしまっていたのでは？

ある日突然、貧乏なグリグラが現れて

エネルギーをあんまり消費しなかったために、

地球の寿命はその分、延びたとか？

それにしても、壮大で面白い話です。

人間て、地球に最も相応しくない生き物とちゃいますか。

グリとグラ : われわれはどこへ行くのか？

わしはどこへも行かんぞ。

金も無いことやし。

bun : >1 万年×10 万年分/年 = 1 0 0 億年 (たぶん)

10 億年 (多分)

グリグラさん行かないで (すがりつく女)

みかん : bun さん、こんにちは。

あーだこーだ言う前に、実際読んでみたくなりました。頭の中で達観するのは簡単ですが、やはりそれについて本を書けるといのは別の話だなと (今更ですが)。

よく世紀末だとかハルマゲドンとか、人類滅亡の危機感というのは昔からあったのでしょうが (このままこの生き方を続けていてはいけないみたいな?)、それでも目の前の問題に流されていく。

人間は (集団になると) 正しいと分かっているけど実行できないようになってるんですかね (ヒトリゴト、キナガシテグサシ)。

bun : みかん さん

読んで見てください。感情の起伏は余りなくて、客観的な事実と研究結果が、ずっとあり、突如仮説が出てくる。物理学ではない言葉が、社会的、常識的と思われるような言葉が、ごく平板に出てくるような小さな新書版です。危機感と言うより、危ないよという警告を静かに言っているところが見えます。

司馬遼太郎にも人間の集団についてという文章がありましたね。ベトナム人に焦点があったように思います。ベトナム人は、何故米国を介入させるようなことをあげてやったのか？と軽く非難しています。

bun : グリグラさんの 1 0 0 億年を 1 0 億年に訂正しましたが、もし 1 0 0 億年なら

確かに地球の歴史を超越しています。しかし、生物圏の20億年の半分を1万年の人間圏が起こしていますから、本当にばかなスピードで、物質移動の変化をさせていますから、怖いことはわかります。

みかん : この本もそうですが、bun さんのおかげで司馬遼太郎が必須だと今更気が付きました。感謝です。

＜われわれはどこへ行くのか4 2008年1月16日＞

われわれはどこへ行くのか？ 松井孝典 ちくまプリマー新書

ストック依存型人間圏では、われわれの欲望でいくらでも地球上のモノやエネルギーの流れを変えることができます。言い換えると欲望を解放して生きると地球上のモノやエネルギーの流れを速めることになります。これが人間圏の本質です。

つまり、生物圏は20億年続き、人間圏は始まって1万年ですが、今の人間圏の1年は、その消費物質とエネルギーの移動速度を考えると人間圏のない地球の営みの移動速度の10万年分に相当し、このことが、地球に対する影響力の本質で、環境などいろいろな面での変化を速めています。

時間をゆっくりさせるには

環境問題、遺伝子操作も変化の時間を短縮することが、より本質的問題です。

解決の一つの答えは時間をゆっくりとさせることです。

1年が本来の1年として生きていけることが望ましい。

分かりやすい例は食料で、江戸時代は、農家が周辺で野菜をつくり、売った後、肥料として人糞を積んで帰りました。モノの循環という点では、領域的にも時間的にも閉じていましたが、現在は、世界中から食料を集めています。本来は、住む周辺で物質循環が完結するように生きなければならない。食料なら少なくとも日本国内での需給を完結すべきです。

(江戸の鎖国と今言われている地産地消か？江戸にそのヒントがあるのか？)

日本の風土と歴史に生きているのが、日本人で、日本の土地の土壌や水によって血液や体液の成分の一部が決まっています。(土に含まれる希土類のような元素は各土壌によって異なり、作物もそれを反映し、それを食するヒトの血や肉にも反映します) グローバル時代は、厳密に日本人といえるヒトは存在しないのかも？

もう1度、地域に閉じた物質循環を取り戻さないと人間圏は長く継続できないと思います。

地球も自分の体も地球のものであるということ(所有の思想感覚)

人間の感覚としてより問題があると思われるのは、所有感覚です。国家は領土を所有し、自由に利用します。個人もあらゆるモノを所有している気分です。しかし、地球上のあらゆるものは、だれのモノでもなく、地球の物質から組成しています。

人間の身体さえ、地球のモノで、分解すると地球の元素に戻っていきます。すべて地球から借りて、その機能を利用させてもらっている。(「レンタルの思想」) 所有感覚をどう

するかが問題になって来ます。

.....

コメント

やっさ : >食料なら少なくとも日本国内での需給を完結すべきです

>すべて地球から借りて、その機能を利用させてもらっている。

いずれも同感です。と同時に、肝に銘じます。

グリとグラ : ■人類が現れての1年が、生物圏だけの10万倍早いスピードで

動いている（消費したり云々）。

なんか、忙しいと思っていたんですよ。

スピードが速いものほど賞賛されるような

人類の欲望というのも厄介ですよ。

生まれながらにして優劣を競わせ、子供の時から、

大人になっても優劣をつける競争に参戦する。

勝ち組だ、負け組みだとほざく。

頑張れ！頑張れ！とはやし立てる。

もうそろそろ、こんな忙しい社会とおさらばしてもいいかなと思っていたら

なんと、寿命が30年も延びて、直ぐにはおさらばさせてくれない。

スローライフとかいうのは理屈から来てるんじゃないくて、

みんな、こういうのに疲れていて、bunさんのご説明のところを

直感した訴えなんだろうと思ったりします。

「まあ、ぼちぼちいきましょや」と私も所々で書いたりします。

これは、わたしの怠け癖からの訴えですが・・・

bun : やっさ さん

そうすると、経済屋さんが出てきて、成長がない.GDP が伸びない。日本は、貿易で食っているのに国を貶めるのかという意見が聞こえてきますね？

これも言うこと、実践するには高いハードルがありそうです。

bun : グリとグラ さん

>なんか、忙しいと思っていたんですよ

本当に実感しているようですね！

スローライフの話は本当にそうかもしれませんね。

人間に残っているささやかな本能なのかもしれません。

<われわれはどこへ行くのか 5 2008 年 1 月 20 日>

われわれはどこへ行くのか？ 松井孝典 ちくまプリマー新書

レンタルの思想で生きる

われわれはストック型人間圏をつくって以来、所有感覚を持ってしまった。

これは、少しおかしい。地球やモノを所有している幻想がそうさせているのでは？

「モノは借りて、その機能は利用させてもらう」ことが未来を考えるときの重要なヒントになります。製品を生産しても所有する必要はない。（戦後の貸本屋、貸し自転車など）機能を共通に利用させてもらうことが重要です。

物質的豊かさは何でも個人が所有することに端を発しているように思います。

これは、個人の欲望拡大で発展する資本主義が節約、レンタルを励行すると成り立たなくなり、ある意味で矛盾します。

しかし、資本主義が成立するときに、「カネがあれば何でもできる」と考える人間を作り出さないような倫理的な問題も指摘されていたそうです。

それではなんのために豊かになるのか（なんのために人間圏をつくったのか）

衣食足りて豊かになると文化、学術が発展することも「もうける」「豊かになる」重要なゴール（目的）のひとつであるとおもいます。

20世紀は、人間の欲望をそれまでにないレベルで解放し、地球の時間を急激に速め、われわれは文明のパラドックスに直面しています。しかし、ここまで【宇宙、地球、生命、人類】の歴史を解読できた面もあります。これは豊かになった結果です。

「カネがあれば何でもできる」ために「もうける」「豊かになる」のが目的ではなかったはずです。その倫理的歯止めをはずした付けが今きているのではないか。（そういつていたヒトが裁かれていることもあります）

そうすると勝ち組・負け組という言葉も空疎な発想からかも知れません。年収が低くても自分時間を自由に使える人か、年収数億円で自由時間がないヒトのどちらがいいのか。発想の尺度が短絡的ですべてを金との換算で勝ち負けを決めるのは違っていると思います。

時間は所有とレンタル、人生の価値観にも関係し、重要だと思います。

本当の豊かさとか人生の価値観は自分の時間をコントロールすることであり、アメリカ的グローバルスタンダードである経済的価値観からは、勝ち組、負け組み、格差などの金銭的大小からの発想しかされません。

そのような発想で生きると地球システムの中で安定した人間圏を保つことは難しい。

...

コメント

Helvetia：経済問題の本当の意味は、経済学だけでは判らないと思っております。

現今、経済や金融の問題を論じる時に使われているのは、真理でもなく、法則

でもなく、人間と社会の問題を捨象した、その意味で、全く非現実的な前提に基づいた、仮想空間の仮説であります（すべての参加者が、全く平等な条件で参加している市場などと言うモデルのどこに現実性があるのか、と言うスティーグリッツの論文にノーベル経済学賞が与えられたのは、数年前のことです）。しかし経済問題に携わっている「専門家」はそのような問題に関心を持ってはいません。日本の経済専門家の頭の中は、いまだに、昔ならった19世紀的な経済学の理論、精々20世紀初頭の理論で支配されていると判断しています。

経済現象を複眼的な目で見直すことが出来ないこと、そのような「専門バカ」的な考え方に支配されている政治・行政の体制が、いつまでも変わらないことが、日本経済の衰退の原因です。経済問題を、経済の外の視点から見るが出来ない！だから、非金銭的・非物質的な「価値」の重要性も分からない。

現代日本の大きな問題の一つは、いわゆる専門家が、自分の専門である分野は、自分の専門的な学識経験だけで判るはずだと思い込んでいることであり、そのような、「専門バカ」が、いろいろな所で、他の分野の人間には口出しさせないと、がんばっていることであると思います。現代の日本経済、ひいてはこの国の社会全体が直面しているのは、「物」や「金」の問題よりも、知的・精神的硬直化と言う問題です。

第一、一つの専門課程を学ぶことだけで、大学を卒業できることがおかしい。米国でも、ヨーロッパの国々でも、一つ以上の副専攻が卒業の必須条件として要求されています。それも、専攻分野の離れているものほどよろしいと言うわけで、「土木工学」と「歴史学」とか、「経済学」と「哲学」とか、それぞれ、ただ講義を聴いてペーパーテストを受けるのではなく、演習に登録してレポートを作成し、口頭発表とディスカッションを通過しなければならないことになっています。

ドイツならば、ギュムナジウム（日本の中・高校過程）の教師になるためには、教科担当過程の如何に関わらず誰でも、二年間の哲学の学習と試験を受け、その後で、初めて自分が教師として担当する「二科目」の専門的教育を受け、その国家試験があります。私の知人は、現在も教師をやっていますが、彼の専門は、「体育」と「生物学」で、やはり、最初に二年間の哲学過程が義務として課され、音を上げていました。アメリカ人の学生で、社会学専攻の修士は、副専攻は音楽で、管楽器（クラリネット）専攻でした。

つまり、単なる趣味ではなく、専門として複数の分野を履修して初めて大学を卒業できるという発想が存在しないので、複眼的にものを見る人間がこの社会にはまれであることが大きな問題だと言うことです。

政治・経済・外交の柔軟性は、そのようなマルチな視野を持った人間がいなければ発揮されません。

一文の金にもならないけれども価値のあることを取えてやると言う知的余裕のない人が、政治と行政の、そして大学の要職に多くいることが問題でしょう。一例を挙げると、特に明治期以降に建築された、歴史的建造物が、たんなる不動産市場の論理によって次々に破壊されている現状です。学習院のランドマーク的な百周年記念ピラミッド校舎も壊されるそうですし、帝国ホテル、旧東京都庁は姿を消しました。東京駅（丸の内）も、壊される寸前で助かったそうです。（旧道庁の庁舎も壊されることになりかけていたとか?）。

「建築材料が石のヨーロッパならばともかく」と言う言い逃れがきこえてきます、しかし、日本の風土で、法隆寺や東大寺のような建物は、大概のヨーロッパの石造建築よりも古いのです。琴似に、屯田兵の住宅が残っているそうですが、あれでも百年以上前の、あまり頑丈には造られていない木造建築物です。イタリアの古い町の、チェンとロ・ストリコ（歴史的市街地）保存政策では、あらゆる知恵を絞って、膨大な金銭と努力を傾注して、短期的な不動産市場メカニズムではムダとしか見えない努力で、建造物と町並みの活性化が行われ、それが都市の再生につながっています。

日本の歴史的・建築史的価値を持った建造物は、まさに文化的・非物質的な〔価値〕を体現するものとして、積極的に保存されるべきではないでしょうか。それがあって初めて、〔都市の活性化〕の議論も実のあるものになると思います。さらに言うならば、土地は、空気や水と同じように、まず公共（つまり、パブリックとは、国でも官でもなく、「人々みんな」を意味する）のものです。律令制では、土地は天皇の所有とされ、その原理が幕末まで残っていたものですから、〔版籍奉還〕が可能であったのですが、明治政府はそれを否定し、どんどん土地を私有地化していきました。

明治憲法にも、昭和憲法にも、公共の利害は、土地の私有権に優先すると明記されていません。ドイツやイタリアの憲法には、この点は明記されています。都市計画法や都市利用法、建築法規にも、公共の利益優先の原則に反した土地利用は、所有者が誰であるかを問わず、〔罰則〕を伴う明確な規定があります。ドイツでは、州政府の建設局は（日本と同様に）警察権を持っていて、それを実際に行使しています（日本ではあまり聞いたことがない）。重大な建築法規違反にたいしては、一定の警告期限を過ぎても改善が為されない場合、建築局に所属する専任の検事が執行令状を発行し、機動隊がブルドーザーで建物を破壊します。つまり、土地の所有権と使用権が明確に区分されていて、実際に執行されているのです。洞爺湖一帯の廃屋や倒木の問題も、ドイツでならば、ずっと以前に、このようなやり方で片づけられていたと思われます。

あらゆる具体的な機会に適用できるように、土地の所有権と使用権を明確に区分する法律を作っておき、それを厳正に執行することで、〔金銭〕価値以外の

価値を、公共の利益を維持する機関が、保護する姿勢を公にして見せることが必要だと考えます。

他の多くの分野でも、政治と行政が、そのような姿勢を貫けば、先進国の中で、世の中の人々（公共の利益）の役に立ちたいという（金にはならないかもしれない価値）将来の夢を持っている青少年が、一番少ないのは日本だという状況も改善されるかもしれません。

take : 力のこもった論文を拝読しました。（フー
たかだか、100年ちょっと前にきて早い者勝ちで取得・所有した北海道の大地が、近い将来、不在地主だらけの荒れ地になる、と危惧されていますから、所有と所持、使用権など、大幅な見直しが始まると思います。
実際、親の所有してきた田畑や森林の相続を拒否する子息・子女も聞きます。なんの価値も見いだせないのも問題ですが、返上する道をつくり優遇措置をとるのも方法でしょう。
明治時代、政府が無主地官有の策をとったように、もういちど、今度は「おおよけ」が保全する、そんな夢を描いています。

bun : 市場理論の前提条件が非常に非現実的で、スティーグリッツが指摘しているのは同意します。
しかし、これは日本の経済専門家ばかりでなく、世界中の経済専門家の趨勢ではないでしょうか。（よく知りませんが）
確かに日本の金融関係は、もうけるのが下手であり、外交が分かっていないとは、定評があるように聞こえてきます。
日本の金融機関は投資やデリバティブが下手であることはよく言われていますが、一方モノをつくることは、車一つみても、一時過剰品質のように言われましたが、世界のヒトが争って買うようになっています。
現在、実経済の数倍から数十倍の量の投機の金が、世界中を瞬時にめぐっていると聞きます。これは、欲望の空回りと成長しなければならないと言う前提で、動いているように思えます。
経済成長する（実は量的拡大を成長と言うよい評価のような幻想があるのではないか）ということは、ほとんど前提で、身体に染み着いてしまったのではないのでしょうか。
成長を豊かさと勘違いしてはいないのでしょうか？（ばかなことかも知れませんが）、これを押し通して行くだけの自信もないのですが、
>非金銭的・非物質的な〔価値〕の重要性も分からない
のもとかな？とも感じます。
Helvetia さんの意見がとても長く、充実しているのでとりあえず、感想を一部載せます。

Helvetia : bun さん

またまた書き込みが長くなってしまい、すいません. bun さんの問い掛けでスイッチが入ってしまい、止めどなくなっていたようです. (^0^;)

>市場理論の前提条件が非常に非現実的で、スティーグリッツが指摘しているのは同意します。

しかし、これは日本の経済専門家ばかりでなく、世界中の経済専門家の趨勢ではないでしょうか。（よく知りませんが）

そのとうりだと思います。しかし、とくに日本の経済学者の言説には、問題を感じています。

経済学が本当の意味でいわゆる「科学」なのか、そもそも「社会科学」と言う概念に、どれほどの内実があるのか、疑問とする所です（これは、経済学一般について）。

であるからこそ、経済学者は、その点を踏まえて、物を言って欲しいのですが、特に日本では、幕末までの「儒学」的な政治・経済論の伝統が、切り捨てられて西欧近代の「社会科学」に置き換えられたので、様々な経済理論を複眼的ににらみながらじっくり発酵させる土台あるいはバックボーンがないことから、常に最新流行の理論にくら替えし、そのつどその時々々の理論に埋没している傾向が強いように思われます（風見鶏！）。

金が金を生むマネーゲームについては、17 世紀頃から、ヨーロッパでは巧緻複雑を極めた手練手管の数々が、国王の収税請負人階級によって発明され（時には国王の金を国王に貸して利子を取るなど）ましたが、日本ではそのような極端なマネーゲームの歴史はなかったと思います〔莫大な金がかかる戦争がなかった〕。江戸時代の金融システムも（大阪堂島の世界最古の商品先物市場を含めて）、あくまでも現物である商品の流通と決済の円滑化のために発達したもので、金に金を生ませる手法が独立して発達したもののように思われません。したがって、bun さんの言われる通り、日本経済は、モノ造りに徹するべきであると思います。ただし、常に超先端的な技術を開発することによって、世界をリードすること（例えば浜松ホトニックス）、容易には競合製品が現れにくいような製品コンセプトを創造すること（かつてのソニーのウォークマン、現在ではアップルの iPod など）、さらに、世界規模での市場シェア（支配）を形成していくこと（小国スイスのノヴァーティス〔製薬〕やネスレ〔加工食品〕など）が欠かせないと思います。第二次産業は新興国に任せて、日本は第三次産業に特化すべきだなどと言う経済学者・専門家もいますが、長い目で見ると、日本の将来にとってきわめて危険な言説であると思います。日本の 17 世紀以降の歴史は、世界的に見ても希有な、独自の文明の醸成が行われた時期だと思いますので、その間に培われた独特のセンスをモノづくりに生かすことがカギで

あると思います（和食や日本式生活スタイルが世界規模の大ブームになっているなんて、ヒルマン監督に言わせれば、全く「シンジラレナイ」です）．
最後に、マネーゲームをも含めた、「外交下手」の問題ですが、これは、我々の「視界」が、ともすればもっぱら内向きであり、もっぱら足下と目の前しか見たがらないことに関わっていると思います．

言い換えるならば、自国の利害を中心に据えて物を言うことは、特に決定的な状況においては、そもそも「外交」ではないと思います．自国の利害（本来個別的）を、もう一次元上の、「普遍的な論理構造」に乗せて、対外的に主張することが出来ていないことが、外交が「へた」であり、成功しない、つまり、世界的な規模での説得力がないことの原因であるとおもいます．

教育の問題に帰着するのではないのでしょうか？

>teke さん

>もういちど、今度は「おおやけ」が保全する、そんな夢を描いています。
それが夢でなく、現実になった時にこそ、ほんとうの「おおやけ」の存在が始まると思っています．

「おおやけ」が税金を使って取得した土地を、どんどん売り飛ばしては〔各地の住宅公団、住宅・都市整備公団など……〕、都市計画もしょせん線香花火にしかありません．国や自治体が不動産業にいそしんでは、国土も滅亡でしょう．国有地の払い下げなど、例外であるべきなのに、それを事業方針としてきた「おおやけ」の事業体があったことには、いまだに驚いています〔浦島太郎の感想ですが〕．

bun : Helvetia さん

ながーいコメント、解説ありがとうございます。

全く異存はありません。

新しい公については国土形成計画の計画部会などで、ずいぶん言われているようですが、今ひとつピンと来ない面があります。

新しい公を醸成するような動きは NP0 などの活動を通じて、考えているようですが、「せんたく」は少し上からの問題提起なのではないでしょうか。

>日本の 17 世紀以降の歴史は、世界的に見ても希有な、独自の文明の醸成が行われた時期だと思いますので、その間に培われた独特のセンスをモノづくりに生かすことがカギであると思います（和食や日本式生活スタイルが世界規模の大ブームになっている

このことについては、日下公人さんがずいぶん論じているようなのです。

「日本は、トップランナー」と言う本だった様な気がします、

最近すべての名前を忘却する病かと疑っているくらいです。ごめんなさい

Helvetia : bun さん

読み返してみたら、またまたヤッチャッター！これ、病気かな？失礼しました。日本語の「公」は、昔は、「公」と言えば朝廷、「武」といえば、幕府政権のことでしたが、いつの間にか「官」が、かつての「公」と「武」の実効的権威と権力をハイジャック（みかんさんの表現）してしまっていると言えませんか？それが、例えば北海道の自律的な未来構想を不毛にしている、強固な、vested interest（英和辞書の訳語にはインパクトがない）であると思います。

北海道について言えば、新しい意味での「公」（public または the public の意味で）は、すでに実在していると思います。それは、とりもなおさず道民全体の「ねがい」であり、「ゆめ」であり、こう「あるべし」と言う思いそのものの、あるいは「意志」のことですが、それがどれほど、政治や行政によって把握・認識されているかは別問題です。

も一つの問題（日下公人風の問題）については、「北海道各地方」の気候・風土・景観に適応した、内地のとは違う、しかし、「日本的な感性から見て美しい」建築のスタイルや、都市のたたずまい（都市景観）などを生み出す動きとして、見えてきて欲しいです。

道内各地域の個性を視覚化した。絵になる街、写真を撮りたくなる街、歩き回りたくなる街が北海道に欲しい。世界のどこそやの建築をばらまいたような、テーマパークの残骸のような景観にはなって欲しくない、激しく思っております。

同じような観点から、日本的な物作りの 感性を生かした、先端的な加工工業を北海道に根付かせる工夫が見えてこないのが気になります。航空機部品産業など、日本は受注が手いっぱい、いくつかのオファーを断っているそうです。北海道には、先端的・未来志向的な産業育成計画があったのでしょうか？「開発計画」には無い（あったことが無い？）ような気がします。

>最近すべての名前を忘却する病かと疑っているくらいです。ごめんなさいとんでもない。小生は、あまりおぼえる価値・切実性の無いものはどんどん忘れるのが健康だと割り切って生きております。何でもおぼえて忘れないのは、むしろ危ないビョーキだと。（データ忘れの名人だったアインシュタインは、調べりゃ判るものを何で憶えてなきゃいけないんだ、とかみついたそうな！さっすがー）。

<われわれはどこへ行くのか 6 2008 年 1 月 27 日>

われわれはどこへ行くのか？ 松井孝典 ちくまプリマー新書

5 億年後、地球から生物圏は消える

太陽は誕生以来、明るくなっており、地球に入ってくるエネルギーも増加し続けています。

地球の大気の量や成分が変わらなければ、温室効果は一定ですので 地表温度はどんどん上がり、金星と同様に灼熱の惑星になります。

しかし、地球自身が物質循環を利用して、一定の状態を保つメカニズムを生み、海と生命の惑星になりました。それは、入射エネルギーによる温室効果を減らすために大気中の CO₂ を減らすメカニズムでした。このメカニズムは、今も機能し続けており、現在は地球史上最低のレベルです。

われわれが、CO₂ を放出しなければ、さらに減り続けます。

しかし、今の 1/10 のレベルになると地球上の光合成生物は生きられなくなると考えられます。

光合成ができなければ他の生物も生きられなくなり、生物圏が消滅します。それが純粋な地球時間で 5 億年ほど先です。

人間圏は今世紀半ばに破綻する

現在、人間は地球の CO₂ を増加させていますから地球システムの機能と反対のことをしています。地球の物質循環の時間を速めています。モノを枯渇させる方向に動いています。このまま物質循環を速める 20 世紀的生活を続けると、モノやエネルギーの枯渇が生じ、その結果、エネルギー、食料などをいつでも貨幣と交換可能という共同幻想が破綻することになります。貨幣だけでなく、さまざまなところで共同幻想が破れ、人間圏の内部システムを破綻させます。

そうならないためには、自分の国で中で生活に最低限必要なものはきちんと循環させる仕組みをつくり、地球の物質循環の時間を長くする工夫する生き方をさがし人間圏を維持するしか道はありません。

長々と引用文を載せましたが、ここで終わりにします。

コメント

みかん : 大戦や冷戦を経て、やっと平和維持に努力するのが一番だと分かりかけてきたところに、人間圏破綻の問題。皮肉それとも単なる結果？

bunさんのこの連載、Odysseyのようで、大変勉強になりました。(^^)v

Helvetia : 遠い未来の状態について、いくつか、重要な意味を持った予測がなされていますが、これは、推論手続き上の大きな問題を抱えているように思います。

つまり、現時点で「科学的」に確かめられた変化の方向を、現在、あるいは近未来において、実証的なデータを取得できないほどとおい未来に向かって延長して適用し、そこでも同じ傾向性が依然として成立しているはずだ、と考えるのは、transporation（外挿法—この日本訳は十分に概念の意味を伝えているとは言い難い）であり、妥当性の保証はない〔妥当性の範囲を超えた〕推論であります。

このような推論の場合、既知の諸要因が、既知の仕方で作用し続ける、あるいは

は、たの諸要因はその間コンスタントであることを前提するのが通例ですが、それが、遠い将来にまで、その通りであり続けると言う保証はありませんし、その逆のケースを考えた方が、無理がないと思います。

それを本にして、現在の状況にひるがえって、一義的な行為原則〔規律・倫理 etc) を唱導することは、論理的に問題です。科学者は、将来、新しい、未知の「力」が、様々な分野で発見されるであろうこと、そして、それが相互に作用しあう仕方については、現時点では想像することも出来ないことを、良く知っていると思います。

このページで、結論的に言われていることは、「科学的な言説」としては、あぶないように考えますが？

地球温暖化の問題に、冷静に対処しようとする専門家の発言の例として、下記のような URL を見つけました。御参考までに：

<http://eco.nikkei.co.jp/column/article.aspx?id=20071015cd...>

グリとグラ：「自分の国で中で生活に最低限必要なものはきちんと循環させる仕組みをつくり」

こういう難しい話には理解が及びませんが、

なぜか、自分が食べる分は、自分でつくる。

こういう考え方が好きです。

妙に安心感を感じるんですよ。

情緒的ですみません。

やっさ：> 5 億年後、地球から生物圏は消える

そんな遠い未来はほとんど関心の外。

が、孫の孫、辺りまでなら、いささか関心事。諸説あるようで、まごまごしてしまいますが、果たしてどうなるのでしょうか？

bun：みかんさん

読んでいただきありがとうございます。

ただし、Helvetiaさんのコメントにもあるように、論理に強引な部分がありそうですので、みかんさんの見解に悪い影響がなければ幸いです。

bun：Helvetiaさん

丁寧なコメントありがとうございます。

私の要約のしかたや、言葉使いが悪いところもあるかもしれませんね。

① 5 億年後、地球から生物圏は消える

② 人間圏は今世紀半ばに破綻する

この文章の問題でしょうが、どちらの命題にも危うさを指摘されますか。

最初に別のことを言いますが、1 でやっささんに指摘されたのですが

あとがきにかえて「わかる」とはどういうことか

「わかる」と「納得する」の違い
についてでした。

それに対して著者の見解は、 ○科学は二元論と要素還元主義

- ・二元論とは脳の外部の「世界」を考える際に世界を考えている自分（脳）とは何なのかという問題をとりあえずは考えないこととして外部の世界を考えること

- ・要素還元主義 考える対象をより細かくとることで、考える問題をより具体的に化して考えることです。

科学は、二元論と要素還元主義によって分かること、

その他社会科学、文学などは、納得することだそうです。

とのせました。科学についての見解がこういう人なのです。

「二元論と要素還元主義」という言葉だけでも異見反応が多々あるものと思っていました。

彼の言う二元論は一般的にいう二元論と違うのかもよくわかりませんが、

ちまたでは、二元論と要素還元主義を目の敵にしたような議論も見かけます。

bun : グリとグラ さん

> 妙に安心感を感じるんですよ。情緒的ですが、

最近では感情・かんが論理より早く正しい結論を出すという研究もあるようですから、ググさんの感は当たっているかもしれません。

Helvetia さんのコメントを解釈するのが難しい。注目してください

bun : やっさ さん

> 諸説あるようで、まごまごしてしまいますが

えっ やっさ さんは悟りの境地ではないのですか？

地球の運命には、まだ、関心があるんですね。

私も辛抱して地球とつきあっています。

Helvetia : bun さん

この人、松井さんと言う方は、哲学的には、古い人なのではないでしょうか。と言いますのは、

要素還元主義は、デカルトに象徴される 17 世紀の近代科学思想〔方法論〕の基礎ですし、

ここで言われている「二元論」は、カントの認識論（主観の形式による限りでの認識と、それ自体は決して認識されえない「物自体」〔Ding an sich〕）のヴァリエーションのように思われます。あるいはこれを言い換えるならば、自然界の研究をしている時に、「自分は何者か」と言う哲学的な問題には関わらないと言う、或る意味で陳腐な常識に過ぎない言明であるようにも聞こえます。

哲学〔自分自身の存在についての考察〕は、科学ではありませんので、これを区別しておくことは、必要不可欠、あるいはごく当たり前ののではないのでしょうか？

bun : Helvetia さん

○確かに、地球システムの CO2 を減らしてゆく機能をずっと延長してゆくこと。それが続くとした場合の推論をすることとその結果の推論(5 億年後の生物圏の消滅)、それを人間社会の倫理規定にまでの材料に持っていつていることなどについての疑問は、もっともだと思います。

○二元論、ここでは心身二元論のことを言っているんでしょうが、自然科学の自然（客観）を追及することは得意な宇宙科学者も哲学者の言う常識は不得意なのかも知れません。

あるいは、そういわれるのも覚悟しているのかもしれない。

参考 URL ありがとうございました。

この URL のインタビューに出ている養老さんの地球環境問題についての言及にも興味ありますが、以前に養老さんが心身二元論について言及していたことも思い出しました。

それは、心身二元論の発生原因は脳における視聴覚の分離と言うものでした。視覚は形を持ち、聴覚（音）は形がない。概念にも形のあるものとないものがある。言語は形を持つ視覚と持たない聴覚を一致させてつくられる。

視聴覚でヒトを見る場合、形のある身体と形のない心に分離して認識する。

唯一絶対神が世界を創造したキリスト教世界では真実は客体である外的世界にあり、仏教では内部世界を問題にする。というようなことでした。

純粋に脳内認識で閉じて存在する（脳だけで成立する法則）数学の世界が、外部の自然法則に一致することは不思議ではない。しかし、実証はできない。

Helvetia : bun さん

>それは、心身二元論の発生原因は脳における視聴覚の分離と言うものでした。聴覚や資格はそれぞれ身体感覚器官であり、物質の世界の情報〔音波・電磁波〕を拾ってくるのですが、それを風景として「まとめ」たり、手などを「使って」ある「意味」を込めた「作品」にしたりする働きは、外界からの情報とは別の次元にあるような気がします。聴覚と視覚を「まとめ」る、あるいは「一致」させるのも、それぞれの感覚器官を越えた次元でのプロセスであると思うのですが、聴覚と視覚がもたらす外部からの情報は、ほっておいても言語と言う形には一致しないとおもいます。

つまり、我々の内部世界〔意識の世界・主観〕は、聴覚や視覚のもたらす情報に還元され得ないのではないかと思います。これは、多分古い見方ですね、しかし、最近の「脳科学」大流行も、ちょっと斜めに見ていますので.....

bun : >最近の「脳科学」大流行も、ちょっと斜めに見ていますので
私も聞きかじりですが、感覚器官からの入力、脳で言語（音と文字形）形などに統合されて記憶され、神経系統に出力されるそうです。
次元が異なると感じるのは、脳らしい。
数学者は数学（たとえば直線）は存在すると答えるそうです。

Helvetia : >数学者は数学（たとえば直線）は存在すると答えるそうです。
たしかに、「理念」としては存在すると言えるでしょうが、直線と言う「物」があるわけではないですね、ニュートンが定義したように、「直線とは、面を一切持たない長さ」であるとすれば、感覚器官ではとらえられませんよね、しかし、「直線」と言う理念があれば、直線か、直線でないかの判断を、感覚器官が受けた外界からの視覚情報について下すことが出来ます。つまり、認識が成立します。
感覚的な経験を積み重ねていけば、理念が自然に形成され、認識が成立すると言う考え方は、昔は「経験論」、現代では「論理実証主義」（R. カルナップなど）に代表されますが、カール・ポパーの「批判的合理主義」の思想が、科学的認識の哲学的な説明として、支配的になりました。
つまり、経験〔実験・観察〕の集積によってではなく、「仮説」〔ある問題の新しい説明の試み〕を、実験と観察によって、それが現実と適合するか否か、を検証し、反証が得られない限り、その仮説は、科学的認識として認められる。と言う考え方です。
その為には、「仮説」は、観察・実験によって、現実と照らして、その合否が判定される、つまり、「反証可能」であるようにつくられていなければ成らないと言うわけです。
どんな大胆な「仮説」でも、それが、反証されない限りは、科学的な説明、つまり「理論」として受け入れられ、使用されるが、それを反証する観察結果が得られれば、新しい「仮説」が考え出され、それが現実と照らし合わせて検証されると言うサイクルで、科学は進歩するというわけです。
つまり、観察・実験という感覚器官を通じて得られる外部世界〔自然〕を説明する、言わば理念的な道具として使われる「仮説」ないし「理論」は、いいかえれば、色や音のような、感覚器官からの情報には還元できない、その意味で全く異なる性質の存在〔理念〕だと言うことです。
もっと言えば、観察や実験によって、現実との合否が判定され得ないような主張は、科学的とは言われない。さらに、「理論」は、いわゆる「真理」を述べているのではなく、つねに、反証が見つかるまで有効な、説明の「道具」として受け入れらるに過ぎない、と言えるわけです。差し当たり最良だと思われる「説明」を見つけ、それを提案するのが科学だ、と考えていると言っているのでは

ないでしょうか。

説明が下手で、ごめんなさい。ごちゃごちゃしていませんか？

Helvetia：大事なことを書きわすれました：

>感覚器官からの入力、脳で言語（音と文字形）形などに統合されて記憶され、神経系統に出力されるそうです。

これは、赤ん坊に、まず言葉を教えなければ、音と形から、自然に言葉を獲得することはないのですが、単なる音と形ではない「言葉」を、例えば脳内神経系を流れる電流などとしてとらえることが出来ないのです、こうってしまうのではないのでしょうか。

音や形の印象を「知的に」加工して初めて「言葉」に成るのであって、それには、他の人間との接触による「学習」が必要です。二本足で歩行することも、「学習」しなければできません。オオカミの群れで学習してしまうと、4本足でオオカミと一緒に搔けることが出来るし、相当立派に、オオカミとして生きられるのが、ヒトと言う生き物らしいです、ヒトは学習によって文化を内化し、人間になると考えられます。

「オオカミにさらわれた北インドの少女」の例が、シングという、この少女を人間にもどそうとして育てた牧師の報告にあります。

bun：Helvetiaさん

明確な説明ありがとうございます。

仮説―検証の連続によって支えられているのですね。

仮説はよいとしても、検証が確かな検証であるためには、いろいろと道具立てが必要になり、複雑な検証は簡単にはできそうもありませんね。

社会科学は、あらゆることが仮説状態にあって、検証は進んでいるのでしょうか？

そもそも検証しようという意欲が、存在しているのでしょうか。もっとも科学ではないといえば、それでしまいですが。

松井孝典氏の「科学は、二元論と要素還元主義によって分かること」

については、別の書籍にもっと違うことが書いてありましたので、別に取り上げるためにもう少し読んでみようと思います。

後半の「学習」についてはそのとおりだと思います。

しかし、赤ん坊が言葉を覚える過程は音とモノの対応で覚えていくとしても膨大な経験を積んでゆくものですね。

形のない概念を獲得する過程はどうなんだろうかな。想像するだけでも驚きです。

その過程も今のところ脳各部の各機能をベースにしてHelvetiaさんのいう別の次元にまでたどり着くというのが、私のイメージです。

やはり脳の神経系をベースにしているのではないかと思います。
これについても、養老氏の書籍をもう少ししじめに読んでみます。

Helvetia : bun さん

>仮説はよいとしても、検証が確かな検証であるためには、いろいろと道具立てが必要になり、複雑な検証は簡単にはできそうもありませんね。

簡単ではないですね。お金もかかります。ヒトも、機材も必要ですから、それに、どれだけのお金を出せるかで、「科学立国」などというスローガンの本気が問われます。

>社会科学は、あらゆることが仮説状態にあって、検証は進んでいるのでしょうか？

すべての分野で、仮説や理論の検証・反証の努力をしなければ、それぞれの分野で、研究者として飯を食っていくことはできないようですが。

>そもそも検証しようという意欲が、存在しているのでしょうか。もっとも科学ではないといえ、それでしまいですが。

「そもそも検証しようとする意欲」が存在しないのではないかとすることは、その発言によって意味されている分野の学問としての存在価値を否定することになると思います。理論や仮説の検証・反証の努力をしなければ、それこそ一時流行ったなんとかイデオロギーと同じ、疑似宗教的な一種の信仰になってしまします。

自然科学と社会科学では、検証・反証の困難さが違うことはあります。端的に言えば、物質は自己反省しないが、社会の単位である個人は反省を繰り返し、そのつど、新しいセルフアイデンティティを造り出す、つまり、質的な変化を遂げる、

自然の単位である存在は、量的な違いにおいて多様であるが、同一種の物質はその質において同一であると言うのが、ニュートン／ライプニッツ以来の大原則で、それには本質的に今日まで変化はないと思います。

ですから、ある意味で、人間を分析の単位としているすべての社会科学は、どの自然科学よりもはるかに複雑なつい方を相手にしているのだとも言えます。

トピック : 2007 年 07 月 17 日 - ■■■暑くないけど■■■

2009 年 7 月 12 日

みかん : コミュのみなさま、ググさんのこの日記をお借りして、管理人より暑中お見舞い申し上げます（笑。

ー ひまじん

http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary&tar...

書き込み

みかん :

た 暑

ま 中

に お

縦 見

書 舞

き い

を 申

し し

た 上

ひ く げ

ま な ま

じ る す

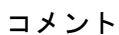
ん 夏。

。

なんと、コピペ、できました！（笑。

日記

た暑
ま中
にお
縦見
書舞
きい
を申
しし
た上
ひくげ
まなま
じるす
ん夏。



やっさ : 面白発想に拍手

■■■■暑■■■い■■■■■■■■■■
■■■■い■■■ま■■■■■■■■■■
■■■■夏■■■し■■■■■■■■■■
■■■■。■■■た■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■。■■■■■■■■■■
■■■■と■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■い■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■き■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■た■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■い■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■け■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■ど■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■涼■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■し■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■い■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■や■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■。■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

グリとグラ：おお、ちかれました。

やっさ　：大作の連発、おちかれさまです。

art　　：見てると目がチカチカします・・・。（^^；

グリとグラ：art　さん、一回見たらもう十分ですね。

ハムは何回も見るとなあ・・・。

チカチカじゃなくハラハラするのは何度でも大丈夫なんだな。

bun　　：升目が揺らぐのはなぜか？解明せよ

＊＊　　：確かに！

グリとグラ：多分心が歪んでいるからです。

ワードで元原稿つくってコピーしているので、ワードの設定だと思っ
ますが・・・

＊＊　　：グリとグラさんへ

最初に見たとき少しゆがんでみえたのは、隊長の心の反映か？と焦りましたで
す。

グリとグラ：隊長さん、心の揺らぎは余裕のある人がもつものでしょ。

私のような心の歪みはいけません。歪みが揺らぎになるように精進したいと思います。

そうすると升目も歪まなくなって BUN さんにも読んでもらえます。

金魚 : なぜか笑いが先に来ってしまう。うひゃひゃひゃ
有閑マダムならぬ有閑ムッシュですね。
ではもう一回見てみよ。

グリとグラ : 金魚さん、どこかの日記に小金魚というのを発見しました。

大きくなったり、ちいさくなったり、金魚さんも大変な夏？

金魚 : あらら、こっそり出ましたんですけど。。夏の蜃気楼か何かと思って
右から左に受け流してください (笑)

Otsucar : え？ おばけ？ へ (。□°) へ エッ??

かくちゃん : チ

カ

チ

カ ュ

ラ

ユ

ラ

ゆうれい？へ (。□°) へ エッ??

グリとグラ : Otsucar さん、いつか、怪談話でおぎやあと驚かしてください。

最近夏らしく暑くなってきましたので、期待しています。

かくちゃん、お久しぶりです。

幽霊の絵なんか描けますか？

頼みます。縦書きの油絵？

トピック : 2008 年 10 月 24 日 - おお！異物混入事件・・・

2009 年 7 月 12 日

みかん : ときどき、ATU さんの日記を拝見していて、ATU さんこそ、日記の達人ではない
かと思うときが。自分のと比べると、自分の日記がいかに自意識過剰で書かれて
いるか分かります。

さりげなさのなかに、ツボをきちんと抑えて書く。持って生まれた才能でしょ
うか、ATU さん。(^^)b

http://www.hokkaido-sns.net/sns/?m=pc&a=page_fh_diary&tar...

書き込み

やっさ : 読んでて、忘れていたことを思い出しました。
> カップめんは中高年によくありません。
> CMにつられる、この手がいけない。ピシッ。^^;
あのときの手の痛みを…。(^~;)

ATU : あちゃ〜 ^^ ;
なんと、いつの間にか名前が書いてありました・・・。
いやいや、平に恐縮です・・・ ^^ ;
穴があったら入りたい・・・。

みかん : ATU さん、お気遣いなくう。(^^)

日 記

食品への異物混入事件はまたかと言う感じですね。
今日はカップめんには防虫剤成分が入ったニュースが報道されています。
企業の問題か、第三者の仕業かの結論は出ていませんが、混入物を見てみると、「パラジクロロベンゼン」と「ナフタレン」でした。
この両者を調べてみると、タンスや衣類収納ケースなどの防虫剤、トイレやゴミ容器の消臭剤として使用されており、常温で昇華するため揮発性があり空気中に放出されます。また、学校の理科の実験（融点実験）にも使用されることがあるそうです。
この影響を受けて、N食品では製品の自主回収が50万個となり、さらにコープなどのスーパーからも姿を消しているようです。
そこで、少々話しは変わりますが、N食品を見ていたところ世界戦略が興味深い。
・インドのドライカレー味？
・アジア方面へのトクヤンクン味
・ペジタリアン用のカップめん
その他、諸々ですが輸出国によって全く味が違いますね・・・。
ところで、昔のカップヌードルはお湯を入れて食べごろになると容器から溢れんばかりの具が入っていましたが、最近は容器から1センチも下でグ具が泳いでいますね。ひひ、時代は変わるものです。

コメント

キャロル : N社のカップヌードル、一番美味しいのは最初に出たノーマル味ですね。
昼にミニヌードルを食べています。
量が少なくて丁度良いです。

Otsucar : 一番気になるのは 量の変化です。 (^^ ;)
そうでしたよね、
以前はもっと入っていたような気がしていました。 (^^)

みかん : カップめんは中高年によくありません。
 ほんとです、みかんが言うんですから。(^^)v

atu : キャロルさん、ノーマル味が美味しいんです。
 ラーメンライスのような食べ方ですね・・・。

atu : Otsucar さん、そうなんですよ、量が少ないんです・・・。
 結局、1個では足りないんですよ。でも2個までも食べたくない。
 微妙な量なんです・・・。

atu : みかんさん、もしかすると高血圧になるかもですね。
 こうなったら、各食事の野菜量を増加しようと思いますが
 そーーという問題ではないでしょうか・・・。
 ひひひ

やっさ : >カップめんは中高年によくありません。
 >もしかすると高血圧になるかもですね。
 高血圧の薬飲んでるのに、何にもならない。
 CMにつられる、この手がいけない。ピシッ。^^;

atu : やっさん、そうそう、そうなんですよ、手が勝手に・・・。
 自分も本当は食べたくないのに
 この手がいけないのです！
 では、おしおきにはカップめんを2個与えてやろうかと・・・。
 題して、満腹の刑・・・。 ひひひ

やっさ : >題して、満腹の刑・・・。
 ひれ伏して、甘んじてツミ受けまするう。へへえ。

atu : おお、やっささん、満腹の刑におつきあい下さいますか！
 ありがとうございます。
 では、自分はさっそく今晚・・・。
 ノーマル味とカレー味で厳罰の言い渡しをしちゃおうかと・・・。
 ひひ

金魚 : カップ麺は、時たま無性に食べたくなります。
 まだ中高年ではないのでセーフ？ブハ
 失礼しましたー！ニゲロー

コリンのママ: ↑
 あはは・
 無駄な抵抗かもしれませんが、ノンフライのものだけにしております。

take : これから始まる、冬の間伐。週1回の山仕事に、やっぱりカップめんはつき物。
 薪ストーブでチュンチュンにわかしたお湯を、遅い昼時にじゃっと器に盛る…。
 その幸せ。最も飽きないのは激めん、赤いタヌキ、カップヌードルの超ロング

セラー。かつ、安い！

数ある即席めんの多様性を味比べするのも楽しみ。問題は日常的に食するかどうかではないでしょうか、と弁護しつつ、山仕事中にかなりのどが渴くのを思い出しております（笑い

おてい：今日のお昼は一人だったので

緑のたぬき（小）を食べてしまいました。

手打ち蕎麦もおいしいけど、これはこれで・・・。（笑）

子ども（第1子）が小さなときは絶対カップめん食べさせないように頑張っていました。そういった母でした。

3歳の誕生日に「何ごちそうつくろうか」と聞いたら

「カップめん食べたい」と言われ愕然としました。

あははは～

atu：金魚さん、ははは、OKですね。

たっぷり食べてもいいということかも・・・。

atu：コリンのママさん、ノンフライですかぁ・・・。

確かに油分がよろしくないと聞きますね・・・。

ということは、このカップヌードルは外れますね。^^；

atu：takeさん、多種ですね。

そういえば、赤いタヌキの油揚げの味は絶品だとか・・・ ^^

地味には、ヤクルトの緑の麺が美味しいとか・・・。

atu：おていさん、避けているものを欲しいと言われると哑然としますね。^^；

自分も数年間食わずに來たのですが、1ヶ月前から再びハマってしまい最近は頻繁に食しております。

欧米か、いや短命か。（タカ&トシ風） ^^

キャロル：タカ&トシのどちらかの実家をウォーキング仲間に教えてもらいました。

西岡と福住の境目で西岡です。（我が家から歩いて10分）

今度、見に行く予定

使えない情報でした・・・

オカリナねえさん：昭和33年ごろに出たインスタントラーメンから食品添加物が横行して

それ以降に生まれた人たちにアレルギーが多いそうです。

姐さん、その前に生まれているので（笑う）アレルギーの心配はあまりなんですよー。

今はまったく何食べさせられいるのかわかんない～～？？

Easyrider：>自主回収が50万個・・・

一個120円とすれば、6000万円の損害・・・。

家が3件から4件建つなあ・・・。

愉快犯だったら、極刑を望みます。

atu : キャロルさん、おや、タカ&トシのご両親は豊平区だったんですね。
なるほど・・・。今、ブレークしてるから、将来も楽しみです。^^

atu : オカリナねえさん、おお、その意見、
きっと、みかんさんと共通点が多いような気がします。
確かに「切れる子供が多い」「アトピー性アレルギー」等の
主な原因は添加物だという実験結果もあるようですね。
>今はまったく何食べさせられているのかわかんない～～？？
そう、そこは本当にそう思います。
一番いいのは手料理＋無農薬の自給自足だと思うのですが、
なかなか難しいのが現状ですしね・・・。
食については考えていきたいと思います。

atu : Easyrider さん、今日のニュースを聞くと、全国方々に
異物購入の事実があるようですね・・・。
自分も愉快犯だとは思いますが、なぜなのかと困惑ぎみです・・・。
まさか、某組織が全国的にミニテロをしかけたなんて思えないですし
不思議でもあります・・・。
しかし、恐ろしいのは、自主回収になるとその企業は被害甚大と
言うこと・・・。資本金の無い企業ですと、一発で影響を受けるかと・・・。
それだけ、食に対する企業責任は重いということなんですね。^^；

Otsucar : アメリカのテレビの健康番組では 面白いことを言っていました。
私たちの血を最新の分析器で調べれば
PCB, DDT など有毒物質がいくらでも出てきます。
要は 濃度が問題なのです
と出演者が言っていました。
司会者は 変な顔をしていました。
この説は正しいのでしょうか (^^)

Easyrider : Otsucar さん

あの国は、見るからに不健康な人が多いです。
日本は戦争に負けて、洗脳されてから、さも正しいかのように欧米並みの不健康が輸入されました。
メタボが多くなったのはそのせい？
自己管理ができていないだけ？
腹7分が長寿の秘訣だと日本のテレビは言っていますよ。
atu さん

6000万円・・・中小企業だと一瞬にして倒産ですよ。

犯人の厳罰を望みます。

らっこ : Otsucar さん

ホッキョクグマからもマグロからもそれらは検出されますよね。

私が調べたわけではありませんが（^^;）

全く汚染されていないものはもはや存在しない。

ならば汚染物質の種類や濃度の問題になりますよね。

アメリカの方って食べる量が多いですよね。

食べる量が多いと汚染物質も多く摂取していそう。

体が1.5倍で食べる量は2倍といった印象です。

atu さん

>一番いいのは手料理+無農薬の自給自足だと思うのですが

たぶん、今の人口で皆が自給自足は無理ですよ。

本物の無農薬作物はそう多くは作られてはいませんし、

本物と分かっているのに¥←に余裕のある方でないと続けられませんよね。

私は地産地消を心がけつつ一方で同じ産地のものばかり食べ続けないようにしていますが、米は同じ産地のばかりかも。

温暖化が進むと北海道のクリーン農業の危機が来るのでしょうか？

ちなみに私はインスタント麺は袋ラーメン派です。

塩味にはホタテとわかめ、味噌ならバターを少々、しょうゆなら鶏のつみれが欠かせません。

非常食のはずが期限前になくなります。

atu : Otsucar さん、濃度ですか・・・？

確かに、私たちが食べている食品には

様々な物質が入っていて、肝臓が浄化していると聞いています。

ただ、PCB, DDT というのは意外でした・・・。

なるほどです。

atu : Easyrider さん、そうですね・・・

米国からの食文化が、今やほぼ当たり前ようになってきていますね。

やはり、ステーキに代表する肉料理とファーストフードでしょうか・・・？

日本伝統の食物繊維が多く、菜食を中心とした食生活が

貴重に思えるのも悲しい限りです・・・。

今の日本人はカロリー過多なんですね・・・ ^^ ;

atu : かつおぶしむしさん、量の問題は、なるほどです。

良く考えてみると、添加物に限らず汚染物質もひっくるめて完全に排除することは困難でしょうね・・・。

あまり考え過ぎると食べるものが無くなってしまいそうです……。^^ ;
袋ラーメンにトッピングをするのもいいですね。
自分はコンブ、玉葱のみじん切り、ネギをぶつ切り、ワカメ、
卵などを入れて作るのが好きです。
実は塩味が好みなんですよ〜……。^^

折々のできごと、ニュースなどから

2010 年 1 月 19 日 アルプというコモンズ

— take —

日 記

コモンズの勉強をしている間に、スイスなどのきれいな牧野「アルプ」も典型的なコモンズ（共有地）だというのがみえてきたのですが、どうも実像がみえません。

で、今年の春にでも、かつてはアルピニストだった夫婦連れ立ってスイスに行こうか、などと語っていたところでした。

そこへ昨夜、NHKでアルプの特集をやっており、かなり概要を知りました。放映されたアルプは、7 家族 150 頭ほどの牛をそのアルプに放牧しているようでした。

アルプの上部は岩山ですから、雪解けと一緒に牧野には岩や石がずり落ちてきて放置すると岩山になってしまうのだそうです。

だから牛 1 頭に付き 10 時間の整理義務があり、子供たちは、この岩の片づけや、乳しぼりを手伝っていました。子等はそこで大人になるのだそうです。

美しいアルプはメンテナンスの成果であることは、心温まることです。

子供らが麓からあがってきてひと夏、そこで嬉々として手伝う光景は羨ましくなるものでした。

この辺のお話は Helvetia さんにいろいろ教えて欲しいところですね。(^_^;)

コメント

みかん : おお、スイスですか、いいですねえ。スイスのどの辺あたりを考えてらっしゃいますか。楽しみ。(^_^)

take : いやア、(^_^;)、それがですね、JAL の株が紙くずになってポシャリそうなんです。老後に備えよう、って（爆

みかん : うー、そうだったんですか。

じゃあ、いつか、うちにいらしてくださいませ。宿代、ただですし。スイスには劣りますけど。(^_^)v

Helvetia : なんか、電話がかかってきたようです。アルプとスイスと.....

take さんが書いていられるように、こういうスイスの農村地帯での伝統的な決まりというのは、皆の生活がかかっているだけに、合理性と重厚な重みを持っていて、成文法に書いてあることがらよりも、実効的な力を持っているようです。

似たような性質の、伝統的な約定に基づいた社会的（共同体的）な約束事は、彼方此方で見受けま

す。美しいアルプはメンテナンスの成果であることは、心温まることです。

人間が手を触れなくても、そのまま、美しく、優しくいやしてくれるような自然は、あり得ないと、彼らは確信してますね。但し、自然を壊さないように手を入れ続けること、が肝心であるようです。

一例として、スイスは、外国に電力を輸出しているのですが、国の広さからすれば膨大な能力のある発電所は、スイスの中を旅して歩いていてもほとんどお目にかかりません。

ほとんどが水力発電所なのですが、自然の景観を損ねないように地下に建設されているのです。

そう言うスイスには、ヤワヤワな、それなりに心地よい環境で育った人間としては中々住み着けないと思っています。

しかし、一小国が、潜在的には凶暴な大国（ヨーロッパ！）に取り囲まれながら、今日まで生き長らえてきた上での、こうした社会的な強靱さ、国家制度の上を行くような共同体の強さ、そして、小国なりのさまざまな知恵、には、あまり生き方が上手いとは言えない、比較的大きなこの国の人間としては、敬意を感じているわけです。

take : みかんさん

ありがとうございます。(^_^)v

なんだか、英国がまたまた近くなります。

take : Helvetia さん

>そう言うスイスには、ヤワヤワな、それなりに心地よい環境で育った

>人間としては中々住み着けないと思っています。

はあ、「すみ付けない」。なんだか、連想が始まります。

>一小国が、潜在的には凶暴な大国（ヨーロッパ！）に取り囲まれながら、今日まで生き長らえてきた上での、こうした社会的な強靱さ、国家制度の上を行くような共同体の強さ、そして、小国なりのさまざまな知恵、には、あまり生き方が上手いとは言えない、比較的大きなこの国の人間としては、敬意を感じているわけです

しなやかな感性をもたずば理解できない国勢かと感じいます。特に「国家制度の上を行くような共同体の強さ」、これはどう理解したらいいのでしょうか。頭を一巡りさせて想起するのは、西日本の各地、京都の美山町や四国や九州の各地で見聞した、地域の「振興協議会」に残された住民自治ではないか、と思いました。

これは地域の結束を呼ぶものとして、いったんGHQにつぶされたとききますが、どっこい、隠して復活させたのだと2, 3のところで聞きました。

それにしても、国家制度を超えたコミュティ、しばし考えさせられます。

Helvetia : take さん

スイスの国名表記は、ラテン語では Confederatio Helvetica であり、フランス語、イタリア語、そしてロマンシュ語でも、ラテン語の confedertio（統合の度合いの強い連邦）に由来する表記を使っています（何しろスイスには四つの民族と四つの言葉があり、それぞれが国語ですから、計4種類の国名表記があることになります）、もっとも、国民の7割を占めるドイツ語圏の『国語』つまりドイツ語では、Schweizerische Eidgenossenschaft と表記され、その意味は、『スイス誓約者同盟』で、それは、13世紀末に、シュヴィーツ（S c h w y z）を中心に、三つの村が、ハプスブルク家の無法な徴税を拒否して武装蜂起し、勝利して今日のスイスの原形となる政治的な連合体を造り、其処に周辺地域から『加盟』した民族的・地域的構成単位によって、今日のスイス連邦が出来ているという歴史に由来します。

近代的なスイス『連邦』は、歴史的実態としての『誓約者同盟』のあとに出来た、新しい法的形態なので、昔からの『不文律』を、憲法にも明文化して記載していなかった、つまり、大昔からの共同体の実践的原則が、連邦の実定法としての憲法の上位に立っているという事例が幾つかあるのです。スイス連邦憲法の慣習法的成分と見ることも出来そうです。

たとえば、7名の『連邦委員（内閣を構成する）』のうち、ドイツ語圏出身者は4名を越えてならない、事になっていますが、法律的にはどこにも書いてありません。あるいは、スイス人は、国内のすべての地方で自分の選択した国語を話す権利を有するが、各地方の公的機関との通信はその地方の国語で行われなければならない（それ以外はすべて個人の自由と責任）、ということも、どこにも文言では書かれていない大原則です。それ以外にも、探せばまだそのような、「国家権力による規定の上位に立つ共同体の歴史的原則」がみつかるとおもいます。

スイスでは、法律には書いてないけれども、このばあいには、Aではなく、Bのようにする、というようなことは、色々あるのに、それはいちいち言葉で言わず、書き表しもしない。インサイダーには自明の沈黙知みたいなものが際立って多い社会だという印象です。

take : >大昔からの共同体の実践的原則が、連邦の実定法としての憲法の上位に立っているという事例が幾つかあるのです。

>、「国家権力による規定の上位に立つ共同体の歴史的原則」がみつかるとおもいます。

Helvetia さんの以上のご指摘あたりだけでも、自分が（あるいは日本人の多くと読み替えてもよさそうですが）いかにスイスという国を、産業と、観光と、歴史的断片の一部でしかかかわってこなかったか、と思い知ります。

慣習法が咲きにある、というのはたとえば北欧の国々で、万人権として他人の土地に自由に入ってよいアクセス権、friluftslowen がのちのち憲法で保障された国民の権利になったことを連想させます。

>このばあいは、A ではなく、B のようにする、というようなことは、色々あるのに、それはいちいち言葉で言わず、書き表しもしない。インサイダーには自明の沈黙知みたいなものが際立って多い社会だという印象です。

興味深いお話です。ありがとうございます。あらためて、Helvetia さんのジャーナルもひもといてみようと思います。

こまさ : こんなに深いお話がその辺に転がっている、というのがどっとねっこのすごいところですよ。

暗黙知のルールとありますが、それがその国の道徳なのではないか、と思いました。それが大事だという価値概念は常に先にあって、そこからルールや約束事や法律が成立してゆく。

ほとんど単一民族・単一言語のなかで暮らしていると世界中がそうだと思うてしまいがちです。視野の広がるお話でした。

おてい : 私も NHK の番組、観ました。

石拾いの場面が印象的でした。

>人間が手を触れなくても、そのまま、美しく、優しくいやしてくれるような自然は、あり得ないと、彼らは確信してますね。但し、自然を壊さないように手を入れ続けること、が肝心であるようです。

石拾いが 500 年続いていることに納得です。

子ども達が山での体験をし続けたいとの気持ち、どこでどのように育つのでしょうか。ウラヤマシイ。

先日、遊びに来ていたスイスの青年がドライブ中、

「木と木の間がとても狭いのは何故？」と。

手入れを続けている国で育った人の素朴な疑問なのでしょうねえ。

Otsucar : ” コモンズ ” という言葉を見て ” コモンズの悲劇 ” を連想しちゃいました (^ ^ ;)

take : こまささん

>暗黙知のルールとありますが、それがその国の道徳なのではないか、と思いました。

そうですね、たつぷり時間をかけたそれなんでしょうね。公共の乗り物に乗る際に並ぶなど。ハイチの救援物資の取り合いは緊急時とはいえ、無法地帯にしない自律性がどれほどあるか、民度が試されることがままありますね。

take : おていさん

>先日、遊びに来ていたスイスの青年がドライブ中、
>「木と木の間がとても狭いのは何故？」と。
>手入れを続けている国で育った人の素朴な疑問なのでしょうね。
あちこちで風景を絶賛した青年ですね。上の疑問はなかなか素朴な
いい視点だと思います。放置された樹木達は泣いていますから。
そこにきっと、なにがしかの感性や情緒表現があるのではないかと
いうのがわたしの仮説です（笑い 普通は飲み込んでいるかも知れません。

take : Otsucar さん

>” コモンズの悲劇” を連想しちゃいました
そうですね。ハーディンがたてた仮説でした。しかし結局現実
は悲劇を回避しているため、絵に描いたような悲劇はどこにも起き
なかった、というのが一般のようです。
コモンズの悲劇は、今、ハマボーフーやアイヌネギなど山菜にお
し寄せているかもね。

take : Helvetia さんの、

>、「国家権力による規定の上位に立つ共同体の歴史的原則」がみつ
かるとおもいます。

が、あらためて、とても色々なことを考えさせます。国家とはなん
なのか、そこまできずとも行政とはなんなのか。以前訪問した関西
の小さな自治体は、住民自治の組織が出来上がっていて、その構成
をみると自治体という組織は単なる行政サービスを行うだけで、議
会などは要らないのではないか、と思わせるものでした。

その住民自治は熟度が高いために、行政はその自治体をモデルに
していろいろな施策のリトマス試験紙にし、結果的にうまくいくの
です。ますます新しい施策のモデル地区にする、という循環にあり
ました。

ちかじか、訪問する中国地方のある NPO は集落の 20 戸ぐらいが
全員 NPO で、集落の土地を共有にして集団で管理し、このままでは
集落の存続が危ないので集落で農村休暇型のビジネスを展開してい
る、というところなんです。

制度が先にあってわたしたちの生活を良くも悪くも守り制限してい
るのですが、Helvetia さんのお話や、上のエピソードなどは、「課
題や思い先行」で制度があとを追ってくるという逆ルートかと思
います。

まず意志ありきで、思いの方向に未来は始まっていると考えれば、
社会やコミュニティはそれ自体が壮大な「ライフワーク」（こう呼ぶ
のも変ですが、言い得て妙）だという発想が湧いてきます。歴史や
枠組はあとからできてくるんだ…。こういう立ち位置は、なかなか
新鮮です。いままでは、なにかに洗脳されて思いこみをしていたか
もしれないなあ、と思うほどです。

take : Helvetiaさんからいただいた「スイス日ジャーナル」の1-2/2004に、「スイスー日本友好条約」という記事があり、サブタイトルに「似た者同士の両国民」とあります。(ウルス・シェットリ氏)

時計と生糸の通商関係を精力的に始める直前、友好条約は1864年の2月に結ばれましたが、そのまえの1862年にスイスは日本に向けて使節団を送っており、日本からは1873年岩倉使節団がスイスを訪問。

また、こんなことが書かれています。

「スイスと日本の関係よりも調和的であり、歴史を通じて双方に大いに益するところのあった二国間関係は想像しがたい。日本でのスイスのイメージは他の国々からみれば羨望の的であり、スイス人は日本人を、自分たちにとって大事である価値基準を同じように大事にしてる人々だと見ている。きちょうめんであること、信頼性、規律、公共財を大切にすることなどがその例である。…」少しは外交辞令もあるのかも知れませんが、いわれてみると、日本人は昔からスイスのことが大好きでした。槇有恒がアイガーの登攀を絶賛されたのも、きっとそのような両国民の眼差しがあったから、といえるのでしょうか。

なんだかスイスがぐんと近くなってきました。(´_`)v

Helvetia : takeさん

スイスの友人に、リヘンベルガーというジャーナリストがおりました。残念ながらあまりにも早くなくなりましたが、彼が日本に取材に来ての印象を書いた記事に、『日本とスイスは共に島国である - 日本は海の中の島であり、スイスは山々の海の中の島である』という一文があって、スイス人と日本人は、遠く離れた、全く異なった文化を持っているように見えながら、感受性や行動のし方に、沢山の共通性を持っていると書いていたことを思い出しました。

>こままささんが言うておられる

>暗黙知のルールといいますが、それがその国の道徳なのではないか、と思いました。それが大事だという価値概念は常に先にあって、そこからルールや約束事や法律が成立してゆく。

ということは、モンテスキューが、『法の精神』のどこかで書いていたことと同じだといってもいいのではないかと思います。つまり、「法律とは、当該社会での人々の暮らしの習俗を言葉にしたものにほかならない」といってるんですね。それが、近代法制度の始まりの頃のものであったようです。

それが、今の日本ではすっかり逆転されていて、法律を新しく制定することによって、生活のし方がどんどん新しくされてしまうような気がしております。

take : >『日本とスイスは共に島国である - 日本は海の中の島であり、スイス>は山々の海の中の島である』という一文があって、スイス人と日本人>>は、遠く離

れた、全く異なった文化を持っているように見えながら、感受性や行動のし方に、沢山の共通性を持っていると書いていたことを思い出しました。

やはりそういう見方がずっとあったのですね。残念ながら身近なところでスイス人にお会いしたことがありません。スイスの観光地は今も日本人だらけだといいますが。

>それが、今の日本ではすっかり逆転されていて、法律を新しく制定することによって、生活のし方がどんどん新しくされてしまうような気がして>おります。

地域のことを考えていくときに、どう制度や施策を利用するかというのが今日の勝ち組の体制なんですけど、どうもよくみると、その源泉にソーシャルキャピタルが横たわっている、と見ています。今回のこのお話しはそこにコミットしているのではないか、と。

Helvetia : >その源泉にソーシャルキャピタルが横たわっている、

「ソーシャルキャピタル」という言葉の意味を、自然発生的な、比較的頻度の高い人間関係、社会的な繋がり、『人間的な信頼』に基づいた交流、連帯が日常的に社会生活の中にあること、と理解しますが、日本語で言う『団結』ではないし、形式的な義務感とも違う、中々言い難い「韌帯」のような関係性が実在していることをスイスにしていると感じます。

このスイス的「ソーシャルキャピタル」のコアの部分を煮詰めて行くと、オオカミとヒグマの群れのような周辺諸国に対して「中立主義」を盾にして自主独立を維持してきた「小さなハリネズミ国家」の、中々表には出難い、強固な防衛反応の源泉に逢着するような気がします。

ごく最近、「ミナレット建設禁止」のイニシアティブが国民投票で可決され、スイス政府を狼狽させ、また、ヨーロッパのみならず世界的に波紋を巻き起こしたことも、その一端であったのではないかと思います。

その一方で、自国内に四つの国語を持っていて、複数の国語を自由に使いこなす人が多いということと関係しているのかもしれませんが、政治的・文化的な国境を、第三者から見るといとも簡単に飛び越えて、異質な文化・文明に入っていく能力を持った人が多いことも目に付きます。

スイスの強力な社会的連帯（個人的な好き嫌いの感情から相対的に独立している行動原理のようです）は、逆説的にスイス人の言葉、文化、国境を越えた向こう側の世界に没入し、ほとんど其処の人間になってしまうが、スイス人であることを止めないし、スイスとの関係をきることがない、そういう静からグローバル化のエネルギー源になっているような印象を受けます。

例えば、スイスカ、日本かという「あれかこれかの関係」ではなく、「違い」を認識しながらも自由にかつ徹底的に生きている（例えば、一般の日本人以上に

日本的なものに没入する) という行動の仕方です。

小さい国土、高い人口密度の国に、四つの互いに相当はっきり違った文化を持ちながら、その中で自由に活動する、そういう生活スタイルを国外に広げると、以下の例にあげたような、一種の「異文化スーパーマン／スーパーウーマン」が出現しやすいのかもしれません。

成人してから習い覚えた日本語で小説を発表し、「いちげんさん」が芥川賞候補にもなり、映画化されたた David Zoppetti (ダヴィッド・ソッペティ) は、その一例です。

個人的な、知り合いの中でも、

Philippe A. Neeser (フィリップ・ニーザー) という人は、30 年以上日本に住んでいて、スイスの製薬会社の顧問弁護士であった人ですが、茶道と仏教(禅)の研鑽を積み、茶道では宗匠であり、2008 年暮れには、日本とスイスの文化交流の功績にたいして日本国の勲章(旭日中綬章)を授けられています。実業の世界を離れていたら、京都の外れに庵をもち、もっぱら茶道と禅の生活を送っているそうです。

さらに、大阪学院大学教授(比較音楽学)である、Silvain Guignard (シルヴァン・ギニャール) は、在日 26 年。筑前琵琶の名人(人間国宝)であった故山崎旭萃に師事してプロの琵琶奏者となった人です。元来は、チューリヒの音楽学校でピアノを専攻し、ピアノ教師の資格を得た後、チューリヒ大学で音楽学を専攻、ショパンのワルツをテーマにして博士号を取得。日本の伝統音楽に興味を持ち、文部省の奨学金をえて大阪大学に留学したのが始まりですが、その後、筑前琵琶最大の流派である橘会で師範の資格を得て「旭西」の名をもっています。

スイス人の在外生活者は 60 万人に及び、スイスには彼らの為の専門のラジオ放送局(長波)があります。一方スイスの人口約 700 万人の 20%~25%が外国籍です。

一般に、外国人の人口比率が 5%を上回ると、社会的な葛藤が起こるようになると言われていますが、この経験則はスイスにはあまり当てはまらないようです。

take : Helvetia さん

ありがとうございます。含蓄のあるヒントが一杯ありそうです。

取り急ぎバツと冒頭をみて見て、のちほど、ゆっくり熟読します。

>形式的な義務感とも違う、中々言い難い「韌帯」のような関係性が実在していることをスイスにしていると感じます。

わたしの直感もこれではないか、と思いました。

2010年1月25日 砂川神社訴訟？！

— take —

日 記

最高裁まで闘った砂川神社訴訟。え？北海道の砂川？と思われた方も多い、ごく身近な判決でした。

市が、神道という宗教に公有地を貸しているのは違憲という判決でした。これで、国内に何千とあるこのような施設は都道府県も市町村も見なおしに入らざるを得なくなりました。

先週の金曜日、北海道神宮で「人と地域のつながりを考えるフォーラム」が正々堂々と？

（笑い）開かれ、建築家やアーティスト、メディア関係者等と共にパネリストになった神宮の権禰宜（ごんねぎ）の方は、判決に対する抗議も込めて急遽話題に載せました。

新聞などでも詳しく報道され、かつ大変わかりやすいのですが、早い話が、開拓の時にみんな建てた神社（土地は恐らく共有、いわゆるコモンズ）を砂川市に寄付、それをその後ほとんど町内会館として使って祭事にも使ったもの。それを元教諭のクリスチャンが2004年に提訴したものです。違憲になったのはこの空知太（そらちぶと）神社。もう一つの市から町内会に譲渡された富平（とみひら）神社は合憲です。

この一連の訴訟の正否は、知見が乏しく書けませんが、人と地域の「つながりの依り代（よりしろ）」だった神社の扱われ方がますます風化してしまう、と直感しました。

フォーラムでも、人と人、とか、人と地域とか、フラットなつながりを云々はしますが、権禰宜さんですら、もっと深層の「土地のスピリットと人のつながり」を言及せず、当然、そんなアブナイ話をされる方は居ませんでした。

土地のスピリットは、災害が多く寒い貧しい不安な時代には、人々はお祈りでもしてつかの間の安心を得るためにヨリシロになったのでしょう。今は、その必要がないとして、スピリットを感じる第6感のアンテナも、ほとんどの人がさび付かせてしまったようです。それも当然です。社会的にも「非科学」の烙印をおされて封鎖され、実質的にタブーの領域に押し込められています。

これはますますまずいことになった、と思いました。が、さて、隠れ神社ファンとしてはどうすべきか、とくにいい思いつきもありません。ただ、言えることは、日常のそれを水平軸とすると、人智を越えた価値観、この垂直軸の価値観というのは、自らを戒めつつ律しながら生きる上でどうも欠かせない、と地味に発言されている識者も結構多いのです。ただ、あまり声にしない。できない。そこにジレンマがあります。

あ、また長くなってしまいました。（-_-;）

コメント

やっさ : 似たような案件では、何十年も前から気にかけていたものです。この件は、元

所有者の寄付に端を発しているようです。

開拓以来、地内のいろんな人々が利用していた土地だったから、寄付するとすれば「市」がよいだろうと。

よもやこんな問題が起きるとは思わずに。むしろ、よかれと思ってのことだったろうと推測します。町内会だったら問題はなかったかもしれませんが、手続きが面倒だったかも。

ことの原点に戻って解決策を見いだして欲しいと願うばかりです。

ちるまま：軽い話題じゃないのでおしゃべりしにくいけど・・・。

人智を超えた価値感・・・って誰でも漠然と感じているんじゃないかなあ。科学だけで割り切れない「何か」。それってあるでしょう？人間の浅知恵なんかの届かないところ・・・それが何かはわからないけど。外れることも多いけど第6感はあると思うし・・・。この説明できにくいところが弱点ですよねえ。2004年に提訴した人は「現代人にとって神社の存在そのものが希薄な存在で特定の人しか関係していない」と思っているんでしょう。まあ事実でもありますよね。でも初詣しないと何か落ち着かないとか・・・あるでしょう？我が家では子供らも行ってますけど。やっぱちょっと神教は他の宗教とは違うかなあとも思うけど。私は何の違和感も持たず、深く考えず「違憲判決」をすーっと受け入れてました。今後ことの推移に注意し、自分も考えて行きたいと思います。おていさんはどう感じてるかなあ。

ATU：違憲の判決が出ましたですね。

この問題、先人からの地域住民が絡んで来ていると思いますので尾を引きそうですね・・・。

どうなるのでしょうか・・・。

例えば、富良野市内には、市内各地に神社の分身とも言える、ほこらが数多くあるそうで、その処理はどうするのかと、困っているようでした。

今に、初詣は入場料が必要になる時代が来るかもしれませんね・・・。

(都会の話だとは思いますが・・・)

take：やっささん

>開拓以来、地内のいろんな人々が利用していた土地だったから、寄付するとすれば「市」がよいだろうと。

税金で管理してもらおうなんて考えず、共有にするぞ、と腹をくくってしまえば良かったのですね。これがつらい・・・。

共有を共有のまま維持するのは至難ですが、もっとも益の多い道だったといまなら思います。それが、NPOだった・・・。

take：ちるままさん

>この説明できにくいところが弱点ですよねえ。

ねえ、そうですねえ。

ひょっとして、3才、4才、5才ころ、おばあちゃんの膝元で、
「むかし昔、…」などを聞いて植え付けられるおどろおどろしさや、
こままささんが書いていた「なまはげ」の存在など、本能に埋め込む
幼児教育がいるのかもね。そのためには、話のできるじいちゃん、ばあちゃん
が要る…（笑い

あ、ジジババって、教養求められるんですね、初めて気づきました。（爆

take : atu さん

>富良野市内には、市内各地に神社の分身とも言える、ほこらが
数多くあるそうで、その処理はどうするのかと、困っているようでした。
ぎょっ、そんなことに、、、なるわねえ。（笑い アレは市道、町道などに
あったりしますから。

でもねえ、米国大統領が就任式で聖書に手を載せて宣誓しても、
キリスト教徒以外が訴えたりしないでしょうけどねえ。

take : 富平神社の例から言えば、町内が寄贈したものであれば、

町内が再譲渡の申請をして（もともと自分たちのもので、自分たちが
管理すべきでした、と）、譲り受け、自分たちで組合やNPOをつくって
管理すればいいみたいですね。

これで地域が逆に結束することになったりして。失われた「つながり」の
復活へ…、テワケイネ（-_-;） ヤアルカ（^_^;）

Helvetia : このクリスチャンさんは、どういうクリスチャンなのかは判りませんが（何し
ろ色々ありますので!）。

こういうエキセントリックなメンタリティを持っている人は、どの宗教のどの
宗派にもいるものなので、自治体と神社の方でも、「政教分離」という、法的な
原則が出来ていることを考えて、予防策をとるべきであったと思います。例え
ば、この神社、実際には、公民館（町内会館）として使用されているわけですから、
例えば月 100 円の借地料で土地の賃貸契約を結んでおくとか。

安すぎるという文句に対しては、公民館機能に対する地域自治体の賛助である
ということが出来たでしょう。

米国でもヨーロッパでも、いわゆる近代国家は、言うなれば皆「フランス革命」
のイデオロギーの影響（政教分離）を受けていますが、どこでも、宗教団体（キ
リスト教）は社会事業、教育事業に励んでいます。それは、隣人愛の精神から
出でたものだと説明されていますが、そうすることによって、税法上の特典の
ような少なくとも間接的な援助をえられることもあり、また、政教分離原則を
掲げて行われる反体制的な批判・攻撃にも対処しているのだと考えられます。
神社やお寺が、もっと積極的に、例えば保育園などを併設経営することは、神

社やお寺にとっても安全策であり、自治体や国にとっても、間接的に現在の懸案である大問題（大量の待機児童）を解決に導くひとつの方法ではないでしょうか。

さらに、↑ちるまま さんも書いているように、「宗教」という概念で、キリスト教やイスラム教と一緒に、地域の神社をくくってしまっているものか大いに疑問です。（もともと、この問題を正面から詰めて行くと、おおごとになります！）

もうすこし、日本人が得意だと言われる「すり合わせ」の発想で、理屈と現実の関係を上手に調整する（現実とは違うから理屈にも価値がある！）事を考えたいものです。

take :



Helvetia さん

>もうすこし、日本人が得意だと言われる「すり合わせ」の発想で、理屈と現実の関係を上手に調整する（現実とは違うから理屈にも価値がある！）事を考えたいものです。

こう考えると大分明るいですね。

話は替わるんですが、ドイツで写真左のようなイエス様を見ました。

農家のトウヒの林で道は村道のようなでした。保養地のフットパスです。

写真右はわたしがつい教会みたいだと思った林の光線。おそらく、この光景をカテドラルにみたてたのだ、と。

そういう視点で行けば、わたしたちの身の回りは、かなり神道の世界のような光景であふれています。あ、ちょっと、ずれました(^_^;)

オカリナねえさん：砂川神社の訴訟問題はとても古くて、暫しワスレテイマシタ。

でも政教分離の観点から言っても勝訴したのは然りかもですね。

砂川市長の悲壮な顔がなんとも言えませんでした。

でもこれで全国に石を投じたのかも知れません。

とても小さな神社です。

Helvetia : teke さん

南ドイツからオーストリアのチロル、それに北イタリアの南チロル辺りでは、田舎道を散歩していると、take さんの写真にあるようなビルトシュトック (Bildstock) がたっていて、聖母マリアの像が主ですが、自然の中に神の世界への通路があるという感じにしつらえてあります。

鳥達と獣達に説教をしたという、アッシジの聖フランシスコの話もありますし、カトリックの世界では、歴史的には自然界と神の世界が近代よりも遥かに近かったように思います。

16 世紀以降の近代思想が、マックス・ウェーバー（プロテスタントの倫理と資本主義の精神）にみられるように、理性の世界と反理性的な自然を峻別してしまったようです。

中世のキリスト教思想には、例えば神道的世界観と共通するような考え方が多かったようです。その意味で、カトリックは実は多神教的だというカトリックの神学者もいたりします。

歴史の中でのキリスト教の変遷は大変ダイナミックなものだったと思いますので、神道あるいは日本的な宗教的自然観との近似性は時間の経過とともに失われていったのであらうと思われます。

しかし、近年では、それがいわゆる「進歩」を意味してはいないのではないかという反省が、西欧思想界で広がってきているという感じもいたしますが。

曹洞宗の僧院とカトリックの観想修道会（ベネディクト会、トラピスト会など）のあいだに、霊的交流活動が行われていまして、相互に2ヶ月（？）ほどずつ、修道僧のグループがそれぞれ相手の僧院で生活を共にしています。

不思議なことに、カトリックの観想修道会の Ora et labora（祈り、かつ働け）という修業の原則にもとづく修道生活の日課と、禅宗の僧院での生活日課（座禅と作務）には驚くほど共通性があるので、交流も可能なのですが、考えてみると、両者に共通なのは「祈りと自然の共存」ということなのではないでしょうか？

take : ねえさま

身の回りにも追いかけてくる問題ですね。

>でもこれで全国に石を投じたのかも知れません。

大変なことです。議論になるのがいいのか、別の方法があるのか。

わたしは、語り部の世界かなあ、とも存じますが、よくわかりません。（^_^;）

take : Helvetia さん

彼我の違いを連想しつつ拝読しました。

>神道あるいは日本的な宗教的自然観との近似性は時間の経過とともに失われていったのであらうと思われます。

ふと、フロイトとユングの拠点がオーストリアとスイスだったことを想起します。特にユングの無意識の理解は、今の時代に東洋理解の橋渡しに

なっているのではないか、と思うことがあります。

>考えてみると、両者に共通なのは「祈りと自然の共存」ということなのではないでしょうか？

へええ、驚きです。

曹洞宗もカトリックのキリスト教系も、ある意味、ヨガから瞑想を学んだと聞きます。ある師は、マホメットも、拝火教の始祖も、宗教的悟りは、瞑想のメソッドだったと。

メディテーション、マインドフルネス。神社の話の核心に来ているかもしれませんが、ことが、仏教と置き換えてもイケルというあたりが、面白いかもしれません。

Helvetia : take さん

最近、サフランスキーのショーペンハウエルの伝記を読んで知ったのですが、かれの「意志と表象としての世界」の真意は、どうも仏教的な空即是色の世界の事であつたらしいということです。

死の間際でも、心情的にはほとんど仏教徒であつたそうな。そんなこと、今まで読んだ／聞いた憶えがないのですが、不明のいたりでした。

ハイデッガーが西田幾多郎の書いたものをよんで、自分と同じことを考えている！といったそうですが（カール・レーヴィットが書いてました）、西欧と日本の（東洋とってしまう確信はないし、多分そうは言えないでしょう）違いと共に、共通性を積極的に見つけて行くことも必要だと思います。

世界の歴史は、特にヘーゲル以後の近代的歴史観（西欧中心史観）で徹底的にユガメラレテイルので、この桎梏から我々の「歴史の眼」を解放する必要大いにあります。

take : >死の間際でも、心情的にはほとんど仏教徒であつたそうな。

興味深いお話です。

>西欧と日本の（東洋とってしまう確信はないし、多分そうは言えないでしょう）

わたしが不適切でした。東洋と、広げる自信はまったくありません。

なんとなく、頭のなかに、米国の自然保護の源流であるエマソンが、ヨガの教典を読んでいたというのがあったため、それらを一緒に考えたかったのです。

ソローの文章にどことなく、ヨガや仏教のかすかな匂いを嗅いだとき、よく彼らを読んでいる友人に聞くと、そんなことを教えてくれました。

>共通性を積極的に見つけて行くことも必要だと思います。

>この桎梏から我々の「歴史の眼」を解放する必要大いにあります。

うわ！ となると、本を見る目もごろっと変わりそうです。

和辻哲郎などは、彼我をくぐった融合の芳香を感じますがいかがでしょう。

翻って戻ると、みかんさんの故郷・砂川のこの神社のお話しは、政教分離などという法律論争ではないところで、オルタナティブな体系をみつけるべきではないでしょうか。

つまり、仏教でも神道でもアニミズムでもいいのですが、現代に求められているのは、先祖や自然界の摂理など、不可視の垂直の関係性に心眼をむけることではないか。しかし、あふれているようにみえ、本当の合意形成に役立っているものはほとんどない。(ここは芸術に飛ぶのか…。)

それは、具体的な宗教を指すのではなく、大本のことを教える「教え」であり、実際は、その本丸に、高名な宗教学者や哲学者も決定打をまだ放っていないのではないか、そんな風に見えます。これは永遠に無理な、道理に反することになるのでしょうか。こういう発想がいわゆるパターンリズムにあたるのでしょうか。

take : >take さんの写真にあるようなビルトシュトック (Bildstock) がたっていて、聖母マリアの像が主ですが、
そうでした。赤い服をきた、ちょっと着ぶくれした聖母マリアでした。

みかん : take さん

「さわらぬ神に祟り無し」で、遠巻きに拝見しておりました。(^_^)

世俗主義は、私も以前から気になっていたテーマでした。というのは、つい最近まで、世俗主義 (政教分離、宗教の自由を含む)こそ当然至極の選択だと思っていたんですが、最近、アメリカでは、この世俗主義によって、カルトを含む、もの凄い数の教派が存在することになったと聞いて、私の宗教の自由に対する見方が少し変わってきていました。

ご存知の通り、イギリスは、国家としては純粋な世俗主義ではありませんが、逆にこれによって、イギリス人は、キリスト教を信じる信じないにかかわらず、宗教的に、ある意味、非常に解放されていると前から思っていました (他のことに専念できる)。

でも、イギリスは、たまたま非世俗主義の良い例で、逆に一部のイスラム教国家のように、問題ある価値観を持つ宗教を国家から押し付けられるのも悲劇です。

take さんの仰る<オルタナティブな体系>は、難しくて想像しづらいんですが、<具体的な宗教を指すのではなく、大本のことを教える「教え」であり、実際は、その本丸に、高名な宗教学者や哲学者も決定打をまだ放っていないのではないか、そんな風に見えます>は、同感です。Helvetia さんのコメントにもあったように、<この桎梏から我々の「歴史の眼」を解放する>スーパーリリジョンみたいなものが生まれると、本当にいいのかもですね。

take : みかんさん

わたしが苦し紛れで書いた「オルタナティブな体系」はきつと、
みかんさんが書かれた「スーパーリリジョン」です。

なにか、飛び跳ねた価値観にでも発明しないと、すぐ既存のもので

混濁する…。(ちょっと無理かも・笑い

世俗主義、というのがわたしにはいまひとつ、理解が難しいです。

ちょっと、民の願望する方向への放任主義に近いんでしょうか。(´_`;))

反対語は、戒律か教条か、結構、無知がばれますね(爆

Helvetia：ヨーロッパで生まれた世俗主義は、日本の宗教には存在しなかった制度である「教会」による精神生活の支配にたいする、反抗の思想として出てきたのがそもそもであると理解しています。

それに比べて、どうも日本には、ヨーロッパの歴史にみられる支配の二重性（教会の支配と封建制による支配）もなく、特に支配者による文化生活（文字の習得、学問、芸術など）の独占も行われず、中世末期以来、商業活動でも民間の自由度が大きかった。つまり、支配構造の密度と厚みが、西欧のように強靱ではなかったように思います。キリシタンの弾圧はありましたが、あれも西国の大名が政治・軍事的な反乱を起こす危険と見た、幕府の政治的な反応がその本質であると思われます。

ヨーロッパでは、異端弾圧や魔女裁判は、16世紀頃から、18世紀に入っても、宗派の別なく行われていたといわれていますが、宗教改革以後、複数の宗派を異にする「教会」がそれぞれの信仰の正当性について対立し、争っていたという背景があります。

つまり、日本には本来、世俗主義の運動が起こらなければならないような歴史的條件がなかったので、我々にはピンと来ない概念になっているのではないのでしょうか？

むしろ明治以後の政府が、何とかして神道をキリスト教会風の組織体に仕立てようと、排仏毀釈とか、神道（布教）の’官庁を造ったりしながら、「神道は宗教ではない」と宣言しておいて、それまでは存在しなかった「国家神道」を造ったりしましたが、それが、戦後に廃止され、「自然を大切にし、先祖を敬う」昔ながらの民の神道までが、弱体化されてしまったのではないのでしょうか。つまり、GHQ（占領軍司令部）が知っているキリスト教のような「宗教」だと判断されてしまったのでしょう。

逆説的に言えば、ヨーロッパの啓蒙思想や世俗主義を、ヨーロッパ人は、文化的進歩発展の成果だといったがりますが、日本人は、本来的に（ヨーロッパ的にみれば）その結果において啓蒙的・世俗主義的な文化の中で生きてきたのだと言えるように思います。ヨーロッパの知識人で、少し長く日本で暮らした人は、こういう認識に達することが多いようですが、「歴史」がひっくり返ったようなショックを受けるらしいです。

自然の恵みに感謝したり、祖先を敬ったりすることは、キリスト教の教えとなんら矛盾しないと、スイスの有名な神学者でカトリックの司教である人から聞

いたことがあります、むしろ日本人自身も、「自然と先祖に感謝し敬う」ことが、ホーケンテキだとか、非近代的だとか、思い込まされてしまっているのかもしれない。

日本人の心の底に（多分今も）流れている、自然と先祖に対する感謝と崇敬の気持ちを、いわゆる「宗教」とは違う「何か」として表現する適当な言葉が見つからないということが、問題だと思います。

take : これはたいへん大事なことをご教授いただきました。

>日本には本来、世俗主義の運動が起こらなければならないような歴史的条件がなかった、我々にはピンと来ない概念になっているのではないのでしょうか？
不覚にもここに止めたことのない言葉で、きっとわたしは背景も知らず大衆迎合に近いものとして読み飛ばしていたと思われそうです。辞書でみると

世俗主義は secularism、反対語の clericalism は聖職権主義と書いてあり、そもそもこの英語をまったく知りませんし、もちろん使ったこともないものです。「聖職権主義」という言葉自体、歴史と支配をにじませます。

>つまり、GHQ（占領軍司令部）が知っているキリスト教のような「宗教」だと判断されてしまったのでしょうか。

この推論で納得がいきます。わたしは、GHQは戦争の引き金にある日本人の精神構造の根っこに、日本人のところに古来から埋め込まれた（？）国家神道がある、と判断したのだと、さらりと判断していました。「…」のような、というモデルがあって初めて理解したわけですね。

>むしろ日本人自身も、「自然と先祖に感謝し敬う」ことが、ホーケンテキだとか、非近代的だとか、思い込まされてしまっているのかもしれない。

遅れていることに敏感な国民でもありますから、グローバルな物差しの中で、卑下が卑屈になり自虐的になって捨てることになった、ということでしょうか。

>ヨーロッパの知識人で、少し長く日本で暮らした人は、こういう認識に達することが多いようですが、「歴史」がひっくり返ったようなショックを受けるらしいです。

これはこちらもあらためて非常にびっくりします。自国に対する評価軸は、8：2ぐらいにネガティブに傾いていますから、価値観の復活は覚束ない。まして価値軸が、科学やらエビデンスに征服されると、説明できない世界は民話にでも逃げるしかない。手塚治虫と宮崎駿男のアニメーターだけが自在にその世界を描けた、しかし所詮焼け石に水だった、…。

>いわゆる「宗教」とは違う「何か」として表現する適当な言葉が見つからないということが、問題だと思います。

御意でございます。

みかん : 諸処の事情で書き込みが遅れました。(- - ;)

Helvetia さん、世俗主義の説明ありがとうございます。私の、まだらな知識では、一層わけがわからなくなっていたと思います。そして、またもや沢山の「目からウロコ」、ありがとうございます。

>つまり、GHQ（占領軍司令部）が知っているキリスト教のような「宗教」だと判断されてしまったのでしょう。

>この推論で納得がいきます

なるほどです。つまり、ある意味自業自得だということですね。

ふと、もし歴史を元に戻すのが可能だとしたら、どうなるんだろうと思ってしまいました。

ここでは、科学と宗教の間に互換性があるかどうかというディベートをよくやっているんですが、私がリチャードドーキンスを尊敬するのは、アメリカなどでは、逆に合理的な考え方を擁護するほうがリスクが大きいという事実があるからなんです。押し込められているのは、敬虔なクリスチャンではなく、親達からの非難を恐れて進化論を教えることができない学校の先生たち。イギリスでさえも、創造論を、進化論に対抗する理論として教えるべきだと信じている人が結構います。これでさえも、日本人には、想像しかたいですね。

take さんの、<なにか、飛び跳ねた価値観にでも発明しないと、すぐ既存のもので混濁する…。>ですが、これを克服すると、革命というんでしょうか（笑）。>いわゆる「宗教」とは違う「何か」として表現する適当な言葉が見つからないということが、問題だと思います。

take さん同様、御意にございます。

take : みかんさん

>これでさえも、日本人には、想像しかたいですね。

いやあ、これも理解しがたいです。大きな、川が横たわっています(^_^;)

チンプンカンプンです。(笑い

おてい : 仏門にしながら勉強不足で、書き込みは オハズカシイので
あります(^_^;) が、勇気を持って！（笑）

「宗教」というものの定義は宗教家と名乗る人の数ほど

あります。伝統宗教、新興宗教、オカルト的なことや超能力や占いまでを宗教ととらえる方々もたくさんいます。

これに「宗教的」なんていうのが入ると、もっとややこしくなります。

>いわゆる「宗教」とは違う「何か」として表現する適当な言葉が見つからないということが、問題だと思います。

私も御意にござります。

砂川問題からズレますが。

日本人の多くは宗教に対して意識的ではなく（年齢、地域、家庭にもよる）むしろ無関係と思っている人のほうが多いと言われていますが、実際はそうではないと感じます。宗教に基づく行為は日常の中に深く浸透しています。信仰形態に特徴があると表現するのがいいのかもしれませんが。

年中行事や人生儀礼などの習俗には神や仏、キリストまでもが散見しています（笑） 住職は「クリスマスはしてはいけない！」なんていいながら

おひな祭りを抵抗無くしていたり（だって、これ、もともとは神様のほうですよ）複数の宗教的伝統が交じり合うことに抵抗があまり無いのですね。

これがいいとか悪いとか無信心とかいい加減とか、そういったことではないと思うのです。重層信仰なのです。シンクレティズムというようです。

宗教学でこのように定義することがあります。

この話をすると住職は「馬鹿なことを言うな！そんなもの信仰ではない！」と怒ります（笑）

砂川の問題

えーっと

私は判決はしょうがないと思いました。

僧侶達の会話から感じることは

「なんで自分達が神社の維持に協力しなくちゃなんないの？」と言った気持ちです。法的にどうのこうのとは言ってるけど。

あとは「鳥居」が気に入らないようです（笑）

でもね、この判決、何故かわたしはちょっと寂しい。

なんでかな。

話は飛びますが

駅前の湧水、ロコミで広がり、遠くからでも水汲みに来られる方が

います。日曜なんかは行列ができるほどです。で、いつのまにか

水が汲みやすいようにホースが付けられたり、椅子が置かれたり

たりしています。ゴミなんかないんですよ。草も刈ってあったり。

来た人が自らするんですね。

そして、そして、去年は手を合わせる（合掌）ような対象物（仏像のような）が置かれてました。

感謝したくなるのでしょうねえ。

私は、つまり、こういうことだと思うんだけどナァ。

歯切れ悪くて、ごめんなさい。

take : おていさん

すごくわかりやすいです。

>でもね、この判決、何故かわたしはちょっと寂しい。

>なんでかな。

わたしもです。そんなかんじですね。

>私は、つまり、こういうことだと思うんだけどナァ。

J R 北沼駅前湧き水ですね。そこへ自然発生する感謝のシルシを既存の尺度やボキャブラリーにはめこむと…、さびしくなるんでしょうね。つい、お地蔵さんや鳥居や偶像を構えたくなるのを我慢して、うんうん唸ってなにかシンボルを考えてみる、そこに新しい信仰の結晶が描かれたりしないんでしょうかね。ほんと、なんて呼べばいいんでしょうね。ある時期、わたしは「うぶすな（産土）」と呼んでいたことがありました。語感の素晴らしさからでしたが、これは神の世界ですもんね。

みかん : おていさんの、わき水の話、共感して拝聴しました。（^_^）

話が飛ぶんですが、面白いのは、日本では、自分が仏教徒であるかどうかを宣言しなければならない機会がないことですか。

イギリスではたとえば、優秀な公立学校は、キリスト教系の学校が多いんですが、その学校に自分の子供を行かせたいとなると、自分がキリスト教徒であることを証明しなくてはなりません（あ、ちなみに、入学試験はありません）。当然、願書を出すときに、自分はキリスト教徒だと言うだけではダメで、毎週礼拝に参加しているなど、きちんと行動で証明しなくてはなりません。

もちろん中には、キリスト教徒ではないのに、偽って、その学校に入学させる親もいますが、入学した後は、聖書を勉強させられるので、それが親として自分が希望することかどうかとも考えなくてはいけません。

日本ではどうでしょう。恐らく、中高年になって自分のお葬式を考え始めるようになってから、はじめて自分の信仰について真剣に考えるようになる方が多いんでしょうか。

もし、日本のお寺が、うちは本当の仏教徒しか面倒みないわよって言ったら、どうなるんでしょうね。（^_^;）

take :



国が違えば、色々な事情があるんですね。みかんさんのお話で俄然、そのあたりの現実が浮き彫りになります。この話は、おていさんのレスもあろうかと思いますが、わたしは、その、駅の前井戸、この画像を探して見ました。あるはず、……、ありました。一枚目＝法昌寺まで

二枚目＝井戸

三枚目＝井戸で水汲む人

みかん : おお、これが、そのわき水ですか。

インドでは多少水に苦労したので、オアシスに見えます。(´_`;)

私の前のコメントの質問は適切じゃなかったです。土壌が違うので、比べてもしょうがないですね。

ちなみに、息子の友人二人は、このキリスト教の学校に行っているんですが、私は、最初から自分は圏外だと思っていたので、願書は出しませんでした。イギリス人の中にも、信仰による選別に反対している人達はいます。学校が納税者のお金で運用されていることを考えると、当然かなと思うんですが、この問題、なかなか難しいです。

take : 異国で、こういう根本的な文化のギャップを飄々と？こなして

暮らしているみかんさんは、すごいですねえ。

>当然、願書を出すときに、自分はキリスト教徒だと言うだけではダメで、毎週礼拝に参加しているなど、きちんと行動で証明しなくてはなりません。

これも。

「イギリス人の中にも、信仰による選別に反対している人達はいます」。信仰から自由であり、信仰にときどき惹かれる…。日本人の信仰のスタンスはこの辺でしょうか。ゆるくていいなあ。

貧しくて仕送りなしで大学生活を送ったわたしは、キリスト教の寮に入ろうと面接を受けました。18歳でした。

「あなたは毎週日曜の礼拝に参加できますか？」

山に登朗としていたわたしは

「えええ？、…」

「あなたは、願書に、キリストの隣人愛にひかれた、と書いていますが、隣人愛をどのように理解していますか？」

「ええ？、そのお…」

見事におちて、それ以後、無冠の帝王、トラウマにちかい思い出です（爆

おてい : 私が田舎のお寺に来て、最も驚いたことは他宗（皆、仏教ですが）の

僧侶と一緒に通夜や葬儀を執り行うことがある、ということです。

禅宗の僧侶、浄土真宗の僧侶、真言宗、一緒に並ぶのです。

導師（中心となる人）はもちろん、そのお寺の住職。作法もお経も、会所寺院の宗派でのものです。

だから、うちの住職は禅宗や真言宗のお経もあげられます（笑）

他の僧侶も同じ。

小さな町なので、自分の家以外の宗派のお坊さんともいろんな繋

がりがあるので、身内が亡くなったときには「町内のお坊さんを皆呼んで」ということが少なくないのです。

沢山のお坊さんと呼ばいたいという遺族もいますし。

幌延仏教会なんてのを作って、年に一度は町内の僧侶達が顔をあわせて懇親会をします。(ここ数年してないけど)

町内僧侶は全部で4人(^_^;)

ここには神主は入りませんねえ。

神主さんは在住してます。

仲も悪くないです。

葬儀には「浄土真宗のお坊さんだけ(揃えて)でお願いします」という遺族もいます。ホントはこれが正しいのです。

でも、わが町のお坊さん皆に葬儀をしてほしい、送ってやってほしいというのは間違ってる！なんて誰もそんなこと思いませんし、言いません。

正しくはないかもしれないけど間違いではない。こういったことが小さな町には結構あります。

あ、もしかして、田舎じゃなくてもありますか？こういったこと。

take : なるほどお。弾力的にやっていくんですね。

小異をすてて大道につくというかんじですか。

家内の実家は禅宗なのに大谷派が近いのでそこにお参りに来てもらっています。

みかん : take さん

飄々となんてとんでもありません、首までつかってます、というか完全に巻き込まれてます(笑。

寮のお話、興味深く拝読しました。take さんも苦勞されたようで、何か元気が出てきました(笑。

まじめに、私もこのキリスト教の伝道師の方たちのやり方、なかなか複雑な気持ちになります。

おていさん

貴重なお話、ありがとうございます。

匿名で、お坊さん達の心のうちを聞いてみたい感じもしますね。きっと身内でなければ分からないという諦め感もあるんだと思いますが。

ところで、一般人にとって、帰依する、しないの違いは何かなとふと思いました。

Helvetia : 「この世のものではない何か」は、在るか無いか、という問題が、宗教的な考え方と反宗教の考え方を分けているのではないかと思います。

この世のことについて語る時、今のところもっとも信用されているのは自然科

学の認識を基にした議論でしょうが、その自然科学も、解ったことが増えてはいるものの、同時に、此れまでは解らないということが解らなかった沢山の問題が現れてくるという状況に在るようです。

我々が知っている（地球が其処に属している）宇宙の始まりがビッグバンであるという理論が、色々な世界創造の神話を置き換えたように見えますが、ビッグバンの以前にはどうなっていたかということについては、科学的な答えはありません。質量ゼロ、つまり、「無」から宇宙という「有」の世界が成立したこと（矛盾）を証明してしまったことになり、科学としてはどうにも具合が悪いことになっていると思います。

最先端の生命科学でも、膵臓の消化酵素生産を司る遺伝子を持たないマウス（ノックアウト・マウス）を造っても、本来ならば死んでいる筈なのに、ぴんぴんして元気に餌を食べ、飛び回っている、つまり、欠損している遺伝子の機能が、生命体によって、結果的に補完・代替されているのですが、その仕組みは、確かめようがないそうです（福岡伸一、生命と無生物の間、講談社現代新書……寝る前に読むと、朝まで読んでしまうほど面白い、ミステリーはだしの一冊！）。

言い換えれば、科学は「この世のものではない何か」について述べる宗教の言説を、否定することが出来るほどの認識力は持っていないし、元々、科学的な認識に要求される「実証」がえられない次元の問題ですから、科学的な反証が成り立つわけも在りません。

知的であり、合理的な精神的な立場を選ぶなら、科学的な認識が成り立たない次元の問題については、そのような次元の問題があり得ることを謙虚に認めるべきであろうと思います。

一方、宗教においては、それぞれの「教え」が、唯一の真実であると信じるのは結構ですが、だからと言って、科学的・合理的に「世界」の諸問題を説明する努力を否定したり、他の宗教を「征服」したりしないことが要求されていると思います。そのようなことを正当化する客観的な方法は存在しないからです。

「宗教」がもたらすのは、この世のものではない事柄の世界についてのメッセージであり、人間は、不思議なことに大昔からそのようなメッセージを求め、必要としてきた生き物ですが、同時に、いわゆる知性を以て、さまざまな疑問を解決する、つまり合理的に説明する努力を続けてきた生き物でもあります。このような極端な矛盾の微妙なバランスの上でしか生きられない人間は、生命体としてはむしろ例外的に不自然な存在ではありますが、そのような人間の本性を自覚すると、宗教が示す救済や解脱を求めたくなるのがむしろ自然であるとも言えるのではないのでしょうか。

Helvetia : おていさん

面白いお話を有り難う御座います！

中々伺いしる事の出来ない、しかも、明るいお話です。

宗派の違うお坊さん方の懇親会は好いですね。明治以前だったら、其処に神主さんも入ったりして？

みかんさん

>ところで、一般人にとって、帰依する、しないの違いは何かとふと思いました。

宗教は、「この世のものでない何か」にかかわる、さまざまな生き方のスタイル、精神的・感情的な、しかも実践的な way of life だとは言えないでしょうか？

そうしてみると、「無神論」も符号こそ逆ですが一種の宗教的立場であり、それに帰依する人が無神論者だということにならないでしょうか。

帰依する人も離れる人も、それぞれの個人的な内面での理性・感情・体験などのさまざまな組み合わせが、偶然のきっかけや出会いがイグニションになって触発され、選択・決断されるように見えます。

どんな種類の宗教的立場にも意識的に帰依しない人は、不可知論者

agnostic といわれるようですが、無神論者 atheist とは違うと思います。

みかん : Helvetia さん

Helvetia さんのお話はごもっともなんです。

ある本によると、無神論者にも程度の差があって、やはり 100%無神論者になるのは不可能なようです。私の友人にも、不可知論者という呼び名を好んで使っている人が多いです。

私は、神の存在は信じていないけれども、無神論者ではないと思っています。サンタクロースを信じていない人を、無サンタクロース論者とは言わないですし、自分にとって神が存在するかどうかというのは、あまり大きな関心事ではありません。宗教には関心があります。

で、なぜ私がドーキンス氏を尊敬するかと申しますと、彼が多くの沈黙している人達を代弁していると思うからです。彼にとって大事なものは、無神論を布教することではなくて、世界中のすべての子供達が進化論を勉強する機会を平等に与えられることだと思うんです。日本では考えられないと思いますが、こちらでは現実です（こちらでも、古事記をそのまま信じている人達がいるんじゃないかね）。

ドーキンス氏は、生まれながらにしてキリスト教だとか無神論者とかいう子供はいないと言っています。私もそれに共感します。

take : Helvetia さん

福岡信一氏はなぜサイエンスを魅惑的な流れでえがけるのでしょうか。引き込ま

れるひとが本当に多いですし、科学界の浅田次郎、いえ、たとえば
まずい…（笑い

＞科学は「この世のものではない何か」について述べる宗教の言説を、否定することが出来るほどの認識力は持っていないし、元々、科学的な認識に要求される「実証」がえられない次元の問題ですから、科学的な反証が成り立つわけも在りません。

地球温暖化はだんだん作られた似非ロジックだったというのが判明してきましたが、反証をずっとしてきた人に、アラスカ大学の赤祖父教授がいます。海流のそこ流れをまさにグローバルに描いて、大陸の各地における温度変化などを解明して見せました。

この世のものではない何か、のつまるところは、地球が持っている恒常性ホメオスタシスではないでしょうか。各所のアンバランスを地球自らがあたかも生き物のようにカバーして元へ戻していく。まるで免疫のようにも動いていく。チャールズ・ラブロックのガイア理論を、非科学と呼ぶのか非科学と呼ぶのかを別にして、あたしたち野肉体の自然と、ガイアはつながっている、という理解が、比較的身近な神の理解、「梵我一如」であろうとわたしは思っています。これは365日冥想するうちに年に2、3回それらしい境地にいと、錯覚することがあります。

＞「宗教」がもたらすのは、この世のものではない事柄の世界についてのメッセージであり、人間は、不思議なことに大昔からそのようなメッセージを求め、必要としてきた生き物ですが、同時に、いわゆる知性を以て、さまざまな疑問を解決する、つまり合理的に説明する努力を続けてきた生き物でもあります。まさにそのとおりですね。

＞そのような人間の本性を自覚すると、宗教が示す救済や解脱を求めたくなるのがむしろ自然であるとも言えるのではないのでしょうか。

はい。今、五木博之の「親鸞の謎」を呼んでいたんですが、歎異抄の世界は今のお話とすごく肌合いがいいようです。

take : > 帰依する人も離れる人も、それぞれの個人的な内面での理性・感情・体験などのさまざまな組み合わせが、偶然のきっかけや出会いがイグニッションになって触発され、選択・決断されるように見えます。

こう整理していただくと、各宗教の壁は一旦通気性がよくなります。特定の神はいないし、消えもしていないが、神はいる、という周囲の大方の方も、ややアミニズムに近いわたしも整理の中に納まりますし居場所が見えてきます。

take : 今、自分のホームページの編集をしていると、

「新こころの森探検」というコーナーに、宗教性とスピリチャリティのページがあることに気づきました。忘れていました。

結構、今回のテーマに関連があるのでリンクを張っておきます。
よろしかったら、覗いてみてください。真面目な勉強会の記録です。

<http://homepage3.nifty.com/hayashi-kokoro/kinari02-12.html>

みかん : take さん、後ほどリンク、拝見させていただきます。

私自身、個人個人にとってインフォームドチョイスが約束されるならば、宗教の存在を否定するつもりは全くないので、ここで付け加えさせてください。

take : みかんさん

(↑あまりに毅然とした態度にびっくりして) はい、(^_^;)

信仰心と宗教は必ずしも同じでないし、「宗教」と特定の宗教やカルトもまた違う、というような気がしています。

わたしのお世話になった先生方のなかには、とても模範になるような方々があり、葬儀の時に初めて宗教の香りがちょっとすることがありました。どの宗教、ということではなく宗教的日常を過ごされ、自らを律し、後進の育成に励まれたのだ、とそのとき理解しました。決して宗教を語らず、身をもって生き方を見せる、…。人生、こうありたいものだったものでした。

逆に毅然とした立派な科学者の生き方を、実は宗教的な何かが支えていたのかもしれない、とうかがい知ったときのそれは新鮮な驚きでしたね。

こう考えると、個別の宗教とか何かは関係がなく、一人一人の心身を縦に貫くもの、という気がしてきます。

訂正 :

>五木博之の「親鸞の謎」

全くのでたらめ記述で失礼しています。正確には、

五木寛之「歎異抄の謎」でした。お粗末でした m(__)m

Helvetia : みかんさん

インテリジェントデザインの問題は、非宗教的に偽装した「旧約聖書／創世記ファンダメンタリズム」で有ると考えられますので、学校でこれを教えろ、と要求することは、不適切であると思います。

ファンダメンタリスティックでないキリスト教徒は、旧約聖書のさまざまな部分が、あの時代の砂漠の民にも解るように書かれたものである以上、これを全く異なった思考的コンテキストである科学の授業に持ち込むのは間違っていると考えerはずです。(旧約聖書には、現実の世界の歴史の歩みがすべて予言的に書かれていると確信している人が、米国には 50%以上いたという社会調査の結果について読んだ事がありました、恐ろしいことだと思います)。

自然現象の謎を論理的に説明する仮説を、実験・観察という経験的な手法で検証して行く科学的な思考の世界に持ち込むべきものではないでしょう。

宗教的な「確信」で科学的な方法を代替することは出来ないということが理解されない社会状況は、何か、宗教的な正義感のようなものでカバーしたくなる不安や恐怖を社会に内包していることのあらわれだとおもいます。

言い換えれば、「オーム真理教」という狂信的な現象も、日本の社会のヒズミが生み出したものであるはずなのですが、それについては議論百出で、いまだに明快な説明はなされていないのではないのでしょうか？

みかん : take さん

外出直前に書いたので、語調がきつく聞こえたかもしれません。申し訳ありません。(´_`;)

take さんの No. 39 のコメントは、100%共感します。でも、take さんが、その考えに至れるようになったのは、やはり選択の余地があったからだと言えないのでしょうか。

私がこだわるのは、宗教や信仰の重要さを説く方達が、害のある迷信や盲信から子供達をどう守っていくかという問題に回答を提示していないように見えるからです。

私から見ると、日本は非科学的なものに対する許容度が非常に高く、実際に非科学的なものを全く信じていない日本人はごく稀なような気がします。非科学的なものを容認するならば、それによって被害者がでないように、どこで線引きするのか。私はその線引きの方法が提示され納得できるまで、＜合理的に説明する努力を続けて＞きてくれた先祖のおかげで、理解できない慣習や迷信に縛られることなく安全に暮らしていけることのほうに感謝したくなるのです。

Helvetia さん

私の創造論に対して普段感じているフラストレーションを汲み取っていただき、本当にありがとうございます。

>旧約聖書には、現実の世界の歴史の歩みがすべて予言的に書かれていると確信している人が、米国には 50%以上いたという社会調査の結果について読んだ事がありましたが、恐ろしいことだと思います

米国には、米国にもイランの最高指揮者のような存在が現れるのををまちこがれている人達がいるのだと聞いたことがあります。

>宗教的な「確信」で科学的な方法を代替することは出来ないということが理解されない社会状況は、何か、宗教的な正義感のようなものでカバーしたくな

る不安や恐怖を社会に内包していることのあらわれだとおもいます。
人間というのは、いくら事実を提示されても、信じたくないという意志が強ければ、事実を頭の中で打ち消すことができるんですね。

オバマ政権の国民健康保険案に反対している人達が多いのも、まさにこれに近いものが有るようです (<http://news.bbc.co.uk/1/hi/world/americas/8474611.stm>)。

いろいろ好き勝手なことを書いてしまいましたが、読みづらい悪文、改めて陳謝します。

Helvetia : take さん

福岡さんの、あの小難しい高度な科学情報をレベルを落とさずに説明し、エピソードを挟み、現場の雰囲気を活写する、そして話の全体は、世界中の同業者がそれこそ一分一秒でも早く’ 報告を発表しようと謎の正体をそい詰める、ミステリー仕立てで、読み出したら止められない。

あれは彼自身に大変な文才が有ると同時に、米国のドキュメントストーリーの書き方に大きなプラスの影響を受けていると思います。

学者でもあり、高名なジャーナリスト（本人は怒るかもしれませんが）でも有るジャレッド・ダイヤモンド、あるいは、政治史のトニー・ジャッド、ダビッド・ハルバースタムなどの読み出したら眼を話せないわかりやすい、軽快で魅力的な文章、そして随所に目からウロコの情報と明快な判断がちりばめられている。こういう、新しい文体の日本語のアカデミックなテーマの本本が出てきていると思いますが、

岡田暁夫の西洋音楽史（中公新書）などもそうですね。

こういう本をてにすると心が明るくなります。うれしいですね。

take : みかんさん

みかんさんの苛立ちの現場風景みたいなものが伝わってきます。

><合理的に説明する努力を続けて>きてくれた先祖のおかげで、理解できない慣習や迷信に縛られることなく安全に暮らしていけることのほうに感謝したくなるのです。

宗教的な圧からフリーでない、という状況の想像が及びませんでした、その緊張感が日本を出たことのないわたしとみかんさんではまるで違うのだと思います。わたしがそういうものから自由で、いくらでも選択肢がある中から、今の感性を大事にできたというのは、まさにご指摘のとおりですね。

Helvetia さん

みかんさんの苛立ちのありかも、インテリジェントデザインと言葉で気が付きました。わたしたちは自ら人生を設計するよりも、社会から時に戦略的にデザインされる、時に被害者になる、ということですね。

福岡伸一氏の文体が米国のあるメソッドの土台がある、というご指摘はとても関心があります。ロックフェラー財団かなにかの交換留学生（研究生）だったかで米国とのつきあいを深めたのでしたね。

Helvetia：みかんさん

><合理的に説明する努力を続けて>きてくれた先祖のおかげで、理解できない慣習や迷信に縛られることなく安全に暮らしていけることのほうに感謝したくなるのです。

これは、我々の日常生活が、啓蒙された文化を持っている国では、昔と較べて大きな自由と選択の広さを享受していることを忘れている人々、あるいはそれを「墮落」だと思っている人に対する、もっとも有効な言葉であると思います。この人生を楽しく生き甲斐のあるいき方で過ごす自由を制限しようとする神が、人を愛している筈の神であるはずはないですから。

メノナイトやアーミッシュの人々は、この世の一哉の楽しみや、生活を心地よくする飾りを捨て、文明の利器を使わず、現代世界から離れて暮らしています。マックス・ウェーバーは、「カルヴィニストは、大いに慈善活動に熱心であるが、彼らは、貧しい人に対しての感情からしてそうしているのではない。自らの救いの為に、神の命令を忠実に履行しているだけなのだから」といっています。こういう信仰のあり方は、信仰心としては不自然だと思わざるをえません。Omnne ens est bonum. (存在するものはすべて良きものである) という St. Thomas Aquinas の言葉は、まともなカトリック信者にとっては、カトリックにとどまる理由のひとつであるかもしれません。良きものも使い方を誤れば悪きものになるが、それは個人の使い方如何だということです。

take：↑ メノナイトは初めて聞きました。アーミッシュの母体なんですね。北海道の足寄（鈴木○男氏の郷里）にも教会があるようです。

Helvetia：take さん

メノナイトおよびアーミッシュは、逆説的な宗教的ラディカリズムであるといえると思います。逆説的というのは、彼らの原則が、徹底的な「近代」の拒否であり、近代的な生活をするものの拒絶であり、そこには各小集団毎にさまざまなニュアンスの違いは有るものの、「攻撃的ではない拒絶」の徹底性においてラジカルであるからです。

南西ドイツからスイスにかけて、16世紀の宗教改革の流れの中から生まれた原理主義的な急進派でありながら、カトリックとプロテスタント（ルター派、ツヴィングリ派）両陣営から迫害され、また、一切の攻撃に対して自己防衛的に行動することも拒否し、その結果、生き残る為には、一切の財産を放棄して遠く離れた土地へと移住することを繰り返しましたが、南西部ドイツからオランダへ、さらにプロシヤ王国へ、其処からロシア帝国へ、そして革命を逃れてカ

ナダのマニトバへ、さらにグループがわかれて米国のペンシルバニア州へと、移動して行ったのですが、

始めは「宗教集団」であった彼らは、新約聖書に描かれているキリストの時代となるべく近い、近代を拒否した生活をする（組織・制度としての教会も、近代的な教育を行う国家も拒否）という原理主義的な生活原則を守り続けて、どんどん変化している周囲の社会の歴史に参加することを、空間的にも距離を置くことで拒否し続けた。

その結果、20 世紀前半には、社会学的に言えば、独自の文化と特定の祖先を共有する「民族集団」(ethnic group)に変貌していたと、小生の師、エメリヒ・フランシスが、In Search of Utopia - The Mennonites in Manitoba, The Free Press, 1955 で、言っております。

ラジカルな覚醒を柱とする「宗教集団」が、彼らが「墮落した」とみなす周囲の社会との関係を断って（災害共助などのボランティア活動は盛んに行うけれど交流はしない）、孤立の道を歩み続けることによって、事実上一つの「民族集団」、つまり、ethnic minority の一つになって行くというプロセスは、宗教をめぐる色々な問題に示唆を与えてくれると思います。

誇張して言えば、500 年にわたる「ユートピアを求めてのさすらいの歴史」が、メノナイト／アーミッシュの’ 歴史だったのですね。

みかん : >この人生を楽しく生き甲斐のあるいき方で過ごす自由を制限しようとする神が、人を愛している筈の神であるはずはないですから。

本当にその通りだと思います。

>良きものも使い方を誤れば悪しきものになるが、それは個人の使い方如何だということです。

まさしく。今回のハイチ地震は神からの天罰だと言っているキリスト教者がいますが、まさにこれですね。

現在、宗教界は、まさにキャッチ 2 2 な状況にあるように感じます。私も、理屈だけに固執して大事なものを見失わないようにしたいと思っているんですが、難しいです。

take : Helvetia さん

>、「攻撃的ではない拒絶」の徹底性においてラジカルであるからです。

微妙なスタンスであり、自律的で強い意思にささえられる世界ですね。

南西部ドイツ、といえば、ボーデン湖のほとり、コンスタンツやフライブルグあたりのあたりでしょうか、あるいはシュバルツバルトの南端。

>誇張して言えば、500 年にわたる「ユートピアを求めてのさすらいの歴史」が、メノナイト／アーミッシュの’ 歴史だったのですね。

考えたことのない世界でした。数年前、宮崎に武者小路実篤がつくった

「美しき村」？の跡地を通りましたのでよってみました。理想のあとはかなり荒れた風情でしたが、拒絶と理想コミュニティは経済からくずれたのでしょうか、それとも文明の魅惑に負けて破壊して行ったのでしょうか。北海道でもニセコの有島武郎に限らず、新冠あたりでもちいさなユートピアを目指したコミュニティができていました。しかし、そこには宗教的な規範はなく、あるていどの循環型経済と理想を共にするコミュニティを目指したかに見えます。開拓の地であった「北海道」は、まさに、これからユートピアを目指そうというときのシンボルだった、それがアーミッシュの渡米と相似なのかもしれないですね。

このお話しも、初めて知る歴史でした。m(____)m

take : みかんさん

今回の一連のお話を伺って、みかんさんが日常的に感じている宗教的な環境や緊張が少しだけわかってきたような気がします。インテリジェントデザインにおける介入みたいなもの、あるいはそれに近いものに包囲されているとしたら、これは穏やかではないと思います。

リリジョンフリーの日本社会で、おそらく想像できないものではないか、とすら思いますし、いまでも、欧米発のさまざまなイズムといったものの感覚がありません。世俗主義など典型でした。

日本的幸福というのはこんなところにも実はあるんでしょうね。

しかしそれではもう生き延びるが難しいという現実も抱えつつ。

みかん : take さん

日本は本当にリリジョンフリーなんでしょうかね。モラルの欠落と宗教の不在がどこまで関係あるのか分かりませんが、私はどうもその辺、すっきりしません。

私の危機感は、逆に日本なんです。でも、これは常識として、ここで話すべきものではないと思うので控えますね。私の個人的な偏見であれば、それに超した事はないんですが。

Helvetia : take さん

メノナイト／アーミッシュの発祥は、おっしゃるとおり、フライブルクからシュワルツワルト、コンスタンツ、それに隣接するスイスのドイツ語圏地方、言語的には、ドイツ語の方言（地方語）であるシュワーベン語及び地域的にはそれと重なるアレマン語を話す人々であったということです。

この地帯は、特にスイスでは、現代においても「悪魔払い」がおこなわれたとか、新興宗教集団が来るとか、色々と宗教的には面白い事が起こる地方なんです。それは、アカデミックな歴史よりも、もっと古くからの、記録もろくに残っていないような、アルプスの谷間などの集落の「集団記憶」の世界を開

かないとよく理解できない、アルカイクな何かが息づいている地方であると考えられます。

500 年も前からいまだに続いているアーミッシュの共同体的に強固な生活は、それこそラディカルな、近代化して行く現世を拒否する宗教的な心情に支えられているわけですが、「美しい村」にしても、そのほかの幾つかの理想郷造りのところみにしても、「この世のものの成らぬ何か」との精神的結合の要素はかけていた、あるいは希薄であったのではないかという思いがいたしますが？

最近の日本の政治家がいきなり「美しい国」とか、「友愛の政治」などと言い出す現象が目につきますが、こういう精神状態を「美しい村」運動と並べてみたりしたら、武者小路実篤に失礼かもしれません。

もっとも、こういう運動が、強固な宗教的バックボーンで支えられると、現代のメノナイトやアーミッシュにおいてもみられるように、集団への忠誠が要求されていると同時に、それぞれの個人も、その機会が有ったとしても、共同体を離れて「自分」のいき方で生きるよりも、共同体の内部にとどまることを選ぶのだそうです。きつく言えば、外の世界では生きて行けなくなる、あるいは、生きて行きたく無くなる。言い換えれば、社会的・精神的「島宇宙」に閉じこめられていることの方を選ぶのだそうです。

みかん : 横から、すみません。〈(_)〉

>きつく言えば、外の世界では生きて行けなくなる、あるいは、生きて行きたく無くなる。言い換えれば、社会的・精神的「島宇宙」に閉じこめられていることの方を選ぶのだそうです。

まさに真実だと思います。あまりよくない例ですが、家庭内暴力を受けている女性が、加害者である男性や夫から、なかなか離れられないというのも、これと同じ理由だと解釈してます。

take : > こういう精神状態を「美しい村」運動と並べてみたりしたら、武者小路実篤に失礼かもしれません。

はい、そのように存じます。「美しい」と形容詞をつければ美しくなるなどと思うほど世間は甘くはないのに、言葉の重みはまったくなく空疎な時代にあります。

>近代化して行く現世を拒否する宗教的な心情に支えられているわけですが、換言すると、宗教的な支柱がないと、ラジカルな姿勢はおそらく確立できないということですね。

>外の世界では生きて行けなくなる、あるいは、生きて行きたく無くなる。言い換えれば、社会的・精神的「島宇宙」に閉じこめられていることの方を選ぶのだそうです。

心理の世界ではナントカ依存と呼びそうですね。みかんさんの指摘をわたしも

思い起こします。なぜ、かくも長く、と思わせる事件がいくつかありました。
それにしても、不思議な旅をさせて頂いております。

2010年3月12日 連夜の勉強会

— take —

日記

まじめな勉強会にふたつ続けてでました。

おとといの夜は、地域のなかで働く場を創る社会的起業の勉強会。

以前にも紹介した釧路の生活支援ネットワークサロンの日置さんが事例発表と意見交換。

<http://n-salon.org/>

地域の課題は、支え合うビジネスになることが見えてきます。

また、このビジネスの産みの親は、いつも障害をもった子や不便と向き合うお母さんたちであること、そしてそこで働く平均年収300万円の男性達が「天職だと思って頑張っています」とビデオで語る、その光景は静かながら迫力があります。

そして昨夜は、米国領事館が主催する行政・企業とNPO・NGOとのパートナーシップについてのフォーラム。米国と日本のその成り立ちやステージはちょっと違った背景がありますが、米国の3つのセクターをくぐってきた米国人女性講師（今、慶大特認教授）の分析はさすがだなあ、と思わせるものがありました。

行政は最初、NPOやNGOを敵だと認識する、などは笑えますが、注目すべきは、その関係性は、3つのセクターとも進化する、ということでした。

急いてはことをし損じる、という訳です。じっくり、合意形成には時間がかかる…。

それと司会もパネリストも同時通訳も女性であり、かつ、なんと、的を得た発言と取り組みをされたことか、と。

女性はすごいなあ、といつも思っている私が、またまた、こころのなかですごいなあ、と感嘆しました。前夜の日置さんと同様、足下の必要性和現実から発想するのでとても説得力があるのも目を見張ります。決して、概念的やあるべき論で終わらない。

そしてもうひとつ納得したこと、それは関係性を進化させる重要なことのひとつが、専門性を背景にしたスタンスと発言と相互学習みたいなこと。ギリギリのやりとりの最終局面では、相手が正当なことをのべているかどうか、その基本にかかってくるということです。これは知性や経験知の世界。結局ここに来るというのは、やればできるということにつながり、明るい解釈と言えます。

コメント

みかん : きのある新聞に、女性は男性とくらべるとなぜネットワーキングが下手なのかという記事が載っていました。

大手企業の役員になっている女性の数は、欧米でもごく僅かで、それらの女性達はすべて極めて優秀な方達ばかりだそうです。その逆に男性役員の中には、それほど優秀じゃないかたも多々いるとか。

この理由のひとつとして、女性のネットワーキングの苦手さの問題が指摘されていました。

日本でも、女性の社会進出で最も大きな壁になっているのは、まさにネットワーキングかもしれないですね。

Helvetia：スイス人の女性で、ある時期一緒に仕事をしたことのあるフリージャーナリストの友人がおりますが、彼女に言わせると、日本の女性は仲間づくりが上手いといつも言ってます。ネットワーキングということとは違うのかもしれませんが、確かに、日本では、ドイツやスイスでは見られないような「女性同士の仲間の輪」がしやすいようです。

キリスト教ヨーロッパ世界では、聖書の昔から一貫して、公私共に、男性優位「支配」型の社会であり、其処に比較的最近、女性が組織内で権力のある地位に進出してくるようになって、一種の異文化体験を強いられているという状況なのではないでしょうか。それで、男性支配社会内でのネットワークづくりが上手くいかない状況があるということなのではないかと思います。女性に固有の DNA の問題ではなさそうで、むしろこれまで女性抜きで作り上げられてきた社会環境の問題でしょう。

日本の企業社会は、日本の歴史からすれば決して『自然』な発展の姿ではなかった徳川幕藩体制の制度原理（平安末期から続いた戦乱の時代から脱却する為に、武士が文官となり、社会の安定を目的に、緻密に設計された人工社会・作為的社会）を色濃く残している点が、日本では女性の社会的活動の壁になっていると思います。これに風穴を空けて、日本の女性が得意なネットワークづくりが活発になれば、日本社会の為にも福音となるのではないのでしょうか。

みかん：>一種の異文化体験を強いられているという状況なのではないのでしょうか。

>これに風穴を空けて、日本の女性が得意なネットワークづくりが活発になれば、日本社会の為にも福音となるのではないのでしょうか。

うーん、なるほどー。確かにです。

先日、ウーマンリブ全盛期に活躍していた女性をとりあげたドキュメンタリーがあったんですが、彼女達みんな、フェミニズムが汚い言葉になってしまったのを嘆いていました。フェミニズムを排斥することで一番損をしたのは女性だと。

ここではフェミニズムの問題は関係ないかもしれませんが、確かに Helvetia さんの仰る通り、歴史的背景を考慮することは大事ですね。

私が読んだ記事は、ビジネスという狭いコンテキストの中で書かれたものなの

で、そこだけ見てもダメだと今反省しています。

take : みかんさんが書かれた女性のネットワーキング力には、わたしの周りの方々にはあまりあてはまらないなあ、と思いました。ほとんど、北海道に住む方々です。

つうか、その彼女たちは実に活発だと、正直思うし、つながりを求める触手をちゃんと出されているように思うのです。

なにか、独特の拒絶があるとすれば、階層。女性は不可逆的なものを持ってはいないでしょうか。つまり、ざあます的にリッチになったら、下落はもう、とんでもない地獄である、みたいな。男はその点、結構、潔くホームレスになる…。(爆 女性は政略結婚でもこなし、縦横斜めの社会状況に自在に可變的に対応していく、今、きっとその時代なんでしょう。

こう書いてから自分でもびっくりしましたが、都市文明からエコな生活に戻れないのは恐らく女性ではないか。その理由は、と問われて応えるボキャがわたしにはありませんが、ひょっとすれば、出産の危険とその回避の延長と思うとわたし的には思い当たります。(ウダコトイセニ、スマセン

ひとまず、まあ、こころの整理、納得です。(ヒヤヒヤ

take : Helvetia さんのお書きになっていることに触発されながらかきますが、女性でキャリアを持つ方がどうして管理職のふるいで落ちてしまうのか。そのところは、ある〇庁の幹部の話では、「どたんばの無責任」でした。

つまり、仕事はいつもプロジェクトのように動くわけですが、女性管理職は、その大事な節目に、「個人的な用事」で簡単に職域をキャンセルする、というわけです。おとこは、ノイローゼになっても張り付くのに…。

そこにある価値軸。これは象徴的だと思います。が、この話題になった女性管理職は単身だったということを考えると、慣習や制度にただ乗りしていく方々とそうでない人の峻別をシビアにする、という必要も痛感します。いわゆる、常くだらない識の話に落ち着いてしまうのでした。

ああ、すいません。m(____)m でも、ここは大事だとおもいます。

Helvetia : >土壇場の無責任

と言う感じを、仕事を与えた上司が持つことは考えられます。

もっとも、『仕事』の内容といくつかの「山場」の問題性、さらに、仕事がモジュール化できる、つまり幾つかの部分に分割して、それを組み合わせることができるタイプなのか、それとも、これはもっと難しいと思いますが、ある継続的な流れを終点まで持って行く事が必要な、つまりモジュール化できないタイプの仕事なのか、そう言う分析を上司がして、担当候補者の働き方のタイプに合っているかどうかという、判断も当然あるのでしょうかね。いわば、インフォームド・コンセンサスが行われたのだと当然推察いたしますが。

モジュール化できるようなタイプのプロジェクトであれば、予想される仕事の分担を考えることもできると思います。

新しい仕事は、『命令』ではなく、組織からのオファーであるとかんがえますので、そう言うすり合わせを上司ができるならば「ジョブ・アナリシス」前提の上で、本人と話し合うことは必要でしょう。これは何も女性管理職に限ったことではありませんが。

組織の『命令』を、十分な戦略的な分析が為されていないままに引き受けて、結局「過労死」に至った例（若いプログラマー）を知っていますが、女性の方が、仕事と自分の状況をクールに見ていることも考えられます。

ドイツでも、ある男性上級管理職の知り合いが、自分の勤務している小型の官庁の長官に昇進する夢を追って、夢がかなったとたんに過労死（帰宅途上での心臓マヒ）で亡くなった例がありました。これは、自分の昇進願望にブレーキがかからなかった、ある意味の自己責任ではありますが、彼の異常なコミットメントが、傍から見ていると確かに『異常』であったのに、上部からは便利がられ、称賛を浴びていたことも事実です。

組織が、どれくらいジョブアナリシスをやっていたかは、不明です。多分、仕事の『丸投げ』だったのではないかと思います。

ノイローゼになっても仕事に張り付くのは非生産的だと思います。法律で認められている有給休暇（しかし日本では義務化されていない！）を挟んで、仕事のエネルギーを回復したり、することが、不可能な職場環境は、解釈を拡大すれば、ほとんど労働法規（の趣旨に対する）違反でしょうし、何年も有給休暇を取っていない人が沢山いますが、日本の事務労働の生産性の低さのひとつの原因ではないかと考えます。

自分の勤労労力のおおよその限界を考えて、新し仕事のオファーを受けるかどうか、はっきり返答できる能力の研修も必要だと思います。

take : みかんさん

ネットワーキングのことでちょっと感覚的な狭い範囲で印象を書いてしまいました。別にジェンダーに関係のない話しでもあったのですが、現実ニーズがあればそこへ吸い寄せられていく、その嗅覚と行動力は今、隙間の多い地域社会でとても注目されていて、そこにずいぶんマッチングしている現場をここ何年か見てきたための直感だったかもしれません。

以前にも書いたことがあります、ものすごい寄り道もするために遠目からは浮気にもみえますけれどそうじゃない、と。男性はそんな寛大なこと、できない…。あ、いろいろなシーンをぼんやり思い出しつつ…（笑い

take : Helvetia さん

ジョブ・アナリシスと仕事のモジュール化。

霊に揚げたその女性の管理職は、部長職で、批判された例は、その部局が担当するイベントだったように思いますが、そドタタキャンした。

モジュールという感覚は状況をちょっとわかりやすくしました。部長の立場ならあいさつとか現場の指揮命令みたいなことが想定されますが、この部分は、男性ならかなり大事なセレモニーということになります。が、大局的にはまったくくだらない部分であり、こんな部分にかなり象徴的に価値観がわかるのではないのでしょうか。

男はいうでしょう、「くだらないのはわかっているが、組織のために、それはやらざるをえない」。

このあたり、でしょうか。わたしは両方の動機があります。

にじむような気がします。

take : ↑ 文字変換に「例」じゃなく「霊」がでるなんてあやしいですね、つつく(爆
m()m (_ _ ;) (^ _ ^) v

Helvetia : ドイツのある新聞社の編集局で、女性では唯一人の課長を務めていた方を良く知っていますが、彼女が、言っていたことで記憶に残っていることばかりあります。

それは、女性として責任のある地位にいる為には、『蛇のように賢く、イヌのように「職務に」忠実であり、馬のように働かなければならない』と言うことでした。

まったくと過ごしている、あるいは出来損ないのミニ・ナポレオンみたいな人もいた男性課長立ちの中では、彼女の仕事ぶりは光っていましたが、自分の役割についての明確なイメージを持ち、それに忠実に、しかし周囲とは実に穏やかに、快活にかかわっていたようで、彼女が編集長代理を務めていた時は、編集部内が十分にオイルを差されたエンジンのように、何のぐたぐたもトラブルもなく機能していたようです。本来の編集長が長期休暇から復帰してきた途端に、編集部内はギクシャクの連続であったとか。

組織内の責任のある地位をこなすには、自分の役割をきっちりとイメージできて、その職務が必要とする言動を、自分のものとして実行する、その職務の人間になり切る『俳優』のような能力が必要なのだろうと思いました。

↑の、部長級の地位にいた女性の場合、

>あいさつとか現場の指揮命令みたいなこと

は、当然職務の一部であるのでしょうから、ドタキャンは当事者が、自分にはむかない、イヤだという自衛本能の結果であったようにも思われます。

もっとも、女性が管理職になれない歴史が長かった組織では、管理職のロール・モデルを女性職員が積極的の取り入れる（学習する）雰囲気もない、あるいはキャリア・パスとして想像しなかったことでしょう。そのいみでは、不適切な

人事でもあり、組織側の判断も、これを『女性』特有の態度として一般化するのは、なるべく女性を管理職にしたいという隠れた願望がなせる結果であったとも思われます。

長期的に見れば、日本が今の生活水準を維持して行くためには、労働力の不足が心配されていますが、壁のないキャリア・パスを女性の為に準備し手行くことが客観的に必要になっていると思います。

幸いにも、そのような傾向がチラホラ見えるようになってきているとは思いますが、一層の組織内文化の変革が行われるべきだと思います。

みかん : 私が読んだ記事では、究極のネットワーキングの場所として、ダボスが挙げられていました。

女性は、打算で人間関係を広げていくことに抵抗があるのに対して、男性は、人間関係を、万が一のための手段として、ポートフォリオのように拡大していくことが可能なようです。

ビジネス界では、今、誰とつながっているかが勝負みたいですが、Facebook のビジネス版などは、確かに人材発掘のために使われているようです。

日本でも、ネットワーキングといえば、家同士のつながりというのがあったと思いますが、このネットワーキング、私はやはり、男性名詞だと思いますね。

> 組織内の責任のある地位をこなすには、自分の役割をきっちりとイメージできて、その職務が必要とする言動を、自分のものとして実行する、その職務の人間になり切る『俳優』のような能力が必要なのだろうと思いました。

まさに御意です。日本の政治家に欠けているのは、前からこれだと思っておりました。

> 女性はすごいなあ、といつも思っている私が、またまた、こころのなかですごいなあ、と感嘆しました。前夜の日置さんと同様、足下の必要と現実から発想するのでとても説得力があるのも目を見張ります。決して、概念的やあるべき論で終わらない。

遅れましたが、代弁してくださってありがとうございます。女性に関する問題が男性によって解決される。そういう時代では、ないんでしょうね。

take : 本件でお話を伺っている間に、女性の、本来的な社会参加が、これからなんだ、ということが見えてきました。ちょっと革命的なことです。民主党の政権交代がゴミのように思える変化、かも知れません

> 編集部内が十分にオイルを差されたエンジンのように、何のごたごたもトラブルもなく機能していたようです。本来の編集長が長期休暇から復帰してきた途端に、編集部内はギクシャクの連続であったとか。

目にうかぶような光景です。女性に限らず、つかの間、役割を全うする場合、まさに役割を演じた俳優のようになるわけですね。

>これを『女性』特有の態度として一般化するのは、なるべく女性を管理職に
したくないという隠れた願望がなせる結果であったとも思われます。

はい、この傾向はよくわかります。防衛本能の明確な発露だったともいえます。

>壁のないキャリア・パスを女性の為に準備し手行くことが客観的に必要にな
っていると思います。

わたし自身、なんで、こんな基本的なことに驚き感動しているんだろうかと思
いつつきた面がありました。男女共同参画がある方面でじつによく話題にされ、
札幌市もとても熱心に取り組んできていますが、遅れていたがために、今、そ
の壁を取り外そうという動きがまだタツブリ残っていたんだと思うと、大分状
況は変わって見えてきます。

take : >私が読んだ記事では、究極のネットワーキングの場所として、ダボスが挙げ
られていました。

そういうことだったんですね。そのレベルのネットワーキングではまさに、と
いう感じがします。まさに、いわば男性社会の社交ですものね。

>日本でも、ネットワーキングといえば、家同士のつながりというのがあった
と思いますが、このネットワーキング、私はやはり、男性名詞だと思いますね。
まったく日ごろ考えてもいない世界でした(^_^;)

ちいさな地域社会が元気になるために必要な社会関係資本としてのネットワー
ク、その程度しか、思い浮かべておりませんでした。迂闊です。
(^_^;)

身近な、対極のジェンダー。わかっているようで知らずにいる、不思議な可能
性だと、あらためて認識いたしました。ありがとうございます。

みかん : take さん、実はこの記事で、ビジネスにおける人と人のつながりも、社会資本
と呼んでました。

私も驚いたんですが、社会関係資本という言葉、英語では、私が思っていた以
上にニュートラルな言葉のようです。(^_^;)

take : みかんさん、そうなんですよ。

>ビジネスにおける人と人のつながりも、社会資本と呼んでました。

今わたしが関係する研究会では、だから地域でビジネスを起こす際の根本のと
ころにもS Cが効いているという視点に立ちますし、ある有名なトヨタ系の工
場で火災があり部品の生産が停止したのを数日でリカバーしたのも、実はS C
なんだ、ととらえています。

>社会関係資本という言葉、英語では、私が思っていた以上にニュートラルな
言葉のようです。(^_^;)

米国の社会学者パ T T P ナムが BOWLING ALONE を書いて、その反証もでるなど
で、日本でも地域問題解決の視点で議論が多く国も自治体も研究や取り組みが

盛んな分野です。が、地味ではあると思います。かつ、無色の分野かと思います。

ジェンダーの話からここへ来ましたが、女性の社会進出とヒラバの NPO など活発に動く女性をみていると、女性は育児や家事、あるいは介護まで、GNP に換算できない不可欠なニッチを埋める分だけ、社会デビューが果たせなかったり、キャリアの世界にカムバックできなかつたりする、その部分をことさら嘆いて見せたりせずに（たまにしますが・笑い）、ながれのなかで大事なそれらをこなしてくるために、ダボスの対極のネットワークが結成されるんだと思いますね。

これはコミュニティレベルの NPO とグローバルに動く NGO をイメージすると自分ではわかりやすく思います。わたしは生活に近いほうに身を寄せていることになりますね。

わたしの目下の関心は、実は女性とソーシャルキャピタル、それとあたらしい公共で、その意味では、今回の勉強会、それとみかんさん、Helvetia さんのご意見はとても参考になりました。m()m

みかん : 最後の take さんのコメントで、take さんの役割がより具体的にイメージできました。

始めの方で take さんのコメントにあった、

> 女性は不可逆的なものを持ってはいないでしょうか。

私はロールモデルの問題かなとも思うんですが。いつか具体的にお話し伺わせてください。(^_^)v

今回は私もまた勉強させていただきました。ありがとうございました。m()m

take : このジェンダー間の差で、上にちょっと書いた男女共同参画などは、対象はあくまでいわゆる育児部門であり、そこには制度と政府予算がこめられています。専業主婦には保育所の手当てに相当するものではありませんが、務めていると百数十万円の助成が札幌では出ます。

一方、勤めている女性は、専業主婦に地域社会をまかせてただ乗りするようなことにもなりますが、専業主婦の立場は今になってみると地域ボラのような「公」的な支えだったりしますね。専業主婦が労働力として外へ駆り出されていくとき、制度整備が体系的に進んでいくのかも知れませんね。北欧の例では。ちょっとまた勉強してみます。(^_^)

みかん : 百数十万円ですか！ それは凄いです。イギリスだと、よほど低所得じゃなければ、これほど出る事はないですね。

私の友達などは、働かないと食べていけないから働いている、とよく言ってます。(^_^)

その一方で、いろいろな条件で、働きたくても働けない女性もいますし。

また、働いている女性が、地域ボラをまったくしていないかという、また異論が出ると思いますねえ。

ここで女性同士がいがみ合うことだけは是非避けたいと思うんですが、この問題、どこの国にもありそうです。

take : >ここで女性同士がいがみ合うことだけは是非避けたいと思うんですが、この問題、どこの国にもありそうです。

そうですね。制度整備と網の目と不平等、普段は気づかないでいるのですが、あれ——って。(笑い

みかん : だめ押しで、もうひとつ。ｼｯｺｲｯﾀﾝ。

女性の貢献度がどのように評価されているかが見えるケースとして、離婚があるみたいです。

聞いた話だと、多くの男性は、財産を半分ずつ分けるのに抵抗があるようです。確かに学生時代から集めていたマイルスデビスのコレクションを半分もっていかれるとなると、がっくりくる男性は多いと思いますが。(笑

家庭内でこれだけはっきりしないのであれば、社会という枠組みで考えた場合、ことはもっと複雑なのかなと思いました。

2010 年 4 月 20 日 落ち枝が創るムード

— take —

日 記



昨年の早春 4/26 も、「ミラクル落ち枝」というタイトルの日記を書いたのですが、またそんな季節が巡ってきました。

http://www.hokkaido-sns.net/OpenPNE2/public_html/?m=pc&a=...

わたしが勝手に「結界落ち枝」と呼んでいる雑木林の不思議な落ち枝。

単に上から落ちてきた枝なのですが、いくつかの偶然が重なってグサリと地面に突き刺さっています。

それが、異様な迫力をもつのです。いわば、お祈りや願い事をしたくなるような。おていさんは、見つけた落ち枝の数だけきっと願いことが叶うだろうと占いました。(おていさんが言うと信憑性がカウ！

雑木林のフットパスや地面の柔らかい林道で見つかります。

周りの茶色の風景に融けて視覚ではほんとうに目立ちませんから、絵にも画像にもなりにくいんですが、わたしは一種の霊力のようなものを感じます。

植物の観察やバードウォッチングも大好きですが、どうでしょう、「落ち枝ウォッチングツアー」「落ち枝の”浄化”ツアー」…

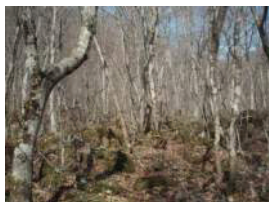
えらくシブイ、玄人好みの趣味だとおもいませんか？（爆

ただし、出会える確率は、胆振の林にぶらりと入ってシカと会う程度か、それ以下。

（今週末はこのツアーしてみます。さて何本であえるか…）

コメント

おてい :



今年もやってきましたね、ミラクル落枝の時期が。

takeさんのところに特別たくさんあるのはなぜかしら。

奥入瀬の林道を歩きながらミラクル落ち枝、ないかなあ
と探しました。

たくさんの落ち枝があるのに、ミラクルには出会えませんでした。

モドキならいくつかあったんだけどさ（笑）

木や岩に寄りかかっているとか、ぶらさがっているとか（笑）

ミラクルはやっぱりミラクルなんですねえ。

「落ち枝ウォッチング」私もしようっと。

気に入ったものを拾ってきて削って箸にし

お昼ご飯を食べるなんていうのもいい～

山菜の天麩羅にはちょっとまだ早いかあ。

take : >今年もやってきましたね、ミラクル落枝の時期が。

覚えていてもらってうれしいです。

>takeさんのところに特別たくさんあるのはなぜかしら。

なぜかしら？なぜでしょう？

気象条件の厳しいところだから、枝の消耗が激しくて

どんどん落ちるから？（ア、イェルカモ

それともコナラの木の特長？（ダト、モシロイ

>山菜の天麩羅にはちょっとまだ早いかあ。

フキノトウだけはすでに2回食しましたです。

そちらは雪が解けたばかり、ですか？

ATU : う～ん・・・見事に垂直に刺さっていますね・・・。
フキノトウ、食べたい・・・。

take : 旭川なら、雪が解けている境界部分にいれば必ずありますね。こちらはもう花が咲き出します。

やっさ : >えらくシブイ、玄人好みの趣味だとおもいませんか？（爆
案外人気ツアーになったりして。（漠？ ；

take : ↑ これがよそではあまり見られない、ということが
はっきりしたら、考えてみます。いまのところ、林のフットパスが少ないためか、「わたしはよく見る」という声に出会わないんです。
つうか、わたしのように決まった場所を毎週足繁く歩く人ってあまりいないのかもですね。 アア、モッタイ（爆

ちるまま : 良く森を歩くけど、ミラクル落ち枝会ったことありませんねえ。こんなに見事に垂直に突き刺さることもあるんですね。森を歩く楽しみがまた増えそうです。
アザミの胡麻和え食べましたよ。春ですねえ。

take : ちるままさんやおていさんのように、よく林に入る方々がご覧になっていない、
となると、これは「やっささん」も賛同されたように、”玄人ナチュラリスト好みのびっくり落ち枝探訪ツアー”(チョットカギ (-_-;))
とか、煩惱やたたり押しつぶされそうになったときの、”癒やしと浄化のスピリチャル落ち枝ウォーキング”などが成立するかも。段々面白くなってきました。（^-^;）
え、もう目に見えるようになったんですか？雪の多いところは春が早いんですよ。雪の少ないところは、土が凍るから春はなかなか来ません。

Helvetia : ズバリ土に刺さって、しかも太い方が頭になって、そそりたっている！
どうしてこんなことが可能なのか。
一の答えは、苫小牧近辺の森林には、コロポックルが沢山いて、夜の間に落ち枝立て競技をやっている(?)。
もう一つの答えは物理学的になってしまうのですが、寺田寅彦さんが亡くなって久しいので、これを説明して下さる方は（こういう現象を研究の対象にするような人）は、見当たらないのではないかと思います。

take さんの発見した永遠の謎としてのこる？

take : >夜の間に落ち枝立て競技をやっている
これは想定外でした。コロポックルは軽いから、このサイズだと、10小人ほどが、一旦かなり上空まで持ち上げてから加速して…。
競技は大抵、新月の深夜に行われる… (ナワゲスネ (〜o〜))
>寺田寅彦さんが

おっしゃるとおりですね。寺田氏が生きていてこれをみつけたとしたら、どんな風な科学随筆に仕立てたでしょう。まずは確率論からいくのでしょうか。間違いなく、氏はこの現象に興味深くみて考察するでしょうね。

できれば、最後は「偶然の累乗はつまりガイアのしわざか」、などと言ってくれたら舞い上がりますね、わたしは（爆

Helvetia：何しろ当時の普通の雑誌に、人間の命について書いて欲しいと言われて、当時は「原書」しか目ぼしいものがなかったので、細胞学の原書を数冊買い入れて勉強して、その軽い随筆を書いていたと、小宮豊隆氏が書いていたような記憶があります。

そうすると、枝が落ちたらしい日の気象と、その雑木林の木立のようすと、その場所に特有な空気の流れと、地面の凍結の緩み具合や地面のやわらかさ、枯れ枝の形状と重心の分布などなど……さまざまな実験を重ねられた事だと思います。

現場の指揮は、中谷宇吉郎先生に委託されたりして。当然、take さんの大先輩たちも動員されてた……。

面白い科学エッセイが書かれたのではないのでしょうか？

しかし、「ガイアの仕業」には行き着かなかった公算が高いですね。

take：ははあ、薫り高き科学のにおいがしてきます。

寺田寅彦の文庫本をポケットに忍ばせているだけで、なにか、精神の安定が保てるような、そんなバランスが寺田メッセージの特長ではないでしょうか。般若心経を唱えるようなもので。

さて、ステージは整いました。が、だれも、この謎解きにはまり込むサイエンティストがいません。よっしゃ、ちょっと物理の教授かなんかに声掛けして、ちょっとそれらしいアプローチをしてみます。

懸案のハイチオールの人体実験に参加した男女2名の簡単な報告も近いです(爆

take：ミラクル落ち枝に出会う確率をどう表現すればいいか？

いろいろ考えてみたのですが、流れ星に出会うほど、というのがいいような気がします。

おてい：わあ～ 楽しみになってきました。

>中谷宇吉郎先生

天からの手紙～落ち枝編・・・って感じかなあ（笑）

take：おていさん

あのぼろぼろの枯れ枝を、「天からの手紙」と読むと、不思議な展開になるような気がします。

民話では柴、枝には霊力があり、だからある地方では家の周りに柴を積んだり、あるいは、柴の束を供養として川に流したりするようです。

take : ↑で、大学の物理系の教授に聞こうと思うと書きましたが、もうひとつ、広島
の美人の巫女様にもきいてみようと思います。

ミラクル落ち枝の周りになにが見えるのか、と。

take : 昔、寺田寅彦を愛読した金属工学の先生↓

~~~~~

1) 回転して落ちる場合：長い枝は前後で重さも空気の抵抗が違い、モーメントも違うため、回転しながら落ち、ある確率で突き刺さる。水泳の飛び込みのように。

2) 無回転で落ちる：枯れ枝がまず折れて樹皮で垂れ下がる。次に樹皮もはがれて枝先から落下する。その場合は突き刺さる可能性はある程度あるかも。

この差は突き刺さっているのが常に枝先なら2)、逆に元から刺さっているものもなかにはあるのなら1) と判別できそうに思います。

~~~~~

フムフムなるほど。

take : 次は理学部の先生から。

~~~~~

メール拝見しました。

見事に刺さっていますね。細かい観察に脱帽です。

枯れ葉では、大貫さんの通りでしょうが、写真のような枝は、力学の剛体の運動で基本的に記述できます。つまり重心が質点のように振る舞い、さらに重心のまわりに回転運動するというものです。枝では、単純に鉛筆のようなものでイメージできます。これが落下するときどう落ちるかです。十分高い高度から落ちるとすると、空気摩擦が少なくなる垂直に落ち、地面に刺さることになります。しかし、今回のような場合はせいぜい 10m なので、地面と平行に近い枝が垂直まで回転できるかどうかは疑問です。

キャンパス内もエルムの小枝が多数落ちていますが、写真のように刺さっているのはお目にかかっていません（余り注意してみていないこともあります）。小枝が落ちるとき一度に折れて落ちることは少ないでしょう。つまり、枝にすこしづつ断面方向に亀裂が生じて、枝先が下に向いてきます。従って、ある瞬間に落ちると必然的に枝先が下に向かって落ちます。もし、下の地面が貴兄の林のように十分な厚さの腐葉土であれば柔らかいので、刺さる。しかも刺さるためにはある程度の重さが必要でしょう。刺さっている枝は結構大きめですね。この考えはいかが？

比較のために、地面が固い道路ではどうか観察をしてください。又、写真の枝の場所の真上当りに、切断面のある枝はないでしょうか？

~~~~~


それに対して take から。

>メールありがとうございます。

>さすが、少し整理されてきました。

>きっと、枝が落ちるときと言うのは、飛び込みで回転しないで倒れる

>あの形名ではないか、と想像します。したがって風が全くない時、

>枝先からまっすぐ落ちる…。

>もう少し観察してみます。明日は5，6本見れるはずです。

そしてさらに先生から。

~~~~~

なるほど、水泳の飛び込みのたとえ話しの方がより良いですね。

>きっと、枝が落ちるときと言うのは、飛び込みで回転しないで倒れる

>あの形名ではないか、と想像します。したがって風が全くない時、

>枝先からまっすぐ落ちる…。

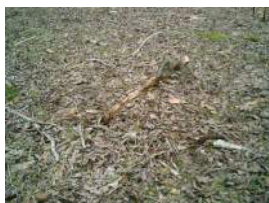
>もう少し観察してみます。明日は5，6本見れるはずです。

動画があれば面白いのですが。寺田寅彦の世界に入り込める科学的な題材になるかも。

~~~~~

あと、楽しみなのは、巫女さんの見立て。乞う、ご期待！！

take :



昨日は3つでした。

直径1 c mも。

自重で突き刺さる、とは考えにくい現場です。

第4章 ソーシャルキャピタルに関する道北女性座談会@幌延 『土地とつながる「女性力」の現地から』

日 時：平成 22 年 7 月 19 日（月）13：00～15：30

一部 19:00～

場 所：天塩郡幌延町字下沼 81「法昌寺」

参加者：（敬称略・カッコ内はニックネーム）

岩澤光子（ちるま）

稲垣順子（おてい）

大平寿江（ゴンタのママ）

村上京子（きょうこワン）

司 会：草 苺 健（take）



座談会のねらい

草 苺： 北海道の各地域から人が減って高齢化していく時代に、それでも元気で頑張っていくためにどうするのかということが、今、色々な場で話されています。地域のブランド作りだとか地域SNSのようなITなども、今後重要な役割を果たすと考えられています。そういう幾つかのことを掘り下げて行きますと、地域には元々色々な力があって、その中にはどうも女性が中心になって支えているようなところがあるということに気づいてきました。実はこれまで、



草 苺 健
（take）

そういった地域の元気みたいなものは、たいてい他所からやってきた創造的な仕事をする人達とか、他所からその地域に何かの縁で移住して来た人、そういった人達が盛り上げていたりする、と言われたり書かれたりしてきました。

しかし、幌延のおていさんのお話を聞いたり、西興部の女性グループを伺ったり、道内の各地で耳をすましていると、それだけじゃなくて、地域の元気というのは自然に生まれているみたいだという事例が見えてきたのです。お話を聞いて、やっぱりそうなのだと。そういう時にもやはり女性というジェンダーが、男にはないつながりを作ったりする、非常に良い潤滑剤や接着剤になっているように見えるのです。

それで、そういう視点で世の中を見て行くと、例えばNPOの後ろ側だとか、それから地域の子育ての舞台裏だとかに、必ず女性のネットワークがあって、それがどんどん広がっていきっている。それで、社会学の先生に、今こういうことに興味を持っていて座談会や色々なことをやっていこうと思うのだと言うと、その先生が「これからはまさに女性が地域の課題解決に力を発揮するだろう。そういうところまで差しかかっている。」というようなことを、直ぐ言われた。それが、この座談会の強い追い風にもなりました。幸い、道北には、「どっとねっと」に入っておられる方が4人いらっしゃって、それぞれ素敵な活動をされているので、去年に引き続き、こちらの方の人の集まりやすい法昌寺の場をお借りしました。座談会で念頭におきたいキーワードは、「土地」「つながり」「女性力」「現地」です。「土地」というのは、後で都市と地方とかというお互いの良いところと悪いところの話をしてもらいたいのですけど、その具体的な風土、自然、それを「土地」としました。そして繋がるという、人と人とか、人と地域とか、人と自然でも良いのですけれど、そういう「つながり」というのも一つの重要なキーワードで、そこを女性というジェンダーの特有の部分が接着剤となって色々なものを繋げていく。女性にはそういった力がある。それを「女性力」と呼んでみました。そういうグローバリゼーションの対極にあるローカルな「現場」「現地」というのが、羽幌、幌延、鷹栖、西興部など、全道各地にある、そこでのリアルな生活体験とそれを通じた哲学をお聞きしたいというのが、この座談会のねらいです。

たとえどういのお話になっても、このタイトルのあたりに戻りながら、たっぷり話を進めて頂ければと思います。

前置きが長くなりましたが、私の方は最初の投げかけをしたあと、あとは一人ずつお話をさせて頂いて、それにさらに質問や感想などを投げかけて頂き、また次の話にいくような形で進めていきたいと思っています。始めは、自己紹介と近況と言いますか、最近こんなことをしていると、こんなことに興味があるとか、それから自分がお住まいのところのコミュニティみたいな、町内とか町や村、そういうようなお話をちょっと挟んで頂ければと思います。

それでは、岩澤さんからお願いします。

自己紹介『わたしの住んでいるマチのことなど』

サハリンからの引き揚げ、そして看護婦を目指し羽幌を離郷

岩 澤： おていさん以外は初めてお会いした方々ですが、プロフィールのところにも少し書いてありますが、私が生まれたのはサハリンです。終戦直前に生まれ、引き揚げてきたのは最後の方だったそうですけれども、昭和 24 年の 4 歳の時。それまでサハリンに抑留されていました。高校を卒業するまで羽幌にいて、卒業後は看護婦になりたいくて東京の日赤短大に入学するため羽幌を離れて以来、ずっと戻ってきませんでした。卒業後は看護婦となり、そして結婚して子どもができてということで、ずっと東京で暮らしていました。母親が一人で羽幌に暮らしていたのですけれども、ある時に母親が倒れ、緊急入院し、母親の住んでいたところへ急いで行ってみたら、なんとゴミもちゃんと出せていない状況でした。いつもこうやって暮らしていたのかと、その時はじめて母が暮らしている様子が見えたのです。今まで私達家族はいつでも予告をして母親のところに来ていましたが、そうしたら母親はまずいものは全部隠してきれいにしておいて私達を迎えていたようなのです。



岩澤光子
(ちるま)

母が退院してから、家族が 1 週間とか 2 週間とか休暇をとって、少し元気になるまでということをやっていたら、上の息子がよく観察していると、「おばあちゃんはお薬も何も飲んでいない」ということがわかりました。やはり一人暮らしは難しいのではないかと。みんなで何回か話し合いました。母は私の三番目の子どもがあまり丈夫ではなかったものですから、冬の間はいつも 3 ヶ月か 4 ヶ月東京に来て、18 年ぐらい冬は一緒に暮らしていたのです。ですから、私達家族は母が一人暮らしが難しくなったら、スムーズに私達のところへ来てくれると思っていたのです。ところが絶対に東京は嫌だと言い張ります。だけど一人暮らしができないとなると誰かが北海道へ行くしかない。それで私が仕事を辞めて、母が元気であるうちは母と一緒に故郷で暮らそうと思って帰って来たのです。

谷地（湿地）消失の驚きとサロベツが繋ぐ人との出会い

それで、3 年半前に来たのですが、帰ってくる時はあまり良い気持ちではなかった。仕事も途中で、下の子どもはまだ大学生でした。しかし来て、今ではすごく母に感謝しています。母があの時にもし東京へ来ていたら、私は自分が育ったと

ころを何も知らないまま一生終わってしまったと思います。羽幌に来て一番最初に驚いたのは自分が小さい時とすっかり変わってしまっていること。特に驚いたのは谷地がなくなっていること。谷地というのは湿地です。小さい頃というのは至るところに谷地があって、そこは足を取られるから行っではいけないという子供にとっては禁断の場所だったのですけれども、そういうのが全部埋め尽くされて谷地がなくなっていました。それから、川がきれいでなくなっていて、砂利を全部取りつくし、川を直線化して川の流れを変えてしまって川が川でなくなっているということ、その二つにもものすごく驚かされ、それでそうこうしている内に、サロベツを知ったのです。

それで、サロベツで自然の友達がたくさん出来て、それで逆輸入のような形で羽幌にもいる鳥の愛好家という人達と知り合うことができたのです。それで、2年前に鳥というものを初めて見ることになって、それ以来、とても鳥が好きになって、そのために鳥を見たいとか、自然の記録を細かく残しておけないかということに関心をもつようになりました。カイツブリの子育てとバンが子育てをしている場所を2年がかりで見つけここのところ数日はそれにかかりきりです。

今、カイツブリは背中に雛を乗せています。それを見るのがすごく楽しいのと、それからバンの雛というのは頭が禿げているのですね。だんだん毛が生えてきて、今ちょうど毛が生え揃ったところで、それがすごく可愛いのです。去年は2羽しか育たなかったのが、今年は4羽生んで、4羽とも大きくなっています。今はすごくその二つの種類の鳥の子育てに夢中というところです。

草 苺： 「どっとねっと」では、いつも迫力のある写真を拝見していますが、どのぐらいの距離から撮っているのですか。

岩 澤： シグマの50～500ミリのレンズで撮っています。両方とも溜め池で、私が草に隠れて撮っていても、彼らは大概気が付いていて、対岸の端っこにいます。だから、結構遠い距離です。プロミナ（野鳥用の一眼のフィールドスコープ）で見ている分にはすごく細かいところまで見えるけれども、自分が撮る分にはなかなか上手くはいかないです。

それで、羽幌に戻って来た時には、故郷がすごく変わったことに悲観していましたが、逆にもう一度見直してみると、まだまだ自分は探せていないだけで、子どもの頃とは違う場所に今まで知らなかった素敵な花だとかがたくさんあることに気が付いたのです。決して大きな町ではないのですけれど、周りに原野があって、全部見るといったらかなり広いので最近羽幌が忙しくなっています。

羽幌では今年、7月8、9、10日と羽幌祭りがありました。夏祭りですが、50年近く途絶えていた加賀獅子が出たのです。獅子舞とはちょっと違い20人ぐらいが中に入って頭を3人ぐらいの人が持って練り歩きます。北海道の町はどこでもそうかと思うけど、色々なところから人が来ているから、お祭りも寄せ集めです。

色々なお祭りを一つにして合体させています。例えば、私達の町で言えば、天狗行列があって、奴行列があって、そしてその加賀獅子あって、神輿があってという感じです。ずっと昔は青獅子と赤獅子の二つの獅子が出ていましたが、50年ぐらい踊り手がいなくて絶えていたのが、加賀獅子保存会の人達が復活させようと言って頑張ってきて、今年50年振りで青獅子が復活したのです。とっても良いお祭りで、私も初めて見たのですけれども、神輿を普通はこういうふうに担いでいる。それを斜めにすると、その加賀獅子が2頭で神輿を駆け上がるのです。昔はニシンが獲れて勢いがあった時には漁師も大勢いてお祭りもすごく荒っぽいものだったようで、人口が少なくなった中、皆の努力でそれが復活されて私もとても感動して見ました。

私は今、母がわがままを言ってくれたおかげで、ここで暮らせることをすごく感謝していて、楽しんでます。夫はブーイングしていますけれど。車で10分もかからない川でイワナが釣れたりします。干物にして、「何にするの、それ」って言ったなら、「骨酒にして飲む。」とかと言って楽しんでいました。すごく自然が豊かだということを夫も実感して、それを自慢しているようですよ、釣り仲間に。お魚を釣って持って行くのです。

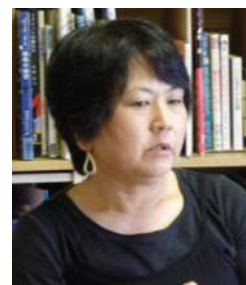
夫の来道は1年に2回ぐらいです。こんな訳ですから、私は、おばあちゃんにも頑張って長生きしてと言っています。

草 苺： では、次に稲垣さんお願いします。

釧路から福祉を目指し旭川。そして幌延へ

稲 垣： 釧路で生まれて19歳までいました。福祉の仕事がしたくて、旭川の学校に通い、その後、幌延町の障がい者施設に勤めました。そこで夫と出会い結婚しました。たまたまこの下沼地区の小中学校が統廃合するという時期でした。小中学校の先生の奥さん達が託児所みたいなことをしていたのですが、廃校になると子どもを見てくれる人がいない。そこで下沼地区の方々に「資格もあるし、是非ここで働いてほしい」と言われました。私も早く土地に慣れた方が良くと思い、ここに来ました。

原野が好きとか、そんな気持ちはなかったのですが、何かあると自分を見直したい、一人になりたいという気持ちが起き誰もいない木道を歩いたりしていました。そんなことを何年かしているうちに、だんだん原野に目がいくようになってきました。



稲垣順子
(おてい)

サロベツ原野に通う日々の中で気付く環境の変化

今、気になっているのは、パンケ沼です。今年はアオコがすごいのです。実は一

昨年ぐらいから、シジミを育てるのに沼に砂を入れる実験をしています。冬の間に沼の雪上に砂を置き春になったら雪の下にどんと落ちるようにしていますけれど、今年の春先はその砂が残ったままで岸みたくなっていました。水鳥がそこにとまっていた。そんなことは今までには無い光景でした。どうなるのだろうと思っている内に、砂が流されて良かったと思っていたところアオコが出てきました。でもその砂が原因かどうかはわかりません。

岩 澤： 気温が高かったからでは。

稲 垣： 多分、原因は気温だねというふうにはなっていますが、調べたことはないです。

村 上： アオコがいっぱいいると、シジミは息ができなくなってくるのですか。

稲 垣： 良くはないでしょうね。ほとんど毎日見ているので、なんか変だというのはなんとなく肌で感じます。

草 苺： おていさんから見た、例えば下沼、あるいは幌延、サロベツは、それはどういう感じを持たれていますか。難しい話ですけど、幌延という感じよりもサロベツという土地の捉え方の方がしっくりくるのか。

稲 垣： ここに住んでいるので、どうしてもサロベツ原野が庭のようなものなので、幌延の町にはなかなか行くこともないし、お買い物も豊富の方が近いんです。夫は仕事で幌延に行くことがありますけれども。

草 苺： おていさんは、心象館のようなところもアーティストを呼んだりして、ケアしているんですね。

稲 垣： 心象館は幌延出身の書家、金田心像さんの書道美術館です。すごく素敵な建物です。横にキャンプ場があって、住宅街にあるのです。でも町民にはあまり利用されていません。こんな素敵なところがあるのにもったいないと思って、心象館コンサートの企画運営をずっとしています。年に 1 度のコンサートには町民は心象館に入館してくれます。

草 苺： では、次にゴンタのママさんお願いします。

おていさんとパソコンとの出会いが変えた日々の風景

大 平： 私は隣町の豊富町の酪農家に生まれて、23 歳の時にここに来ました。それからずっと牛飼いをやっていて別に何もなくて過ごしてきましたけれど、おていさんと出会って、全然世界が変わったと言う感じです。

おていさんは、保育所の先生をされており、その時から子どもがずっとお世話になっていましたので知ってはいましたが、色々な面でお世話になってきました。今までの私はただ牛飼いをやって、どこにも出たことがない。ここで生まれて、ここで育って、ここに来たという。隣町も同じ



大平寿江
(ゴンタのママ)

ようなものだから。本当に世間知らずで。

パソコンを始めてから、おていさんに mixi を教えてもらって、「どっとねっと」にも入れてもらい、農家以外の色々な職業の人の話とかを初めて聞けたと言うか、人に触れられた。やっぱり牛飼いをやっていると、牛飼いの人との話になってしまう。愚痴になったり、人の噂話とか、牛飼いの仕事の話もちろんしますが、あと町の人ともあまり接点がないです。時間帯が合わないというのがまずは理由になっていますけれど、それ以上に自分の気持ちが、何かもう一步出れば色々なことが楽しめるのだけれども、そうしない習慣と言うかそういうものがあるでしょう。婦人部とか農協の集まりはありますが、やはり農家だけの集まりになってしまっていて、町の人と何かやろうかということになると、そんな時間はないとか忙しいという理由で、全部そういう話はなくなってしまう。

そして、私は自然の中で生まれ育って来たので、自然の良さというのは逆に全く知らないできました。「何がいいのこんなの」と思っていましたし、喫茶店だってないし何もない。都会に憧れるのですね。でも、その自然の良さを教えてくれたのがおていさんで、今までこんな良いところにいたのだなということに気づかせてくれた。今は鳥とか植物とか、今までそこら辺に咲いていたりしたものが全然目に入らなかったのだけれど、今はトラクターに乗っていてもあっちこっち見て、よそ見してしまう。旦那の目を盗みながらトラクターを止めては写真を撮ったり。今まで、ただ乗っていたから、眠くてしょうがなかったけど、そういう楽しみが出来て、目をらんらんとさせてトラクターにも乗れるようになり、この写真を撮ったら日記をアップしようとか、そういうふうにも考えられるようになった。それがすごく楽しみになった。でも体力がなくて、夜は眠くて、せっかく撮った写真も載せられないというのがたくさんあります。だいたい載せていないのもあるのだけれども、やっぱりその日に撮った写真をあまり遅くならないうちに載せてみようと思っています。今はそういう楽しみがすごくあります。

草 苺： ゴンタのママさんのルポは、すごく人気がありますよね。牛の出産が難産だったなんて、ああいうようなのは他の追随を許しません。(笑い)

大 平： 私には普通のことです。本当言うと、こんなものを載せて良いのかなとか思いながら、いつも載せるのだけれど。だいたい同じような話になってしまう。だから、こんなのアップしてもいいんだろうか、というのがたくさんあって。(笑い)

草 苺： 今の酪農家のご主人というのは昔の酪農家のご主人と違って優しくなったというのはいませんか。外に出やすくなったとか。

大 平： うちの旦那はもともと優しい。(笑い) そういう人って、だいたい増えてはきていると思うのですけれどもね。ヘルパー制度もできましたし。

稲 垣： お互いに楽しむと言うか、尊重し合っているというふうに、私からは見えます。でも珍しいと思いますよ。ゴンタのママさんとの共通の話題が、子どものこともそ

うでしたけれど、やはり主人の親と同居というのが一番。

大 平： そうですね。今は二人ですが、ずっと一緒にいたので。やっぱり気持ちが通じると言うかわかりますから。

草 莉： では次に村上さんをお願いします。

九州男児の父のルールから一路北海道へ

村 上： 私は大平さんとは全く違う生い立ちです。生まれは東京、父は大手ゼネコンで高度成長期まっただ中の企業戦士としてひと月に何回かしか顔を合わせないような人でした。母はそれに対して身を粉にして内助の功をやって父の出世街道を支えたという人です。

私は九州の福岡の大学に進学させてもらいましたが、単身だったので羽を伸ばし放題でした。入学当初はデザイン科でしたが、将来を考え親しみもあり、インテリアデザイン科へ進み、ものを実際に製作するのが面白く、家具を作るゼミに入りました。ですから、就職はそういう前提でした。九州には大川という家具の大産地があるのですが、父は私には言わずに、同級生とすべて話を決めていたのですが、福岡の家具店に並んでいたホワイトオークで出来た家具のメーカーに惹かれて、父の方針には従わずにそのメーカーに面接を申し込みました。運良くというか、それで北海道へ来たという事です。

家具の会社で働いている頃は、私が活発だからだと思いますが、売り場で直接接客しながらの営業でしたが、家具を売るだけではお客さんの問題解決にはつながらない事が多く、つまりは、家具だけを置いても解決出来ない問題がいっぱいあって、これは建築をやらなければいけないのだと気がつきました。会社を辞めるタイミングで、失業手当を頂きながら、職業訓練校で2級建築士の資格を取る為に一年間勉強しました。大学のとくに人間工学やインテリアデザインを学んでいるので間取りを考えるのは楽しかったですね。

卒業後はハウスメーカーではなく、家づくりの現場に近いところで仕事したかったので地元の工務店に行きました。

家具の販売の現場でお客様の相談を受けるのは得意だったのですが、つい、顧客の希望に傾きがちで、社長からよく怒られていました。(笑) いろいろな意味で住宅を造るのはほんとうに難しいと思います。

けれども、私が担当した間取りはお客様には喜ばれました。家具や導線、収納計画に詳しいので、それまでの男性の営業さんが考えるおおざっぱな間取りの家より、暮らしやすい住まいが出来るのです。

最後にお手伝いした小さな工務店さんを辞めた後、当時参加して活動していた北海道建築士会で知り合った、道北、北見、帯広、などの独立してがんばっている人



村上千子
(きょうこワン)

達に影響を受け、応援の仕事を頂いたりしながら独立して仕事をするようになりました。請負でデザイン施工なども手がけるようになり、頂いた予算で最高の仕事を目指し、そうすると、自分がやりたいようにするには、いろいろ手がけなければならなくなり、そういう事で、だんだん職人さん達と直接やり取りするようになっていきました。

草 苺： だんだん親方になっていくわけですね。

村 上： 結局そういうことをしないとできません。そうしないと食えなかったというのもありますが、面白かったですね。そういうことを頼む面白い人も北海道にはいるし、そういうことの判断ができる人もたくさんいるわけです。そういう繋がりです。今まで来て、そしてある時に、網走の方だったか、カナダの人が来ているぞという話を聞きました。けれどそこでダニエルと会ったわけではないです。

草 苺： それはカナディアン 2×4 の走りの頃ですか。

フリーター生活時に会った医大の先生からの依頼

村 上： ある医大の先生に「あなたは面白い。出来るのだったらそういうやり方で面白くからやってみなさい。」と言われ、札幌の中央区円山の近くにカナダの資材を使った三階建ての家を造ることになり、そのときのクルーで第2陣としてやって来たのがダニーさんでした。現場で納まりのトラブルが起きたりするのですが、彼が様々な問題を一生懸命解決してくれたんです。

ちょうど彼も 50 代にさしかかる年齢で第2の人生を探していたそうで（笑）着いて行けば面白いという風に思ったのかもしれませんが、私も勢いで残ってもらうように頼んでしまったという訳です。（笑）

ダニーさんは初めての日本ではなく、長野にすでに来ていて、アメリカの激動の時に育っている人なので、日本人の非常に繊細な部分とか日本文化に魅かれたのではないですか。でも、実際は違ったでしょうねえ。住んでみたら、サプライズみたいな感じですか？！ダニーさんが来たので、私はシティガールだったのに、工房も建てなければいけない、場所も探さなければいけない。札幌圏にいれば最高ですよ。札幌の人はなんで札幌に住まないのだと言っていたのですけれども、ダニーさんが田舎でないと駄目だと言うのです。やがて田舎に行くことになったのですが、それは全部彼のせいです。

草 苺： ネイチャー派なのかシティ派なのか混然としていますよね（笑い）。よくわかりました。

村 上： 私の生まれ育ちをふり返ると、狭山ヶ丘に住んでいる時が一番長かったのだけれど、それこそジブリの世界でした。あそこをずっと学校へ歩いて通っていて、その時に虫博士の称号をもらいました。昆虫図鑑をほとんど覚えていました。だから、自分の原風景は田舎なのですよ。でも、多分、性格的には人と関わるとい

なことをしないと、自分を見つけられないのかもしれないです。うちの旦那は私とは逆ですよ。彼は、まわりに誰が住んでいようが関係なくて、自分のことだけやっていけば良いという人なのですね。私はそれだと自分が何をやって良いのかわからなくなってしまうというのが、きっとあるのかもしれないです。

うちの相棒が来ることになった頃は、旭川の真ん中に住んでいたし、田舎なんかよく知らないから、私も知人がいない。その時に偶然、私の周辺にいた人が鷹栖というところを案内してくれて、行ってみるとそこは、地の利も良いし、風水的に、私には良かった。地図を見ていると、南に平野が広がっていてのんびりしていて、なんか雑音もなさそうだしどこに行くにも結構アクセスが良いのです。それで、ここは良いかもしれないという、そんな感覚でした。だから、その時はその町村の雰囲気はどうこうとか、歴史も知らないし、全然何も知らない中でそこに入ったことになります。

草 苺： そういう意味では純粋に土地と繋がった最初ですか？。

村 上： そうなのかな。雪は多かったけれど、雪は好きだし気にならないと思いました。でも入った後にその暮らしの中で様々なことがありました。外国人と一緒にだったというのもあったと思います。

【 土地とのつながり 】

犬ぞりとの出会いで始まる土地とのつながり

草 苺： 次の話題の「土地とのつながり」がちょっと出たので、村上さんから今度、鷹栖を選ばれ、その後、色々な人と人とのつきあいやつながりも出てくるわけです。その辺のところを話して頂けますか。

村 上： 面白かったのは、鷹栖に入ってから。雪がきれいでたくさん降るし、仕事柄、冬はあまり仕事が無いのでどうしても冬休みみたいになります。田舎に暮らし始めて飼うことになった愛犬のハスキーと、歩くスキーでよく家の周辺を歩き回っていました。あるとき、夏祭りのあんどんの製作を手伝っている時、町内で犬ぞりをやっている人に出会いました。けれど、当時は仕事が忙しく、なかなか近所付き合いができず、その後、町内で転居をすることになり、偶然その冬に犬ぞりを体験するというきっかけを頂いたんです。最初の体験の時は、まあそれは衝撃的に楽しくてイヤな事は何も忘れるくらい、ほんとうに楽しくて、まあ、心のつぼにはまったという感じでした。

それで、冬になったらこれをやろうと決心したのですが、犬を借りてやるのではなく、ちゃんと譲ってもらって育てて自分の家族としてやっていこうというふうに

思いました。それで、主人には内緒で、アラスカの橇犬 3 頭を譲ってもらいました。そこからが今に至る始まりですね。

私は不肖の弟子だったと思います。結局自分でやってみなければ気がつかない事ばかりなのですから、時間を見つけては 1 人で練習していました。月夜の晩に道路で練習するので、ムーンライトレディースと主人が勝手に名前を付けました。ダニーさんはお手伝いはしてくれるけれど、横でみているというふうでしたが、橇に関しては思うことがあったらしく、橇で走っている私の様子をずいぶん観察していたようです。橇は最初、古いスキーを使って作ってくれましたが、大会に出場したりする中で、本気で製作に取りかかるようになり、冬に仕事が少ない職業だったから、そうやって冬が来る度に橇を作っていました。だんだん進化向上していったのが、今の体験用の犬ぞりですね。ともかく、ヒマな冬に二人でやる事がいっぱい出来ました。外国人と暮らしていれば、なんとなく疎外感があるし、自分たちだけの世界の中で強い危機感を感じるという事もあります。それと、建築という仕事は、暮らしや土地に付加価値を付けないと出てこないのですね。建設的という言葉があるように、建築をするという事は、前向きな将来的な必要があって発生する、いわば、将来への投資みたいなもので、不確定な未来に夢とか希望が持てないと、自分たちの生活空間を豊かにしようとかいう発想も出てこない。付加価値を付ければ、自分達の仕事は出てこない。未来も無い。この町は冬がとにかくネックと思い込んでいるから、この発想を変えないと。旭川に隣接する利便性のよい場所にあって、様々な暮らし方も選択が出来るはずだけれどと、よっぽど思い詰めていたんですね。(笑)

それで、自分は犬ぞりは楽しいし、犬ぞりを体験したい人は来るかもしれないと思いました。偶然すんだ場所には、犬ぞり練習におあつらえ向きの農道が付いていて、そこからの眺めは癒される田舎の雪景色。ここでも出来るのではと思い、旭川のある友人にその思いを語ると、北海道新聞の記者に伝わり、写真付きで大きく載せてくれました。そのうちテレビはやってくるし、それがちょうど 2002 年の事でした。人がやってくるようになると面白いのですよ。仕事やプライベートでは決して知り合うような事の無い人がやってくるのです。犬ぞりをやってみようかというような発想を持つ人は、やはり女性が多くて、思いのほか年齢が高かったり、個性が生き生きしているというか、独自の発想の自由な雰囲気の人だったり、いらっしゃる方とお話をするのはとても楽しくて、閉ざされた冬からとても社交的な冬に変わり、ダニーさんなんかは、外国のお客さんが来るとつかまえて帰さない(笑) 結局、あっという間に冬が終わるようになり、自分たちの中で非常に手応えを感じられるようになりました。

犬達も毎年、冬になったら犬ぞりがしたくて待っているし、その繰り返しでだんだん今の形になっていきました。ダニーさんが橇をどんどん改良し、見学用のモー

ビルソリだとか、コース整備用の道具もずいぶん進化しました。今は、カーブにはバンクを付けたり、雪がふきだまって斜面になる場所もきれいに水平に整備出来るようになっています。お客さんが安全に気持ちよく体験出来ると犬達にもとてもいいですよ。海外からもお客さんが来るようになった、今の犬ぞり体験が提供出来るようになったのは、毎年の経験と工夫と改良の積み重ねがあったからこそだと思います。

そうこうするうち、犬がだんだん増えていき、冬の行事は休みがちになる、犬が逃げるなど、ご近所付き合いにきしみが出て来て、子供でもいれば、親同士のつながりもあるのですが、なにせ、つながりが無く、うちに来て主人とは、言葉が通じない、奥さんはいつも忙しそう、そのうちに、ありもしない陰口を流されたりで、最初の頃から比べるとだんだん気持ちが疎遠になっていったように思います。こういう農村コミュニティの中では国際結婚で自営業のカップルは、たぶん異物なんだと思います。町全体のなかでも、自分達は異質なんだろうなあと思います。けど、それは仕方が無いですね。

草 薊： そういう状態と言うのは辛くはないのですか。別に何も軋轢はないのですか。

村 上： やっぱ辛いこともあります。うちの師匠とは、いっぱい喧嘩もしたけれど、今でもやり続けられたのは、一番大変な時とか、最終的に師匠が後押し的な助言をしてくれたりするのです。そういう人の存在はほんとうに支えになったと思います。

草 薊： お師匠さんも他所の人ですか。

村 上： 札幌のご出身です。今、私がうちの町の中で本当に繋がっている方というのは全部町外の人ですね。しかも子育ても何も関係のないところで繋がる方達です。でもみんな期待もできないから、だからそれぞれ孤独な戦いをやっているのだと思います。

草 薊： ある種、都会的な繋がりと言っても良いのかもしれないですね。ネットかなんかで繋がるのでしょうか。

村 上： いいえ。他に人に教えてもらったり、尋ねて来たり。例えば、田舎暮らしを考えて、不動産屋さんを通じてあまり良く知らない状態でうちの町に入ってきた、奥さん1人でやっているパン屋さんがいるのです。でも周りはパン食になじみのない古いコミュニティですから、天然酵母パンは値段の面など、なかなか評価がされないとかあります。でも今は固定ファンも増えました。その土地の中で何か活動をすると言うか、住んでいる人が自分の付加価値を伸び伸びと発揮できれば、とても個性色とりどりの町になって楽しそうです。大きな事をしなくても良いから、とにかく生き生きとそういうふうにできればと思いますね。

草 薊： この辺は非常に最後のところでもう1回出てくる面白い話だと思いますね。

ではここでもう一度現場の話に戻って、大平さん、稲垣さんの順で、幌延と今の村上さんのお話を比較して面白かったとか、ここがこんなふうに違うとか、そ

の辺のところをちょっとお話して頂けませんか。すごいドラマのような話でしたが。

今、つながりを楽しみたい

大 平： やっぱり生まれ育っているのが違うなと思って聞いていた。こういうところでは、どこからか入ってきて何かをやるといって、やっぱり妬みみたいな、そういうのがあるような気がします。なんでそういうふうに見てしまうのかわからないけど、自分達は何もやらない、今までの生活をただただやっていけば、それで良いのかもかもしれないけれど、面白みがないというのは感じるところです。誰かが入ってきて、農家なんかでも跡取りがいなくて、どんどん少なくなっているから、どんどん入ってきてもらって、入れるようにした方が良いという考えもあれば、そんなわけのわからない人に入ってこられて滅茶苦茶になる、それだったら止めた方が良いという、そういう考えの人もありたりします。隣町の天塩とか豊富は新規就農者が入ってきています。やはり空気が違ってくると思う。そういうのを楽しみと言ったらおかしいけれど、楽しみたいという気持ちは私にはあります。やはりそういう何か違うこと、違う人とのつながりを楽しみたいです。

村 上： 刺激はきっとありますよね。私達の場合だとユニークでしょ、だから、他の人がやるよりは注目度が高いし、色々な意味で、やったら効果が高い（笑）何かの形に繋がるに違いないと思ってた。でもそれを地元の人達が望むとは限らない場合もあるということがわかった。もちろん先輩達、若い人もいるわけだから、本当に色々な考えがあると思います。その中で自分が楽しんでいられないと、人に対するサービスができないから、楽しむことはとても大事です。色々なことがいっぱいありますけれども、今年は映画の手伝いをしたことが公開になるらしいし、ひととおりの全部成果が出たなと思います。出たところで、これはどういうことなのかなと思いながら、「私の生活って何？」みたいなのという気持ちはやっぱり考えますよ。色々なふうに考える。人の幸せを願うというのは大変です。

稲 垣： 一緒に悲しむことは案外できるかもしれない。でも人の幸せを願うのは本当に難しい。

子どもの一言で気付かされた土地に対する意識

草 苺： おていさんは村上さんの後半の辺りのお話を聞いて、どんなふう感じられましたか。

稲 垣： 職業がうちだけ違ったりすることで、例えば集落で何か集まりがある時にうちだけファックシミリが入らなかったとかはあります。それはしょうがないのですよ、農協で一斉に流したりするから。でも、そのことでみんなを使っている会館の掃除日の連絡が私だけ何年も知らなくて行かなかったとか、そんな小さなことなのですけども、どんどん溜まっていくと、もしかして掃除に来ないねとか言われている

のではないかと、つまらないレベルですけど、でもそれが日常なので、気にとめる訳です。どうして電話一本くれなかったのだろうとか。私ならこうするのとか。家の中で小さな町は独特だよね、ということを愚痴っていたことがあるのです。そうしたら、息子がまだ小学生だったので「僕はここで生まれ育っているのだから、ここの悪口を言わないでくれ。」と言った。私はここで子どもを生んで育てているのに、土地のことを悪く言ってしまい、それはいけないのだと気づかされて、それからすごくここは自分の地域なんだと意識するようになりました。でも、つい自分の都合によってよそ者意識が出てくる。

村 上： それは私も多分そういうふうに思われているところが色々あるのかなと感じています。でも最近はずっとやっていることに関して、成果が出てきたところでまた違う接し方もされていると思います。

草 苺： メディアに出て、この人はこんなことをしていたのだという発見みたいに普通はなっていきます。それは逆に妬まれたりもするわけですか。

村 上： スルーじゃないかな。でも、店や郵便局で声をかけられることもあります。最近町の広報誌みたいなものに載せてくれました。

草 苺： さらに逆に言うと、その周りを取り囲んでいる人達とのつきあいの向こうと言うか、その人達が持っている正攻法ってどういうことなのだろう。例えば 1 軒 1 軒引越した時に何かを持って「よろしくお願いします。新参者でございますが。」と一応仁義も切って？

村 上： やりました。町内会にかけられたそうですよ。それで私はダニーさんと私のプロフィールみたいなものを書いて配っていました。そして 2 年ぐらいかな、ダニーさんがスモークサーモンを作るたびに周りに配って。犬ぞりをやるようになって、冬の行事には欠席がちになり、一方で犬の鳴き声もします。それでも、うちの直近のお隣さんは文句を言いにくいのですよ。冬は窓を閉めているから気にならないそうで、その代わり夏はキツネが来たときとかうるさいかもしれない。今思えば、犬ぞり体験をは始めるとき地域の長老にあたる方に挨拶をしに行ったりしました。シーズン中 50 人とか 80 人ぐらいだったらポツポツしか来ないし、冬になるとうちの前は車も住んでる人以外通らないですから静かなものです。正月の新年会とかに取りあえず出て、お酒やって、今年はこんな状態ですなどと話題にしました。

草 苺： そういうことはしていないと思っていた。

岩 澤： 途中から入るものは、やはり嫌いだけれど。

村 上： 葬式はとにかく全部行って、二日間びっちりお金の封を切ったりしていました。

【 土地を客観的に見てみる 】

生まれ育った町の 40 数年の空白期間

岩 澤： 私なんかは自分が育った町だけれど、40 数年も留守にしていたら知っている人は誰もいないじゃないですか。同級生だって、私なんか高度成長の時代だから、みんな外に出て行って、本当に数えるほどしか残っていない。ただ、私の母も他所者だったわけです。樺太から引き揚げてきて、それで苦労して、ずっと公務員で仕事をしていて、仕事が終わってから色々なボランティア活動とかをしていたので、私が来た最初に、〇〇〇〇さんの娘さんね、ということで受け入れてくれた。でも、来る時は早く馴染みたいと、そうしなかったら母の介護はできないし、自分も母の介護だけをしていたら絶対上手くいかないと思って、何をしようかと考えながら来た。

まず絶対に車の免許は取らなければいけない。そうしないと何もできない。もう一つは新しいものを作ることはできないのだから、自分が既存の中に入ることができるものを探そうと思ってきたの。だから、来る前からアンテナを高くして公民館に問い合わせたり色々して、何と何をしようというのをだいたい決めて来た。さっき言われた町内会の新年会とかも最初から母と一緒に出て皆さんにご挨拶して、私はできるだけ早く受け入れてもらいたいと思って来ました。それで、絵本の読み聞かせのボランティアをしようと思って、来て直ぐにそこへ行って入れて頂いた。来た最初は、私は鳥を全く知らなかったのですけれど、山登りをしていましたので山の花にとっても興味があって、向こうで高いところに咲く花が、ここでは平地で咲きますしょ。だから、こっちへ来たら花を見て歩こうと思っていたのです。ですから、自然に関係のあるグループに入ろうと思って来ました。幸い、近くに海鳥センターという道の施設があって、そこが自然の情報の集約場所になっていたのです。だから、その会の友の会に入ろうと思っていた。

友の会の入会は最初から決めてきたから、決めてきたことをして、やがて入っている中で一番自分が心がけていたのは、とにかく皆勤賞をもらうこと。アザラシ館の行事にもできるだけ出席しようと思っていました。でも 40 数年もずっと仕事をしてきたから、どうしても出しゃばりになります。しかも看護師なので、ペースメーカーにならないと、と思うのです。医者はいつでもいないのでペースメーカーにはなれないのですよ。ですから、看護師がペースメーカーにならないとものごとは上手く進めない。それでいつの間にかそのペースメーカーに直ぐなりたがるのです。

最初からそういう人ではなかったのですが、自分の長い職業の間に今ではそういうふうになってしまっているということは自分でよくわかっているつもり

でした。それで、1 年間は新しいことは絶対言わないとそれも決めて来たのです。それでちゃんと実行しました。その代わり、下請けの仕事というとおかしいけれど、例えばアザラシ館でニュースを作るとか言ったら、私それ得意よ、パソコン得意とか言って、そういうことはすごく積極的にしようと。それで 1 年間踏ん張ると、その集団の中では、そこで市民権を得てくる。そうしたら、今までは月に 1 回しかやっていなかった読み聞かせを、対象を子どもではなくてお年寄りにしてみない？とかという提案ができるようになって、それで 2 年目になったら、新しいことを提案して、それと一緒にできるようになってくるじゃないですか。そうすると、今まで本当に細かくしていたのが段々広がって行くじゃないですか。

自然のことも、最初は海鳥センター友の会だけだったのですけれど、ビオトープの会とか、自然環境を守る会とか。それも結局繋がりでどんどん入って行くようになるでしょう。段々、自分で鳥を見たり、花を見たりしていると、自然からもいっぱい色々なものをもらうので、何か小さな力でも良いから恩返ししたいなという気持ちになってくる。

行儀の悪さは、習慣のなさ

それで、例えば草刈りとかしている時に直ぐ近くにウドなんかがいっぱいあったりするでしょ。そうすると、男の人がスコップでウドを取ったりする。すると、私は烈火のごとく怒って「なんでそうやって根っこから取るの。来年出ないじゃないの。」とかと言うと、すごく嫌な顔をされます。でも、「うるさいお婆さんだけれど来年出なかったら困るな」というように分かってくれる。1 年間辛抱していたから、2 年目か 3 年目ぐらいからちゃんと言うようにしてきた。

それから、何か並んで待つ場合でも、こっちの人は並ばないのです。私、あれには参ります。例えば、生ゴミから作った肥料とかを町で配るじゃないですか。そうしたら、ワーンと殺到する。「どうして並ばないの」と怒鳴っちゃうけれど、そういう習慣がきつとない。だから、次の年からは「並ぼう、並ぼう。お年寄りとか危ないから、並ぼうよ、並ぼうよ」と言うと、顔見知りもできるから、だんだん並ぶようになる。私は今まで地域の人に行儀が悪いとかって思っていた部分があって、そういう公的なマナーがなっていないと思いました。それはマナーなんかなくても暮らしていけるところに暮らしていたからだと思う。行儀が悪いのではなくて、そういう習慣がないだけ。並ぶという習慣を作ったら、確かに混乱しなくて、年寄りも焦らなくて良いということに気が付く。気が付けばちゃんと並ぶのではないかなというふうに思うのです。

だから、私も最初は腹が立つことが、本当に何回もありました。一番腹が立ったのが、初山別でシャケを安く売った時があって、すごい強風の中を初山別までおばあちゃんを車に乗せて吹き飛ばされそうになりながら買いに行ったのです。「ど

ここに並んだら良いのですか」と言ったら、その係の人が「なんも並ばなくてもいいよ。時間になれば行けば良いのだ」と言うから、時間になって行ったら、台の上にシャケがいっぱい並んでいる。しかしそれで雄と雌を分けて並べてあるということのを誰も教えてくれない。身を食べたかったから、雌ではなくて雄が欲しかったの。ところが私が並んでいるところは雌の場所で、しかもみんな一人 2 匹とあって決めていれば良いのに、5 匹も 6 匹も取っちゃう人もいて、それも決めていない。私がやっと台の近くに行ったら雄の台はあっちだと言われて、行ったらもう 1 匹も残っていなかった。烈火のごとく怒って係の人に抗議したけれど、鮭はもう残っていないのだから話にならないでしょ。

それで私、面々と書いて初山別の漁連に送った。許し難いと思って。だって、そうでしょう。北海道に来たらそういうやり方も慣れなさいということですか？それじゃいけない。これからは外の人もとくさん来るし、北海道が好きで他所の人暮らすようになるかもしれないし、観光客だって来るわけでしょ。そしていっぱい来てほしいわけでしょ。でもそういうマナーの悪さは絶対に嫌われる。だから私はそういうところは直していった方が良く。北海道らしいでしょ。でもそうなの。北海道以外でそういうことをしたら大変なのね。

村 上： そういうのは自分で努力して、情報をゲットして、全て自分の努力でいっぱい取る。他人のことはどうでもいいから人のものをもってでもそうやって生き抜くというのが北海道流だから。(笑い)

岩 澤： 後から来る人もなにもないの。自分がまず大事なの。だから、山に生えている花をなんでも家に持ってこないと気がすまない。そこに置いておけば来年も再来年も咲いてくれるのに、なんたってきれいな花が咲いていたら自分の庭にスコップで持って来て、自分の花畑に植えたりする。それは良いことなのかなという、ちょっと疑いの気持ちを持ってほしいと思う。

村 上： 若い人もそうですか。

岩 澤： 若い人はわからないけれど、私の年代の人はそう。私は人の花畑見て歩くのが好きで「きれいだね」と言うと自慢するからすぐわかる。「きれいだべ。これは高台のあそこで取ってきた」って。「これ、何て花か知っているの」と聞くと「知らねえ」って。私もいっぱい群生したところを見つけたけれど、絶対それは人には言えない。取られてしまうかもしれないから。でも本当は、そういったきれいなところをみんなに見てほしい。だから、情報は小出しにしています。(笑い)

村 上： ちるままさんみたいな人が、個人的にそこら辺の自然とかを一生懸命語るだけで、聞いた人はとても親しみを感じて観光的な付加価値が上がると思うし、色々なその今の情報を発信していると思います。それがまさにキャピタルだと思うのです。そういうところの価値みたいなものをもった方達が増えると、きっと心がゆたかになるように思います。だけど、北海道だったら、北海道は冬があるから、人の

ことを考えたら駄目。(笑い)

岩 澤： でも、おじさん達に、私が「ビオトープに花を植えたい」と言った時、「何を植えたいの」とおじさん達に聞いたら、おじさん達が植えたい花は園芸種とか外来種とか大概そういう花なの。「せっかくビオトープを作っているのだから、外来種ではなく在来種を植えよう」ということで、自然種で今どんどん畑を広げている。だから、私はすごく良いなと改めて思うけれど、反面おもしろく思わない人もいると思う。多分、嫌われている人にはすごく嫌われている。(笑い)

村 上： 職業柄、看護婦さんを長くやっていて奉仕するのが身についているでしょ。そして、わあわあ言うでしょ。同じ年齢の男性だったら絶対そういうことをしないから、本当に全然違う。だから、私はすごくそういう方達の価値は高いと思っているのです。ただ、私と違うのは、私は仕事として事を起こしたわけで、生きて行かないといけないでしょ。それはたぶん非常に刺激のあることです。うちの相棒がよく言っているのは、「お前には親戚・地縁も何もないし、なんだかんだ言って、みんな親ぐらいはいるだろう。その中で全部やっていくだろう。なんだかんだでみんな繋がった中でみんなやっている」。「それなのにお前は、全くゼロに近いところからこの形までにしている。それは驚異的と言うか奇跡に近い」と言うのです。

色々なカントリーサインもきっとそうなのだけれど、今実際に提供している色々なサービスは、ココで生まれたオリジナルだし、おそらく海外だって同じようなことをできるような人はいないのだからって。ダニエルのすごいところは、どんな状態でも自分の評価をちゃんと過剰なぐらいしているところ。

草 苺： 自分でしているの？

村 上： だから、自分のしていることの価値、自分の生きている価値を全部自分でしっかり評価している。

岩 澤： それって凄いね。私達はへたくそだよ。

村 上： 結局、それを私に対して使ってきてくれて、自分の人生を使い、自分の技術を使い、物を作ってきたではないですか。それに対して私は、「はい、いくらですね」って、わかりやすい対価、そういうのがないでしょう。生活してしまっている。だから、やっぱりその価値を私がどれぐらいわかっているのだというふうには、彼は思っているかもしれない。

岩 澤： そうやって口に出して言わないの？

村 上： 外国人と言うか、それは見ていれば、わかりますよ。

岩 澤： じゃなくて、あなたがダニエルさんに言わないの？

村 上： それは二人で生き抜くために頑張ってきたことでしょ。それはやっぱりスペシャルなことではあるから、それは非常に思います。次の私の役割は何？と思うけれども、なんと言うか、考えてしまいます。

【 都市と地方 】

孤独と存在

- 稲垣： 親戚とかはうちも周りにいないので、そういった孤独感というのがあります。家族単位でも夫は本当に目一杯外でエネルギーを使って家はただただ休む場で、これはもしかして、私と違う女の人が入れ替わってもわからないのではないかと思います。農家の仲間には入れるわけでもなく、日中はおばあちゃんと草刈りして、お葬式も滅多にあるわけでもないし、保育所もその時は辞めていたので、本当に孤独感と言うか、すごく感じたことがあります。いつからそれがなくなったかというのは覚えていないのですけれど、ただやっぱり稲垣順子という存在と言うか、私が私として認めてもらうことが少しずつ増えてくると、ここに生きていて良かったなみたいなふうには感じてきました。お寺の奥さんとか、誰々のお母さんとか、そういうのではなくて、本当に稲垣順子として認めてくれる、そんなことがあれば、都会であろうが田舎だろうが生きて行けるかなという感じはしています。
- 草苺： このお話はすごく関心のあるところで、北海道の中に人がどんどん減っていて、本音のところを言うとやっぱり便利で安全な情報も多い都市に住みたいというところと、そうでなくて自分で確信をもって地域は良いぞと思っている人達がいるのだけれども、その比率は圧倒的に後者の方が低い。
- 村上： 増えてきているのですか？
- 岩澤： ちょっと増えてきていないですか？
- 草苺： ちょっと増えてきている。それが今の話、都市の中の孤立と地方の中の孤立、そして都会の中の幸せと地方の幸せといったようなやつが、秤にかけるのも変ですが、ダニエルさんのアイデンティティみたいなものというのは、私どもは割と欠如している部分ですね。俺は俺だと、口では言っても意外とアイデンティティはないのです。
- 村上： 男の人はそれが結構確立しているのではないですか？
- 草苺： そうでもないです。歳と共にというのはあるかもしれないけれど。今の話を続けて下さい。(笑い)
- 村上： 私一人では絶対今みたいな暮らし方はしないし、でもうちの主人を見ていると、何かを実現させるためにというところだから、何か方向性のようなものがないと、作る理由が出てこないという感じがします。だから今は、すごく面白いです。
- 草苺： 道を引くのがきょうこワンさんで、それを色々な角度からサポートしてくれるのがダニーさんという感じですか？

不可能を可能に。価値は自分が知っている

村 上： 相棒は「俺が現実にした」と言います。「俺がポッシブルにさせる」それが一番です。この冬の映画の撮影の時も、なんでもそうだし、「なんで障害者がそりを自分で操れないのだ。俺はそれを現実にする」と言う人です。「俺の力で」と言う人ですよね。すごいエゴでしょう。俺に不可能はないみたいな。(笑い)

岩 澤： すごいと言うか、自分のことをそういうふうにするのが私達は苦手ね。どうしても自分にからいと言うか、こんな良いところもあるって、こんなこともしたと、自分が思っていたって人には言えないし。

村 上： 農業をやっている方とか、酪農の方とかは、みんなそうだと思う。育てて、種牛の時もそうでしょ。彼らが作ったのですよ。「その価値を俺は知っている」と彼は言います。「他の人はそれを抹殺しようとも、俺が現実にしたということは俺が知っている」ということを言います。

岩 澤： なかなかすごいリアルだと思う。

村 上： ここの地域とかでも、すごい人がそこら中に住んでいるということだと思う。それだけのことを現実にして現実に生産するだけの技量があるということですよ。

大 平： そうは思っていない。ネットをやっていて他から色々な評価と言うか、認めてもらえると言うか、そういう言葉がネットの中でもすごく嬉しい。

稲 垣： 女の人は特に余計そうかもしれないね。

吹雪の中のタンクローリー

草 苺： 何年前だったかな、mixi でゴンタのママさんが酪農の実状を日記で書かれたものに、本州の人達がすごく反応してレスしていた時がありました。あれを見て、エーッと言うか、雪の日もタンクローリーが来てミルクを回収にくるのだと知って驚いていましたね。それが来なかったらどうなるかという、言ってみればインフラってそのためにあるみたいな話。雪印のタンクは吹雪の時も来るみたいな話と、牛も毎日搾乳しないと駄目なこと、それらにすごく感動していた、そんな場面じゃなかったですか？

大 平： そういうのを知ってもらったというのがすごく嬉しかったです。そういうことを知らないのが当たり前で、こういう普通のことが知られていないのだなというのがそこでわかった。

村 上： 北海道を掘り起こせば、日々とんでもない冒険みたいなことと隣り合わせでしょ。私が多分ダニーさんと一緒になった理由って、多分何もなくなっても彼にはなんとか生きて行く技量があるし、私にはそれは何もない、非常に現実感に乏しいので、ダニーさんとなら大丈夫と感じ、そういうところに魅かれたのかなと思う。自営業でもやっぱりそういうふうにしたのでしょ。

大 平： 私達、自営で牛飼いしかやってきていないけれど、これを止めてしまったら何

もできないねという、そういう思いです。

村 上： 自分だって今どんどん年をとってきて、例えば建築と言ったって、それは依頼がないと発生しない。

大 平： でも建築だけではなくて、なんでもやって行きそうです。

村 上： でも中途半端ですよ、結局。上には上がいるし。大都市なんかだとマーケットがあって、同じことをやっても札幌みたいな商圈の近いところの方が可能性がより簡単に計算しやすいでしょう。それがないところで戦わなければいけないというのが北海道のほとんどだから、それは非常に消耗だし、もしかしたら最初から無駄な努力だということなのか、たまにそういうことは思います。無駄な努力をやっているのかもしれないとか。全部無駄になるかもしれないとか。やっぱりそういうことは、すごくいつも思う。それでもダニーさんは自分の価値をわかっている人だから、多分関係ない。あれが私にはないので、いつも物を作るということは結局そういうことかなというふうにも思うし、すごく考える。

個々のイメージが与える感動の違い

岩 澤： すごく不思議と言うか、困ったことだと思っていることが、自分らには何でもない自然や当たり前のことが北海道以外から来た人にはとてもそれが新鮮だったりすること。自分がここへ来て、東京の方から友達が来るようになるじゃないですか。冬に来ると防風林の近くに行って、リスやウサギを探したり雪原の足跡を探したり、スノーシューで雪原を歩いたりしますよね。北海道に何回もスキーに来たけれどスキー場の雪原とは違うと言う。キシキシ木が鳴って、ウサギの足跡があって、ウサギの食べた跡があって、「こんな世界があるんだ」ってとても驚いて感動します。こんな世界って私たちがごく普通と思うことでもすごく驚きます。

サロベツに来るお客さんって、私達がパークボランティアで自然ガイドをしていると、二通りの人がいます。チラシに利尻富士が写っていて、エゾカンゾウが咲き乱れていてというチラシを見て、そのイメージをそのまま持って来る人で、目立つ花がないと「なんにもないじゃないの。」とすごく不平不満を言う人。

それからそういう写真を見て来るのでしょうけれども、あそこへ来て草も木もないずっと続く湿原を見て、「そこを渡る風が気持ち良い。こんなところはここにしかない」と言って、花が咲いていなくても「これだけで充分だった」と言って帰る人。それってどこに違いがあるのかと、私はいつも思います。同じものを見てもすごく感動できる人とそうでない人。私達は観光に携わっているわけでもなく、それで商売しているわけでもないから何でもないけれども、そういう利尻富士があってエゾカンゾウがあってというものを、観光客に見せようとしていないかなって、すごく思う時がある。そうではなくて、このありのままを見てもらって感動してもらえば良い。できない人はもう来なくても良いかなとも思います。

ツアーによる意識の違い

- 村 上： そういう言い方をする人なら、その季節の話よりはどうやってこういう人達が暮らしているかの話ですよ。どうやってここで生計を立てているのか。こういう暮らしがあって、こんなことがあって、そういう話です。除雪にしても、こんな感じで。まさか、犬ぞりしている私からそんな話を聞かされると思わないでしょうけれど。例えば若いカップルとかが来たりするでしょう。そうしたら当然別に何の変哲もないちいさな町に来て、ずっと走っている内にだんだん田舎の景色になって、一面雪で、そこに酪農や農家があったり、おじいちゃんがいたり。そうすると、ボロボロの家もあるわけだから、除雪できない家とかがいっぱいあります。そういう経済ではない暮らし振りの話とか、雪の話とか、そういう話をお客さんにします。
- 草 苺： どこでヒットするかによるけれども、ネイチャーでいくのか、暮らし振りだとか、風景だとか、何か色々な琴線が人によって異なるところがあります。北海道の地域にお客さんを案内していると、本当にこの辺でみんなどうやって食べているのだろうかと聞かれることがあります。
- 村 上： そういうことに興味を持って来る人が多いのではないですか。自分で商売をやっているような方とかもそうだし、結構そういう人が多いのではないか。個人で来る人はほとんどそういう気がします。
- 岩 澤： 個人で来る人と大きなツアーで来る人とでは本当に違う。エゾカンゾウと利尻富士という人は、大きいツアーの人が多いです。
- 稲 垣： 大きいツアーで北海道を駆け足で回れるようなツアーも、バスガイド自体があのビジターで降りた時に、「ここは何もないから。」みたいなことを言ったりします。びっくりします。
- 村 上： 同じ人間でも個人で探してくる人もいるわけでしょ。
- 稲 垣： 個人で来る人達は、意識が高いです。幸せを感じる能力というのが高いです。私は勝手に「幸せ筋肉」と言っているのだけれど、高いと思います。
- 村 上： 私のところには、ちるままさんぐらいの年齢の方が来ます。二人とか、一人でいらっしゃる方もいて、例えば夫がどうのこうのとか、残りあと何年かの自分の人生だからと言って、好きなことをしようと来るわけです。だから、その人が決めて使ってくれたお金ですよ。ありがたい。

【 幸福の感性 】

幸せ筋肉のトレーニング開始時期と鍛え方

- 岩 澤： 幸せ筋肉って、低い人と高い人がいるけれど、そのトレーニングっていつから

始まると思いますか？私は子どもの時からだと思うの。

稲垣： 気づいた時に始めましょう。(笑い)

岩澤： 自分が珍しいものを見たら、必ずジュニアレンジャーの子に「おばさん、こういうものを見たのだけれど、行きたい人〜？」と言って連れて行く。最近は、自分だけで楽しまないことにしている。

稲垣： 幸せ筋肉はみんなが持っていると思う。持っているということにいつ気づくのかわからない。死ぬまで気づけば良い。(笑い)

草苺： それは例えば、ちるままさんは、本州でも山に登っていたから、その筋肉は衰えないでいるかもしれないけれど、一旦ここで生まれたのに、その頃は思わなかった。本州に行って 40 年後に戻ってきてから気づいたということになりますね。

岩澤： 戻って来たから、それが良かった。それで何かに書いたことがあるのだけれども、本州での私の花の楽しみ方というのは例えば山に行き 1 回きりの楽しみ方で、その花の咲く季節にその花で有名な山へ登って、その花を見て終わりなの。でも北海道へ来ると、同じ場所に何回も行けるから、その花が芽を出した時から、咲いて種になるまでずっと見ることができる。おていさんが私に冬か秋だったかの観察会の時にオオウバユリの種を揺らして飛ばせて見せてくれたの。すごくきれいでびっくりしました。今は北海道にずっといるから、そのオオウバユリが芽を出した時からずっと続けて見られる。だから、自然の楽しみ方の奥が深いと言うか、帰ってきて全然違う楽しみ方になった。ある鳥の生まれた時から、雛の時から、幼鳥の時から、それこそおしゃれしている時から、あまりきれいじゃない時からというふうにして、いろんな場面での鳥に会うことができるという幸運。それがやっぱり東京にいたのでは絶対私が死ぬまで一度も経験できなかったことだろうと思う。

稲垣： でも田舎に暮らす子ども達は、住んでいても自然体験というのを豊かにしているかと言うと、案外そうでもないです。だから、うちに子ども達が来て、林の中に連れ出したり、ちょっと橋渡しをしてあげることによって、驚きをもって見てくれます。目に入っているはずなのに見ていないということがよくある。ここで生まれ育った息子は残念ながら野外活動に興味がありません。が、大人になった時に、フキノトウ採りに誘ったのです。渋々ついてきました。そこでフキノトウの匂いを嗅いだ息子は「すごい懐かしい。」と言ったの。私は商店街で育ったくちななので、それを懐かしいと思えない。子どもの頃の経験がないから。その時、うらやましくて。だから、あまり自然体験が豊かではないなと思っても豊かではないのではなくて、もっと染み込んでいるのではないかなという感じは最近しています。でもそれに本人がいつ気づくかはわからないけれど、気づいた方が幸せ筋肉が鍛えられると思います。(笑い)

村上： やっぱり気づかされるということですか。他者と違うところがあるから、それに気づかされる。だから、田舎でも都会でもそうです。鷹栖や東京の子ども達が来

る。雪と遊ぶことに対する食欲度が百倍ぐらい違います。その中でもある程度の年齢になったら冷めてしまう子は冷めてしまうけれど、それにずっとつきあっていかなければいけないというのは、こちらも相当エネルギーが要ります。

土地から感じる先祖や風水などの縦の繋がり

草 苺： ゴンタのママさんには、搾乳の時間が来ましたら、一時退室して頂くことにして、7 時過ぎぐらいに戻ってこられてから、「女性が地域の中で力を持っている」という話題でまたお話ししたいと思います。

その前に先程出てきていた話の中で、村上さんが一番最初に言われたことと繋がるのですが、土地を選んでいる時にになにか風水のようなものを、とても良いものを感じたと言いました。実は私は村上さんのところに初めて行く時に、すごいところだと写真を撮りまくって行き着きました。

村 上： 本当にただの農村水田風景なので、特別なことではないですよ。

草 苺： ただ、それがやっぱり違う。何かと言うと、渡り鳥なんかを見ている時に、鳥がただ季節で移動しているというよりも、何か自然の摂理みたいなものがそうさせていて、そのどこかに何か自然の力が働いている。

村 上： 渡り鳥はルートをどう決めているのですか。上から見て決めているのですか。

稲 垣： 大きな鳥は船頭と言うか、経験者がリードするようです。

草 苺： ウトナイなど胆振の白鳥は、高速道路の上を飛んだり、夜に飛ぶ。で、何を言いたいかと言うと、その風水だとか、今まで話してきたのは人と人とか、フラットなネットワークが濃いか薄いとか、気に入るとか気に入らないとかの話をしてきましたが、時々、土地だとかとの垂直のつながりもある。私の友達が農業をやっていて、ある時フッとこの土地と一緒に農業をやっているということに幸福感が押しよせ、すごいパワーが足の裏から入ってくるみたいな体験をしたと語っていたのです。

稲 垣： 農家の人達は、そうかもしれない。

草 苺： そういういつもフラットな関係のネットワークのことを考えているけれど、そうではなくて繋がりには縦にも、先祖だとか、それから土地がとか風水で感じるものなんかもそうではないかということです。ドイツの人なんか特に気を感じるのが上手いと聞きます。ダニエルさんなんかどんな感じなのか。それからゴンタのママさんなんか、原野で歩かれているような時に、フッとなんか、そういうことはないですか。

村 上： 私は、ゴンタのママさんが撮る写真がいつも面白いと思っている。

稲 垣： 私も、どうして同じところを見ているのに、こんなに違うのだろうと思います。

写真を撮ることから土地への愛着が

- 村 上： 好きで撮ったものかどうかが、全体の撮り方で非常に感じます。
- 大 平： トラクターに乗っていて、「これ、良い」と思った時に撮る。
- 村 上： 写真家みたいな感じだね。良いカメラを持っているなどは思いますけれど。
- 大 平： 普通のデジカメですよ。
- 稲 垣： そういうセンスがすごくあるという感じは昔からです。
- 村 上： 写真を撮ろうと思う時って、何かそういうものがないと撮れませんよ。シャッターも押せないし。撮ろうという気にならないじゃないですか。本当に撮りたいなという時は私はかなり限定されます。
- 大 平： 写真を撮るようになり、土地と言うか、そういうものに愛着が湧きました。
- 草 苺： カメラを通じてというものがあるらしいですね、そう言えば。
- 大 平： なんか吸い込まれると言うか、これ良いというふうに思っちゃうと言うか。見てもらえるかなというのがあります。
- 稲 垣： お子さんが小さい時に写真で入賞したことがありましたね。賞品はディズニーランド。
- 村 上： センスがあるなあと思っていた。
- 草 苺： 賞をもらったことがあるのですか。
- 大 平： はい。
- 村 上： 写真ってどこをどう切り取るかは感性ですよ。だから、色々なおじさん達が退職して良いカメラを持って写真家だと言ってやるじゃないですか。いっぱい額に飾って、そこにはセンスが出てくるので、テクニックがかなり凝っている場合もあるけれど、それはやはりその先は感性ではないかなという気がする。
- 大 平： 撮っていても楽しいです。
- 村 上： そういうのは、すごく良いかも。

土地から感じる気の心地よさ

- 稲 垣： 原野を歩いている時に、私は風水とかそういうのは全然わからないのですけれど、サロベツってあまり音がないので、それこそ景色が、絵のような感じる時があって、そこに何かスッと一歩入ると言うか、ちょっと変わった感覚になる時があります。それは土地の気みたいなものなのかどうかはわかりませんが。
- 村 上： 私は、地図を見るのがすごく好きです。国土地理院のデータベースの地図をえらい時間をかけて見る。最近の習性になっているので、どこか新しいところへ行きますとなったら、まず国土地理院の地図とかデータベースを出してきて、じっくり見て、こんなふうになっているとか、ここをどういうふうに走れるかを見えています。川があつてとか、人がいっぱい住んでいるとか、それらを地図ですごく見てから、その場に行く。それが面白いのです。

草 苺： 2回旅行するようなものです。

村 上： 自分がここだ！という場所を地図上で見つけると、一度は足を運んで見ます。確かめる為には季節ごとに足を運ぶこともあります。町内だったら多分全域それを潰しているでしょう。それで、その場所に身を置くと、景観阻害要因が周りにいっぱいあったり。そこに身を置いても、すごく暗いと言うか、何か感覚が違うと言うか、そんなことがよくある。

岩 澤： 逆にね、なんでもないことなのだけれども、自分がそこに、あるべきところに戻って来たみたいなの、そういう感覚になる時があります。ここだったという、そういう気持ちになることはない？前に来た場所でもないのだけれど。

村 上： 直ぐ帰ろうとしない場所ですか？

岩 澤： 次にはそこにサンドイッチでも持って行って、お昼食べてお茶してとかしたくなる場所ってある。何カ所かある。

村 上： それは結構大事ですよ。

草 苺： 居場所みたいなものですね。

村 上： だから、夏に走っている時は、冬になったらどうなっているか常に想像しながら走ります。こういうルートを作ってこうやっていけるだろうなとか。あの先は何があるだろうと思って、ずっと見ています。そんなことを考えながらいつもウロウロして走るのです。その時に、自分もワクワクするから、ワンちゃんももっともつとです。その時は、途中で吹雪になったらどうだとか、色々なことを考え、考えているだけで結構オーッと気持ちが盛り上がって来たりします。でもそれは自分がその場においてワクワクしたいと思っているだけで、つきあっているくれる人はどれだけいるかという感じですね。そんなバカみたいな話はだいたい却下されるから、相棒はそういうのにつきあってくれない。そういう時はもう結局遭難覚悟。助けてくれと言うのは悔しいから、自分で全部戻って来れることを考えて行かなければいけない。雪が堅くなってないかとか、何回も夏の間に行って、こんな時はこうでと考えながら、たいへんなことがあっても、それは誰にも言わずに。そうでないと怒られるから。(笑い)

稲 垣： 土地の気みたいなものは、やっぱりあるのですか。

村 上： あると思います。水の流れとか、木々の元気度が違うのではないですか。

草 苺： 私なんかは林をよく見ていると、ここの林に入るのは「気がそがれる」とかはありますね。だから、自分が良いところと悪いところを区別して知っているし、好きな木もあるし、山を見るならこことかね。だいたいスポットが決まってきますね。

村 上： それって、木々が新しく生え変わったりしているのが、非常に生き生きするということはあるですか。

草 苺： それもあります。逆に気がそがれるような場所というのは、何を植えても枯れるとか、ツルに絡まれて樹木が呻いているような林だとか、傾いているとか、細く

て先に枝がちょっとついているだけのほったらかしの林で、一面全部がそんな状態というのがよくあります。あれをよく見ると、霧が入ってくる、風がこう入ってくる、そういう入り口だということがわかります。やっぱり因果関係ははっきりしていると思う。ですから、逆に言うと、そういう住みやすい場所の作り方というのは、かなり風水の感じはわかるような気がします。背中に山を背負い、こちらに広いところがあると、それだけでもたいてい気持ち良いです。きょうコワンさんのところなんかは、まさにそんな感じです。

村 上： 全体的には多分そういう感覚だけれども、それでも別の要因で色々な難しい部分がいっぱいあった。だから、きっと、私は土に関わっていないから良いのですよ。土から生産していないから。

草 苺： 有機栽培はしていても？

村 上： あれは自分の生活の糧ではないでしょう。(笑い)

岩 澤： 自分で食べるものは作っているの？

村 上： 食べ物と言うか、夏の間のサラダ野菜とか、冬の間の越冬用のタマネギだとか、じゃがいも、にんにく、そういうレベルで、ダニーさんはちゃんと口に入ればよい。あの人の感覚だと全然違う。ところで、ここは霧が深いのですか。

【 自然とコミュニケーション 】

自然は厳しいが故に輝きは大きく

稲 垣： 滅多にないのですけれど、昨日はすごかったです。霧の時は湿原がすごく生き生きしているように感じる。

草 苺： 湿原は霧の日が好きみたいです。晴れれば良いなんて、そんな底の浅い話はこらではしない。(笑い)

岩 澤： でも度々行って、色々な場面を見ているからそういうふうに思えるようになる。一度や二度しか来ない人はそうは思えない。

村 上： 本当の良さはわからないよね。厳しいところの方が輝きも大きくなるのではないですか。厳しいところに生きるのは大変ですよ、やっぱり。何よりもきれいなものだと思いますけれども。

稲 垣： 防風林は、夏には入れないのですけれども、冬はそこが楽しみです。最近ここ何年かはカメラマンが原野に多く来て木道に陣取っています。以前はこの辺一帯は私が独り占めでした。みんな豊富側に行ってしまうのです。(笑い)

村 上： そんなに、どこから来るのですか？

稲 垣： 結構道外の方とかもいますよ。

村 上： 写真撮影のために？

サロベツ湿原の自然

稲垣： 今、アカエリカイツブリが卵を孵していて、今年どういうわけか、木道の近くに浮巣を作ってしまった、いつもはネタばらしなのですが、木道が壊れているからと言って通行止めにしていました。今年はそのタイミングが悪くて、どんどん入ってきて、注意ができない状態です。それで鳥は動かないし、逃げてくれれば良かったのですけれど。

草苺： 毎年悩んでいるようだけど、いっそのことカイツブリの浮島にひもをつけておいて、反対側からグーッと引っ張るようにしては。(笑い)

稲垣： カイツブリも慣れて、全然逃げもしない。でもあまり良いことでもない。もう少しそっとしてあげたいという感じはしています。

草苺： 去年、案内してもらった時、親鳥が卵から離れたところで溺れたようなディスプレイをするわけですよ。木道の側に浮き島が寄って来ていて、彼女らにとってはかなり真剣勝負。

村上： そのうち離れたところに巣を作るのではないですか？

稲垣： 前はそんなことがあったけど、慣れてしまったのか、今は平気ですね。それが良いか悪いかわからない。

岩澤： 直ぐそこの沼はなんていう名称？パンケに行く途中にあるでしょ。

稲垣： それも長沼。

岩澤： あそこは子育てしているのかどうか知らないけれどアカエリカイツブリの番がいます。

稲垣： 間の小沼にもいます。こっち側のパンケの右側にも木道はあるけど滅多に歩かない。

岩澤： あそこは草を茂らせっ放しで木道が見えなくなっているでしょう。なんかあそこは嫌だね。

稲垣： 滅多に歩かないです。

草苺： 突当たって左側に行くと長沼沿いに木道があってビジターセンターに着くわけですね。

稲垣： それは全然OKですが、問題は右側がね。

岩澤： ちょっとした小さな木道なのだけれど、なんか嫌なんです。

草苺： 今度、行ってみよう。(笑い)

稲垣： 鳥もたくさんいます。

草苺： ノゴマが普通に見られますか？

稲垣： 見られます。うちの庭にも来ます。

村上： そうというのは全然知らない世界なので、明日行ってみたい。

稲垣： 明日、晴れたら是非。

岩 澤： ノビタキって可愛くないですか。あんなに小さいのに健気で。すごい気が強いと言うか。一度ノビタキの巣にカッコウが託卵しようとしたら、ノビタキとカッコウって大きさが10倍ぐらい違うじゃないですか。それでも向かっていくのですね。私、拍手喝采しました。(笑い)

都市に対する田舎暮らしからくる劣等感

草 苺： 先程の感性みたいな、幸せを感じる筋力みたいなものというのを、子どもの時に1回育てておくと、大人になってからすごく戻りやすいとかありますか？

岩 澤： そういうふうに思います。

草 苺： そうなると、子どもを小さい時から原野とか森林で遊ばせるという意味は、数字で測れないけれども、とても大きく、少しずつできてくるような気がします。それでも田舎に住んでいることが、都市に住んでいることより劣っているような価値感覚ってありませんか？本当は都市に住みたいという本音がどこかに巣くっているのではないのでしょうか。

稲 垣： 劣等感はあるかもしれません。私は、小さな子どもの親子遊びを担当していたことがあります。なるべく外に連れ出して遊ばせるのですが、でも自分でやっ
ていながら、なぜ自然体験が大事なのかよく考えたりします。だって、町で育っても全然OKなのだし。でもそんな中でも最近自然の中で触ったり、手足を使うということで、勘のようなものが鍛えられるのかなというふうに思うようになりました。

草 苺： 不思議な世界ですね。バランスとかもでしょ。

稲 垣： そうですね。あとは自分の身を守るとか、ただ木道を歩いていても、どうしても今日は歩きたくないとか、変な気がします。本当は浄土真宗だから、怪しげなことを言っ
てはいけないんですが、きっと動物か何かがいるのか、気みたいなものを感じます。そんな時は自分を信じて絶対戻るようにしている。でも何年も自然の中にいると、そういったものが鋭くなると言ったら変ですが、やっぱりトレーニングされてくるのか、強く感じるようになったりすることはあります。

経験（トレーニング）から感じる得る研ぎ澄まされた感性

村 上： 私、ワンちゃん達をいっぱい飼っているでしょう。一番最初の頃ですけども、3頭の犬がうちに最初に来た時に、目が六つあって、みんなで見るでしょう。みんなに見られることで少しパニックになった。1頭でも大変なのに、みんな必ず要求してくるので、どうして良いかわからなくて、すごい大変だった。

初期の頃は扱えなくて、チームも上手くできなくてね。今は30頭以上いて、家の中にも一緒にいるでしょう。私は家庭の中でまともに喋る相手がいないのですよ。

外国人の相棒は最近益々自分の言葉になっているので、ワーッと私にわざとネイティブ丸出しで、「お前は どうせ わからないだろう」という感じで言う。それで解らないのですよね。犬と一緒に暮らしているからかどうかわからないけれども、この人は何を考えているだろうとか、仕事の場とかでも相棒は今何を考えているのかとか、そういうことを常に考えていないとわからなくなるのです。相棒と一緒にってからずっとそんな世界で生きています。過剰に入り過ぎる時があるので、良いのか悪いのか良くわからないですが。

草 苺： 犬に対する気使いもお互いにするんですね。飼い主に対しても向こうは見ているだろうし、こっちも返すわけですね。

村 上： お互いに黙った状態で、言葉のない状態で、相手が何をしたいかというのがわかる状況です。今、こういうふうに思って、こうしたいだろうなと瞬時にしてわかる。わかる中で、ごめんよ、向こうは向こうで今日は何をするのだろうと、全員が私の一挙手一投足をずっと見ています。今、一緒に遊べないとか、今、つまらなく思っているなどを全身で感じます。

稲 垣： それは何年ぐらいから、そんなふうにわかるようになってくるのですか。

村 上： お子さんを育てていたらそうでしょう。

稲 垣： 赤ちゃんはそう。あと、おばあちゃんの介護も寝たきりになった時に一番何をしてほしいとか、わかります。心地よい顔をするのがやっぱり私だった。常にいますから。

村 上： わかる、わからないではなく、自然にそなわっているもので、そういう感性ですよ。そういう暮らしの中にいて、それが研ぎ澄まされたのかどうかわからないけれど、子どもなんかわかりすぎるぐらいですよ。4～5 歳の子どもとか、幼稚園とか小学校の子どもが来たら、もう本当にどういうふうに育っているかまでがわかる感じのときがあります。男の子だったらお母さんのことをものすごい気を使って全然我を出していないとか。これは開放させなければいけないとか。それを親はわかっていない。親は子どものためにですけどね。自分でいっぱいです。だから子どもの自由というのは少なく、それは若い親であるほどそうです。親自体がエネルギーの塊だから、それを見ていたらすぐく見えるので、子どもを連れで来た時は、それをどういうふうに解放、解決するかとか、そういうことを考えます。

意思の疎通は言葉のキャッチボールで

岩 澤： 言葉で表せられないことはとても多いということはよく解るけど、でも自分と同じ年代、例えば自分のパートナーとは、言葉で理解し合おうという傾向が強い。だから、きょうこワンさんみたいに、例えばネコのようにいくら言葉で話しても通じないとわかっているものには、言葉を抜きにして意志の疎通をしようとするじゃないですか。だけど、言葉が通じる対象に対しては言葉でやり取りをしようという

ふうにならないですか。私はすごくそういう傾向があるものだから。

稲垣： 私も言葉でなるべく夫には言います。

岩澤： 特にパートナーにはそうですね。

稲垣： すごい厳しく言います。察してもらおうなんて甘い。多分わかっているはずなのに。

岩澤： 向こうに、そんなこと言わなくたってわかるだろうと言われるとすごくカチンときます。「見えませんから」と言ったりする。それから、「そんなこと言わなくたってわかるだろう」と、それが当たり前のこととして扱われると、とても嫌な感じがする。

例えば、私は辛くないかなと思ったりする。そういうふうにして言葉がなくても全部想像する。そうすると、自分も言葉を出さなくてもわかってくれるでしょうっていうふうにならないのとか思ったりする。私だったら自分ができたら、「あなただってできるでしょ」というようなことを、相手にも要求してしまいそうに思うけれど、そんなことはないの？

村上： しんどいと思うのは、そこは同じコミュニティにいる、違うところで生まれた日本人の場合だったりする。その中で違う価値観を持っている人とか、あと到達しようというものが高い人とかがいるでしょ。その人が感じるフラストレーションみたいなのは、やはりそこに色々違いがあるなと思う。

草苺： 今、話されていることは、最初から心地よく聞いているんですけども、感性和コミュニケーション力の話をずっとしてきていますね。私は何年前にある先生から聞いた言葉で、アフォーダンスという理論がある。アメリカのギブソンという人がやっていることです。それはつまり、植物でも動物でもあるメッセージを常に出しているということ。そしてこちらがそれを感じ取れないだけだということです、樹木でも何でも。

例えば、そのアフォーダンスの典型的な例がドアのノブがあります。あのノブの形そのものが引っ張れというメッセージをあが形が表しているとするのですよ。これは何かと言うと、これは引くようにデザインされていると同じように、そのメッセージをどうやって感じ取れているか。その感性を封印しているようなところが私どもの中にあって、だからサルと一緒に暮らすとサルの気持ちがよくわかるという聖人の話（日本人）を読んだことがあります。きょうこワンさんの話しはアフォーダンスの話はまさにその領域のような気がします。

村上： 面白いのは、相手がこの人に対してはメッセージを言えば受けてもらえるし、わかってももらえるなというのがあると、相手はバーっと出してくれますから。

岩澤： それはすごくわかる。

第三者の介入で働く理性によるコントロール

村 上： 私の場合は、ワンちゃんに対しては、押さえつけたり支配したりする癖はしていません。橇犬なので、元気にそりを引いてほしい。みんなそのまま、犬なりの感性のまま、暮らしています。犬らしく、生き生きと遊んで悪さもしていますが、たぶん私も主人もそれを受け入れているから、そうなのかもしれません。

そこに、知らない第3者が入ると途端に仮面がかかったように、（そうでない子も居るのですが）メッセージを出しません。だから、その人達からみたらそこらのワンちゃん（笑）犬ですらそうですから、きっと他の生き物もそうなのだろうとは思います。人間なんかもっと複雑で豊かな感情があるでしょ。

ヒトは理性でいろいろコントロールしているとおもうので、そのところが生き生きとできる社会なのか、出来ない社会か、海外だとみんなが生き生き自己表現しやすいから、いろいろなことが起こるのかなと思う。そこが、日本の社会というのは、なかなか表現をしにくいというのか、みんなが仮面をしているようだという風にうちに主人は言います。

稲 垣： 子ども達もそうです。剣道少年団で夫が剣道を教えているのですけれど、その剣道の子ども達は日曜学校に来ている子が多いのですね。あと小学校の放課後クラブにも顔を出し、そこにも同じ子ども達がありますが、表情が違うのです。子どもは意識していないけれど、仮面がちゃんとある。その関係性で自分の都合が良いようなのかはわからないけれども、なるべくそれを少しでも取ってあげたい感じはする。お節介かもしれないけれどもね。

そういった色々な場所が子どもに関してはたくさんあれば良いのではないかなと思って、それでお寺に呼んでおいでというふうに言っています。親の前ではまた違うので親はついて来ないでと。（笑い）

村 上： みんなが言いたいことが自由に表現できて、表現することを怖がらなくても良いとか、自由に活動できる、自分らしく生きられるような社会になるのが一番良いのでしょうね。

稲 垣： この地区もそうですけれども、違うということにすごく怖がるというか、不安がある。だいたいみんな同じく開拓に入ってきて、みんな一緒に頑張ってきたと思うのです。だから、それでたくさん守られてきたのも当然あるだろうし、変わることが、すごく不安なのだろうね。だからと言って現状に満足しているかと言ったら、そんなことはなさそうです。

先住者との間の壁

草 苺： 良いところも悪いところもあるのはもちろんだし、できれば地域で幸せに暮らすために開きたい感性と、もう放っておいてもいいような部分、例えばどんな噂が来たって私は傷つかないよというようなものがあつた方が良い。その辺のところを、ひょっとしたら外歩きのあんな中で応用して、そうすると地域の見方もだいぶ違っ

てくるだろうと思う。ちるままさんもおっしゃるように、道端に咲いている何かというものをずっと見ているだけで、そこに神様を見つけられるような、そういう感性というのが私は欲しいような気がします。

稲垣： そういう場に住めばそういう感性が与えられるというのはある。その場に身を置くことで、気づかされる部分がいっぱいあるから。私も多分そうだったと思うので、その辺を共有したりとか。

岩澤： それを私が 40 数年振りに帰ってきて、こうやって感じたことを地域の人と共有したいとすごく思うのです。

村上： 私も、ちるままさんみたいな、お客さんがわざわざ来てくれたりするじゃないですか。その時に犬ぞりに乗る前と乗った後に話をすると、その時がすごく面白くて、その顔を見ていると色々なことを感じられる。その楽しそうな顔を見ているだけで、すごく幸せなわけ。やったあみたい。あの犬達は人間より命が短いから、生きている、走るというのが彼らにとって一番幸せなことなので、自分のエゴもありますが、あの子達にも幸せなモーメントや機会を少しでも作ってあげたいと思う。こんなふうにしたら素晴らしいだろうな、こう行ったらすごく感動するだろうなとは思っています。そういう思いがいっぱいあるので、冬にはそういうことをやっていけたらいいなと思う。

アニマルセラピー

草苺： なんかアニマルセラピーみたいところがありますね。

村上： セラピーにはなると思っています。まえに学校の長期休暇以外のときにいらっしやったご家族の中に、登校拒否か軽い自閉症か、普通の子供さんよりも無口でシャイな印象の子供さんがいて、なんとなく、気を使っているのかなという雰囲気は感じられるのだけれど、その子が犬ぞりに乗って帰って来たら、急に活動的になっておしゃべりになっているのですね、ごく普通の子供みたいに。

普通のお子さんは、さらにパワーアップしてその辺で雪まみれになり、ワン子達があきれているときがあります。

岩澤： 動物ってそういう力を持っている。

村上： それはあるとおもいます。そういうご家族のご両親の喜ぶ顔は嬉しいですね。

とにかく、子供達の場合は、どんな子供でも、犬の力は大人よりもずっと強く感じるだろうし、感性もみずみずしいなかで体感する事で、しかも自分と犬とだけの道中の中でずいぶん勇気を奮い起こしている場面もたくさんあるとおもうので、犬ぞりに乗ったあとは、うんと褒めてあげることにしています。

写真をあげるときに、・・・・・・・・

子供達の帰る時の目と表情の輝きは、来る時と比べると激変していますよ。

草苺： なかなか良いですね。

- 村 上： 見ていたらわかるじゃない。線が細いか弱い体型で、そういうシーンに毎年 1 回でも 2 回でも出会えれば、やっててよかったなという感じです。
- 岩 澤： 動物もそうだし、自然もそうです。
- 稲 垣： 何年か前に、東京の方から若者が宿泊体験させて下さいと頼まれたんです。20 代で何でもすると言われて、知り合いの人から紹介されたのですが、草取りをしたり、犬の散歩をしたり、なんかわかりますよね。
- 村 上： 犬の現場では、感動のシーンって結構ありますよ。あとから遺影の写真にするという手紙が届いたり、あまりその後は文通とかのフォローとかしないけど。ただ、写真を持って、こういうことを家族でやったという場を作っただけで私は良いので、そういった意味では、すごくダニーさんに感謝です。だって、すごい悪妻じゃないですか。犬いっぱい飼って。(笑い)
- 岩 澤： 良妻とか悪妻とか何をいつているの。それはきょうこワンさんが決めるのではなくダニーさんが決めることでしょ。(笑い)

【今こそ、地域には女性の力が必要だ】

- 岩 澤： 女性力のことだけど、源になるのは「おしゃべり」じゃないですか？
- 稲 垣： 人の悪口を何だかんだいっていてもほっておけないとか、困っている人がいるとお節介するとかそんなところはあるかもしれない。
- 岩 澤： 女だけでも駄目だけど男だけでも駄目で、それがちょうど良いバランスでミックスしているといい形でなるのではないのでしょうか。
- 草 苺： 男は言葉が少ないかもしれないですね。
- 岩 澤： 言葉足らずですね。
- 草 苺： メッセージの出し方として、言わなくても分かるだろうとか。それが身勝手だと言うわけですね。
- これからはNPOですよという人たちの声があるのと同時にこれから地域を支えていくのは女性かもしれないと思う。女性の力が世の中を変えるかも知れない、というのが普通になってきたような気が、私のまわりではしますね。
- きょうこワンさんの犬ぞりは、地域のブランドや観光に繋がってくる一つのビジネスモデルです。例えば、女性が地域の中で下支えしていくことだけを追っていくと、女性は、読み聞かせや介護の話だとか子育ての話などと目の前にある必要を全部追って行って、必要があればそれらを回り道してでもまた戻ってくるみたいに変幻自在にやっていくところがある。その辺は男にはできない。
- 岩 澤： 私がしていることは、子どもから老人、認知症の人へと広げてもお金が絡むわけではなく、ボランティア。お金の絡むことはそれだけ敵も多い。

女性は環境に適応するとよくいわれますが、今なにを必要とされているかに敏感ですね。今こういうことをしたほうがいいのかとか、そして実践する。

草 薊： 最後はちょうど「女性は今現在のニーズとリアリティーに生きる」ということになるでしょう。やはりこれは今、地域の身の周りが本当に求めていることを実践していくという、ものすごく大切な部分だと思いますし、だからこそ、地域は女性に大活躍してもらおうとどんどん変わっていくのではないかと、いう気がしてきます。

一応、この辺で一区切りをつけたいと思います。ありがとうございました。

以上。